

vol.3

2026. 3

*Higher Education Studies,
University of Fukui*

福井大学高等教育研究

CONTENTS

高等教育研究 vol.3の発刊にあたって 澁谷 政子 1

学術論文・報告

〈学術論文〉

ポスター形式による学生調査結果の視覚的還元の試み

-IRの視点による情報循環と関心喚起- 江端 弘樹 5

福井大学における学生調査の設計と教学IRへの展開 江端 弘樹 13

〈報 告〉

看護学実習における教育DXの推進

-F.CESS Nurseを用いた電子化実習記録の導入報告- 佐藤 大介 北野華奈恵 21

高等教育推進センター活動年報

I. 福井大学における教育改革の取り組み

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」採択事業について 35

II. FDの展望

各学部のFDの取り組み 77

III. 高等教育推進センターの活動

教学企画・支援部門 87

教学IR部門 89

令和6年度高等教育推進センター名簿

高等教育研究 vol.3 の発刊にあたって

澁谷 政子

(高等教育推進センター長)

本学は、福井の地より、世界の様々な地域において、そこに集う人と共に、持続可能な社会の実現に向けて、新たな未来を拓くことを目指し、2040年における在るべき姿に向けた「福大ビジョン2040」(2021年発行、2023年改訂)を策定しています。そこでは、教育について次の3つのミッションを掲げています。

- ①深い実践的教養を備える卓越高度専門職業人の育成
- ②学生のキャンパスライフの質の向上
- ③学びの母港構築により人生100年時代へ対応

このミッションの実現のため、「福大ビジョン2040」では、学部を超えた他職種連携教育、異分野融合教育、数理データサイエンス教育等の推進、教学マネジメント等学びの質保証を強化し、大学院レベルの創造性・専門性を主体とする教育を向上させること、また、学生と教職員が共に議論する体制を強化し、学生の声を反映した教育改革を推進すること、そして、本学と産業界との連携等により、地域社会との双方向での卓越高度専門職業人の育成・交流とキャリア強化教育を合わせ、多様な学びの機会を提供することを、取るべき道筋として提示しています。これらの方向性や方策は、短期間で社会情勢が大きく変動し、国立大学の新たなミッションの議論が高まっている現在も、羅針盤として優れて機能していると言えます。

「高等教育推進センター」は、これらミッションの実現に向けた具体的な施策の企画・実施とともに教学支援並びに教学IRの充実など、本学における様々な高等教育改革を進める牽引する役割を果たしてきました。昨今の大学教育においては、「学修者本位の教育の実現」並びに「個人々の可能性を最大限に伸長する教育への転換」が強く求められ、「教育の質保証」に向けた教学マネジメントの確立、その基盤となる教学IRの展開、三つのポリシーに沿った教育プログラムと実施体制の整備、学修成果の可視化などが不可欠です。そこで、これらにより対応するため、令和4年度に本センターを大幅に改組し、組織を「教学IR部門」と「教学企画・支援部門」に集約し機能強化を図りました。これに併せ、第11巻まで刊行してきた『高等教育推進センター年報』を発展的に廃刊とし、高等教育改革の情報発信を強化するため『高等教育研究』を新たに発刊することといたしました。発刊に当たり、学術論文並びに報告については査読制度を導入し、本誌の学術的な価値を向上させるとともに、査読付き論文公表への貢献も図っております。この第3巻には、高等教育推進センター江端弘樹先生の論文並びに医学部看護学科佐藤大介先生・北野華奈恵先生からの報告、また令和6年度センター活動報告などを掲載することができました。ご多忙の中、本誌へご投稿ご執筆くださった皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後も多くの関係の皆様からのご投稿をお待ちしております。

令和7年2月には中央教育審議会より「知の総和」答申が提言され、新たな認証評価制度の議論も進行しています。大学教育をめぐる大きな改革の動きのなかで、『高等教育研究』が様々な教育改革の情報発信ツールとして活用され、広く教育改革に貢献できることを期待しております。また、本センターとしても、全学組織である「学生の学びのための教育内部質保証委員会」、総合戦略室会議のもとに稼働している「教学 IR 推進プロジェクトチーム」、令和7年度に立ち上げられた「教育内部質保証プロジェクトチーム」などを支える役割を引き続き担ってまいります。関係の皆様におかれましては、本誌をぜひご閲覧いただくとともに、今後とも本学の教育の質保証と質向上の取組みへのご協力とご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

学術論文・報告

- 05 ポスター形式による学生調査結果の視覚的還元を試み -IRの視点による情報循環と関心喚起-
江端 弘樹
- 13 福井大学における学生調査の設計と教学 IR への展開
江端 弘樹
- 21 看護学実習における教育 DX の推進 -F.CESS Nurse を用いた電子化実習記録の導入報告-
佐藤 大介 北野 華奈恵

ポスター形式による学生調査結果の視覚的還元の試み -IRの視点による情報循環と関心喚起-

江端 弘樹*

キーワード：学生調査、調査結果の還元、ポスター形式、教学 IR、教学マネジメント

本報告は、福井大学における学生調査結果の還元手法として、ポスター形式による視覚的フィードバックの実践を IR の視点から紹介するものである。入学時調査および在学生調査の結果をもとにポスターシリーズをこれまでに 7 号制作し、学内掲示による情報循環と学生の関心喚起を図った。特に第 5 号以降では「学生のすがた」コラムを導入し、数値の文脈化を通じて学生の「自分ごと化」を促進した。行動観察やヒアリング、認知度調査の結果から、ポスターは学生のエンゲージメント向上に寄与し、IR 活動の教育的・公共的役割を可視化する契機となった。本実践は、学生との対話を通じた教育改善の共創に向けた一歩であり、今後は改善活動への学生参加を促す仕組みの構築が求められる。

1. はじめに

高等教育機関において、教育の質保証と改善を目的とした Institutional Research (以下、IR) の重要性が高まっている。学生調査は教学マネジメントの根幹を支える情報源であり、その結果の適切な還元は、学生の関与を促すうえで不可欠である。IR は、教育活動に関するデータ (履修状況、成績、学習成果、満足度など) を収集・分析し、教育の質を保証・向上させるための意思決定を支援し、計画 (Plan)、実行 (Do)、評価 (Check)、改善 (Action) を循環させるための情報基盤に位置づけられる (井芹 2022)。中央教育審議会の答申においても、学修者本位の教育への転換とともに、教育成果や教学情報の把握・公表の重要性が強調されている (文部科学省 2018)。こうした政策的背景のもと、IR は大学の意思決定を支える情報基盤として位置づけられ、調査・分析・還元・改善の循環が求められている。

しかし、調査結果が学生に十分に還元されない場合、学生は「回答しても意味がない」と感じ、調査へのエンゲージメントが低下する可能性がある。これは IR 活動の信頼性や調査の継続性にも影響を及ぼす重要な課題である。学生が自らの声が活用されていることを認識することは、次なる主体的な学習行動や、調査回

* 福井大学 高等教育推進センター (現 周南公立大学 総合教育部)

答の質の向上を促すための鍵となる。学生調査の結果を教職員が共有し、教育内容や方法の改善に活かすことも、教学マネジメントの質向上に不可欠である。その対策として、調査結果を視覚的に提示するポスター形式のフィードバックは、学生の関心を喚起し、回答行動の質を高める方策として有効であると考えられる。

本報告では、学生調査結果をポスター形式で学生に還元する一連の実践を通じて、学生の関心喚起と調査への関与促進を目指した取り組みを IR の視点から報告する。

2. ポスターに用いた主な学生調査の概要

2.1. 入学時調査

新入生を対象とした全学統一の入学時調査を、高等教育推進センターが企画・設計し、学務部の協力により入学時ガイダンスの冒頭で 2024 年度から実施している。A4 両面の記名式質問紙で、多肢選択式と記述式の設問から構成される。設問構成は、①大学生活への期待・将来の夢、②能力の自己評価、③高校時代の経験、④学習意欲、⑤心配事の 5 領域 52 問(2025 年度)からなり、学生個々の初期状態を把握することを目的としている。これらのデータは、初年次教育の設計やオリエンテーションの改善、学修支援体制の構築に活用されることを想定している。さらに、本調査は学生の「声」を大学が受け止める初めての機会でもあり、その還元のあり方が今後の関与意欲に影響を与える可能性がある。IRにおいても、この入学時点のデータは、今後得られる各種データとの比較により、大学生活を経て考えや行動、習慣がどのように変遷するのかを縦断的に分析する起点となる重要な情報である。なお、回収率は全学平均で 2024 年度 98.5% (対象者 885 名、回答者 872 名)、2025 年度 98.1% (対象者 894 名、回答者 877 名) と極めて良好である。

2.2. 在学生調査

在学生調査は、全学部の 1 年次および 3 年次全員を対象としたパネル調査であり、一般社団法人大学 IR コンソーシアムが開発した調査票を基に、本学独自の設問構成を加えて作成したものである。各学部の協力のもと、2022 年度以降、毎年度後期に実施している。調査はマークシートによる多肢選択式で、①教育内容・環境、②授業・学修経験、③習得能力や知識、④生活スタイル、⑤施設・支援制度の認知と活用、⑥進路意識、⑦大学生活への満足度、⑧教育改善活動への認知の 8 領域 88 問(2025 年度)で構成され、記名式で実施している。学生の学習環境や大学生活全体に対する認識を多角的に把握することを目的としている。なお、回収状況は、1 年次の全学平均で 2022 年度 88.3% (対象者 879 名、回答者 776 名)、2023 年度 93.4% (対象者 885 名、回答者 827 名)、2024 年度 95.2% (対象者 875 名、回答者 833 名)、3 年次の全学平均で 2022 年度 74.2% (対象者 880 名、回答者 653 名)、2023 年度 88.7% (対象者 893 名、回答者 792 名)、2024 年度 88.3% (対象者 899 名、回答者 794 名) と、いずれも極めて良好である。

3. ポスターによる調査結果の還元実践

3.1. ポスターの設計方針

ポスターは、学生が立ち止まりやすい場所に掲示されることを前提に、視認性と情報量のバランスを重視して設計した。タイトルや見出しには学生の関心を引く語句を用い、図表やアイコンを活用して情報の可視化を図った。また、ポスターは単なる掲示物ではなく、学生との対話を促す媒体として位置づけた。第5号以降では、調査結果の一部を「学生のすがた」としてコラム化し、学生の声や背景を交えた構築を試みた。これにより、調査結果が「自分ごと」として受け止められる可能性を高めた。佐藤郁哉（2008）が指摘する「意味の構造」を読み解く質的分析の視点を踏まえたものであり、単なる数値の提示ではなく、学生の経験や意識を文脈化することを意図した。

3.2. ポスターの制作・掲示

2022年度10月以降、表1および図1に示すように「数字でみる福井大学のいま」シリーズとしてVol.1～Vol.7までのポスターを制作した（福井大学高等教育推進センター教学IR部門 2022-2025）。各号では、調査結果の要点を視覚的に提示するほか、図書館をはじめ学生に馴染みのある施設も扱った。図表化したデータと簡潔なコメントを添えたポスターはA1およびA2サイズで制作し、学生の自然な目線の中で視認性を高めるために各校舎の入り口や学部学科事務室前など学内の主要掲示板、行事で掲示するとともに福井大学生協の協力を得て食堂や購買店内にも掲示した（図2）。ポスター掲示後には、ポスターを見る学生や教職員に対して観察およびヒアリングするとともに寄せられたコメントを次回以降の制作に反映させた。

表1 「数字でみる福井大学のいま」一覧

Vol.	掲示開始	テーマ	主な掲載内容
1	2022年12月	全国学生調査	調査結果のフィードバック/今後の調査へのメッセージ
2	2023年7月	総合図書館	具体のデータを示し利便性伝達/大学の施策告知
3	2023年11月	在学生調査	在学生調査の結果フィードバック/今後の調査へのメッセージ
4	2024年4月	新入生特別号	2024年度入学生に関する数字を特集/在学生調査の結果フィードバック
5	2024年10月	大学を支える数字/学生のすがた	人と施設にまつわる数字/学生の1年間での変化
6	2025年4月	新入生特別号/学生のすがた	2025年度入学生に関する数字を特集/入学時調査・在学生調査の結果フィードバック
7	2025年7月	学生のすがた特集号	入学時調査・在学生調査の結果フィードバック/入学後半年間の変化、2年間の変化

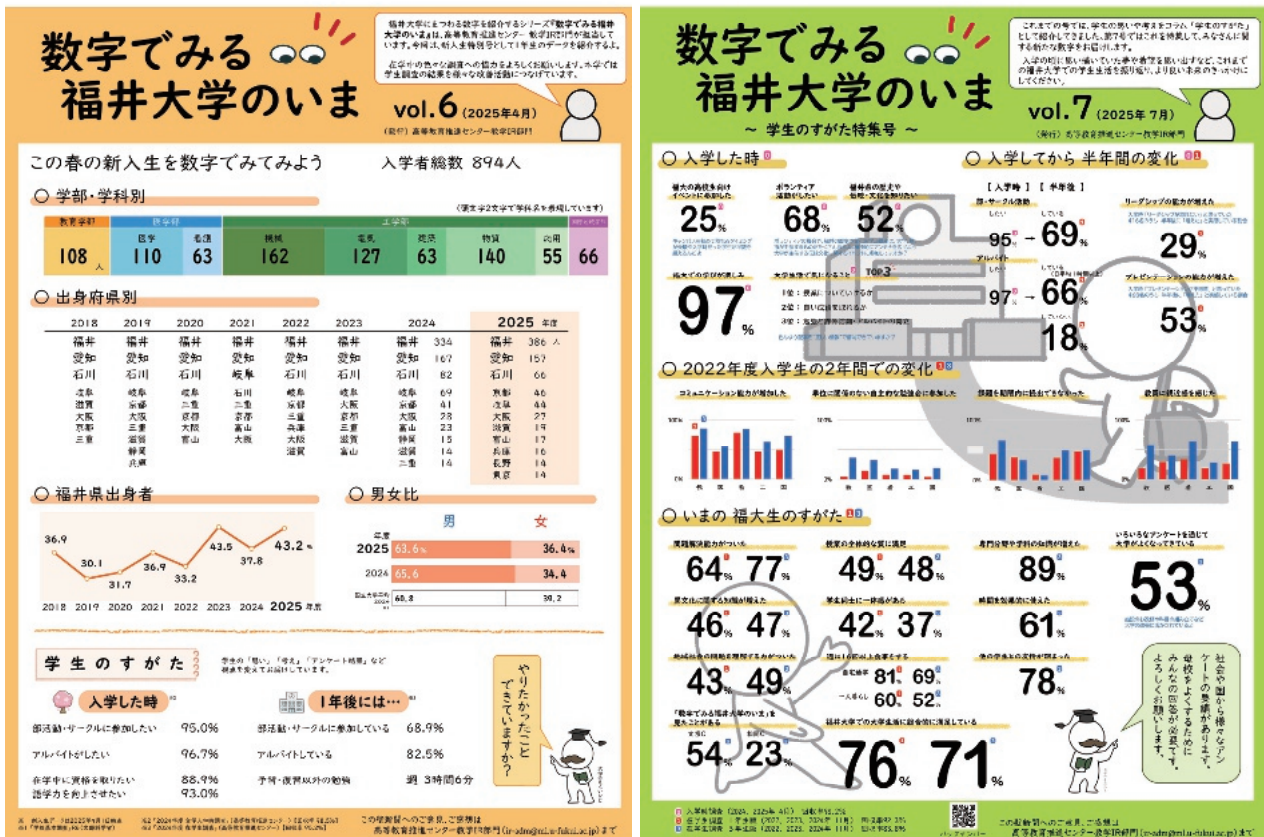


図1 ポスター「数字でみる福井大学のいま」制作例

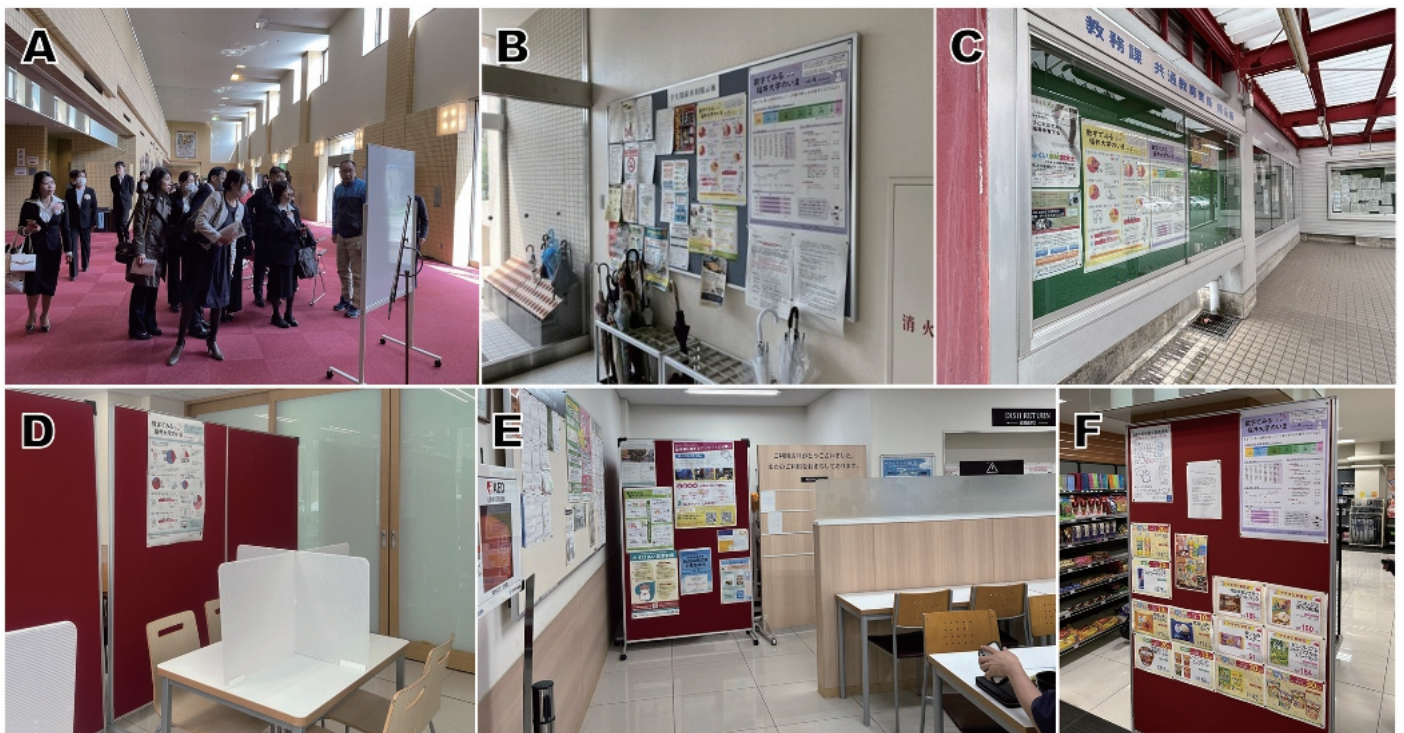


図2 ポスター掲示例

- A) 入学式会場(保護者)、B) 校舎入口(総合研究棟V)、C) 学生支援センター、
 D) 食堂飲食エリア(福井大学生協)、E) 食堂下膳エリア(同)、F) 購買エリア(同)

4. 学生の反応と IR 活動の位置づけ

4.1. 学生などの反応収集と実践の所感

掲示後の学生の反応は、ポスター前での行動観察、設置場所での非構造化ヒアリング、さらにポスターシリーズへの認知度調査を通じて収集した。ポスター前での行動観察では、学生がポスター前で立ち止まるだけでなく、友人らと数字を指さしながら議論する様子や、スマートフォンでポスター全体あるいは特定の部分を撮影する様子が頻繁に確認された。厳密な形ではないものの、著者が各ポスター掲示後に昼休み等を利用して、ポスターを注視している学生グループに非公式に声をかけてヒアリングを実施した。これにより、毎号 15~20 名程度の学生から自発的な反応を収集した。特にコラム形式を導入した第 5 号以降では、単なる数値表示ではなく「学生のすがた」という点に注目が集まり、内容への関心が高まり「自分ごと化」が進んだことが確認された。非構造化ヒアリングにより学生の「声」が得られた。以下に例示する。

- 自分たちが答えたアンケートの結果が、こんな風に分かりやすいポスターになるとは思わなかった。ちゃんと見てくれてるんだなと感じた。(工学部 3 年次)
- 僕のまわりにも、やってみようと思っていたのに部活もバイトもしていない同級生がいる。社会経験って意味でバイトしておいた方が良さよね。僕ももう一度探してみます。(工学部 2 年次)
- 正直、アンケートは適当に答えていたけど、こういう形で結果を見ると調査に真面目に答えようと思った。次のポスターも楽しみにしています。(教育学部 3 年次)
- 普段から掲示物を見ないので、こんなポスターが貼られていることも知らなかったのが今回初めて見ました。次のポスターも見るようにします。(工学部 4 年次)

これらの反応は、本実践が単なる情報伝達にとどまらず、学生の関心を喚起し、Astin (1999) や Kuh (2009) が提唱する学習へのエンゲージメントを高める契機となったことを示唆している。Astin は、学生の学習成果や発達、教育活動に対してどれだけの身体的・心理的エネルギーを投入するかに比例するとする理論を提唱している。この理論では、学生の行動的関与（学内での滞在時間、教職員との交流、学外活動への参加など）が、教育的成果を左右する主要因であるとされている。また、Kuh は、学生が教育活動に積極的に関与することが満足度や成果に直結するとし、大学はその関与を支える環境整備を担うべきであると強調している。

2024 年度に実施した在学生調査においてポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」への認知を問うた結果、「見たことがある」と回答した学生は全体の 55.8%に達した(表 2)。この結果は、学内での紙媒体の一般掲示物としては比

表 2 ポスターシリーズの学内認知度（在学生調査 2024 年版より）

	1年次			3年次		
	回答者数	「見たことがある」		回答者数	「見たことがある」	
		回答者	割合(%)		回答者	割合(%)
文京キャンパス	661	446	67.5	632	338	53.5
松岡キャンパス	165	86	52.1	172	40	23.3
小計	826	532	64.4	804	378	47.0
総計						55.8

較的高いリーチ率を示しており、本実践の有効性の一端を裏付けている。入学時に「数字でみる福井大学のいま（新入生特別号）」の A4 縮刷版を配布している 1 年次生は比較的高い認知であるが、それに比べると 3 年次生への認知は低い。入学時に最初に縮刷版を配布した学年（2024 年 4 月入学生）が 2026 年には 3 年次として本調査の対象になることから、さらなる認知度向上が期待される。松岡キャンパスにおける認知度が低い背景には、掲示場所や方法が文京キャンパスほど最適化されていなかった可能性が考えられる。松岡キャンパスの学生の動線や特性を踏まえた、より効果的な広報・掲示方法の改善が求められる。

また、教職員に向けてもポスターに対する非構造化ヒアリングを実施し「声」を収集した。以下に例示する。

- *FD* テーマを考える参考になっている。この設問のデータは我々の学部においてどう解釈すべきか。学科ごとのデータを見て、今後の戦略に活かしたい（学部教員：執行部）
- ポスター原稿の制作も学内で全てやっているんですか？（学部教員）
- 長いこと働いているけど〇〇があんなに有るとは知らなかった（職員）
- 次の号は何を取り上げるのか楽しみにしている。ネタ集めなどお手伝いできることはないだろうか。うちの部署を取り上げて欲しい（職員）

これらは、ポスターによる視覚的還元が学生（縦）だけでなく、教職員（横）の情報共有と改善の土壌作りにも貢献していることを示している。

さらに、学生の反応や教職員のコメントを記録・分析する過程では、質的データの扱いに留意し、文脈を踏まえた解釈を重視した。佐藤郁哉（2008）は、質的データ分析において「意味の構造」を読み解くことの重要性を説いており、本実践でも単なる反応の分類にとどまらず、学生の語りや行動の背景にある意識を探る姿勢を大切にした。

4.2. IR活動としての位置づけ

本実践は、一見広報的な取り組みであるが、IR活動の本質的な役割と密接に関わっている。IRは、教学マネジメントを支える情報基盤として、調査・分析・還元・改善の循環を担うものであり、還元の工夫はその中核に位置づけられる。Healeyら（2014）は、学生と教員が協働するパートナーシップを通じた関与が、教育改善と学生のエンゲージメントを同時に高める枠組みであると述べている。本実践は、学生調査結果の還元を通じて、学生との情報循環を促進し、学びの共創を支援する点において、この理念をIR活動の中で具体化したものと位置づけることができる。ポスターによる還元は、学生をはじめとした大学構成員内での情報循環を可視化する有効な手段であり、IRの社会的機能を強化する試みとしても意義を有する。また、本学では、調査結果の還元を通じて、学生の関与を促すとともに、教職員間での情報共有や教育改善の基盤としても機能していた。

今後は、より多くの学生に届くIR活動の展開のため、還元方法と媒体の多様化を進める必要がある。

5. まとめ

本報告では、学生調査結果をポスター形式で還元し、学生の関心喚起と関与促進を目指した取り組みをIRの視点から紹介した。掲示後の学生の具体的な反応（行動観察、ヒアリング）や認知度調査から、このポスターによる還元の試みが学生の「自分ごと化」を促し、調査結果への関心を高める契機となることが確認された。また、教職員からの具体的なコメントや教育改善に向けた動きも見られ、IR活動が一定の教育的・公共的役割を果たせたと言える。

村上ら（2022）は、学生調査は大学と学生の間「対話的な関係性」を築く基盤であり、よりよい学習環境を共に形成していくためには、調査の設計段階から還元方法までを一貫して構想することが重要であると指摘している。IR活動は、こうした対話的コミュニケーションを支える情報基盤として、単なる分析業務ではなく教育実践と接続する営みである。ただし、現在はまだ調査結果の還元（Check）の段階であり、収集した声を具体的な教育改善（Action）に結びつけるプロセスは、次のフェーズの課題である。

この学生との対話の試みは、Healeyら（2014）が提唱する「学習と教育におけるパートナーシップ」へ発展させるための具体的な一歩と位置づけられる。学生を単なる調査回答者や受動的な受益者ではなく、教育改善の共同創造者（Co-creator）と見なすこの理念に基づき、学生のエンゲージメントと学習の質向上を同時に促進するものである。本実践は、教学マネジメントの基盤整備および学生との協働的パートナーシップ構築に向けた実践の緒となる。今後は、ポスターを通じて喚起された学生の関心を、具体的な改善活動への参加へとつなげる仕組みを構築し、学生とともに教育環境を向上させる継続的な改善が求められる。

謝辞

学生調査の準備・集計ならびにポスターシリーズの製作にご尽力いただいた教務課黒田佳緒里氏には深甚の謝意を表します。ポスター企画の設計・発行に関して多くのご指導・ご助言を賜った高等教育推進センター教学 IR 部門の方々には厚くお礼申し上げます。また、調査実施にご協力いただいた各部局の皆様、ならびにポスターに関心を寄せてくださった学生諸君にも感謝いたします。なお、本研究は福井大学学内競争的予算「教育の質向上のための重点配分経費」の援助を受けて実施されたものであり、記して感謝の意を表します。

引用文献

Astin, A. W., 1999, “*Student Involvement: A Developmental Theory for Higher Education*,” *Journal of College Student Development*, 40, 518-529.

福井大学高等教育推進センター教学 IR 部門、2022-2025 年、『数字でみる福井大学のいま (Vol.1~Vol.7)』 (<https://www.cahe.u-fukui.ac.jp/center-publications/#title-number-2025.10.31>.)

Healey, M., Flint, A., & Harrington, K., 2014, “*Engagement through partnership: students as partners in learning and teaching in higher education*”, York: Higher Education Academy.

井芹俊太郎、2022 年、「日本の大学の IR を巡る政策」、日本 IR 協会（監修）『大学 IR 標準ガイドブック：インスティテューショナル・リサーチのノウハウと実践』インプレス、16-22。

Kuh, G. D., 2009, “The National Survey of Student Engagement: Conceptual and Empirical Foundations”, *New Directions for Institutional Research*, 141, 5-20.

文部科学省、2018 年、『2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』中央教育審議会。

(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm 2025.10.31.)

村上公子・栃澤健史、2022 年、「全学的な教育の質保証のための学生調査のデザイン」『第 11 回大学情報・機関調査研究集会論文集』150-151。

佐藤郁哉、2008 年、『質的データ分析法』新曜社。

福井大学における学生調査の設計と教学 IR への展開

江端 弘樹*

キーワード：教学 IR、学生調査、教育改善、エンrollment・マネジメント

本稿では、福井大学における教学 IR 体制の整備と連動した学生調査の設計・導入について報告する。本学では、記名式の入学時調査（2024 年度初実施）と在学学生調査（1・3 年次パネル型、2022 年度初実施）の 2 種類を新規に設計し、成績データと統合可能な形で全学的に実施している。両調査は I-E-O モデルに基づき学生の初期意識と学修経験・満足度を縦断的に把握する構成をとる。入学時調査で 98%超、在学学生調査の 1 年次で平均 92%超、3 年次で平均 83%超と高い回収率を維持している点は、本学の特長である。特に在学学生調査は、教育施策の効果検証に資する情報基盤として機能し、FD 活動や学生への還元にも活用されることで、教育の質保証と改善のサイクルを促進する。本稿は、調査設計の意図と制度的実施体制を中心に、教学 IR の実践的な接続と、学生と教職員による「パートナーシップ学習共同体」の形成を通じた今後の展望について考察する。

1. はじめに

近年、高等教育機関では、学生の学習経験や満足度を継続的に把握し、教育改善に活かす教学 IR (Institutional Research) の重要性が高まっている。教学 IR は、大学執行部の意思決定を支える情報基盤であり、教育の質保証および教学マネジメントの両面において中核的な役割を果たす（文部科学省 2014、中井 2018、高田ら 2018、西出 2022）。この位置づけは、「教学マネジメント指針」（文部科学省 2020）においても明示されている。とりわけ学生調査は、教育施策の妥当性を検証し、学習環境の改善につなげる実践的手法として注目される。

福井大学では、教学 IR 体制の整備に伴い、成績データと紐づけ可能な記名式の学生調査を 2022 年度に初めて全学的に導入した。学生の在学中の満足度向上を目的に、教育改善に資する情報基盤として 2 種類の学生調査を設計・実施した。Astin(1999)は、学生の学習や人格的成長の程度は、教育プログラムに対する学生の関与の「質」と「量」に比例すると述べており、本学の調査設計はこの理論に基づいている。

本稿はこれらの調査の設計意図と実施体制について報告する。詳細な統計分析は本稿の主目的としないが、教学 IR の制度的整備と教育改善への実践的接続

* 福井大学 高等教育推進センター（現 周南公立大学 総合教育部）

を図る取り組みとして、学生調査の導入が果たす役割を明らかにする。在学生調査は1年次と3年次に同一設問を用いて実施されるパネル調査として設計され、学生の意識や満足度の変化を縦断的に把握することで、教育施策の効果検証に資する情報基盤としての機能も有している。高い回収率によって確保されたデータの安定性と信頼性が、教学IRへの展開を通じて教育文化の変革（パートナーシップ学習共同体）に至るプロセスを支えている。本稿では、このプロセスを学生調査の活用事例から考察する。

2. 教学IR体制の整備と調査導入の背景

福井大学では、2021年度以降、教学IRの制度的整備が本格的に進められ、「教学マネジメント指針」が示す教学IR機能の強化方針とも軌を一にするものである。任期付き専任教員が雇用され、高等教育推進センター内に教学IR担当部署が設置されたことで、学修成果の可視化、教育改善支援、FD活動との連携を目的とした情報基盤の構築が始まった。これに伴い学生調査の体系的な導入が検討され、従来の匿名式アンケートから成績データとの統合が可能な記名式調査への転換が図られた。本調査は、単なるデータ収集にとどまらず、教員が学生の声を教育改善へ反映させるプロセスを制度的に支援することを意図しており、FD活動との接続を重視して設計された。記名式であることに対する学生の不安を軽減するため、回答結果は個別の成績評価には使用しないことを明示すると共に、個々の回答内容は高等教育推進センターが厳重に管理した。また、集計・分析は、個人が特定されない形でなされた。さらに、調査結果を学生自身にフィードバックする仕組みを整えることで、調査への参加意義を高める工夫がなされた。

3. 入学時調査の設計と実施

入学時調査は、入学初日に全学的に実施される記名式の調査であり、学生の初期意識や大学生活への期待を把握することを目的としている。

設問構成は、①大学生活への期待・将来の夢、②能力の自己評価、③高校時代の経験、④学習意欲、⑤心配事の5領域52問から、学生の入学時点での動機づけや不安要素を多面的に捉えることが可能となっている(表1)。「心配事」に関する設問では、学生が不安を言語化することで支援部門が早期に対応できる体制を整えることにつながる。「将来の夢」や「大学生活への期待」に関する設問は、学生自身が目標を意識化するきっかけとなり、初年次教育との接続にも資する。学部・学科別に学生の傾向を把握し、学部・学科固有の支援施策の設計にも活用可能である。こうした設問設計は、学生の声を起点とした教育改善の実

表1 入学時調査の設問項目と設問数
(2025年4月実施版)

設問項目	設問数
① 大学生活への期待・将来の夢	8
② 能力の自己評価	14
③ 高校時代の経験	9
④ 学習意欲	8
⑤ 心配事	13
計	52

践として、教学 IR の理念と整合するものである。

実施した 2 ヶ年ともに、大学登校初日の教務課オリエンテーション冒頭で配布回収した。いずれの年度も全学平均で 98% を超える高い回収率であり、その安定性は本調査の特長の一つである(表 2)。

表 2 入学時調査実施結果

	2024年度			2025年度			
	対象者数	回収数	回収率(%)	対象者数	回収数	回収率(%)	
教育学部	104	104	100.0	108	106	98.1	
医学部	医学科	110	109	99.1	110	106	96.4
	看護学科	63	63	100.0	63	63	100.0
工学部	機械・システム工学科	159	156	98.1	162	156	96.3
	電気電子情報工学科	129	123	95.3	127	125	98.4
	建築・都市環境工学科	65	64	98.5	63	63	100.0
	物質・生命化学科	139	137	98.6	140	138	98.6
	応用物理学科	55	55	100.0	55	54	98.2
国際地域学部	61	61	100.0	66	66	100.0	
全学	885	872	98.5	894	877	98.1	

4. 在学生調査の設計と実施

在学生調査は、1 年次および 3 年次の 11 月に全学的に実施されるパネル調査として設計されている。入学時調査で把握された初期意識 (Input) に対し、在学中の学修経験や満足度 (Environment) を縦断的に追跡する Astin(1999) が提唱する I-E-O (Input-Environment-Output) モデルに基づいている。なお、本研究は同モデルに基づく学生調査の設計と実施プロセスを主題としており、Output (学修成果) との統合分析は本稿の対象外である。今後は、学修成果データ (GPA、到達度評価、可視化リーダーチャートなど) との統合的分析を進めることでモデルの実証的運用を可能にしたい。

同一設問を用いて在学中の複数時点で実施することで、学生の意識や満足度の変化を時系列で把握、教育施策の効果検

表 3 在学生調査の設問項目と設問数 (2024 年 11 月実施版)

設問項目	設問数
① 教育内容・環境	11
② 授業・学修経験	11
③ 習得能力や知識	28
④ 生活スタイル	11
⑤ 施設・支援制度の認知と活用	9
⑥ 進路意識	14
⑦ 大学生活への満足度	2
⑧ 教育改善活動への認知	2
計	88

証と継続的改善に資する実証的な情報基盤として機能する。設問は、①教育内容・環境、②授業・学修経験、③習得能力や知識、④生活スタイル、⑤施設・支援制度の認知と活用、⑥進路意識、⑦大学生生活への満足度、⑧教育改善活動への認知の8領域88問からなり、学生の学習環境や大学生生活全体に対する認知が多角的に把握可能である（表3）。

また、本調査は大学IRコンソーシアムが考案した学生調査との共通設問を多数採用しており、他大学のデータとのベンチマーク比較が可能な構成である。これにより、福井大学の教育の特徴や課題を相対的に把握し、教学IRの外部接続性を高めることができる。さらに、学生の継続的な学修支援や進路形成支援を図るという点で、エンロールメント・マネジメント（Enrollment Management）の

表4 在学生調査実施結果
上：1年次調査、下：3年次調査

		1年次			2023年度			2024年度		
		2022年度		2023年度		2024年度		2024年度		
		対象者数	回収数	回収率(%)	対象者数	回収数	回収率(%)	対象者数	回収数	回収率(%)
教育学部		110	92	83.6	108	102	94.4	103	86	83.5
医学部	医学科	110	96	87.3	112	106	94.6	108	108	100.0
	看護学科	64	63	98.4	64	61	95.3	64	63	98.4
工学部	機械・システム工学科	160	128	80.0	164	138	84.1	158	144	91.1
	電気電子情報工学科	127	121	95.3	123	116	94.3	126	122	96.8
	建築・都市環境工学科	65	55	84.6	62	61	98.4	65	65	100.0
	物質・生命化学科	134	132	98.5	127	123	96.9	138	135	97.8
	応用物理学科	47	40	85.1	61	57	93.4	54	52	96.3
国際地域学部		62	49	79.0	64	63	98.4	59	58	98.3
全学		879	776	88.3	885	827	93.4	875	833	95.2

		3年次			2023年度			2024年度		
		2022年度		2023年度		2024年度		2024年度		
		対象者数	回収数	回収率(%)	対象者数	回収数	回収率(%)	対象者数	回収数	回収率(%)
教育学部		97	36	37.1	106	85	80.2	107	72	67.3
医学部	医学科	109	92	84.4	110	88	80.0	116	113	97.4
	看護学科	62	62	100.0	61	60	98.4	63	62	98.4
工学部	機械・システム工学科	164	127	77.4	174	152	87.4	170	156	91.8
	電気電子情報工学科	137	109	79.6	144	137	95.1	142	128	90.1
	建築・都市環境工学科	66	50	75.8	70	67	95.7	68	65	95.6
	物質・生命化学科	134	98	73.1	131	113	86.3	135	116	85.9
	応用物理学科	52	39	75.0	48	42	87.5	44	40	90.9
国際地域学部		59	40	67.8	49	48	98.0	54	42	77.8
全学		880	653	74.2	893	792	88.7	899	794	88.3

考え方とも親和性を有している。

本調査は11月に、各学部・学科に配布・回収を依頼する形で実施した。導入してからの3ヶ年は、1年次で88.3%、93.4%、95.2%、3年次で74.2%、88.7%、88.3%と継続的に高い回収率であり、全学的な協力体制に支えられた安定性も本調査の特長である(表4)。

5. 調査結果の活用とFDへの展望

本章で提示する結果は、I-E-Oモデルに基づく分析の可能性を示すための例示であり、個別項目の詳細な分析結果を提示することを目的としたものではない。調査結果を用いた分析がどのように展開しうるかを示すため、分析例として大学生活への総合満足度と全設問との相関を図1に示す。相関係数0.4以上には「②授業・学習経験」に関する設問が多く含まれ、教育内容や習得知識、施設などに関する設問との相関は低い傾向であった(表5)。

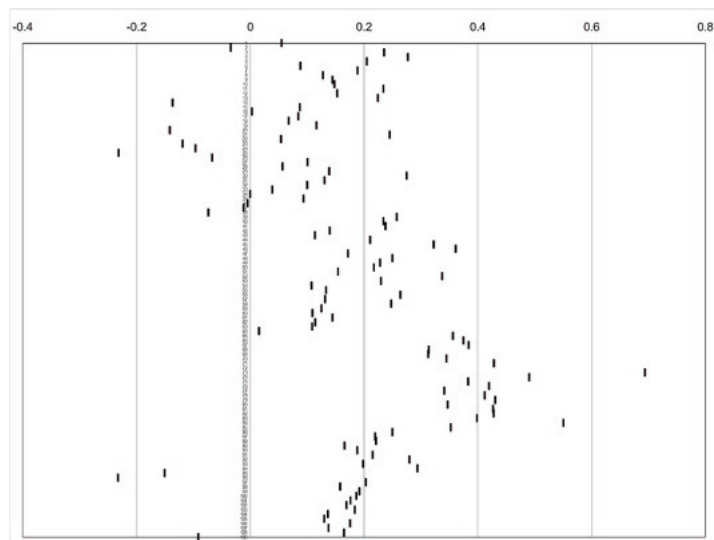


図1 調査分析例：総合満足度と全設問との相関（在学生調査2023年度3年次）
横軸に相関係数、縦軸に設問番号。各バーの相関係数の絶対値が大きいほど総合満足度との相関が高いことを意味する。

本研究で扱った入学時調査（2024年度初実施）および在学生調査（2022年度初実施）は、いずれも高い回収率を維持しており、誤差の縮小や結果の安定性の確保という点で、教育改善や施策立案に活用可能な信頼性の高い基盤となっている。これらの調査結果はFD（Faculty Development）活動への展開

を視野に入れて設計されている。特に、満足度スコアと他設問の回答傾向をもとに、学部・学科別の授業改善ワークショップなどを開催し、学生の声に基づいた授業設計の見直しを図る機会を創出している。また、学生に向けた調査結果に基づいたポスター「数字でみる福井大学のいま」を年間2～3号発行し、学内掲示による情報共有を図っている。この取り組みによって、学生自身

表5 総合満足度への相関上位設問（在学生調査2023年度3年次）

（図1の分析例における相関係数上位の設問を示したもの）

設問項目	分類	相関係数
⑦ 大学生活への満足度		0.6933
② 授業・学修経験	授業に関すること	0.4897
② 授業・学修経験	教員との交流に関すること	0.4304
② 授業・学修経験	同世代との交流に関すること	0.4283
② 授業・学修経験	同世代との交流に関すること	0.4275
② 授業・学修経験	同世代との交流に関すること	0.4263
② 授業・学修経験	授業に関すること	0.4193
② 授業・学修経験	授業に関すること	0.4120

が大学の取り組みを理解し、教員や学生、保護者との対話のきっかけ作りに役立っている。学生からは「調査結果をもとに友人や家族と話し合うきっかけになった」との声が寄せられ、教員からも「学科内で学生と教育内容を検討する契機となった」との意見が得られており、教育改善の契機として機能している。これらのFD活動や情報還元への取り組みは、Bovill(2020)が提唱する“co-creation”の理念、すなわち学生と教員が協働する教育設計の実践に基づいており、教学IRの実践的意義を高めるものとなっている。

6. 考察と今後の展望

教学IRの枠組みにおいて、入学時調査は学生の初期意識や期待を把握する「Input」に、在学生調査は学修経験や満足度を捉える「Environment」にそれぞれ対応しており、I-E-Oモデルに準じた設計思想を有している(Astin 1999)。また、本学で導入された学生調査は高い回収率で(表2、4)、安定的に縦断的な情報収集を可能にする構成となっている。全国的な教学IRの動向と比較すると、学生調査を教学IRの一環として体系的に位置づける大学はまだ少なく、多くは授業評価や学生満足度調査など個別目的にとどまっている。早川ら(2024)は教学IRにおける継続的・体系的な学生調査の設計が重要であると指摘している。

在学生調査は、1年次と3年次に同一設問を用いて実施されるパネル調査として設計されており、学生の意識や満足度の変化を時系列で把握することが可能である。これにより、教育施策の効果検証と継続的改善に資する実証的基盤として機能している。しかし、「Output」に相当する調査(学修成果や進路達成度、教育的効果の検証を目的とした調査)の全学統一設問は未整備である。ただし、各学部・学科では卒業時アンケートや進路調査などが独自に実施されており、これらを教学IRの枠組みに統合することで、より体系的な展開が可能となる。こうした統合は、教育施策の成果検証を可能にし、教学IR活動の実効性を高める基盤として機能する。今後は、成績データ(GPA、取得単位数、到達度評価など)を「Output」の代理変数と位置づけ、入学時調査(I)および在学生調査(E)との関連を分析することが喫緊の課題である。

本学の取り組みは、Bovill(2020)が提唱する“co-creation”の理念、すなわち学生と教職員が対等なパートナーとして教育を共に設計・改善する枠組みと整合しており、教学IRを媒介とした教育の共創モデルとして位置づけられる。教学IRの活用は、「教学マネジメント指針」において求められる教育改善と質保証のPDCAサイクル構築にも合致する。

本稿は福井大学での実践事例に基づいているが、調査設計やFDへの展開手法は、他大学への応用可能性を有している。特に、教育の質保証活動がエンrollment・マネジメントと接続され、教学IRを通じて制度的に浸透していくものと期待される。

今後は、調査結果の分析体制をさらに制度的に強化し、FDへの接続や学生へ

の還元を制度的に定着させることで、教学 IR の実践を一層深化させる必要がある。学生の声の起点とした教育の共創をめざす継続的な改善サイクルの構築は、Healey ら（2014）が提唱する “Engagement through Partnership” の理念とも深く呼応している。

とりわけ、学生調査を契機とした「パートナーシップ学習共同体」の形成は、教学 IR を単なる分析機能にとどめず、教育文化の変革へと接続する重要な契機となる。

謝辞

本研究の推進にあたり、福井大学高等教育推進センター教学 IR 部門の皆様には、学生調査の設計・実施・分析に関して多大なるご助言とご協力を賜りました。特に、入学時調査ならびに在学調査の実施に際し、制度的視点と実務的知見の両面から貴重な示唆をいただき深謝いたします。また、教学 IR の枠組み構築にあたっては、福井大学 IR プロジェクトの教職員の皆様、ならびに外部の IR 実践者・研究者との対話を通じて、多くの理論的・実践的示唆を得ることができました。心よりお礼申し上げます。

なお、本研究は福井大学学内競争的予算「教育の質向上のための重点配分経費」の援助を受けて実施されたものであり、ここに記して感謝の意を表します。

引用文献

- Astin, A. W., 1999, “*Student Involvement: A Developmental Theory for Higher Education*,” *Journal of College Student Development*, 40, 518-529.
- Bovill, C., 2020, “*Co-creation in Learning and Teaching: The Case for Student-Staff Partnerships in Higher Education*,” *Higher Education*, 79, 1023-1037.
- 早川公・新井有妃子・山本博、2024年、「教学 IR における学習者の「情報」収集の実態把握ー全国の「学生アンケート」の実施状況の分析を通じてー」『関係性の教育学』 23(1)、253-269。
- Healey, M., Flint, A. & Harrington, K, 2014, “*Engagement through Partnership: Students as Partners in Learning and Teaching in Higher Education*,” Higher Education Academy.
- 文部科学省、2014年、『大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）』（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1344348.htm、2025.10.30）
- 文部科学省、2020年、『教学マネジメント指針（中央教育審議会大学分科会）』（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html、2025.10.30）

中井俊樹、2018年、「大学におけるインスティテューショナル・リサーチ(IR)に関する論点の整理」『薬学教育』 2、1-4。

西出崇、2022年、「教学 IR 室におけるデータ基盤構築と活用：IRシステムの構築と効率的かつ効果的な IR に向けた取り組み」『商学討究』 72(4)、23-47。

高田英一・森雅生・関隆宏・大石哲也・川辺聡史、2018年、「教育の内部質保証に対する IR による支援の現状と課題—国立大学に対するアンケートを基に—」『大学評価・学位研究』 19、67-80。

看護学実習における教育 DX の推進

- F.CESS Nurse を用いた電子化実習記録の導入報告 -

佐藤大介^{*1)} 北野華奈恵^{*2)}

キーワード: 看護教育, DX, 実習記録電子化, F.CESS Nurse,

臨床教育支援システム

要旨

本報告は、福井大学医学部看護学科における臨床実習記録の電子化を目的として開発された臨床教育支援システム「F.CESS Nurse」の導入効果を検証したものである。看護学科4年生を対象にアンケート調査を実施した結果、70.2%の学生が実習記録作成能力の向上を実感し、87.2%が教員指導の適切性を認識した。質的分析では、電子化による思考の深化や指導の迅速性といった肯定的意見が多く得られ、同時に操作性や通信環境の課題も示された。これらの結果は、F.CESS Nurse が看護教育 DX の有効な基盤であり、学修意欲と教育効率の双方を高める有用性を持つことを示唆している。さらに、学生の記録力や自律的な学びの姿勢を促進、教員の指導効率化など多面的な教育効果が明らかとなった。本取組は、看護教育におけるデジタル教材活用の新たな方向性を示し、今後の教育基盤整備や実習指導の質的向上に寄与する可能性がある。

*1) 医学系部門看護学領域臨床看護学分野

*2) 医学系部門看護学領域基盤看護学分野

I. はじめに

1.1 背景：看護教育における DX の必要性と実習記録の課題

電子カルテシステムの高度化、遠隔診療の普及、ビッグデータや AI の臨床応用といったデジタルトランスフォーメーション（DX）の渦中にあり、専門職としての看護師にも高度な ICT リテラシーとデジタルを活用した問題解決能力が必須となっている（厚生労働省 2024 1-44）。看護基礎教育の現場においても、この社会的な要請に応える形で、座学教育における LMS（学習管理システム）の導入や電子教科書の活用は急速に進展した。

一方で、看護学実習、特に臨地実習の領域においては、実習記録の作成がいまだに手書きに依存している教育機関が全国的に多数を占めており、教育 DX のボトルネックとなっている。伝統的に重視されてきた手書きによる実習記録は、学生の思考プロセスを可視化し、知識の定着を図るといった教育的意義を持つ一方で、以下のような複数の深刻な課題を内包している。第一に、時間的・労力的なコストの増大である。手書きによる記録は膨大な時間を要し、学生が患者へのケアや自己学習に費やすべき時間を圧迫している。ある先行研究では、看護学生が実習期間中に記録作成に費やす時間が全学習時間の過半数を占めることが示されており、これは学習効率の低下に直結する（桑原 2024 76-82）。第二に、指導の遅延と質のばらつきである。教員は学生が手書きで提出した記録を物理的に回収し、時間をかけて添削する必要があるため、フィードバックが翌日以降となることが常態化している。この指導の非効率性は、学生が抱える疑問や誤った思考経路を即座に修正する機会を奪い、学習効果を著しく低下させる。さらに、指導教員によって添削の視点や量が異なり、指導の均てん化が困難であるという課題も指摘されている（林 2025 149-56）。第三に、臨床現場での即戦力の欠如である。現代の臨床現場のほとんどは電子カルテシステムを採用しており、看護師は電子的なインターフェースを通じて情報を入力・共有することが求められる。手書きの実習記録は、学生が将来必要となる実践的な ICT スキルを習得する機会を奪い、卒業後の臨床現場へのスムーズな移行を妨げる要因となっている。

1.2 F.CESS Nurse の開発と本学の教育 DX 戦略における位置づけ

福井大学医学部看護学科では、これらの課題を克服し、高度な ICT スキルを有する看護師を育成するため、臨床教育支援システム「F.CESS Nurse（Fukui.Clinical Education Supporting System Nurse）」を株式会社永和システムマネジメントと共同で開発した。本システムは、単に手書き記録を電子データに置き換えるだけでな

く、「看護過程の思考プロセスをデジタル上で支援し、教員によるリアルタイムの遠隔指導を可能にするプラットフォーム」として設計されている。F.CESS Nurse は、本学の看護教育 DX 戦略の中核を担うツールの中心に位置づけ、以下のような先進的な教育リソースと連携するハブ機能を持つ。

模擬電子カルテサービス「Medi-EYE」との連携：臨床現場の電子カルテ操作を模擬的に体験することで、記録の電子化と実践的な情報管理スキルを同時に習得させる。多視点 3D 解剖教育システム「MeAV Anatomie 3D」の統合：病態理解のための解剖学的知識を視覚的、立体的に補強し、情報収集やアセスメントの質を高める。AI 模擬患者シナリオの活用：学生のコミュニケーション能力や判断力をデジタル環境で訓練し、実習記録のインプット情報源を多様化する。F.CESS Nurse は、情報収集（Medi-EYE、AI 模擬患者）から、アセスメント・看護過程の展開（記録作成機能）、そして教員指導（リアルタイムフィードバック）に至るまでの看護過程の全サイクルを一貫してデジタルで支援し、学生の系統的な思考力を育成することを目的としている。

1.3 本報告の目的

本報告の目的は、令和 6 年度の重点配分経費プロジェクトで実施された F.CESS Nurse の本格導入の結果に基づき、実証的なデータを用いて実習記録電子化の教育的優位性を検証することである。具体的には、以下の 3 点について明らかにすることを目的とする。

- ① F.CESS Nurse の活用が、学生の実習記録作成能力の向上および学修意欲の向上に与える影響を、定量的かつ質的に検証する。
- ② F.CESS Nurse を介した教員による指導・評価の適切性と、教員の指導負担軽減への効果を検証し、指導の質的改善メカニズムを考察する。
- ③ 実習記録電子化におけるシステムの安定性や操作性の課題を抽出し、次年度以降の ICT 活用教育の高度化に向けた具体的な展望と計画を示す。

II. 研究方法

2.1 対象と実施期間

本研究は、福井大学医学部看護学科のカリキュラム評価の一環として、令和 6 年度に臨地実習に参加した学生を対象に実施された。

対象学生：看護学科4年生61名とする。この4年生は、2年次の看護展開実習においてF.CESS Nurseの試験運用も経験しており、電子記録システムに対する一定の習熟度と慣れを有している集団である。

実施期間：令和6年5月27日から12月20日までの臨地実習期間。

2.2 F.CESS Nurseの機能と実習記録電子化の運用体制

F.CESS Nurseは、学生の看護過程の思考を支援するために、以下の主要な機能を持つ。

- ①テンプレート機能：各実習テーマや記録形式（SOAP形式、関連図、看護診断など）に対応したテンプレートが用意されており、記録の一貫性を保ちつつ、入力作業の負担を軽減する。
- ②リアルタイム記録・保存機能：学生はPCやタブレットから記録を入力し、データはクラウド上でリアルタイムに保存・同期される。これにより、記録の紛失リスクを排除し、手書きで発生する記録の転記作業が不要となる。
- ③関連図作成支援機能：看護過程における問題と要因の関連を図式化する関連図をデジタル上で容易に作成・修正できる機能を提供し、思考の可視化と論理構造の推敲を支援する。
- ④コメント・フィードバック機能：教員は学生の記録に対し、記録の該当箇所に直接、リアルタイムでコメント（朱書きに相当）や指導メッセージを挿入できる。学生と教員間のコミュニケーション履歴もシステム内に残る。

実習記録電子化の運用体制は、以下の点を厳格に整備した。

A. システム利用環境とセキュリティ

学生は本学から付与される統一認証を経由してF.CESS Nurseにアクセスした。個人情報保護とセキュリティの観点から、以下の措置を講じた。

- ①アクセス管理：認証された学生と教員のみがアクセス可能な環境を構築した。
- ②VPN・リモートデスクトップ：学生・教員は学外からVPN接続を介して学内システムにアクセスする体制を構築し、安全な環境下での記録確認と指導を可能にした。

③匿名化の徹底：実習記録に記載される患者情報は、F.CESS Nurse への入力段階で厳格に匿名化する運用ルールを徹底し、個人情報の漏洩リスクを最小限に抑えた。

B. 通信環境の確保

実習記録のリアルタイムでの入力と指導を実現するためには、安定したネットワーク環境が必須である。学外の臨地実習施設での通信環境のばらつきに対応するため、ポケット Wi-Fi を 17 台確保し、学生のグループまたは施設ごとに割り当て、通信の安定性を担保した。これにより、学外からのネットワーク接続トラブルは、事前の試験運用で得られた知見に基づいてほぼ解消された。

C. 教員指導体制

教員は、設定された VPN 接続やリモートデスクトップ接続を利用し、実習期間中、場所を問わず学生の記録進捗をリアルタイムで確認した。学生が実習先で記録を作成している最中に、教員が即座に指導や評価を行う遠隔・リアルタイムな指導が実現した。この体制は、従来の「提出・添削・返却」という指導サイクルを、「入力・即時フィードバック・修正」という新たな学習サイクルへと変革させた。

2.3 評価方法（量的評価と質的分析）

F.CESS Nurse の導入効果は、臨地実習終了後に実施されたカリキュラム評価アンケートを通じて分析を行った。

1. 量的評価

回答は 5 件法（1. 強く思う～5. 強く思わない）を用いた。本報告では、F.CESS Nurse の教育効果に直結する以下の項目に焦点を当てた。

- ① 学修意欲：F.CESS Nurse の利用が、医療・看護に対する興味・学修意欲に与える影響。
- ② 実習記録作成能力の向上：F.CESS Nurse の利用が、看護実習記録（関連図など）を作成する能力に与える影響。
- ③ 教員指導・評価の適切性：F.CESS Nurse を利用した教員からの指導や評価の適切性。

2. 自由記述分析

各設問に付随する自由記述欄および「本学のカリキュラムに関する意見・要望」の自由記述内容を収集し、質的な分析を行った。分析は、自由記述テキストを精読し、発言内容に基づき主要なテーマを抽出する KJ 法とテーマ別コーディングに基づいて実施した。これにより、学生が具体的にどのような点で F.CESS Nurse を評価し、またどのような課題を感じているかを明らかにした。

III. 研究結果

3.1 量的評価

A. 学修意欲

医学・看護に対する興味と学修意欲については、31名（66.0%）が肯定的な評価をした。記録作成能力や指導の適切性に関する評価と比較するとやや低い水準であるが、過半数の学生が電子記録の利用が意欲向上に繋がったと回答しており、実習記録の即時性・利便性が主体的学修を促す効果があることが確認された。

B. 実習記録作成能力の向上

実習記録作成能力の向上について、有効回答数 47 名中、「強くそう思う」または「そう思う」と肯定的に回答した学生は 33 名（70.2%）に達した。否定的な意見はわずか 2 名（4.3%）であり、大半の学生が F.CESS Nurse の利用を通じて記録スキル、特に複雑な論理構造を持つ看護過程や関連図の作成能力が向上したと認識していることが明らかになった。

C. 教員指導・評価の適切性

教員からの指導や評価の適切性については、41 名（87.2%）が肯定的な指導内容であったと認識していた。F.CESS Nurse をプラットフォームとした教員による遠隔・リアルタイムな指導体制が、学生の学習を効果的にサポートし、指導の質に対する強い満足度を生み出したことを示している。

3.2 質的評価（自由記述の分類と分析）

自由記述欄を分析した結果、F.CESS Nurse に関するコメントは、以下の 3 つの主要なカテゴリに分類された。

カテゴリ 1: 学修効果と記録の質的向上

このカテゴリでは、手書き記録の物理的な制約から解放されたことによる学修効果の増大に関する意見が中心であった。

「手書きと違い、修正が簡便で、看護過程の思考を深めることに集中できた。」

「関連図などを PC 上で作成できるため、見やすく、客観的に確認できた。」

「記録にかける時間が減り、その分を患者さんと関わる時間や学習に充てられたと思う。」この意見は、記録の電子化が、学生の労力を「記録そのものの作成」から「看護過程の論理的な展開」という本質的な学修活動へとシフトさせたことを示している。特に、関連図のような複雑な思考の可視化を伴う記録において、修正の容易性が記録の質の向上に寄与したと考えられる。

カテゴリ 2: 指導効果と教員との連携

このカテゴリは、教員からのフィードバックの質とスピードに関する意見が中心であった。これは、教員からの指導や評価の適切性に対する設問に対して 41 名 (87.2%) という高い肯定な割合を裏付ける内容であった。

「教員からの指導がすぐに PC に反映されるため、次の日の実習への準備や、具体的な行動内容を早く決められた。」

「遠隔でも教員が記録の途中経過をリアルタイムで見ている安心感があった。」

「手書きの時のような、指導を受けるために順番を待つ時間がなくなり、先生たちからの指導が効率的になった。」F.CESS Nurse によるリアルタイムな指導は、非効率を解消し、学生の学習サイクルを大幅に短縮した。即時的なフィードバックは、学生が誤ったアセスメントに基づいて計画を進めるリスクを低減させ、学習の軌道修正を迅速に行った。これは、記録作成だけでなく、臨床現場での即時的な意思決定スキルの育成にも間接的に貢献していると考えられる。

カテゴリ 3: システムと運用面の課題

このカテゴリでは、システムの安定性と操作性、およびデバイスの互換性に関する具体的な意見が抽出された。

「改良前で使いづらかった」「システムの不具合が目立った（初期のシステム安定性、ユーザーインターフェースの問題）。」

「学外からの接続が不安定になる時があった（通信環境の課題）。」

「システムの使用が不慣れで、臨地で使うことに慣れなかった（システム操作の習熟機会不足）。」導入初期段階でのシステムの安定性や、学生が日常的に使用するモバイルデバイスへの最適化が不十分であったことが示唆された。特に、臨床現場では迅速に記録を参照・入力する必要があるため、PCに限定された運用は「臨地での機動性」を損なうという切実な問題点を示している。また、習熟機会の不足は、システムの教育的効果を十分に引き出す上での課題である。

3.3 運用体制の評価

教員視点でも F.CESS Nurse の導入効果は明確であった。教員は VPN 等を通じて実習記録をリアルタイムで確認可能となり、指導の量と質を維持しながら、指導の物理的・時間的負担を軽減することができた。また、助産学実習においても F.CESS Nurse が導入されたことは特筆すべきである。助産学実習では、多岐にわたるケースや急変時の記録を迅速かつ正確に残すことが求められるが、電子化により記録の利便性が向上し、実習指導者との情報共有も円滑に行われた。このことは、F.CESS Nurse が、一般病棟実習だけでなく、専門性の高い領域の実習においても有効なツールであることを証明している。

IV. 考察

4.1 実習記録電子化の優位性：思考の深化と学修効率の両立

F.CESS Nurse による実習記録の電子化の優位性は、従来トレードオフの関係にあるとされてきた「記録作成の効率化」と「看護過程の思考の深化」を両立させた点にある。手書き記録においては、看護過程の論理構造をわずかに変更するだけでも、記録全体を書き直す膨大な労力が発生するため、学生は思考の推敲を途中で断念し、質の低い記録を提出する傾向にあった。しかし、F.CESS Nurse では、関連図やアセスメントの項目をデジタル上で容易に挿入、削除、移動、修正できるため、学生は「記録をきれいに仕上げる」ことから解放され、「記録されている内容（看護過程の論理）を最適化する」ことに集中できた。カテゴリ1の自由記述で示されたように、「修正や推敲が容易」になった環境は、学生が臨床で得た情報に基づき、問題抽出の仮説を立て、それを検証し、誤っていればすぐに修正するという、論理的思考のサイクルの修正を可能とした。この学修環境こそが、実習記録作成の向上という結果に繋がった本質的なメカニズムであると考察される。

一方で学修意欲の肯定割合が 66.0%に留まった点については、システムの初期的な操作性や、臨地実習における記録作業以外の要素（例：患者とのコミュニケーション、技術演習）の影響も複合的に作用している可能性が考えられる。特に、4年生という実習終盤の学年であるため、既に一定の実習参加への達成感を獲得している学生にとっては、F.CESS Nurse の利用による上積み効果が相対的に小さく感じられた可能性も指摘できる。今後は、実習期間の前後で記録作成能力に関する客観的な指標を測定し、手書き群との厳密な比較分析を行うことで、電子化による学修効果をより多面的に検証する必要がある。

4.2 教員指導の質的改善と指導の均てん化

教員指導の適切性に対する評価は、87.2%という極めて高い評価が得られた。これは F.CESS Nurse の最も成功した側面である。この成果は、従来の指導における「指導の非効率性」を、「即時性」へと変革したことによって実現した。

指導の即時性によって教員は、学生が「問題解決の仮説を立てる段階」や「ケア計画の方向性を決定する段階」といった思考の分岐点において、介入できるようになった。手書き記録の指導では、学生が既にケアを実施した後で指導が行われるため、「後の祭り」となりがちであった。リアルタイムな指導により、教員は学生が陥りがちな論理的思考の誤りを現場で予防・修正し、指導の有効性を最大化することが可能となった。また遠隔からの指導体制は、教員が複数の実習施設を物理的に移動する負担を軽減しただけでなく、すべての学生の記録を一つのシステム上で公平に確認できる環境を提供した。これにより、指導教員間の指導の質や量にばらつきが生じるリスクが低減し、指導の均てん化が図られたと考えられる。さらに、教員は指導のために実習施設に拘束される時間から解放され、研究活動や他の教育活動、あるいは自身のワークライフバランスの改善に時間を再配分することが可能となり、教育活動全体の持続可能性に貢献する効果も期待できる。

4.3 医療 DX 時代に求められる教育基盤の強化と今後の展望

質的分析で抽出されたシステムや運用面の課題は、本プロジェクトが「ツールの導入」から「教育手法の確立と高度化」のフェーズへ移行する上で、重要かつ避けて通れない論点である。

A. 臨床実践に即した ICT 教育への高度化

学生からの意見は、電子記録システムが臨床現場の電子カルテ操作環境にいか

近づく必要があるかを示唆している。これに対応するため、令和7年度の計画では、「本学附属病院の新電子カルテシステム導入に合わせた Windows OS 搭載 PC の整備」が企画されている。また将来的には、「模擬電子カルテ『Medi-EYE』との連携体制の構築」も視野に入れていく必要がある。これらは、単なる記録の電子化に留まらない。学生は F.CESS Nurse で看護過程の思考を深めつつ、Medi-EYE を介して実際の電子カルテ操作スキルを習得する。これにより、卒業後の臨床現場で必要とされる、「情報収集→記録→情報共有」という一連のデジタルワークフローを学生時代に体験・習熟することが可能となる。これは、医療 DX が進行する時代において、臨床現場の即戦力となる看護師育成に向けた、本学ならではの特色ある教育基盤の確立に繋がるものである。

B. 客観的データによる学修効果の検証と標準化

F.CESS Nurse の教育的優位性を学術的に確固たるものとするためには、今後「F.CESS Nurse による電子記録と従来の手書き記録の学修効果の比較検討」が極めて重要である。この比較検討では、実習記録作成にかかる時間、記録の正確性、個人情報保護への意識、実習目標の達成度といった多面的な評価項目を設定することが不可欠である。特に、記録作成時間の短縮が記録の質の低下を招いていないかという点について、客観的なデータをもって検証することで、電子記録システムの最適な運用方法を確立し、全国の看護教育機関への普及に向けた根拠となるデータを提供できる。

C. 全学への波及効果と教育資源の共有

F.CESS Nurse を活用した実習記録電子化の知見、特に厳格な個人情報保護下での遠隔リアルタイム指導のノウハウは、看護学科に留まらず、個人情報保護の厳格な対応が求められる医学科の臨床実習や、その他の医療系学部における実習指導への応用可能性を秘めている。本プロジェクトは、福井大学が持つ教育 DX 資産を全学的に共有し、本学ならではの「医療系専門職育成におけるデジタル教育モデル」を創出するための試金石として極めて大きな意義を持つものとする。

V. 結論

本報告は、福井大学医学部看護学科における F.CESS Nurse を活用した実習記録電子化の教育効果を、学生からの定量的および質的データに基づいて検証したもので

ある。その結果、以下の点が明らかになった。

1.F.CESS Nurse は、記録の修正・推敲を容易にすることで、学生の労力を「記録そのものの作成」から「看護過程の論理的な展開」という本質的な学修活動へとシフトさせ実習記録作成能力の向上（70.2%が肯定的）に優位に寄与した。

2.システムを介した教員による遠隔・リアルタイム指導体制は、指導の即時性と均てん化を実現し、教員指導の適切性（87.2%が肯定的）に対して極めて高い評価を得た。これは、指導の質向上と教員負担軽減を両立させる新たな指導モデルの有効性を示すものである。

今後の課題として、システムの安定性、モバイルデバイスへの最適化、および学年を通じた継続的な ICT 教育の必要性が確認された。また F.CESS Nurse と模擬電子カルテ「Medi-EYE」との連携を強化し、学生を医療 DX 時代の即戦力として育成するための実践的な ICT 教育基盤を確立していく必要もある。本プロジェクトの成果は、全国の看護系大学における実習記録電子化と ICT 教育推進のモデルケースとして、広くその知見が波及するものと確信する。

文献

株式会社 Medi-Lx : Medi-EYE. https://medi-lx.jp/cont/infomation_medi_eye/

(2025.11.4 閲覧)

厚生労働省：看護 DX の取り組みハンドブック 2024-看護師等養成所-
https://www.mhlw.go.jp/kango_kyouiku/_file/nursing-dx-handbook-2024.pdf (2025.11.4 閲覧)

桑原 伶奈, 小山 理英、2024 年、「臨地実習中の看護学生の睡眠状況に関する文献検討」. 『伝統医療看護連携研究』第 5 巻 2 号、76-82 頁

林 愛乃、道重 文子、2025 年、「WEB を利用した看護マネジメント実習記録(振り返りシート)に関する学生の評価と実習記録に関する要望」. 『日本看護福祉学会誌』第 30 巻 2 号、149-156 頁

Panasonic CONNECT : MeAV Anatomie 3D. <https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/meav-anatomie/top>(2025.11.4 閲覧)

高等教育推進センター 活動年報

I. 福井大学における教育改革の取り組み

035 令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」採択事業について

II. FDの展望

077 各学部のFDの取り組み

III. 高等教育推進センターの活動

087 教学企画・支援部門

089 教学IR部門

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」採択事業について

1. 本事業の背景

知識基盤社会を担う優れた人材を養成し、高度化・多様化する社会からの期待に応じていけるよう、大学には様々な教育改革が求められています。このような中、将来を見据えて特色ある教育活動を創出することや既に行われている福井大学ならではの取り組みを発展させていくことは、本学の教育的価値を高める上で極めて重要な意味をもちます。そこで学長裁量経費を原資とする競争的経費を設け、教育の質の向上に資する優れた教育成果の創出、重要な課題解決（教学 IR、教育 DX、学修成果の可視化、ステークホルダーからの意見聴取（教育改善に資するもの）など）、独創的な教育手法の開発などのプロジェクトに対して重点的に予算を配分します。

また、成果の全学展開を進める観点から、部局連携プロジェクトの区分も設けてあります。

2. 申請状況

- ・申請件数： 11 件
- ・採択件数： 7 件

3. 採択事業

プロジェクト名称	申請部局名等	代表責任者名
教学 IR データを用いた教育評価・改善のための PDCA に基づく内部質保証体制の充実	医学部	飯野 哲
看護学実習における F.CESS Nurse を活用した実習記録の電子化	医学部	四谷 淳子 佐藤 大介
データ駆動型アプローチによるトランスファラブルスキルおよび DP 達成度の可視化にもとづいた大学院教育の質の向上	工学部及び大学院工学研究科	熊倉 光孝
高大接続と専門基礎教育の支援の充実 ー入試改革と高校新課程への対応ー	工学部工学基礎教育支援センター	古閑 義之
デジタル人材育成を目指したプロジェクト型アクティブラーニング技法の開発と実践	工学部先端科学技術育成センター	飛田 英孝
【福大版教学IR推進プロジェクト 2024】 ～ 5 つのアプローチで福大版教学IRを推進する ～	高等教育推進センター	江端 弘樹
様々な学問分野に向けたデータサイエンス・AI の実践教育基盤開発プロジェクト	データ科学・AI 教育研究センター	樋口 健

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

<p>プロジェクトの名称</p>	<p>教学 IR データを用いた教育評価・改善のための PDCA に基づく 内部質保証体制の充実</p>
<p>プロジェクト代表責任者名 (所属部局)</p>	<p>飯野 哲 (医学部副学部長・医学部附属教育支援センター長)</p>
<p>プロジェクトの目的、内容、 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)</p>	<p>(目的)</p> <p>本プロジェクトは平成 29 年度から継続しており、昨年度 (令和 5 年) に受審した医学教育分野別評価の自己点検評価報告書作成及び実地調査においては、プロジェクトにおいて収集・分析・可視化した医学科における教学 IR データをエビデンスとして報告し、正式な結果通知は未だであるものの、適合評価を受ける見込みである旨の連絡を令和 6 年 2 月に受けることができた。なお、医学教育分野別評価での認証取得は、第 4 期法人評価における中期計画 2・(6)・2 の事項である。</p> <p>今年度は、【看護学科の教学 IR データの整理】及び【看護学科の教育の質向上に向けた自己研鑽】にかかる下記の活動により、更なる教育内部質保証体制の充実を図り、令和 7 年度受審予定の看護学教育評価 (分野別評価) に備え、令和 6 年度中の自己点検実施、自己点検報告書の作成を行う。なお、看護学教育評価 (分野別評価) での認証取得は、第 4 期法人評価における中期計画 2・(6)・2 の事項である。また医学部全体として学生のアウトカム・コンピテンシー達成度の向上も中期計画 2・(6)・2 の事項であり、教学 IR データに基づく教育評価・改善が必須である。</p> <p>(1) <u>教学 IR データの収集・分析</u> (2) <u>教学 IR データのダッシュボード化 (看護学科)</u> (3) <u>ICT を活用した本学医学教育についての情報公開の促進 (継続)</u> (4) <u>教学 IR に基づく FD・SD の実施</u> (5) <u>医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上</u></p> <p>(内容)</p> <p>今年度の具体的な取組として、教学 IR データを活用して教職員レベルでの教育プログラム改善につなげる PDCA を実働化・定型化するために、看護学科についての自己点検・データ整理を行う。まず (1) 教学 IR データの収集と分析を進め、次に (2) それらを可視化することで課題点を明確化・共有化し、(3) 課題点に基づいた FD・SD を企画・実施する。これにより (4) データに基づく教職員レベルでの PDCA を実働させることで教育プログラムの改善を図る。</p> <p>1. 教学 IR データの収集・分析</p> <p>医学部附属教育支援センター教育 IR 部門では既に各種 IR データを収集しているが、医学部の教育評価の方針である「アセスメント・ポリシー」で定義した内部質保証に必要な IR データ項目のうち未だ不十分な項目 (卒業生の追跡調査など) や、外部評価、特に看護学教育評価 (分野別評価) で新たに求められるデータ (同上・卒業生の状況) について、積極的に追加収集・分析する。</p> <p>さらに医学部全体としてアウトカム・コンピテンシー達成度の向上のために教学 IR データの収集・分析が必須である。</p>

	<p>2. 教学IRデータのダッシュボード化（看護）</p> <p>医学部教育IR部門の収集データと分析結果を可視化するため、ダッシュボード化（重要な情報を整理してわかりやすく表示）を行い、改善ポイントとなる指標をグラフ化等により明確にする。またその情報は医学部附属教育支援センターのHP等で公開する。改善ポイントとなる指標は、第4期法人評価、機関別認証評価、医学教育分野別評価、成果を中心とする実績状況に基づく配分（以下、財務指標）等の各種外部評価に必要なものを基本とする。</p> <p>以上は、令和4年度より、医学科については先行して仕組みを作ってきたものだが、令和6年度にはこれを看護学科に展開する。</p> <p>3. ICTを活用した本学医学教育についての情報公開の促進（継続）</p> <p>令和5年度に引き続き、医学部附属教育支援センターホームページの改修を行う。具体的には、階層整理、恒常的な更新等のメンテナンスを学内職員でも対応可能とすること、看護学教育及び同教育評価（分野別評価）に関する情報の追加を行う。</p> <p>4. 教学IRに基づくFD・SDの実施</p> <p>ダッシュボード化により共有される分析結果、及び医学部附属教育支援センターの更なる追加分析により抽出された改善ポイントに基づきFD・SDを企画・実施する。それによりエビデンスベースでの教職員レベルにおける教育プログラムの善を促進する。</p> <p>5. 医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上</p> <p>福大ビジョン2040に掲げる「大学構成員がそれぞれの担当部署のプロフェッショナルとして、プライドを持ち生き生きと活動出来る環境を構築し、大学の力量を最大限に発揮するとともに、地域との相互交流により大学の総合力を高める」を踏まえ、「日本看護学教育学会」に医学部附属教育支援センターに関わる事務職員を派遣する。これまで職員が参加したことのない学会であり、参加により看護学教育の現状を知り視野を広げ、教職協働の充実を目指す。</p> <p>（期待される成果）</p> <p>上記プロジェクト内容（1）～（5）を実施することで、以下の成果が期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「医学部附属教育支援センター 教育プログラムダッシュボード」及び「教育支援センターホームページ」に、これまで未掲載であった看護学教育の教学IRデータを可視化することで、教育プログラムのPDCAサイクルのCheck機能を支援し、看護学教育評価（分野別評価）に向けた自己点検に活用できる（第4期中期計画2・（6）・2）。あわせて医学部教育全体の学修成果について教学IRデータを用いた分析を行うことができる。 ・更なる教育内部質保証体制の充実により、看護学教育評価（分野別評価）などの評価項目の進捗管理ができる。（第4期中期計画2・（6）・2） ・教育プログラム改善についての教職協働を推進することができる。
<p>教育の質向上への貢献 （どのように貢献したか、具体的に記載）</p>	<p>看護学教育を念頭に、教学IRデータをさらに収集・分析し、それを可視化することにより、教育プログラムの課題を教職員に共有し（PDCAのC）、教育の質向上を直接的に支える仕組みを作ることを目指した。</p> <p>令和6年度には、卒業時アンケート（主にアウトカム達成度自己評価、カリキュラム評価アンケート）の結果を踏まえ、地域医療教育には引き続き力を入れること</p>

	<p>となった。参考までに、卒業生への追跡アンケートからも、地域医療の学修が現在の業務に役立っているという肯定的な回答の率が高かった。なお、2つの卒業時アンケートの結果については、令和6年度は医学部教授会において報告し、広く周知を図った。</p> <p>また、この分析結果を踏まえ、例えば看護学科においては、地域医療のうち、特に「へき地医療」コンピテンシーの修得度自己評価が低めであった旨をカリキュラム委員会において検討し、その上で、令和6年度後期の講義内容から授業内容を組み替えるという変更を行った。PDCAが回った例である。</p> <p>次に、可視化した教学IRにより洗い出された項目の改善に有効なFD・SDを企画・実施することで、学生を教育・指導する教職員の教育意識を高め、教育のスキルアップを図ることを目指した。</p> <p>令和6年度には、教学IRにより抽出された課題そのものを取り上げることまではできなかったが、教育支援センターによる新任教員向けの教育プログラム・カリキュラムの説明動画作成、開催済みのFD・SD資料・アンケート結果等のデータのアーカイブサイト作成を行い、これを学内の教員向けに公開することができた。教育の質改善に向け、データ分析結果やカリキュラムの現状、FDの内容等に、日常的にアクセスできる仕組みを立ち上げることができた。</p>
<p>プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)</p>	<p>中期計画「2. 教育」のうち、各学部の養成人材像((2)-1-A)を踏まえた調査・分析の達成のために有用である。</p> <p>また、(6)-2「第3期に導入したアウトカム基盤型教育の推進により、医学・看護学教育の全国的な基準とされる分野別評価の受審と、それぞれの教育プログラム(カリキュラム、教育課程)の更なる高度化を目指し、PDCAによるアウトカム・コンピテンシー及びカリキュラムの点検と改善を推進し、学生のアウトカム・コンピテンシー達成度を向上させる」とは、分野別評価の受審による認証取得((6)-2-A)と卒業時における学生の達成度自己評価の上昇(6)-2-B)、及び、カリキュラムの点検のための見える化という点で直結しており、重要性が高いといえる。</p> <p>実際に、データの収集、及び、ダッシュボード・ホームページの改修は、医学部の教学データの看護学科分も含めた把握(中期目標(2)-1-A関係)、情報公開への仕組み作りに寄与した。</p> <p>また、看護学教育学会への事務職員の参加により、地域医療・在宅医療人材の養成、モデル・コア・カリキュラムへの対応など、全国レベルでの動向に触れることができ、別途学内FDの企画・看護学科への提言取りまとめ(中期計画(6)-2-B関係)、看護学教育分野別評価の自己点検評価報告書取りまとめ作業等業務(中期計画(6)-2-A関係)に経験を活用することができた。</p>
<p>プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)</p>	<p>これまで本経費を用いて進めてきた教育内部質保証体制の整備では、医学教育分野別評価が先行したこともあり、まず医学科の教育を取り扱ってきた。令和6年度はこれを看護学教育に展開し看護学教育分野別評価受審の自己点検を行うことで、医学部全体での教育プログラムPDCAサイクルの改善を目指した。</p> <p>令和6年度には、これまで手をつけられていなかった看護学科のデータについて、ダッシュボードに追加することができた。また、FDのアーカイブサイトも作成の上、これらは学内教員が広く閲覧・利用できるよう、併せて公開した。今後の、個別の学生指導に生かせるデータであるとともに、昨今大学に求められている、情報公開分野においても基盤とすることのできる取組である。</p>

<p style="text-align: center;">実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)</p>	<p>令和6年度の活動実績は以下のとおりである。 項目1～5は、それぞれ、既出「プログラムの目的」1～5に対応している。</p> <p>1 (教学IR データ収集・分析関係) : アンケート項目の見直し、卒業生アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に実施した、在学生向けのアンケートの中心となる「アウトカム達成度自己評価」「カリキュラム評価アンケート」、及び、「卒業生向けアンケート」については、この結果を集計し、教授会まで報告する他、学部内の教員が閲覧できるダッシュボードに主要な内容を掲示することができた。 ・前述の「アウトカム達成度自己評価」「カリキュラム評価アンケート」、及び、「卒業生向けアンケート」の項目を、令和6年度実施分から変更した。変更の主な内容は、新たに教育内容で変更を加えた内容(例: 医学科臨床実習でのICTツールの改修、地域医療や感染症医療での取組内容)の評価項目の追加である。 <p>なお、変更に先立ち、教育支援センター運営委員と学年代表との意見交換を行った上で(教育支援センター令和6年10月ミーティング)、看護学科においてはカリキュラム委員会において更に検討し(令和6年11月委員会)、改正版を策定した。実施済みアンケートは、医学科6年次、看護学科4年次のカリキュラム評価アンケートの集計が既に終わっている段階であり、今後、順次集計を進めて行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生アンケートについては、医学科、看護学科ともに実施することができた。 ・看護学科において令和6年度より本格的に実習において実働を始めた臨床教育支援システム(FCESS Nurse)について、学外からの安全なアクセスを担保する必要性が出てきたため、セキュリティの高いサーバーの利用料の支出を行った。FCESS Nurseには、学生が実際に経験した看護実践行為の記録、実習を通じてのアウトカム達成度等の評価機能も付いており、今後、実習期間中の主な教学IRデータの収集元となる見込みである。 <p>以上より、教学IRの収集・分析といった目的(1)を達成した。</p> <p>2. (教学IR データのダッシュボード化) : 看護学科の主要データ追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部附属教育支援センターのHPからリンクさせたダッシュボード画面(重要な情報を整理してわかりやすく表示)において、令和4年度より作成されていた医学科分に、看護学科分の主要データを新たに追加した。 <p>以上より、目的(2)を達成した。</p> <p>3. ICTを活用した本学医学教育についての情報公開の促進(継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部附属教育支援センターのホームページを改修し、階層整理により、定期的に更新等のメンテナンスが必要な箇所を絞り、更新用のマニュアルも整理することにより、学内職員が無理なく維持できる設計とした。 ・2で前述したダッシュボードを学内教員向けに公開した。 ・後述するFD・SDについて、新任教員向けのFD動画の作成、開催済みFD資料及びアンケート集計結果等のアーカイブサイト(学内者限定で閲覧可)を新たに作成し、支援センターのホームページからリンクする設計とした。 <p>以上より、目的(3)について一定程度達成した。</p> <p>なお、情報公開は令和7年2月の中央教育審議会答申「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」にも掲げられ、本学においても全学教育改革推進機構においても検討されている大きな課題である。令和6年度末時点で</p>
---	---

	<p>は、教育の当事者である学生についての安定した情報公開の仕組み作りには至っていないため、令和7年度以降、引き続き学生への公開内容・方法を検討していく。</p> <p>4. 教学IRに基づくFD・SDの実施</p> <p>・計画策定時には、教学IRにより抽出された課題を扱うことを予定していたが、令和7年度に看護学教育分野別評価の受審を控えており、令和6年度は看護学科全教員体制で自己点検を行う年に当たっていたことから、同分野別評価をテーマとしたFDの開催を優先することとした。具体的には、同じ国立大学で、先行して受審しており、さらに教育プログラムの改善が組織的に活発に行われている岐阜大学の学科長を招き、受審前、及び受審後の取組を題材としたFDと、意見交換会を開催した。本学看護学科においては自己点検を実施し、評価報告書を作成している段階であったが、短期スパン、長期スパン両面からの教育プログラム改善への取組について示唆に富んだ意見交換が行われ、有意義なFDとなった。</p> <p>以上より、目的(4)についても一定程度達成した。</p> <p>5. 医学教育の質向上を教職協働で実現していくための事務職員の専門性向上</p> <p>「日本看護学教育学会」に医学部附属教育支援センターに関わる事務職員が初めて参加した。地域医療・在宅医療人材の養成、モデル・コア・カリキュラムへの対応など、全国レベルでの動向に触れることができ、目的(5)についても達成できた。</p>
<p>将来への発展性 (全学への波及効果はあったか/本学ならではの特色の創出につながったかを記載)</p>	<p>教学IRの入り口ともなる教育支援センターホームページの整備、IRデータを公開するためのダッシュボードの更新、FDのアーカイブサイトの作成などは、今後、教育の当事者である学生、社会に関する情報公開としてますます社会的要請が高まる分野での第一歩となる。</p> <p>・全学への具体の効果としては、中期目標中期計画(各学部での養成人材像の分析(2-1-A))に寄与することができる</p> <p>なお、3月に実施したプログラム評価委員会においては、副学長・理事(教育・評価担当)より「客観的データと、学生アンケートなどの主観的データでの両面での分析を行っていることが評価できる」というコメントを受けている。</p> <p>以上のことから、波及効果はあるといえる。</p>

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

プロジェクトの名称	看護学実習における F.CESS Nurse を活用した実習記録の電子化
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	四谷 淳子 (看護学科長) 佐藤大介 (看護学科・臨地実習委員会委員長)
プロジェクトの目的, 内容, 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	<p>(目的)</p> <p>コロナ禍以降、オンライン教育が一気に普及したことにより、様々な教育ツールが導入され、看護教育においてもデジタルトランスフォーメーションが促進された。電子書籍ビューアを用いた電子教科書や、学習支援システムを用いた講義資料の電子配布、録画された講義映像を視聴するオンデマンド授業なども普及した。座学の教育では教育 DX への円滑な情報通信技術教材の導入や活用が進んでいるが、一方で看護学実習における実習記録のデジタル化は全国的に導入されておらず、実習記録を学生に手書きをさせている教育機関が多数を占めているのが現状である。そこで本プロジェクトの目的は、本学と株式会社永和システムマネジメントとで共同開発を進めた「F.CESS Nurse」を用いた看護学実習における実習記録の電子化を図り、従来の手書きによる実習記録との学習効果や個人情報の保護の観点等において比較を行い、実習記録の電子化における優位性の検証を行った。</p>
	<p>(内容)</p> <p>Phase1: 令和6年5月27日から開始となる看護学科3年生の臨地実習および看護学科4年生の助産学実習における実習記録の電子化を行った。学生は PC から福井大学のネットワークに外部アクセスを行い、F.CESS Nurse へログイン後、担当する患者または施設利用者の情報、アセスメント、関連図、看護計画、自己評価等を記載した。また実習内で経験した基礎看護技術についても記録を残すことができ、経時的な変化を可視化することが可能となった。なお対象となる実習科目は「成熟期看護学実習 I・II」「継続期看護学実習」「高齢者看護学実習」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」「助産学実習」である。</p> <p>Phase2: 手書きによる実習記録を用いて実習を経験した看護学科4年生と、F.CESS Nurse を活用した実習記録の電子化を経験した看護学科3年生において、学習効果や実習記録に費やした時間、個人情報の保護の観点等について比較し、実習記録の電子化における優位性の検証を行った。</p>
	<p>(期待される成果)</p> <p>【看護学生】</p> <p>看護学生にとって“記録を書く”ということは、看護過程を展開するために重要な経験であり、知識・実践・経験を統合するための思考をまとめる大切な作業である。しかしながら、実習期間の記録には多くの時間を費やし、学習時間や睡眠時間、実習時にはベッドサイドへ赴く時間を割く原因にもなり、学生時代に最も苦勞する課題の一つである。実習記録の電子化によって、記録を記載する負担感の軽減、リアルタイムで教員からの指導を遠隔地から受けることも可能である。</p> <p>【教員】</p> <p>実習施設は、学外の病院等の協力も得ているため、紙媒体による実習記録の場合、遠い施設であっても教員が実習施設に赴き、学生への記録指導を行っている現状が</p>

	<p>ある。F.CESS Nurse を導入することで、遠隔地から学生が記載した実習記録に対してリアルタイムで学生の学修状況の把握し指導することが可能となる。</p>
<p>教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)</p>	<p><u>学生の実習後アンケート結果</u></p> <p>現4年生のアンケート結果 (F.CESS Nurse による実習記録) では、「臨地実習での「F.CESS Nurse (臨床教育支援システム)」の利用により、看護実習記録 (関連図など) を作成する能力がより向上したと思いますか。」との問いに、そう思う 38 名 (65.5%)、強くそう思う 9 名 (15.5%) と約 8 割の学生が好意的に受け止めていた。また「臨地実習での「F.CESS Nurse (臨床教育支援システム)」を利用した教員からの指導や評価は、全般的に適切でしたか。」との問いに、そう思う 48 名 (81.4%)、強くそう思う 8 名 (13.6%) であった。さらに「臨地実習での「F.CESS Nurse (臨床教育支援システム)」の利用により、診療に参加している実感を持ち、医学・医療に対する興味や学修意欲が増しましたか。」との問いには、そう思う 40 名 (67.7%)、強くそう思う 10 名 (17.2%) と、全般として F.CESS Nurse による実習の効率化が図られた結果が得られた。</p>
<p>プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)</p>	<p>日本の医療現場における電子カルテシステムの導入状況は、令和 2 年時点で 400 床以上の病院の 91% に達しており、卒業後に看護師として就職する際、患者の状態把握や看護計画の立案、ケア実施後の記録を電子カルテ上で行うことが一般的である。したがって、看護基礎教育の段階でデジタル環境を活用した実習が不可欠であり、学生にとっては今後の業務に必要なスキルを身につけるための重要な機会となる。特に、新人看護師は業務に時間がかかることを先輩看護師から指摘されることが多く、電子カルテ記録の困難さが新人看護師の残業や離職の一因とされている。</p> <p>これらの背景を踏まえ、本プロジェクトは看護基礎教育における実習記録のデジタル化を進め、ICT を活用して学生および看護教員の負担を軽減し、デジタル環境で正確に記載する教育を行うことを目的としている。F.CESS Nurse の導入により、実習指導者と学生のリアルタイムでの情報共有が可能となり、指導の質が向上した。また、実習記録が効率的に管理されることにより、学習効果の向上が期待できる。この取り組みは、将来的な新人看護師の離職率の軽減や業務の効率化に寄与し、看護教育の質の向上と医療現場における人材の定着に大きく貢献する重要なプロジェクトである。</p>
<p>プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)</p>	<p>F.CESS Nurse の導入により、看護学生の実習記録の手書き負担を軽減することを目的としていたが、実習指導の効率化にも寄与することが明らかとなった。現在、実習指導者には ID を付与しておらず、閲覧はできない状況であるが、今後は ID を付与することで、指導者もリアルタイムで学生の記録を確認できるようにする予定である。これにより、学生の準備状況を把握しやすくなり、指導の効果を即時に確認できるようになるとともに、教員と実習指導者が同じ情報を共有し、指導方針の統一や連携強化が可能となる。</p>
<p>実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)</p>	<p>本学では、令和 6 年 5 月 27 日から 12 月 20 日までの臨地実習において、F.CESS Nurse を活用した実習記録の電子化を進め、実習指導において活用を図った。対象となる看護学科 3 年生は、2 年次の看護展開実習で試験運用を行い、その際に発生した学外からのネットワーク接続トラブルについては、永和システムマネジメントの協力のもと解消済みであったため、スムーズな導入が可能となった。また、教員</p>

	<p>向けの VPN 接続やリモートデスクトップ接続の設定、実習記録の項目調整についても事前に整備を完了していた。加えて、4 年生の助産学実習においても FCESS Nurse を導入し、実習記録の電子化を推進した。助産学実習では、多様なケースに対応しながら記録を迅速かつ正確に残す必要があるが、FCESS Nurse の活用により、記録の利便性が向上し、実習指導者との情報共有も円滑に行うことができた。</p> <p>実施にあたっては、学外施設でのネット環境を確保するため、ポケット Wi-Fi を 17 台用意し、各実習先で安定した通信環境を提供した。これにより、学生は円滑に FCESS Nurse を利用し、実習記録の電子化を実現することができた。教員においても、実習記録をリアルタイムで確認し、指導に活かすことが可能となった。</p> <p>また、FCESS Nurse の導入による教育効果を広く共有するため、日本看護科学学会において交流集会を開催し、他大学の教員とディスカッションを実施した。これにより、本学の取り組みを紹介するとともに、他機関における電子実習記録の活用について意見交換を行い、今後の発展的な活用に向けた示唆を得ることができた。</p>
<p>将来への発展性 (全学への波及効果はあったか/本学ならではの特色の創出につながったかを記載)</p>	<p>将来的には、FCESS-Nurse を他のシステムと連携を図りプラットフォームとして活用していく。具体的には MeAV Anatomie 3D、および Medi-EYE を連携させ、学習管理・実習記録・視覚的理解の統合を行い、学習効果を最大化する。MeAVAnatomie3D は詳細な解剖学的構造を多視点で確認できる教育システムであり、より直感的かつ実践的な学習環境を提供する。我々は、本システムを活用し、従来の教科書 や 2D 画像に頼った学習から脱却し、立体的な解剖構造の理解を深める教育環境を構築する。また Medi-EYE は、教育用模擬カルテサービスを展開しており、本学で保有している医療ビッグデータ(電子カルテ上の診療記録)を抽出・匿名化プログラムにかけ、企画・制作された模擬患者ではなく、診療情報の整合が取れている模擬患者を構築する。この模擬患者には AI 機能を付与し、学生が多様な病態や患者対応を体験できる環境を整える。今後は上記の技術を包含した VR/AR を活用した臨床判断シミュレーションの看護教材開発にも繋げていき、実践的な看護教育プログラムを構築し、実習の質を向上させる。</p>

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

プロジェクトの名称	データ駆動型アプローチによるトランスファラブルスキルおよび DP 達成度の可視化にもとづいた大学院教育の質の向上
プロジェクト代表責任者名 (所属部局)	工学部及び大学院工学研究科教育委員会 委員長 熊倉 光孝 (工学研究科)
プロジェクトの目的、内容、 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)	<p>(目的) 工学研究科博士前期課程において、汎用的スキル（トランスファラブルスキル）の修得状況および専門的スキル（D・Pに掲げた知識・能力等）の修得状況を個々の学生に対して可視化するとともに、その結果を総合して教育成果を可視化し、もって大学院教育の質を向上させ、関連する中期計画の高い水準での達成にも貢献する。[目的1：汎用的スキルの可視化、目的2：専門的スキルの可視化、目的3：教育成果の可視化]</p> <p>(内容) 本邦の高等教育において、学修成果・教育成果の可視化が大きな課題となっている。本プロジェクトでは、工学研究科博士前期課程において、2年生に対しては汎用的スキルを、1年生に対しては専門的スキルの修得状況を測定して可視化する。さらに、教育プログラムの成果（教育成果）を可視化し、教育の質の向上や入試広報に活用する。</p> <p>※工学研究科博士前期課程では、全学生を対象に汎用的スキルと専門的スキルの可視化に取り組むが、本プロジェクトでは経費の関係から2年生に対する汎用的スキルの測定と、1年生に対する専門的スキルの測定を実施する。1年生に対する汎用的スキルの測定はミッション戦略実現分に採択された取組「教学 IR に基づく教育の質の向上 一社会的ニーズに応えられる人材の輩出を目指して一」の中で別途実施する。2年生に対する専門的スキルの測定は来年度から実施する。</p> <p>(期待される成果) 博士前期課程において修得が期待される汎用的スキルと専門的スキルの修得状況を学生が自ら検証し、自身の「強み」と「伸びしろ」を把握できる。これにより、短期的には正確な自己認識の確立、長期的にはキャリア発展に向けた行動変容が期待される。また、可視化の過程やその結果において見いだされた課題を検証することにより教育の質が向上することが期待される。さらに、教育成果の可視化の結果を公表することにより、教育機関としての信頼性が高まるとともに、強みを積極的に広報することにより優秀な入学者確保が進むものと期待される。加えて、本プロジェクトを進めることにより、中期目標の4年目終了時評価において中期計画の定性的指標4-(1)-Aに対する評価が高まることが期待される。</p> <p>(実施体制等) 本プロジェクトは、工学研究科と高等教育推進センター（教学 IR 部門）が連携して実施する。工学研究科は、学修成果の可視化の実施と学生への提示を行う。また、工学研究科と高等教育推進センター教学 IR 部門が連携して教育成果の可視化方法を検討し、実施する。</p>
教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)	<p>中教審の「知の総和答申（我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～）において、教育の質の向上のために学修成果の可視化を進めることが求められているところであるが、「教育の内部質保証に関するガイドライン」（大学改革支援・学位授与機構）で推奨されているように、学修成果の可視化は多角的に行うことが望ましい。これを踏まえ、本プロジェクトでは以下の（1）と（2）を実施し、汎用的スキルと専門的スキルの両面から学修成果の修得状況を可視化した。</p> <p>（1）博士前期課程2年生全員294名にProgテストの受験を呼びかけ、218名（約74%）の受験者を得た。受験者全員に対し、Progテストの結果に基づいてトランス</p>

	<p>ファラブルスキルの修得状況を可視化し、その結果（レーダーチャート）を、改善に向けた指針等とともに返却した。これにより、2年生の大部分がトランスファラブルスキルの修得状況を把握できるようになった。今回の受験者の大部分は1年次にも Prog テストに基づくトランスファラブルスキルの可視化結果を受け取っているため、同スキルの修得状況が1年間でどのように変化したのかを各自で検証できるようになった。</p> <p>（2）博士前期課程1年生全員に対し、学業成績に基づいてD・Pの達成状況を可視化した。これにより、1年生全員が、個々の科目の成績だけでは読み取れない知識・能力等の総合的な修得状況を客観的に把握できるようになった。</p> <p>本プロジェクトは可視化を行っただけではない。汎用的スキルに関しては、可視化の結果（レーダーチャート）を正しく理解してもらうための「スキル分析ガイド」とスキル向上のための方法を具体的に示した「トランスファラブルスキルの更なる開発のためのヒント」を作成・提供し、大学院修了後も継続して自己研鑽に取り組めるよう工夫した。また、専門的スキルの可視化の結果、カリキュラム・マップの改善が望ましいコースがあることがわかり、対応を進めている。このように、可視化とあわせてキャリア形成に資する能力の発展を支援するとともに、可視化の結果を教育プログラムの改善に活用している。これらは教育の質の向上への重要な貢献である。</p>
<p>プロジェクトの重要性 （その成果は教育改善等に寄与できたかを記載）</p>	<p>本プロジェクトは、可視化が手薄な大学院課程において高等教育政策の主要な柱である「学修成果の可視化」に取り組むものであり、そこに最大の重要性がある。汎用的スキルと専門的スキルについて、それぞれに相応しい測定方法を用いて可視化を行うとともに、汎用的スキルを向上させるための具体的な方法を学生に提示して行動変容を促し、また専門的スキルの可視化結果を検証して教育プログラムが抱える課題（科目とDP要素との対応関係に見られる偏り）の改善に取り組むなど、可視化を教育の質の向上に結びつけている。これらの取組は、本学大学院において学修成果の可視化を先導するものといえる。</p> <p>工学研究科博士前期課程における学修成果の可視化は、中期計画 4-(1)の高い水準での達成にも必須である。前に述べた今年度の成果はその達成にも大きく貢献した。</p>
<p>プロジェクトの発展性 （継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載）</p>	<p>該当なし（本プロジェクトは今年度から開始）。</p>
<p>実施計画 （プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載）</p>	<p>（1）学修成果の可視化（汎用的スキル）</p> <p>博士前期課程2年生全員に Prog テストの受験を呼びかけ、約74%が受験した。受験者全員に対して Prog テストの結果に基づいてトランスファラブルスキルの修得状況を可視化し、その結果（レーダーチャート）を、「スキル分析ガイド」と「トランスファラブルスキルの更なる開発のためのヒント」とともに webclass から学生に返却した。受験率はより高い方が望ましかったものの、大部分の2年生がトランスファラブルスキルの修得状況を把握するとともにその向上に向けた手がかりを得たことにより、プロジェクトの第1の目的は達成された。</p> <p>（2）学修成果の可視化（専門的スキル）</p> <p>博士前期課程1年生の全員に対し、学業成績に基づいてD・Pに掲げた知識・能力等の修得状況を可視化した（学生には、令和7年3月25日に返却予定）。可視化の結果、カリキュラム・マップに改善すべき点が見つかったコースについては、対応</p>

	<p>を進めている。このように、1年生全員に対してD・Pの達成状況を可視化するとともに、その結果を教育の質の向上に結びつける取組を行っており、プロジェクトの第2の目的も達成された。</p> <p>(3) 教育成果の可視化</p> <p>工学研究科と高等教育推進センター教学 IR 部門が連携して教育成果の可視化方法を検討し、個々の学生の専門的スキルに係る学修成果をコースで平均化することにより各教育プログラムの教育成果を可視化することとした。これは令和6年度内に終える計画であり、プロジェクトの第3の目的も達成される見通しである。</p>
<p>将来への発展性 (全学への波及効果はあったか/本学ならではの特色の創出につながったかを記載)</p>	<p>外部テストを用いて汎用的スキルを可視化するとともに学業成績を用いて専門的スキルを可視化するという手厚い取組を実施している例は本邦の大学院課程においては希少であると思われ、それ自体が特色と言える。</p> <p>可視化にあたり、汎用的スキルとしては本学大学院が授業科目にもとづいて定めたトランスファラブルスキルを用い、専門的スキルとしては各専攻が定めたD・Pの構成要素(知識・能力等)を用いた。このため、両スキルとも教育プログラムとの関係が明確である。特に、汎用的スキルを教育プログラムと関係付けて測定することは、どの大学・大学院においても試行錯誤しているものと思われるが、本プロジェクトでは、工学研究科の複数の教員とProgテストの事業者との間で検討を繰り返しながら「本学大学院が定めるトランスファラブルスキルの項目とProgテストの測定項目との間の対応関係(マトリクス)」を定め、工学部・工学研究科の執行部会や教授会で説明を重ねるなど、関係者の理解・合意を得ながら教育プログラムと関係付く形で汎用的スキルを測定する方法を確立させた。こうしたアプローチは学内外の学部・研究科にとってモデルとなりうるものであり、工学研究科ならではの特色が創出されたと考えている。なお、Progテストの事業者によると同テストの結果をトランスファラブルスキルの測定に活用することは本邦初の取組である。</p> <p>外部テストを用いてトランスファラブルスキルを可視化する手法は、Progテスト以外の外部テストを用いても可能である。例えば、GPS-Academicを用いている部局においては、同テストが測定する項目とトランスファラブルスキルの項目との間の対応関係を定め、工学研究科と同様な方法によって個々の学生に対してトランスファラブルスキルを可視化できる。大学院課程に限らず、学士課程でも同様である。このように、Progテストを用いたトランスファラブルスキルの可視化は、全学への波及効果を潜在的に有している。</p> <p>前述のように本プロジェクトの実施はすでに工学研究科の特色の創出につながっているが、来年度以降も引き続き取組を発展させ、さらなる特色の創出を目指すこととしている。取り組むべき課題は、学修成果・教育成果の可視化を引き続き進めること、学会発表や共同研究などの研究経験も加えて学生の成長を総合的に可視化する仕組みを考え「大学院課程における学修成果・教育成果可視化の福井モデル」と呼ぶことができるシステムとして整備すること、優秀な入学者の確保を目指して可視化の成果を入試広報などに活用することである。</p>

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

<p>プロジェクトの名称</p>	<p>高大接続と専門基礎教育の支援の充実 ー入試改革と高校新課程への対応ー</p>
<p>プロジェクト代表責任者名 (所属部局)</p>	<p>古閑義之 (工学部 工学基礎教育支援センター長)</p>
<p>プロジェクトの目的、内容、 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)</p>	<p>(目的) 工学部では工学基礎教育支援センターが中心となって、数学や物理学の専門基礎科目でFD研修や教材の開発を進めている。また数学・物理プレースメントテスト、数学と物理の補習授業、学習支援室、達成度調査アンケートなどを通して、スムーズな高大接続を図るとともに、学生の基礎学力の把握・向上にも務めてきた。これらの取組により得られた成績データは工学部の入試改革のためにも活用され、教育効果は、第三期中期計画の実績として報告されている。本プロジェクトではこれらの実績を踏まえ、アドミッションセンターと協力しながら、これまでの成果の高大接続と初年次教育への一層の活用を図る。</p> <p>(内容) 工学部では学校推薦・総合型選抜入試の定員が、令和6年度の68名から令和7年度入試は123名に倍増する。また令和4年度に開始された高校の新課程で学んだ高校生は、来年度から大学へ入学する。このような状況に対応するため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校新課程に対応した教材開発とFD研修 ・学校推薦・総合型選抜入試合格者の入学前教育へのオンライン教材の導入 ・数学の補習授業でTAの活用 <p>を実施する。</p> <p>(期待される成果) アドミッションセンターと工学基礎教育支援センターが協力して入学前教育を行うことで、学校推薦・総合型選抜入試の定員増に対応できる体制を整える。その上で入学前教育と補習授業を強化することにより、基礎学力が不十分な学生のキャッチアップを支援する。これは工学部全体の学力の底上げに寄与し、休退学者数の減少にもつながると期待される。あわせて高校新課程への対応のためFD研修を充実させ、専門基礎科目の担当者や入試出題担当者へ情報提供する。この取組は、スムーズな高大接続に加えて、入試の出題体制の強化にも役立つ。</p>
<p>教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)</p>	<p>本プロジェクトではこれまで、プレースメントテストの成績分析、数学と物理の補習授業やFD研修と教材の開発を通して、初年次教育の質の向上に貢献してきた。本年度は更に、<u>アドミッションセンターと工学基礎教育支援センターがそれぞれ担当してきた入学前教育と大学初年次教育を協力して実施することで、両者の連携を強化した【資料1】</u>。これにより、入学前教育と補習授業や専門基礎科目の授業の間での情報交換やフィードバックが可能となり、教育の質と効率が改善する。</p>
<p>プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)</p>	<p>来年度から学校推薦・総合型選抜入試の定員は、工学部定員の2割を超える。他大学でも早期の学生確保のため選抜方法が多様化しており、一般選抜以外の入試により入学する学生の割合が増えている。工学部でも今後、学校推薦・総合型選抜入試の定員が更に増加する可能性は高い。学力以外の能力・適正をもつ人材が確保される一方、基礎的な学力不足が懸念されるため、高大接続と入学後のフォローアップの重要性は更に増している。</p> <p>今回のプロジェクトに関わる数学と物理の補習授業は、2年前期まで開講されており、全14クラスのべ300名程が受講している。そのため学生の学習効果向上に対する寄与は大きい。また、数学のオンライン教材は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度「応用基礎レベル」に向けて開講されている共通教育科</p>

	<p>目でも利用可能であることから、学部を超えた教育の質向上が期待できる。</p>
<p>プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合 に、従来からの発展 性があったかを記載)</p>	<p>昨年度、本プロジェクトでは、プレースメントテスト実施方法の改善、FD 研修などを通して蓄積された教材のオンライン化、公開講座や講演会による情報発信などの「初年次教育の充実」に取り組んだ。今年度は、これまでに蓄積されたオンライン教材の入学前教育での活用や高校新課程も視野に入れた FD 研修を通して「入学前教育と大学初年次教育の連携」を推進した。</p>
<p>実施計画 (プロジェクトの目的が達成で きたかについて、実績を含め て記載)</p>	<p>(1) 入学前教育でのオンライン教材の活用 これまで工学部の学校推薦・総合型選抜入試工学者への入学前教育は、アドミッションセンターの教員が担当してきた。令和7年度入試からこれらの入試の定員が約2倍に増員されることに対応するため、工学基礎教育支援センターの数学部門の教員が協力して実施した。具体的には、<u>数学の補習授業で用いられている教材をもとに、学校推薦選抜・総合型選抜入試合格者対象を対象とする入学前教育用のオンライン教材を準備し、グーグルクラスルームを使って配布・採点を行った【資料1】。</u> 担当：工学基礎教育支援センター数学部門</p> <p>(2) 数学・物理プレースメントテストの成績データ・アンケート結果の活用 物理部門では昨年度、本プロジェクト経費を用いてプレースメントテスト用の採点用機材を更新し、成績データを補習授業などに直ちに活用できる体制を整えた。<u>今年度4月のプレースメントテストでは、大学入学共通テスト受験科目と高校での履修科目についてのアンケートを新たに追加し、得られたアンケート結果は各学科の授業担当者にも共有した【資料2】。</u>今後は、それらの結果を物理の補習授業で授業内容の検討に用いるとともに、成績分布データと共に分析して、授業の改善や入試改革に活用する。またこれらのデータを、入学前教育用のオンライン教材作成のための資料としても利用する。 担当：工学基礎教育支援センター物理部門</p> <p>(3) 教材を活用した公開講座や講演会などの広報活動・情報発信 工学基礎教育支援センターでは、数学や物理の教材を活用して大学での数学講義や物理学の実験演習などを紹介する福井大学公開講座を継続して実施してきた。<u>今年度は、物理ステップアップ担当の非常勤講師である葛生伸により、日本工学教育協会年次大会で「コロナ対応以降のデジタル教材活用と工夫」として物理ステップアップに関する教育効果などについて報告された【資料3】。</u>また、新潟市で開催された北陸四県数学教育研究大会の高等学校部会に工学基礎支援センター教員が助言者として参加し、高等学校での数学教育や大学入試に関する情報収集や意見交換を行なった【資料4】。 担当：工学基礎教育支援センター数学・物理部門</p> <p>(4) データサイエンス教育に関わる大学教員による FD 研修 工学基礎教育支援センター物理部門・情報部門では、関連する授業の FD 研修を継続して実施しており、授業間での情報共有や授業担当者が担当者としての教材の開発を進めている。令和7年度入試から、情報が大学入学共通テストの科目に追加され、数学にも新しい内容が加わる。<u>高校新課程への対応のため、データサイエンス教育に関わる大学教員による数学及び理科教育に関する FD 研修を実施した【資料5】【資料6】。</u> 担当：工学基礎教育支援センター数学・物理・情報部門</p>

	<p>(5) TA を活用した授業補助・授業時間外の演習 昨年度本プロジェクトにおいて、数学の補習授業（数学ステップアップ）へ大学院生の TA を活用した授業時間外の演習課題を導入した。<u>今年度は演習課題の充実を図り、あわせて授業時間にも担当教員を補助する TA による授業補助を導入した【資料7】。</u> 担当：工学基礎教育支援センター数学部門</p> <p>【令和6年度実施報告添付資料】 【資料1】 入学前教育用課題の Google クラスルーム・課題の Google フォーム 【資料2】 プレースメントテスト問題 【資料3】 日本工学教育学会年次大会 発表予稿・参加報告 【資料4】 北陸四県数学教育研究大会案内 【資料5】 工学基礎教育支援センター数学部門 FD 研修資料 【資料6】 工学基礎教育支援センター物理部門 FD 研修報告 【資料7】 数学ステップアップ課題 【資料8】 工学部「学士力関連数学物理ステップアップ経費」執行金額内訳</p>
<p>将来への発展性 （全学への波及効果はあったか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載）</p>	<p>プロジェクトで準備された数学や物理の教材には、数理・データサイエンスと関わる内容も多く、その教育改善は学外への情報発信にも寄与する。本年度は、基幹部門のアドバイザーであり物理ステップアップの授業を担当する葛生伸氏により、<u>日本工学教育協会年次大会において物理ステップアップに関する報告が行われた【資料3】。</u>また本プロジェクトは、アドミッションセンターの様々な取組とも関連しており、その成果は広報や入試改革などにも活用される。本プロジェクトに関わる教員は、全学の数学や物理の入試問題の出題において中心的な役割を果たしており、全学の出題体制の強化にも資する。</p>

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

<p>プロジェクトの名称</p>	<p>デジタル人材育成を目指したプロジェクト型アクティブラーニング技法の開発と実践</p>
<p>プロジェクト代表責任者名 (所属部局)</p>	<p>工学部先端科学技術育成センター長 飛田英孝 (工学系部門)</p>
<p>プロジェクトの目的、内容、期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)</p>	<p>(目的) プロジェクト型アクティブラーニングを活用して DX を担う実践的能力を有したデジタル人材の育成を行うことを目的とする。</p> <p>DX を担うデジタル人材の育成は、我が国にとって喫緊の課題であり、特に工学教育においては、数理・データサイエンス・AI 教育の強化が求められている。社会で求められるデジタル人材は、座学を通じて関連分野の知識を修得するのみでなく、これらを使いこなす実践力を有した人材である。本プロジェクトでは、工学系課題に関する実践的能力を有したデジタル人材の育成を行う。</p> <p>(内容)</p> <p>実施内容：コロナ禍に見舞われた 2020 から 3 年間の期間中に取り組んだ「福井大学発の ICT を活用したプロジェクト型アクティブラーニング技法 (FICTPAL : フィクトパール) の開発と実践」を基盤とし、工学部先端科学技術育成センターを責任運営機関として実施する①工学部共通科目「学際実験・実習」及び、②単位を伴わない創成活動 (全工学部学生に共通の時間枠を設け、教員及び学生が提案した活動を先端科学技術育成センターが認定した上で、工学部全体が支援して行うグループ活動)、さらに、③工学部の各学科で行われているプロジェクト型 AL を連携した教育実践の場として、教育技法の開発と実践を行う。</p> <p>実施体制：上記の教育実践の場にて、機械学習、AI、VR、AR、デジタルコンテンツ制作などの ICT 技術を取り入れたプロジェクト型アクティブラーニングをデータ科学・AI 教育研究センター (以下、DA センターと略す) と協働して実施する。学際実験・実習では、DA センターが中心となって「AI・データサイエンス実践プロジェクト」を運営するほか、IT 技術を取り入れたプロジェクト型学習を DA センターと協働して開発・実践する。さらに、公募型事業 (先端科学技術育成センターが公募を行う Imagineer を育む創成教育推進経費) の実施と情報共有 (センターHP, CIRCLE News) を通じて工学部の各学科教育への普及を推進する。</p> <p>(期待される成果) プロジェクト型 AL は、学生自身が主体的に、自らの力を体感しながら取り組む統合型体験学習活動を教員の支援のもとに実践する学習者の当事者性を重視した教育活動である。通常の座学では修得困難な創造性・課題探求能力・企画力・リーダーシップ・説明能力といった実践的能力を有したデジタル人材を育成する教育システムの構築が期待できる。</p>
<p>教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)</p>	<p>貢献の具体例：次ページに 2024 年度の「学際実験・実習 : Imagineer プロジェクト福井」受講者に対して行ったアンケート結果を示す。図は、受講前にこの授業を通じて身につけたい能力 (青線) と受講後に身についたと自己評価した能力 (赤線) の比較を示す。図より、<u>通常の座学では修得困難な各種能力の向上を実感している</u>ことが分かる。特にデジタル人材育成を目的として重視した「情報スキル」では、受講前の期待を顕著に上回る能力向上を実感している。</p> <p>本活動を通じてよかったと思うことで最も多かったのは「対面で実験・実習ができたこと」(63%)で、次いで、「教室を離れ、学内をフィールドに実習すること」「グループや学生のつながりが強くなったこと」(ともに 41%)となっている。残念に思</p>

	<p>うことで最も多かったのは「まだまだやることがあるが期間が足りなかったこと」(48%)であったが、一方で、「学内で継続して取り組んでみたい」が70%となっており、引き続き主体的に創成活動として主体的能力育成を継続する意欲が見られる。</p> <p style="text-align: center;">■「身に付けたい能力」と「身に付いた能力」の比較</p>  <p>以上のように、学生と教員が協働したプロジェクト型学習を通じて、<u>現代社会に求められるトランスファラブル・スキルを育成する教育／学習の質向上に貢献</u>しており、<u>次世代を担う学生に求められている教育</u>となっている。</p> <p>(データは、「調査及び教育評価のためのコンサルティング・資料整理業務報告書」令和7年3月より引用)</p>
<p>プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)</p>	<p>福大ビジョン 2040 における教育のミッションにおいて、<u>数理データサイエンス教育の推進、単なる知識の習得に留まらない実践的教養を培う教育プログラムの開発</u>が謳われており、本プロジェクトは工学教育において上記ミッションの実現にも寄与した。また、学生と教員が協働して取り組むプロジェクト学習は、学生と教員がともに議論する体制を強化し、学生のキャンパスライフの質向上にも寄与するという効果も見られた。</p>
<p>プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)</p>	<p>昨年度よりデータ科学・AI 教育研究センター（以下、DA センターと略す）と協働して学際実験・実習の中に、「AI・データサイエンス実践プロジェクト」を開発するとともに、知能ロボット・プロジェクト、Imagineer プロジェクト福井の活動内容にも機械学習、AI、VR、AR、デジタル・コンテンツ制作などの ICT 技術を積極的に取り入れ、技法と活動内容を総合的に DX 化することに取り組んだ。これらのプロジェクトの中で、鋼製の橋を製作する Steel Bridge Competition チームは、学際実験・実習の Imagineer プロジェクト福井 (iPF) の中で機械学習を活用した橋梁設計を行い、他の活動グループと切磋琢磨して活動内容を深化させるとともに、授業外の創成活動を通じて高度な活動を行い、日本鋼橋模型コンペティションにて総合優勝し、3連覇を達成するとともに、アジア・ブリッジコンペティションでも総合3位という優れた成績を収めた。</p> <p>昨年度より3年計画で、ガソリン・エンジンから EV への転換を行っているフォーミュラカー製作プロジェクトは、学生フォーミュラ日本大会への出場を果たすとともに、「知能ロボコン出場を目指した活動グループ」とともに北陸信越工学教育協会福井支部シンポジウムにて、学生自身が活動報告を行った。さらに、名古屋大学にて開催された第 21 回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウムにて「和紙原料であるトロロアオイ栽培ロボットの開発」プロジェクトでの活動報告を行うなど、多くの発展的成果を挙げた。</p>

	<p>学科教育への普及／展開：本プロジェクトを通じた教育技法開発は、学科教育への普及や展開を通じて工学部全体の教育改善に継続して貢献している。</p> <p>一例として、物質・生命化学科で実施している創成実験（必修）における能力向上の状況を示す。本プロジェクト型学習では、グループで商品の企画／プロトタイプ制作、プレゼンを行い、報告書の作成（個人）を行っている。また、デジタル人材育成を強化すべく、商品を紹介する1分程度のCMビデオの制作もあわせて行っている。</p> <p>下の図は、工学系教育の国際通用性を担保するJABEEが掲げる各種能力の向上に対する受講者の自己評価の変遷を示す。2020年度から3カ年実施したFICTPAL実施期間中に急速な伸びを示し、昨年度から開始した本プロジェクト実施期間においても高いレベルが維持されていることが分かる。また、87%の学生が「ビデオ作成が能力育成にやくだった」と回答しており、化学系のプロジェクトにおいてもデジタル人材育成に寄与している。</p> <div data-bbox="603 703 1385 1294" data-label="Figure"> <p>身についた能力の自己評価</p> <p>2019年度 2020年度 2021年度 2022年度 2023年度 2024年度</p> <p>技術者倫理 自主学修 協調性 多面的思考 計画性 デザイン能力 コミュニケーション能力 工学基礎</p> </div>
<p>実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)</p>	<p>すべての活動を対面で実施し、実施計画に沿った教育活動が実施できた。コロナ禍の中で培ったICT技術の成果も活用し、効率的な教育活動が計画通り実施できた。「教育の質向上への貢献」及び「プロジェクトの発展性」の項目で例示した能力獲得の自己評価に示されるように通常の座学では修得困難な各種の社会人基礎力を身につけたデジタル人材を育成することができたと考えている。また、外部の専門家による報告書「調査及び教育評価のためのコンサルティング・資料整理業務報告書」（2025.3 納品）においても、本プロジェクトの目的が十分に達成できていることが確認できる。</p>
<p>将来への発展性 (全学への波及効果はあったか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載)</p>	<p>ICT／データサイエンス技術は、就職活動やビジネスの進め方も急速に変化させており、こうした技術を使いこなすことは社会人必須の能力となりつつある。これまでの高い実績を有する本学工学部独自の教育システムである「夢を形にする技術者育成プログラム」にICT/AI/データサイエンスを効果的に結合し、教育におけるDX化を推進することにより、福井大学が発信する教育イノベーションを牽引するプロジェクトである。</p> <p>さまざまな取り組みについては、先端科学技術育成センターの広報紙「CIRCLE News」（http://www.circle.u-fukui.ac.jp/circle_back.html）にて継続的に情報を発信している。具体例としても示したように各学科での専門教育の実施方法にも波及しつつあり、質の高い教育を創出していく本学独自のユニークな教育を牽引する発展性に富んだ</p>

	<p>プロジェクトである。今後、現在も協力関係にある「まちおこし」に取り組む NPO 等とも連携し、DA センターによる AI・データサイエンス技術も取り入れて地域の問題解決に取り組むプロジェクトの構想もあり、「地域」をキーワードとしたプロジェクト型学習教育技法への発展も期待される。</p>
--	--

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

<p>プロジェクトの名称</p>	<p>【福大版教学IR推進プロジェクト2024】 ～ 5つのアプローチで福大版教学IRを推進する ～</p>
<p>プロジェクト代表責任者名 (所属部局)</p>	<p>江端 弘樹 (高等教育推進センター)</p>
<p>プロジェクトの目的、内容、 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)</p>	<p>【目的】 根拠に裏付けされた教育改革を進めるにあたり、教学データの組織的な収集・分析、つまり全学的な「教学IR活動」は不可欠な活動である。しかしながら、本学における組織的な教学IR活動は始まったばかりである。実際の教学IR活動は、日常的な教学面での取り組みの振り返り活動・評価そのものであり、近年の高等教育機関が強く求められている「教育の内部質保証」の中核をなすものである。 本プロジェクトは、令和5年度重点配分経費「福大版教学IR推進プロジェクト」における活動ならびに令和3年度「教職協働に関する提言書」を礎とし、将来の福大版教学IR活動の柱となりうる5つのアプローチを模索・推進することで、第4期中期計画やその関連施策の必達に向けて全学的な教学IR活動を推進することを目的とする。</p> <p>【実施体制】 高等教育推進センターが主体となり、学内外の幅広い組織体と連携して取り組んだ。 ・連携部局：教育学部、医学部、工学部、国際地域学部 ・その他連携先：総合戦略室 教学IR推進プロジェクトチーム、教務課、松岡キャンパス学務課、福井大学生生活協同組合</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学間連携による学士課程教育の質向上アプローチ 2. 学部の教育改善支援による教育の質向上アプローチ 3. BIツールによる教学IRデータの可視化アプローチ 4. ステークホルダーとの教学IRデータ共有アプローチ 5. IRデータベース構築による教育の質向上アプローチ <p>【期待される成果】 ・大学間連携によって教学面における本学の学生像をより把握できる。 ・パネル調査の充実により、学生の様々な面での成長把握につながる。 ・マークシート貸出しキットの整備により、学部の教育改善が進行する。 ・教学IRマインドの醸成につながる「教学IRの学内ネットワーク」が構築される。 ・学生へ各種調査結果の公開を進めることで、自身の回答が教育改善活動の一環であるとの意識定着が進む。また、様々な学内調査に対する回答の信頼性が高まる。 ・様々なレベルで教学IR活動を進めることで教職協働活動が推進する。</p>
<p>教育の質向上への貢献 (どのように貢献したか、具体的に記載)</p>	<p>本プロジェクトは、以下の点で本学の教育の質向上に貢献した。</p> <p>○教育を改善し、質の高い「学び」を提供しつづけるためには、提供した学びの内容を振り返り、効果を検証することが欠かせない。これに直結する学修成果や教育成果・過程の可視化に資するデータを提供可能となった。</p> <p>○福大版教学IR活動が推進されることで、学事データや学生の学修活動、大学の教育活動、入試、キャリア等に係る活動データ等の組織的な収集・分析が進展する。大学の施策立案・検証および継続的なPDCA活動を確立・維持するために必要な根拠に基づいた政策判断(EBPM: Evidence-based policy making)への意識醸成を促した。</p>

<p>プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に寄与できたかを記載)</p>	<p>○大学構成員全員の数値・データへの関心が高まった。</p> <p>本プロジェクトは、前項「教育の質向上への貢献」の通り、教育の質向上に貢献するほか、以下の点でも重要である。</p> <p>○プロジェクト終了後の成果</p> <p>福大版教学IRにより、学事関連データ、学生の学修活動、大学の教育活動、入試、キャリアに係るデータ等が組織的に収集、分析、可視化されることで、全学ならびに各部局の執行部が計画立案や意思決定および施策評価に資するデータとして活用できるようになる。</p> <p>○教育改善への貢献内容</p> <p>教学IR環境を整備することで、高等教育機関への社会の要請である「教育の内部質保証を核とした教育改善」活動が推進される。</p> <p>○他プロジェクトへの貢献</p> <p>本プロジェクトは、令和6年度ミッション実現戦略経費「教学IRに基づく教育の質の向上一社会的ニーズに応えられる人材の輩出を目指して」へも貢献している。</p>																																																																																																																																																																																																																													
<p>プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)</p>	<p>令和6年度には「福大版教学IR推進プロジェクト2024」として、主に次の5つのアプローチ(「大学間連携による学士課程教育の質向上」「学部教育改善支援による教育の質向上」「BIツールによる教学IRデータの可視化」「ステークホルダーとの教学IRデータ共有」「IRデータベース構築による教育の質向上」)で取り組んだが、これら全ては、令和4および5年度の取り組みを修正・発展させた内容となっている。</p>																																																																																																																																																																																																																													
<p>実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)</p>	<p>【実施工程】</p> <p>大きく5つのアプローチ(「大学間連携による学士課程教育の質向上」「学部教育改善支援による教育の質向上」「BIツールによる教学IRデータの可視化」「ステークホルダーとの教学IRデータ共有」「IRデータベース構築による教育の質向上」)で、次の工程のもと教職協働体制にて福大版教学IR活動の推進に向けて取り組んだ。</p> <table border="1" data-bbox="523 1243 1444 1579"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アプローチ</th> <th rowspan="2">主な要素</th> <th colspan="12">令和6年</th> <th colspan="3">令和7年</th> </tr> <tr> <th>4月</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>1</th><th>2</th><th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">●大学間連携</td> <td>調査準備(在学生調査)</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>調査実施(1,3年生向け在学生調査)</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>調査データ提出(コンソーシアムへ)</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>学会・研究会参加</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">●学部教育改善支援</td> <td>マークシート調査環境整備</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>マークシート調査環境貸し出し</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>●BIツールによる教学IRデータの可視化</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">●ステークホルダーとのIR情報共有</td> <td>ポスター企画・制作</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>ポスター発行・掲示</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">●教学IRデータベース構築</td> <td>パネル調査間の比較検討</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>データベース検討・構築</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </tbody> </table> <p>昨年度実施の5つのアプローチを見直し、新たな5つのアプローチで福大版教学IR活動の確立に向けて取り組んだ。各アプローチの概略は次の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>大学間連携による学士課程教育の質向上アプローチ</u> 学生調査の結果を学士課程教育の質的向上に結びつけるための全国的なIRコミュニティである「大学IRコンソーシアム」に、昨年度に引き続き加盟した。過去2回の実施よりも設問を絞り込むなど回答に要する時間を短縮すると共に、回答しやすい表記とした「在学生調査」を令和6年12月に本学の全学部1,3年生全員を対象として実施した【別添①,②】。回収率は、1年生95.2%、3年生88.3%と大変高く、本学の教学IRの基礎データに十分なりうるものであった【別添③】。 今回の調査において、令和4年の1年生の大部分が3年生として対象となり、「在 	アプローチ	主な要素	令和6年												令和7年			4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	●大学間連携	調査準備(在学生調査)																	調査実施(1,3年生向け在学生調査)																	調査データ提出(コンソーシアムへ)																	学会・研究会参加																	●学部教育改善支援	マークシート調査環境整備																	マークシート調査環境貸し出し																	●BIツールによる教学IRデータの可視化																		●ステークホルダーとのIR情報共有	ポスター企画・制作																	ポスター発行・掲示																	●教学IRデータベース構築	パネル調査間の比較検討																	データベース検討・構築																
アプローチ	主な要素			令和6年												令和7年																																																																																																																																																																																																														
		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																																																																																																																																																	
●大学間連携	調査準備(在学生調査)																																																																																																																																																																																																																													
	調査実施(1,3年生向け在学生調査)																																																																																																																																																																																																																													
	調査データ提出(コンソーシアムへ)																																																																																																																																																																																																																													
	学会・研究会参加																																																																																																																																																																																																																													
●学部教育改善支援	マークシート調査環境整備																																																																																																																																																																																																																													
	マークシート調査環境貸し出し																																																																																																																																																																																																																													
●BIツールによる教学IRデータの可視化																																																																																																																																																																																																																														
●ステークホルダーとのIR情報共有	ポスター企画・制作																																																																																																																																																																																																																													
	ポスター発行・掲示																																																																																																																																																																																																																													
●教学IRデータベース構築	パネル調査間の比較検討																																																																																																																																																																																																																													
	データベース検討・構築																																																																																																																																																																																																																													

「学生調査」のパネル調査としての機能が発揮された。在学生調査のうち、大学 IR コンソーシアムの学生アンケートとの共通設問においては、他学と回答傾向の比較を行った。

IR・大学評価系の団体である「大学評価コンソーシアム」に積極的に参加し、団体運営に関わるとともに演者となることで本学 IR のプレゼンス拡大に努めた。

大学 IR コンソーシアムならびに大学評価コンソーシアムでの活動を通して、他学との教学 IR 面での連携を高めた。

2. 学部の教育改善支援による教育の質上アプローチ

オンラインの LMS (Learning Management System) 環境は十分に整備されているが、対面で実施するアンケート類の効果は逆に高まって来ている。そこで、在学生調査実施の過程で蓄積された汎用マークシートを用いたアンケートやテスト(以下、アンケート類)の実施ノウハウを活かし、汎用マークシートでアンケート類を簡単に実施できる環境を整備した。

3. BI ツールによる教学 IR データの可視化アプローチ

持続可能な形で教学 IR 活動の定着を図る上で、高度な専門知識を必要としない「データの見える化」を可能とする ICT の環境整備は大きなポイントである。IRis(大学 IR コンソーシアム提供)とこれまでの本プロジェクトにて絞り込んだ 2 つの BI ツール(Tableau Desktop, Exploratory)による分析を進めた。

4. ステークホルダーとの教学 IR データ共有アプローチ

教学 IR に関する幅広い取り組みで得られた集計・分析結果を、学内(学生および教職員)に広くフィードバックするためのポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」は当初を上回る反響で受け止められている。本プロジェクトが制作し、令和 6 年 4 月に発行した vol.4(新入生特集号)【別添 ④】は、入学式会場を始めとして学内に広く掲示した【別添 ⑤】。入学式参加の保護者や上級生からの注目度も高く、大学が教学 IR データを積極的に発信することの重要性ならびにニーズを再確認できた。令和 6 年 10 月に発行した vol.5【別添 ⑥】は、大学を支える人や施設、その他大学にまつわる数字に着目した号とした。同ポスターシリーズは、大学を訪問する学外者からの反応も良好である。

令和 7 年度の新入生特集号(vol.6)を 4 月冒頭のオリエンテーションで配布するため、粗編集作業を進めた【別添 ⑦】。

5. IR データベース構築による教育の質向上アプローチ

学生の思考変化の把握や学生自身が成長実感のために、昨年度の本プロジェクトが本学調査類に「パネル調査」の考え方を導入し、大学入学時の基礎データとなる「入学時調査」を令和 5 年度の本プロジェクトにて設計し、令和 6 年 4 月に実施した【別添 ⑧,⑨,⑩,⑪】。これは、すでに実施中の「在学生調査」とともにパネル調査の一翼を担う重要な調査となる。「入学時調査」、「在学生調査」2 回の結果に学生の諸データを加えたデータベースを構築した。

<p style="text-align: center;">将来への発展性 (全学への波及効果はあつたか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載)</p>	<p>【教職協働推進への貢献】</p> <p>本プロジェクトは、令和3年度 教職協働推進プロジェクトチームによる「教職協働に関する提言書」に「特に推進すべき業務範囲」として取り上げられた「IR 業務」の推進につながる。また、教職協働で進める本プロジェクトは、第4期中期目標・中期計画「Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する事項」(11)で目標に掲げる「教職協働によるプロジェクト件数 10 件以上」に貢献した。</p> <p>【全学への波及効果：PDCA・点検評価への貢献】</p> <p>大学の施策立案・検証や継続的なPDCA 活動を確立・維持するために、根拠に基づいた政策判断および効果検証が求められており、この整備は急務である。本プロジェクトや付随する活動により福大版教学 IR を推進させることが本学のEBPM(Evidence Based Policy Making:根拠に基づいた政策立案)環境の整備につながった。</p> <p>第4期中期目標・中期計画「Ⅰ-2 教育」(2)においては教育内部質保証関連組織への客観データ提供で、「Ⅳ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項」(14)においては決裁組織への客観データ提供を通して貢献できた。</p> <p>【ミッション実現戦略プロジェクトへの貢献】</p> <p>社会的なインパクトを創出する取り組みに対して国から交付される「ミッション実現戦略分経費」は、第4期の国立大学法人運営費交付金の大きな柱を担っている。本学で立ち上がっているミッション実現戦略プロジェクトの内、テーマ「教学 IR に基づく教育の質の向上」に貢献した。</p>
---	--

2024年度 在学生調査(一年生向け) 調査用紙 (全7ページ 118問)

2024年度 在学生調査(1年生向け)

本学では、様々な学生アンケートの結果を改善活動につなげています。本調査もその一つです。みなさんの成長実感や学習への意欲などの意識の把握や、教員の教育力向上や良質な学習機会提供などの本学の取り組みへの評価を通じて、みなさんの福井大学での大学生活をより素晴らしいものとするのが目的です。

この調査は本学の1年生および3年生全員に実施するものです。回答内容は、全学の教育改革を進めている高等教育推進センターが厳重に管理し、データの処理時には匿名化しますので、個人の回答内容が漏れることはありません。また、成績や各種選考にも一切影響しませんので安心して素直に回答してください。

本調査の結果は、本学独自の分析に加えて、全国の約60大学との比較を通して本学の強み・弱みも明らかになります。これらにより、皆さんのご意見を可能な限り今後の大学運営に反映していきます。なお、データの集計が終わり次第、「数字でみる福井大学のいま」などで結果を公表します。

2024年11月

副学長(教育、評価担当) 安田年博
高等教育推進センター-教学IR部門長 江増弘樹

問合せ：高等教育推進センター-教学IR部門
(E-mail:ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp)

回答時には、次の点に注意してください。

1. 黒鉛筆またはシャープペンシルを使用すること
2. 間違えた場合は、消しゴムできれいに消すこと
3. マークシートは、折らないこと
4. 氏名・学籍番号を正しく記入すること
5. 学籍番号は、左詰めで記入すること

I. あなた自身のことについて

(1) 通学にはどのような交通手段を利用していますか。(該当するものを全て選択)

1. 電車
2. バス、タクシー
3. 自動車(自分で運転)
4. 自動車(送別)
5. バイク
6. 自転車
7. 徒歩

(2) 片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 15分未満
2. 15分以上 - 30分未満
3. 30分以上 - 1時間未満
4. 1時間以上 - 1時間30分未満
5. 1時間30分以上 - 2時間未満
6. 2時間以上

1

2

● 本学の設備や学生支援制度に満足していますか。



- (18) 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)
- (19) 実験室の設備や器具
- (20) コンピュータの施設や設備
- (21) コンピュータの訓練や援助
- (22) インターネットの使いやすさ
- (23) 奨学金など学費援助の制度
- (24) 健康・保健サービス(心身の健康に関する問題についての診療や相談)
- (25) レクリエーション施設(ジムの設備など)
- (26) キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)

● 本学に入学してから、次のことからはどれくらいまよくなりましたか。



- (27) 大学の学生向けサービスを上手に利用する
- (28) 大学教員の学問的な期待を理解する
- (29) 効果的に学習する技術を修得する
- (30) 大学が求める水準に応じて学習する
- (31) 時間を効果的に使う
- (32) 大学教員と顔見知りになる
- (33) 他の学生との友情を深める

III. 大学に入学する前や高校時代のことについて

(34) 現役で本学に入学しましたが、それとも浪人もしましたか。

1. 現役
2. 浪人
3. その他(留學生、社会人など)

(35) 志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

1. 第1志望だった
2. 第1志望ではなかった

(36) 高校での成績はどのあたりでしたか。

1. 上位の方
2. 中の上くらい
3. 中くらい
4. 中の下くらい
5. 下位の方
6. わからない、覚えていない

3

(3) 現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

(4) 真事を「1週間あたり」どのくらいの回数とりますか。

1. 0～6回
2. 7～9回
3. 10～12回
4. 13～15回
5. 16～18回
6. 19～21回
7. 22回以上

II. 大学生活に対するあなたの考えや満足度について

● 本学の教育内容・環境に満足していますか。



- (5) 総合的に考えて、福井大学での大学生活は充実している
- (6) 総合的に考えて、福井大学での大学生活に満足している
- (7) 共通教育あるいは教養教育の授業
- (8) 初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)
- (9) 授業の全体的な質
- (10) 日常生活と授業内容との関連
- (11) 将来の仕事と授業内容の結びつき
- (12) 教員と話す機会
- (13) 学習支援や個別の学習指導
- (14) 他の学生と話す機会
- (15) 大学のなかでの学生同士の一体感
- (16) 多様な考え方を認め合う雰囲気
- (17) 1つの教室で学ぶ学生数

IV. 現在のあなたの学習状況について

● 受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。



- (37) 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ
- (38) 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- (39) 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- (40) 授業の一端でボランティア活動をする
- (41) 学生自身が文献や資料を調べる
- (42) 定期的に小テストやレポートが課される
- (43) 教員が理由付けやコメントをつけて返答する
- (44) 学生が自分の考えや研究を発表する
- (45) 授業中に学生同士が議論をする
- (46) 授業で検討するテーマを学生が設定する
- (47) 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- (48) 取りたい授業を履修登録できなかった
- (49) 出席することが重視される
- (50) TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

● 大学の授業や授業以外の学習で、次のようなことをどのくらい経験しましたか。



- (51) 授業課題のために図書館の資料を利用した
- (52) 授業課題のためにWeb上の情報を利用した
- (53) インターネットを使って授業課題を調べたり、提出したりした
- (54) 提出期限までに授業課題を完成できなかった
- (55) 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした
- (56) 授業中、教員の考え方や意見に興味を覚えた
- (57) 授業を欠席した
- (58) 授業に遅刻した
- (59) 授業をつまらなく感じた
- (60) 授業中に居眠りをした
- (61) 学内での学習支援を受けた(教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等)
- (62) 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した
- (63) 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)
- (64) 教員に興味を感じた

4

2024年度 在学生調査 回答用紙(1年生版)

フリガナ
氏名

①

在学生調査(1年生)

※ 氏名・学籍番号 記入して下さい

学籍番号

1. 記入欄・マーク欄以外には記入しないでください。
2. 鉛筆で、しっかり書くマークしてください。
3. 間違った場合には、消しゴムで、きれいに消してください。

マーク例 正しい例 悪い例

問	解答欄	問	解答欄	問	解答欄	問	解答欄
1		26		51		76	
2		27		52		77	
3		28		53		78	
4		29		54		79	
5		30		55		80	
6		31		56		81	
7		32		57		82	
8		33		58		83	
9		34		59		84	
10		35		60		85	
11		36		61		86	
12		37		62		87	
13		38		63		88	
14		39		64		89	
15		40		65		90	
16		41		66		91	
17		42		67		92	
18		43		68		93	
19		44		69		94	
20		45		70		95	
21		46		71		96	
22		47		72		97	
23		48		73		98	
24		49		74		99	
25		50		75		100	

選択肢が「0.」の場合のみ 要記入

問65. (時間)
問66. (時間)
問67. (時間)
問68. (時間)
問69. (時間)
問70. (時間)
問71. (時間)
問72. (時間)

裏に続く →

国立大学法人福井大学調査用紙

スキャナで読めるマークシート **360°** © 2016 スキャネット株式会社。本シートを複製して転記することを禁じます。 SN-0489

1. 記入欄・マーク欄以外には記入しないでください。
2. 鉛筆で、しっかり書くマークしてください。
3. 間違った場合には、消しゴムで、きれいに消してください。

マーク例 正しい例 悪い例

問	解答欄	問	解答欄	問	解答欄	問	解答欄
101		126		151		176	
102		127		152		177	
103		128		153		178	
104		129		154		179	
105		130		155		180	
106		131		156		181	
107		132		157		182	
108		133		158		183	
109		134		159		184	
110		135		160		185	
111		136		161		186	
112		137		162		187	
113		138		163		188	
114		139		164		189	
115		140		165		190	
116		141		166		191	
117		142		167		192	
118		143		168		193	
119		144		169		194	
120		145		170		195	
121		146		171		196	
122		147		172		197	
123		148		173		198	
124		149		174		199	
125		150		175		200	

国立大学法人福井大学調査用紙

お疲れ様でした

2024年度 在学生調査 実施状況

2024年度「在学生調査」実施状況	1年生			3年生		
	実調査対象数	提出計	回収率	実調査対象数	提出計	回収率
学校教育課程	103	86	83.5%	107	72	67.3%
初等教育コース	59	51		60	32	
中等教育コース	44	35		47	40	
医学科	108	108	100.0%	116	113	97.4%
看護学科	64	63	98.4%	63	62	98.4%
機械・システム工学科	158	144	91.1%	170	156	91.8%
機械工学科	72	65		81	74	
ロボティクスコース	61	56		58	53	
原子力安全工学コース	25	23		31	29	
電気・電子情報工学科	126	122	96.8%	142	128	90.1%
電子物性工学科				26	18	
電気・通信システム工学科				37	31	
情報工学科				79	79	
建築・都市環境工学科	65	65	100.0%	68	65	95.6%
建築学コース				43	43	
都市環境工学コース				25	22	
物質・生命化学科	138	135	97.8%	135	116	85.9%
繊維・機能性材料工学科				55	52	
物質化学コース				42	32	
バイオ・応用医工学科				38	32	
応用物理学科	54	52	96.3%	44	40	90.9%
国際地域学科	59	58	98.3%	54	42	77.8%
グローバルアプローチ				7	7	
地域創生アプローチ				47	35	
計	875	833	95.2%	899	794	88.3%
全体				1774	1627	91.7%
【参考】 2023年度実績	885	827	93.4%	893	792	88.7%
				1778	1619	91.1%

※「実調査対象」は、調査開始時(2024年11月)の在籍者から調査期間(2024年11月～2025年2月)に休学・留学中の学生を除いたもの。

ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」 vol.4 (令和 6年 4月発行)

数字でみる “新入生”

ご入学おめでとうございます。

福井大学にまつわる数字を紹介するシリーズ『数字でみる福井大学のいま』は、高等教育推進センター 教学IR部門が担当しています。今回は、新入生特別号として1年生のデータを紹介するよ。

本学では学生アンケートの結果を様々な改善活動につなげています。

vol.4 (2024年4月)

(発行元) 高等教育推進センター 教学IR部門



～ 数字でみる福井大学のいま 新入生特別号 ～

この春の新入生を数字で見よう

○ 2024年度 学部・学科別 (入学者総数884人)

教育学部		医学部		工学部				国際化学部
	医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用	国際化学部
103	110	63	159	129	65	139	55	61 (人)

(頭文字2文字で学科名を表現しています)

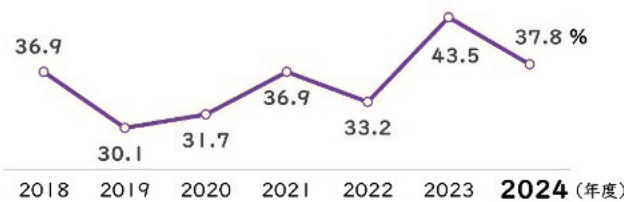
○ 出身府県別

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 (年度)	
福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	334 (人)
愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	167
石川	石川	石川	岐阜	石川	石川	石川	82
岐阜	岐阜	岐阜	石川	岐阜	岐阜	岐阜	69
滋賀	京都	三重	三重	京都	大阪	京都	41
大阪	大阪	京都	京都	三重	京都	大阪	28
京都	三重	大阪	富山	兵庫	三重	富山	23
三重	滋賀	富山	大阪	大阪	滋賀	静岡	15
	静岡			滋賀	富山	滋賀	14
	兵庫				三重	三重	14

○ 一年たったら… (「入学1年後調査」から)

- ✓ **総合評価**
 - 大学生生活に満足している 80.9%
- ✓ **通学 / 住まい**
 - 片道30分未満で大学に着く 71.3%
 - 自宅(や親戚の家)に住んでいる 38.4%
- ✓ **学びへの自己評価**
 - 一般的な教養が増えた 65.1%
 - コミュニケーション能力が増した 49.9%
 - 大学の授業以外の勉強時間 週8.3時間
- ✓ **1年生の授業であったこと**
 - 定期的な小テストやレポート 96.6%
 - 文献や資料からの調べもの 81.1%
 - 学生同士で議論する場面 66.2%
 - 課題を遅れて提出した 43.7%
- ✓ **学生生活**
 - サークルに参加した 71.0%
 - 学外でアルバイトをした 78.4%

○ 福井県出身者



○ 男女比

(年度)	男	女
2024	65.6%	34.4%
2023	67.5%	32.5%
2022	67.3%	32.7%
2021	68.0%	32.0%
国立大学平均 (2023)	60.9%	39.1%

毎回テーマを変えて定期的に発行する『数字でみる福井大学のいま』は学内各所の掲示板上に登場するよ。掲示板上には他にも重要な通知が貼られるので常に注目しよう!!



※ 新入生データは2024年4月1日現在
 ※ 「入学1年後調査」は本学1年生を対象とした「在学生調査」(2024年1月実施 提出率93.4%)の結果です

この壁新聞へのご意見、ご感想は
 高等教育推進センター 教学IR部門 (ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp) まで

ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」の掲示状況



- 入学式会場(入口、ホール)
- 文京C(学生支援センター1F,2F、文京C生協食堂、総合図書館、本部棟、
全校舎入口、各学部・学科事務室前、課外活動共用棟、運動場、体育館ほか)
- 松岡C、敦賀C、小浜サイト内の各所

ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」 vol.5 (令和 6年10月発行)

数字でみる 福井大学のいま

福井大学にまつわる数字を紹介する壁新聞シリーズ『数字でみる福井大学のいま』の第5号をお届けします。

今回は、大学を支える人・施設などに注目してみました。福井大学の未来を考えるためにも、今の姿を数字で見てください。また、新コーナー「学生のすがた」が始まりました。

vol.5 (2024年10月)

(発行元) 高等教育推進センター-教学IR部門



学生数 (学部・院) ^{※1}

文京・敦賀キャンパス

3,864

松岡キャンパス

1,124

大学の面積 ^{※2}

537,284m²

そのうち…

文京

142,810m²

松岡

270,230m²

その他

124,244m²

9.98スタジアム

20個分

東京ドーム 11.5個分

「9.98スタジアム」は、福井県富岡陸上競技場の愛称。2017年9月9日、桐生祥秀選手(東洋大6年)が男子100メートルで、日本人初の9秒台となる9秒98の日本新記録を樹立したことにちなんで名付けられたもの。総面積 27,102m²

開講科目数 ^{※3}

約 2,490 科目

たくさん科目の中でキミの学びたいことがきっとあるはず!

○幅広い教養を身に付けたい (98%) ^{※4}

教員1人当たりの学生数 ^{※5}

8.0

これは学生に対する教員の数の指標です。小さいほど細かくて手厚い教育体制だとされます。(国立大学平均 9.5) ^{※6}

本学職員数 625人 ^{※7}

サークル数 (体育系・文化系) ^{※8}

文京・敦賀キャンパス

74

松岡キャンパス

38

○部活動・サークル活動に参加したい (95%) ^{※9}

海外とのつながり ^{※10}

学術交流協定締結数

168

海外派遣学生

151

本学は世界の教育機関と連携しています。留学などに活用しよう!

○在学中に海外留学したい (66%) ^{※11}

○語学方を向上させたい (93%) ^{※12}

進路状況 (学部4・6年) ^{※13}

大学院に進む

35%

就職する

64% 98%

本学は、複数学部を有する国立大学のうち17年連続就職率 全国1位 (98.3%) です ^{※14}

就職・進学などの進路相談は学年を問わずキャリアセンター(学生交流センター2階)へ

学生のすがた

学生の「思い」「考え」「アンケート結果」など 見方を変えてお伝えします。

入学から1年間で、意識はこんなに変わったんだね!
「初心忘るべからず」 「初志貫徹」

入学時 ^{※15}

本学入学に満足している

95%

大学での学びが楽しみ

97%

将来役に立つ知識を付けたい

98%

1年後には… ^{※16}

学校生活に満足している

81%

授業中に居眠りした

44%

授業を欠席した

40%

医学部附属病院 ^{※17}

病床数

600

診療科数

29

外来患者数(日平均)

1,423

入院患者数(日平均)

505

保健管理センター利用 ^{※18}

年間利用数

5,402

病気やケガ、悩みの相談ができます。休養のためのベッドもあって知ってます?

この壁新聞の認知度は、最新の調査 ^{※19} で、文京C 46%、松岡C 19%です。大学から発表される掲示物に関心を持とう!!



※1 福井大学基礎資料(2024) p.16

※2 福井大学基礎資料(2024) p.37

※3 福井大学シラバス(2022-2024)

※4 「2024年度 全学入学時調査」(高等教育推進センター 2024年4月4日 実施)

※5 福井大学基礎資料(2024) p.13,16

※6 国立大学協会「国立大学法人 基礎資料集」(2024年3月31日)

※7 福井大学ホームページ「サークル紹介」

※8 福井大学基礎資料(2024) p.24,25,28

※9 福井大学基礎資料(2024) p.20

※10 「全国大学院機関ランキング2024」(株式会社大学進学)

※11 福井大学基礎資料(2024) p.36

※12 福井大学保健管理センター年報(令和4年度) pp.45-47

※13 「2023年度 在学生調査」(高等教育推進センター 2023年12月 実施)

この壁新聞へのご意見、ご感想は 高等教育推進センター-教学IR部門 (ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp) まで

ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」 vol.6 (令和 7年 4月発行予定)

数字でみる 福井大学のいま

福井大学にまつわる数字を紹介するシリーズ『数字でみる福井大学のいま』は、高等教育推進センター 教学IR部門が担当しています。今回は、新入生特別号として1年生のデータを紹介するよ。

在学中の色々な調査への協力をよろしくお願ひします。本学では学生調査の結果を様々な改善活動につなげています。

vol.6 (2025年4月)

(発行) 高等教育推進センター 教学IR部門



この春の新入生を数字でみてみよう

入学者総数 894人

○ 学部・学科別

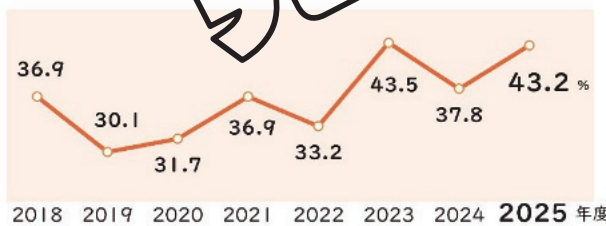
(頭文字2文字で学科名を表現しています)

教育学部	医学部		工学部					国際地域学部
	医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用	
108人	110	63	162	127	63	140	55	66

○ 出身府県別

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025 年度
福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井 386人
愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知 157
石川	石川	石川	岐阜	石川	石川	石川	石川 66
岐阜	岐阜	岐阜	石川	岐阜	岐阜	岐阜	京都 46
滋賀	京都	三重	三重	京都	大阪	京都	岐阜 44
大阪	大阪	京都	京都	三重	京都	大阪	大阪 27
京都	三重	大阪	富山	兵庫	三重	富山	滋賀 19
三重	滋賀	富山	大阪	大阪	滋賀	静岡	富山 17
	静岡	兵庫	滋賀	滋賀	富山	滋賀	兵庫 16
	兵庫				三重	三重	長野 14
							東京 14

○ 福井県出身者



○ 男女比

	男	女
2025 年度	63.6%	36.4%
2024 年度	65.6%	34.4%
国立大学平均 2024	60.8%	39.2%

学生のすがた

学生の「思い」「考え」「アンケート結果」など視点を変えてお届けしています。



入学した時^{※2}

部活動・サークルに参加したい	95.0%
アルバイトがしたい	96.7%
在学中に資格を取りたい	88.9%
語学力を向上させたい	93.0%



1年後には…^{※3}

部活動・サークルに参加している	68.9%
アルバイトしている	82.5%
予習・復習以外の勉強	週 3時間6分

やりたかったこと
できていますか？



※ 新入生データは2025年4月1日時点
※1 「学校基本調査」R6(文部科学省)

※2 「2024年度 全学入学時調査」(高等教育推進センター)【回収率 98.5%】
※3 「2024年度 在学生調査」(高等教育推進センター)【回収率 95.2%】

この壁新聞へのご意見、ご感想は
高等教育推進センター 教学IR部門 (ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp) まで

パネル調査「2024年度 全学入学時調査」(A4両面)

2024年度 全学入学時調査

ご入学おめでとうございます。本学では教育の質向上に力を入れています。この一環として、教育や大学生活などに関する調査を入学時に実施しています。皆さんの声を大学の改善に活かす事が目的で、今後の成績等にも影響しません。調査結果は各学部から独立した高等教育推進センターが厳重に管理し、本学の教育の質向上活動にのみ利用します。その際も、個人が特定できる形での公開や二次利用はいたしません。

以下の質問に正直にお答えいただき、必ず提出してください。

所属に○を

教育・国際・医学・看護

機械・電気・建築・物質・応用

2024年 4月

福井大学 理事(教育, 評価担当)・副学長 安田 年博
高等教育推進センター 教学IR部門長 江端 弘樹

学籍番号

氏名

1 本学への入学について教えてください。

学生証がない場合は空欄に

No.	質問
1	志望校として本学を選択した理由は何ですか？(近いものに○を、いくつでも)
	1. 教育理念や教育目的に惹かれた 2. カリキュラム(教育課程)に惹かれた 3. 複数の学部がある総合大学だ 4. 国立大学だ 5. 大学のイメージが良い 6. 校風や雰囲気が良い 7. 興味のある学問分野がある 8. 先端の学問を学べる 9. 将来性の高い分野を学べる 10. 目指す職に直結している 11. 卒業生の就職実績が良い 12. 教員の教育力が高い 13. 教員の研究力が高い 14. 家族に勧められた 15. 友人・先輩・知人に勧められた 16. 高校・予備校で勧められた 17. オープンキャンパス等で気に入った 18. 高校生向けイベント(公開講座、福井プレカレッジ、出前授業など)で気に入った 19. ウェブサイト・大学案内で気に入った 20. 本学出身の教師に習った 21. 本学出身の医師を受診していた 22. 家族・友人・知人の出身校だ 23. 資格が取得できる 24. 学習環境が整っている 25. 自分の偏差値にふさわしい 26. 入試科目が自分に合っていた 27. 将来、福井県内で働きたい 28. 福井県に魅力がある 29. 福井県に住める・自宅から通える 30. 習いたい教員がいる (分かる範囲で、教員の名前や知ったきっかけなどを)

2 あなた自身について教えてください。あてはまる評価にチェックをつけてください(以下同じ)。

No.	質問	評価			
		思う	やや思う	やや思わない	思わない
1	本学への入学に満足だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	英語の能力がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	授業の重要なポイントをノートにまとめるのが得意だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	重要な事柄を暗記するのが得意だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	自分の意見を筋道を立てて主張できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	ものごとの問題点を発見するのが得意だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	課題・問題点を解決するのが得意だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	パソコンを使って文書や資料を作成することができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	自分の意見と客観事実を分けて考えることができる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	ものごとに対して粘り強く取り組める	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	定められた形式に従ってレポートを作成できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	リーダーシップが取れる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	グループで何かを成し遂げるのが得意だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

表面に続く →

パネル調査導入例「2024年度 全学入学時調査」

実施結果

学 部	回答数	対象者数	回答率
教育学部	104	104	100.0%
医学部	172	173	99.4%
医学科	109	110	99.1%
看護学科	63	63	100.0%
工学部	535	547	97.8%
機械・システム工学科	156	159	98.1%
電気電子情報工学科	123	129	95.3%
建築・都市環境工学科	64	65	98.5%
物質・生命化学科	137	139	98.6%
応用物理学科	55	55	100.0%
国際地域学部	61	61	100.0%
医学科_編入	5	5	100.0%
工学部_編入	47	48	97.9%
総 計	924	938	98.5%

※ 編入生含む

パネル調査導入例「2024年度 全学入学時調査」

実施結果

2 あなた自身について教えてください。

(1) 本学への入学に満足だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	76.0%	77.1%	81.0%	58.7%	62.2%	57.7%	57.8%	55.5%	60.0%	70.5%	65.5%
やや思う	19.2%	19.3%	19.0%	35.5%	32.7%	35.0%	40.6%	37.2%	34.5%	29.5%	29.9%
やや思わない	3.8%	3.7%		4.7%	4.5%	4.1%	1.6%	6.6%	5.5%		3.8%
思わない	1.0%			1.1%	0.6%	3.3%		0.7%			0.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 英語の能力がある

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	6.7%	13.8%	9.5%	4.7%	3.2%	5.7%	4.7%	6.6%	1.8%	3.3%	6.3%
やや思う	26.9%	41.3%	33.3%	24.3%	26.9%	25.2%	28.1%	21.9%	16.4%	41.0%	28.6%
やや思わない	44.2%	34.9%	44.4%	45.2%	41.7%	46.3%	39.1%	48.9%	50.9%	39.3%	43.3%
思わない	22.1%	10.1%	12.7%	25.8%	28.2%	22.8%	28.1%	22.6%	30.9%	16.4%	21.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(3) 授業の重要なポイントをノートにまとめるのが得意だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	15.4%	19.3%	23.8%	8.2%	5.8%	6.5%	14.1%	9.5%	9.1%	23.0%	12.6%
やや思う	54.8%	40.4%	57.1%	43.0%	41.7%	42.3%	39.1%	48.2%	40.0%	36.1%	44.6%
やや思わない	23.1%	34.9%	15.9%	42.2%	47.4%	40.7%	43.8%	35.8%	45.5%	36.1%	36.7%
思わない	5.8%	5.5%	3.2%	6.4%	5.1%	10.6%	3.1%	6.6%	3.6%	4.9%	5.8%
未回答	1.0%			0.2%					1.8%		0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(4) 重要な事柄を暗記するのが得意だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	18.3%	27.5%	19.0%	9.7%	5.1%	11.4%	9.4%	13.1%	10.9%	16.4%	14.1%
やや思う	45.2%	44.0%	54.0%	44.9%	44.2%	42.3%	48.4%	48.9%	38.2%	54.1%	46.1%
やや思わない	30.8%	22.0%	25.4%	40.0%	41.7%	40.7%	37.5%	35.0%	49.1%	26.2%	34.6%
思わない	5.8%	6.4%	1.6%	5.4%	9.0%	5.7%	4.7%	2.9%	1.8%	3.3%	5.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

令和6年度「教育の質向上のための重点配分経費」実施報告書

<p>プロジェクトの名称</p>	<p>様々な学問分野に向けたデータサイエンス・AI の実践教育基盤開発プロジェクト</p>																		
<p>プロジェクト代表責任者名 (所属部局)</p>	<p>樋口 健 (データ科学・AI 教育研究センター 教授) 工学部および工学研究科データサイエンス・AI 教育推進ワーキンググループ長</p>																		
<p>プロジェクトの目的、内容、 期待される成果 (必要に応じ実施体制を記載)</p>	<p>(目的) 政府のAI 戦略の始まりであるAI 戦略2019のもと、文部科学省による数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度が開始され、全国の高等教育機関において、データサイエンス・AI 教育が必須となりつつある。これは、現実社会におけるデータサイエンス・AI 技術への大きな期待と要請への対応であり、全世界的な潮流でもある。この認定教育プログラムにおいては、データサイエンス・AI の基礎的な知識・スキルを学ぶ(リテラシーレベル)から、自らの専門分野への応用(応用基礎レベル)、データサイエンス・AI 部門の専門家(エキスパートレベル)まで様々なレベルからなる。つまり、データサイエンス・AI 技術を発展させるエキスパートレベルのスペシャリストを育成する観点と、技術を活用し各分野を発展させる応用基礎レベルのジェネラリストを育成する観点、そして、すべての学生に最低限の基礎的なリテラシーレベルのスキル修得の観点のすべてが大学に求められているということである。多くの大学でリテラシーレベルの教育が開始され、応用基礎レベルの認定教育プログラムも増えてきている。本学においてもリテラシーレベルの認定教育プログラムが全学で実施されており、応用基礎レベルの認定教育プログラムも工学部において実施されており、今後は国際地域学部、医学部、教育学部でも実施予定である。これにより、全学での応用基礎レベルの認定教育プログラムが実施されることになるが、この認定プログラムの必須教育項目として、PBL 型の実践的なAI・データサイエンス実習(図1)があり、これに対応するための教育体制の確立が急務である。現状ではこれら実習の受け皿となるような科目は存在するが、機材等の関係で多くの学生が受講可能とは言えない。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="544 1301 963 1570" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #333; color: white; padding: 2px;">学修内容</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="6" style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px;">AI基礎</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">学習</td> <td style="padding: 5px;">認識</td> <td style="padding: 5px;">予測・判断</td> <td style="padding: 5px;">言語・知識</td> <td style="padding: 5px;">身体・運動</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="background-color: #90c18e; padding: 5px;">データサイエンス 基礎</td> <td colspan="3" style="background-color: #90c18e; padding: 5px;">データエンジニアリング 基礎</td> </tr> </table> </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">×</div> <div data-bbox="1007 1301 1426 1570" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #333; color: white; padding: 2px;">推奨される教育方法</p> <div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>AI・データサイエンス実践 (演習や課題解決型学習)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 各大学・高専の教育目的、分野の特性に応じた適切なテーマ設定 ▶ 社会での実例(実課題および実データ)を題材とした演習 ▶ 学生自身が実際に手を動かしてAIを体験 </div> </div> <p>図1. 文部科学省数理・データサイエンス・AI 応用基礎レベルの学修内容と教育方法</p> <p>そこで本プロジェクトでは、AI・データサイエンス教育にスケーラビリティをもたせる実践教育基盤を開発する。すなわち、データサイエンス・AI の基礎知識を有し、ツールを用いて自身の課題を解決できるジェネラリストから、プログラムをカスタマイズし諸問題への応用展開や新手法の開発ができるスペシャリストまで幅広く人材育成が可能な実践教育基盤を構築し、福井大学ならではの特色のある教育システムを実現することを目指す。</p>	AI基礎						学習	認識	予測・判断	言語・知識	身体・運動		データサイエンス 基礎			データエンジニアリング 基礎		
AI基礎																			
学習	認識	予測・判断	言語・知識	身体・運動															
データサイエンス 基礎			データエンジニアリング 基礎																

(内容) 図1の推奨される教育方法として演習や PBL 型実践教育が求められている。ここで、社会の実例も重要であり、そのためには様々な実際のデータが必要となる。これには以下のものが考えられる。

- (1) オープンデータやコンソーシアムのデータ利用
- (2) 企業等からのデータ提供
- (3) センサー等を用いて自分でデータ収集

これらに加えて

- (4) 学内の公開可能な研究データの利用

が考えられる。これらのデータを収集・整形・使用・結果の検証などを行って初めて実践教育が可能となる。

本プロジェクトではこれらのデータの収集・蓄積やデータ処理のための環境・手法の提供を行うことを目標としている。また、これらの基礎となるプログラミング教育や各種ツールの利用に関する教育の実施も目標に含められる。そこで、(3)のためのデータ収集のための「シングルボードコンピュータ利用」と(4)のための「学内ビッグデータ基盤構築・活用」、そのデータ活用のための「GPU搭載サーバ利用」とプログラミング教育のための「e-learningによるプログラミング教育」の実施、また、現在の主流でもある「Cloud環境利用教育」を行う。これらをまとめたものが図2である。



図2 本プロジェクトの教育基盤

これにより、様々な分野の学生がデータサイエンス・AIを学び、スケーラビリティのある実践教育を受けられる教育基盤を開発する。データ科学・AI教育研究センターと工学系部門とが連携し、情報・メディア工学講座の教員が関わる学部・大学院教育を土台として以下の内容で整備を進めるが、その成果は汎用性を有し、工学部・工学研究科全体、さらには全学への展開も可能なものである。

「シングルボードコンピュータ利用」では Raspberry Pi 等の小型で持ち運び可能なコンピュータを学生がそれぞれ使い、センサーデータの収集を行う。様々な種類のコンピュータを用意することで、様々な分野の学生に様々な状況でのデータ収集を可能とする。これら自ら集めた生データを利用することで、より身近な実践教育を行う。

「学内ビッグデータ基盤構築・活用」では、学内の研究室等に点在した研究データの内、公開可能なものや、匿名データに変換して利用可能となるデータを収集し、格納・公開することで実際の研究に近い状況でのデータ活用を目指す。そのため、大量のデータを格納・管理可能な Data Warehouse (DWH) 基盤を構築する。このとき、多様な分野の教職員・学生からもデータ収集が行えるよう、収集から整形までの手順がポータルサイト上で学習できるような学習教材を整備する。収集したデータセットは、学内で自由に活用できるものとする。異なる分野の研究者が

興味を持って利用可能となり、共同研究への可能性が高まる。また、これら収集データを講義や実験科目、PBL等の実践教育での利用を促進する。

「GPU 搭載サーバ利用」においては、機械学習において必須である GPU の利用について実践教育を行う。この GPU 搭載サーバは現在でも複数稼働しており、ユーザ認証を福井大学統一認証 ID によって行い、ホームディレクトリを NAS により共有化することで、利便性を高めている。また、複数の学生が利用可能とするため、将来的にはジョブ管理のシステムを導入し、GPU の占有利用を可能とする。また、講義期間ではないときは、研究利用での貸し出し等も行い、効率的な利用促進を行う。

「e-learning によるプログラミング教育」では、全学における e-learning によるプログラミング教育を行う。工学部以外の学部においては、データサイエンス・AI 教育で必須であるプログラミング（特に Python）教育を全く行っていない学部もある。しかし、カリキュラム的にプログラミング教育を入れることは難しく、入れた場合も短時間で行う必要があるが、ある程度のプログラミングスキルがないと、データサイエンス・AI ツールを利用することは難しい。そこで、プログラミング教育の自習が必要となり、そのための e-learning が重要となる。現在は工学部において利用および検証を行っているが、全学的に行い、その成果について検証し、よりよい学習方法や学習ペースを各学部の状況に合わせて検証する。

「Cloud 環境利用教育」では、クラウド環境の利用についての教育を行う。実際の社会におけるデータサイエンス・AI 技術の活用では、オンプレミスでデータ分析・活用を行う場合よりも、Amazon AWS や Google Cloud などのクラウド環境で行われることが多い。そのため、これらを便利に活用可能なツールも用意されており、これらのツールを使いこなすことは、企業における実務として重要である。しかし、これらのクラウド環境では、環境・ツールは既存の技術によって構築されていることから、より先端的な研究に適しているとは言えない。実際に、先端的な研究においては、オンプレミス環境での自由度の高い環境構築は必須であり、非工学系分野においては、その環境づくりがネックとなる。そこで、クラウド環境での実践教育とオンプレミス環境での実践教育の 2 本柱でデータサイエンス・AI 教育を行う。クラウド環境での実践教育においては、AWS Academy や Google Cloud を用い、講義・実験等で学生に利用方法の教育を行っていく。

2021 年度から開始した本プロジェクトにおいては、2023 年度までに「学内ビッグデータ基盤構築・活用」として GPU 搭載計算サーバを 4 台導入し、データベース、機械学習用計算機環境の構築を行った。これらは福井大学統一認証 ID の利用や NAS によるホームディレクトリの共有化により利便性の高いものとなっている。これらを電気電子情報工学科・情報工学コースおよび知識社会基礎工学専攻情報工学コースの講義にて使用し、学習効果についての検証を行い、一定の成果を得た。2024 年度においては、さらに GPU 搭載サーバを 1 台追加することで、より多くの場面での教育・研究利用へとつなげていく。

2023 年度において、多くのシングルボードコンピュータを導入し、講義等での貸し出し体制の構築を目指した。周辺機器の追加導入や、環境構築などを含めて 2024 年度にはさらに充実させ、利用を促進する。また、360 度カメラの利用やスマートフォンを追加して導入し、これらを用いたデータ収集・利用も行っていく。

2021 年度の別プロジェクトである「SDGs の実現に向けた革新的プログラミング教育」（代表：木村）において、クラウド型 e-learning によるプログラミング教育の検証が行われ、その有効性が確かめられた。2022 年度からは本プロジェクトに合併

	<p>し、クラウド型 e-learning によるプログラミング教育の検証を継続し、その効果を確認した。2023 年度は講義科目内での利用も開始し、2024 年度には国際地域学部、医学部でも利用を開始する。</p> <p>これらのデータサイエンス・AI 教育では、各学部・学科における教育カリキュラムや学生の知識、その分野におけるデータサイエンス・AI 教育の必要性や必要なレベルなどについて、様々な状況が存在する。プログラミング教育においても様々な状況である。これらを考慮して各学部・学科に合わせた調整をし、最終的に全学へのデータサイエンス・AI 教育への適用を目指し、学内のデータサイエンス・AI 教育のスケラビリティを一層向上させる。これは、スケラビリティのあるデータサイエンス・AI の実践教育基盤が構築できるだけでなく、学内のビッグデータ活用や、共同研究の促進にも繋がる、まさに一石三鳥なプロジェクトである。</p> <p>2024 年度には、以下の担当割で情報・メディア工学講座教員を中心としたプロジェクトを遂行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内ビッグデータ基盤構築 (樋口) 学内データの登録 (東海・福岡・長谷川) 遠隔プログラミング教育 (木村・樋口・長谷川) プログラム自動採点システム (福岡) 福井大学キャンパス全方位画像収集 (東海) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム (樋口) データ活用教育 <ul style="list-style-type: none"> ● 機械学習 (工学部学部 3 年) : 長谷川 ● 深層学習 (工学研究科博士前期課程 1 年) : 長谷川 ● PBLI (工学研究科博士前期課程) : 長谷川 ● データベース (工学部 3 年) : 樋口 ● データサイエンス (工学部 4 年) : 森 (眞) ● AI・データサイエンス論 (国際地域学部 2 年) : 樋口 ● 数理・データサイエンス基礎演習 (医学部 1 年) : 樋口 <p>(期待される成果) (1)すでに構築した学内ビッグデータ基盤に、学内にある公開可能な先進的研究に係るデータ、学外のオープンデータ、学生自身が集めたデータなどを登録・活用することで、身近なデータから今まで扱えなかったような興味深いデータなどを扱えることで、学生のモチベーションと理解度の向上、データサイエンス・AI 手法や研究自体に対する興味を高める。これにより就職活動や大学院進学意欲を高める、</p> <p>(2)オンプレミス環境での教育とともにクラウド環境での教育を行うことで、より実社会におけるデータ分析・活用の手法を理解し、学生が社会におけるより実践的な能力を身につけることができ、学生の研究活動・就職活動における自信につなげる、</p> <p>(3)講義やプログラミング教育の遠隔授業・e-learning 対応により、文系学生や社会人も含めたデータサイエンス系科目の受講者を増やすことができる、</p> <p>(4)手軽に多様なデータセットや高性能計算機を利用可能とすることで、“やる気・能力の高い” 学生の研究室配属前の実践的演習のサポートや、非情報系の研究室におけるデータサイエンス・AI 技術・手法の適用の促進により、データサイエンス・AI 分野への理解力・技術力・実践力を育てる、</p> <p>(5)上記のデータサイエンス・AI 教育を全学に展開し、データサイエンス・AI 教育の拡充を行う、</p>
--	---

	<p>などが挙げられる。</p>
<p>教育の質向上への貢献 (どのように貢献した か、具体的に記載)</p>	<p>本プロジェクトが提供する4台のGPU搭載PCサーバにより、GPUを使用した機械学習等の実践教育を複数の講義・演習・実習においてスムーズに行うことができた。これらのPCサーバ群では、ユーザ認証を福井大学統一認証に、ホームディレクトリをNASによる共通化することで、GPUの占有的に利用しやすくしている。また、GPU搭載サーバを1台追加し、2025年度からは利用可能と準備中である。また、これらのPCサーバ群のジョブスケジューラのWebアプリケーションを開発し、来年度よりの利用を目指す。これらにより、より使いやすいシステムとなる。</p> <p>上記のGPU搭載PCサーバに加え、統計計算で良く使用されるR言語による演習に対応するため、試験的にR-Studioサーバを構築し、試験運用を行った。その結果、使いやすさの点で有用であり、2025年度は本格的に公開・運用を行う予定である。</p> <p>学内データに関しては、本年度の進捗はなかったが、データサイエンス実践教育を見据え、オープンデータを取得・格納するためのWebアプリケーションの開発が行われ、データ収集の負担軽減が可能となった。また、これらはApache Sparkn上で管理されるため、データサイエンス教育に利用可能とである。</p> <p>e-learningによるプログラミング教育については、対象学生の拡大を行い、全学的に展開を行った。その効果・成果をアンケートにおいて検証した。アンケート結果としては学生からは講評であり、対象科目とは関係しない別の講座も意欲的に受けるなど、非常に効果が高いことが分かった。また、実際の企業においては、クラウド環境でのデータ分析・機械学習が行われるため、クラウドサービスとしては世界規模であるAmazon Web Serviceの高等教育機関向け無償e-learningシステムであるAWS Academyの検証を行い、来年度に共通教育として開講することとなった。</p> <p>多くの学生に実際の機器を用いたデータサイエンス実習を考えた場合、小型のシングルボードコンピュータを用意し、センサー等を用いて実際のデータ収集・解析を行うことが考えられる。そこで、様々なシングルボードコンピュータを購入・利用可能なようにセッティングを行い、講義・研究室への貸し出しを行った。件数は少ないが、これらを利用して講義・卒業研究が実施され、意義のあるものであった。来年度以降はこれらの広報活動を強化し、より多くの貸し出しが可能とする予定である。また、Micro:bit等の新たな種類の機材を購入し、来年度以降に貸し出しを行う予定である。</p> <p>上記のように、データサイエンス・AI教育における基盤の構築を進めており、今後の利用拡大を図っていく予定である。</p>
<p>プロジェクトの重要性 (その成果は教育改善等に 寄与できたかを記載)</p>	<p>AI・データサイエンス教育においては、プログラミング教育と実践境域が不可欠である。プログラミング教育においては、工学部を除く学部においては、その演習環境(特に自習環境)を確保することが難しい。この点、e-learningを用いてプログラミング教育を行うことは、非常に有益であり、学生にとっても自分のペースで学習可能となるなど、有効な点が多い。また、本プロジェクトで利用しているpaiza e-learningは初心者から受講可能な内容であり、様々な状況の学生が受講可能となっている。本年度は共通教育科目に加え、医学部・国際地域学部の講義においてpaiza e-learningを利用したプログラミング教育を実施し、文京・松岡両キャンパスにおけるe-learningを利用したプログラミング教育を実施したこととなる。一</p>

	<p>方、クラウドサービスの e-learning である AWS Academy を試験的に研究室学生に参加してもらい、その検証を行い、2025 年度から共通教育科目として開講することとなった。</p> <p>また、もう一つの重要な教育は実際のデータを用いた実践教育であり、GPU 搭載 PC サーバを用いた機械学習、対象データベースの格納を行っており、全学への提供が可能な状態である。すでに旧式となる GPU もあるため、本年度は1台の新規購入を行い、来年度には使用可能となる予定である。</p> <p>一方、統計計算のために R 言語を用いた演習を行っている講義が複数ある。これに対応するため、ブラウザ上で R 言語が利用可能な R-Studio を試験的に導入し、少人数ではあるが講義で利用して検証を行った。その結果、無料の R-Studio サービスよりも柔軟で利用可能であり、来年度以降により強力な PC サーバにてサービス提供を行う予定である。</p> <p>次に、実際にデータを自分で収集して実践教育を行う方法として、シングルボードコンピュータの複数種類追加購入を行い、講義で利用いただくとともに、複数の研究室の早津行研究に利用し、成果を得ることができた。これら複数種類の手法を各学部・学科・科目に合わせて利用することで、利用規模を拡大し、全学における AI・データサイエンス教育への寄与を高めるとともに、その研究分野への波及を行うことが可能と思われる。</p>
<p>プロジェクトの発展性 (継続のプロジェクトの場合に、従来からの発展性があったかを記載)</p>	<p>本プログラムの 2024 年度で活動においては、以下の点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPU 搭載 PC サーバの講義・プロジェクトでの利用 ・e-learning の提供科目の拡大 ・クラウドサービスの e-learning の検証並びに講義利用 ・シングルボードコンピュータの拡充 ・R-Studio サーバの試験運用・検証 <p>これらにより、より多くの学生が学習可能となり、教育的利用から研究の導入段階での利用まで対応可能なハードウェアの拡充が行われた。特に paiza e-learning を用いたプログラミング教育は全学への展開をしており、さらに拡充をする予定である。一方、全学へのアナウンスが不十分であるため、GPU 搭載 PC サーバの利用やシングルボードコンピュータの貸し出しは低調であり、更なる広報活動が必要である。</p>
<p>実施計画 (プロジェクトの目的が達成できたかについて、実績を含めて記載)</p>	<p>【シングルボードコンピュータ利用】</p> <p>今年度は、Raspberry PI 5, M5Stack, micro:bit と追加モジュールを複数購入し、来年度の利用準備を進めた。また、所有の機器に機に関しては、講義及び卒業研究で利用しており、それぞれ効果的に利用されている。利用した講義等は以下である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス：Raspberry PI 5 ・卒業研究（福間研）：Arduino+Wi-SUM を用いた通信環境の研究 ・卒業研究（橘研）：Jetson-nano を用いた連合学習の研究 ・卒業研究（樋口研）：各種シングルボードコンピュータの教育利用の比較 ・国際インターンシップ（SWU）：Arduino+Wi-SUM を用いた通信環境の実習 <p>【学内ビッグデータ基盤構築・活用】</p> <p>ビッグデータ基盤構築に関しては、e-stat の API を利用したデータ取得・管理 Web アプリケーションの開発を博士前期学生の研究として行った。これにより、e-stat からのデータセットの検索、格納、成形、出力をブラウザ上で行うことが可能となった。また、これらのデータは Apache Sparc に格納しており、それ自体でデ</p>

	<p>ータ解析等が可能となっている。これらに学内データを格納することで、複数のソースのデータを扱うことが可能であり、その利用をどのように行うかが今後の課題となる。</p> <p>【GPU 搭載サーバ利用】 現在までのプロジェクトの実施によって、4台の GPU 搭載 PC サーバを管理・利用しているが、GPU の開発は非常に高スピードであり、すでに旧式化となっている。そこで、今年度は追加して1台の構築を行い、来年度のサービス提供に備えている。これらのシステムを利用した講義等は以下となっている。 データサイエンス：GPU の並列計算の演習 計算機組織構成論：CPU と GPU の差についての演習 卒業研究（樋口研）：複数の GPU 搭載サーバでのジョブスケジュールに関する研究 昨年度に比べて利用率が少なくなっているが、古くても学生に利用させたいという教員の要望もあり、来年度以降には利用方法の確立等を行う予定である。</p> <p>【e-learning によるプログラミング教育】 本年度は全学展開を行っており、これまで以上に利用がされている。利用した講義等は以下となっている。 データサイエンス・AI 入門（共通教育） 数理・データサイエンス基礎演習（医学部） AI・データサイエンス論（国際地域学部） 電気電子情報工学実験 I,II,III（工学部） データベース（工学部） 以上の講義で希望者を中心にプログラミング教育に利用された。 利用学生に対するアンケートの結果（回答者 22 名）、19 名の学生が役に立ったと回答しており、今後も提供を進めていく予定である。2025 年度はデータ科学・AI 教育研究センターとして講義にかかわらず全学的に利用可能とする予定である。</p> <p>【Cloud 環境利用教育】 AWS Academy に関して、引き続き試験受講を行い、2025 年度から共通教育として 1 科目開講することとなった。2025 年度の状況により、機械学習に関する講座をさらに 1 科目追加する予定である。</p> <p>【R-Studio サーバの利用】 統計学で広く利用されている R 言語の教育のため、ブラウザ上で行うための R-Studio を試験運用し（講義データサイエンス内で利用）、その有効性が確認できたため、2025 年度は正式にサービス提供を行うこととした。本サーバにおいては、統一認証 ID での認証と NAS によるホームディレクトリ共有が可能となっているため、非常に容易に利用が可能である。また、複数サーバへの拡張も可能であるため、今後の利用者数によっては複数サーバの利用も検討予定である。</p>
<p>将来への発展性 （全学への波及効果はあったか／本学ならではの特色の創出につながったかを記載）</p>	<p>2024 年度の本プロジェクトの活動により、GPU 搭載サーバ、R-Studio サーバ、シングルボードコンピュータなどの拡張が行われ、利用が進められた。また、paiza e-learning の利用拡大・促進を行い、全学的な利用開始を行った。現在は一部講義での利用にとどまって言うため、2025 年度は講義にかかわらず全学的な利用促進へつなげていく予定である。シングルボードコンピュータの利用、学内ビッグデ</p>

	<p>ータ基盤の拡充を進めているが、まだまだ利用率は低いため、広報活動によりさらに利用促進に努める予定である。これら続けることで、データサイエンス・AI教育の貢献をさらに行う予定である。</p>
--	---

各学部のFDの取り組み

2024年度教育学部及び連合教職開発研究科におけるFD活動

連合教職開発研究科（教職大学院）では毎週火曜 16:00～18:00 に、特命・客員・非常勤も含めた全教員が参加するFDを行っている。それは年間約30回にも及ぶもので、FDのカリキュラムも教職大学院の教育課程と連動するようマネジメントされている。この中には公開研修として実施しているものもあり、教育学部と連合教職開発研究科の教員に加えて、附属学校園や福井県教育委員会、さらに福井県外の大学や教員研修機関から参加者を迎えている。活動日と活動内容は以下の通りである。

4月9日	<p>「3つの種」の共有</p> <p>*互いの経験から学び合い、院生の学習を支え合うために、自身の取り組み・経験を交流。自分自身が取り組んできたこと、大切にしてきたこと、直面してきた課題、取り組みの積み重ねの中で転機となったこと、語り継ぎたいこと、共有し考え合いたいことなど、様々な実践経験の中から3つのことを紹介。</p>
	<p>長期実践研究報告を読む（1）</p> <p>*前年度修了生の長期実践研究報告を検討し、グループで報告。院生の実践がどのように展開していき、どのようにそれを表現しているか、その読み取りと評価のフレームを省察し、教職大学院としてどのように支えうるのか等を共有。</p>
4月16日	<p>長期実践研究報告を読む（2）</p>
	<p>ラウンドテーブルの企画（1）</p>
4月23日	<p>長期実践研究報告を読む（3）</p>
	<p>新しい世代と学び合う学校づくり【公開研修】</p> <p>*長期インターンシップや課題別実習の趣旨や経験について共有し、院生を受け入れることで新しい世代と学び合う学校づくりを実現していくプロセスについて検討。</p>
5月7日	<p>カンファレンスの振り返り</p> <p>*4月の合同カンファレンスで同じグループになった院生のスタートや挑戦を共有すると共に、ファシリテータとしての自分の振る舞いを省察し、今後どのように院生を支援しうるか検討。</p>
	<p>長期実践研究報告を読む（4）</p>
5月14日	<p>長期実践研究報告を読む（5）</p>
	<p>ラウンドテーブルの企画（2）</p>
5月21日	<p>実践記録を読む（1）</p> <p>*子どもと教師の学びのプロセスを描いたさまざまな実践記録を読み、学びの見取りとデザイン、記録の方法論等について検討。</p>
	<p>ラウンドテーブルの企画（3）</p>
5月28日	<p>カンファレンス・学校訪問の振り返り</p> <p>*5月の月間カンファレンスでの院生の状況や、各学校に年度初めの訪問に行つての状況など、振り返り共有。</p>
	<p>新たな教師の学びの姿の実現に向けた研修改革【公開研修】</p> <p>*全国的な研修改革の方向性も踏まえて、福井県と福井大学で協働して研修改革を推進していくプロセスを検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 話題提供1：『研修観の転換』に向けたNITSからの提案」に込めた思い（教職員支援機構審議役 兼 次世代型教職員研修開発センター長 佐野壽則） ● 話題提供2：福井県と福井大学の協働連携による研究所・センター内研修と教員研修改革の展開（福井県教育庁教職員課長 遠藤正宏） ● グループ対話
6月4日	<p>実践記録を読む（2）</p>
	<p>実践記録を読む（3）</p>

6月11日	実践記録を読む(4) ラウンドテーブルの企画(4)
6月14日	福井大学教育学部附属義務教育学校 教育研究集会
6月18日	省察的実習(Reflective Practicum)をコアとした教職大学院カリキュラムの推進【公開研修】 ● 話題提供:「学校における実習」科目のデザインとその振り返りの時間の工夫(福井大学, 京都教育大学, 上越教育大学, 玉川大学) ● グループ対話(小グループで話題提供の感想とそれぞれの取り組みを共有) ● パネルディスカッション: 教職大学院カリキュラムにおける実習の高度化に向けて
6月25日	実践を架橋する理論の検討(1) *省察的実習や省察的機構について, ドナルド・ショーンの著作等を読み合い語り合い, 省察的実践者の学びとそれを支えるネットワークについて検討。 ラウンドテーブルの企画(5)
7月2日	実践を架橋する理論の検討(2) *専門職として学び合うコミュニティとそのネットワークについて, アンディ・ハーグリーブスの著作等を読み合い語り合い, ラウンドテーブルの意味についても検討。 ラウンドテーブル各 Zone の計画の共有 *Zone を越えたグループを組み, 互いの Zone での取組を共有。自分の参加する Zone の取組について語り直すと共に, ほかの Zone ではどのような取組を考えてきているのか, 領域を越えて大きな方向性を共有。
7月6日 7月7日	実践研究福井ラウンドテーブル 2024 Summer Sessions
7月16日	ラウンドテーブルの振り返り<主に2日目について> *主に2日目について, 実践の語りがどのように編まれていったか, 振り返り。 ラウンドテーブルの振り返り<各 Zone> *Zone ごとに振り返り, 2月に向けて展望。
7月23日	夏に向けて *夏の集中講座に向けたオリエンテーションと今後の展開について確認。 *夏のサイクル2で検討する文献を検討。 教師教育研究の構想 *教職大学院紀要『教師教育研究』の原稿に向けて, どのようなことを構想しているのかを共有。
10月8日	夏の動きの共有 *7月末~9月に展開していた動き(集中講座, 中堅研修, NITS 研修, 社会教育, 国際展開, 教育実習等々)について, グループで共有。
10月15日	教育改革の動向を踏まえて大学の在り方を探る *学習指導要領改訂に向けた文科省での議論を手がかりに教育改革の方向性を検討。 ラウンドテーブルの企画(1) *各 Zone で, 改革の動向を掴み直し, 2月にどのような企画を立てることがネットワーク展開や改革の促進につながっていくかを考えながら, テーマや企画趣旨を検討。
10月22日	長期にわたる実践の展開を支える営みを探る *長期実践研究報告をどのように読み解き, どのように支えるか, 松木健一理事から話題提供後, グループで協議。
10月24日 10月25日	全国教育研究所連盟研究協議会 福井大会
10月29日	カンファレンスの振り返り *10月の合同カンファレンスで同じグループになった院生の取り組みを共有すると共に, ファシリテータとしての自分の振る舞いを省察し, 今後どのように院生を支援するか議論。 ラウンドテーブルの企画(2)
11月5日	学校での協働実践研究の変革(1) *各学校での協働実践研究の展開を語り合い, 共有。木村優・岸野麻衣『授業研究』(新曜社, 2019年)も手がかりにしつつ, 実際の授業参観記録等も持ち寄りながら議論。

	教師教育研究の構想（１）
11月12日	教員養成改革の展開を語る【公開研修】 ＊教員養成フラッグシップ大学としての福井大学の学部・大学院での取組を報告し、教育委員会や外部有識者も交えて対話し、今後の教員養成改革の展開を展望。 <ul style="list-style-type: none"> ● 話題提供1：福井大学教育学部 STEAM ラーニング実装への挑戦（湊 七雄） ● 話題提供2：福井大学教育学部 協働学習支援プロジェクトを通じた実践と理論の往還（遠藤貴広） ● 話題提供3：福井大学連合教職開発研究科 学校拠点・省察的実践コアサイクルの展開（木村 優） ● コメント：教員養成フラッグシップ大学推進委員会 秋田喜代美，白水始
11月19日	教師教育研究の構想（２） 学校での協働実践研究の変革（２） ＊授業をどのように見て、組織学習をどのように支えていくのか、学校や院生にどう関わっていくのか議論。
11月26日	カンファレンスの振り返り ＊11月の合同カンファレンスで同じグループになった院生の取り組みを共有すると共に、ファシリテータとしての自分の振る舞いを省察し、今後どのように院生を支援するか議論。 ラウンドテーブルの企画（３）
12月3日	教師教育研究の構想（３） ラウンドテーブルの企画（４）
12月10日	教師教育研究の構想（４） ラウンドテーブルの企画（５）
1月14日	冬の振り返り ＊冬の集中講座で同じグループになった院生の取り組みを共有すると共に、ファシリテータとしての自分の振る舞いを省察し、今後どのように院生を支援するか議論。 多様な学びを支える協働関係を見直す ＊1年を振り返って、学校・院生等を支える中で、教職大学院の同僚に助けられたことを共有し、今後の多様な学びをどう支えるか展望。 ＊多様な学びを支えるために、他者の声を聴くことやそのための自身の関わりを省察。
1月21日	研修改革の展開【公開研修】 ＊福井大学との連携協働の中で、NITSのコア研修がどう展開してきているのか、教育委員会では研修改革がどのように展開してきているのか、エジプト日本教育パートナーシップやJICA（ヨルダン/パキスタン/マラウイ）等で国際的にどのように研修改革が展開してきているのか、3つの報告を踏まえて、専門職として学び合うコミュニティの広がりとその基盤を共有しつつ、さらなる研修改革の方向性を展望。 <ul style="list-style-type: none"> ● 話題提供1：NITS コア研修の展開 ● 話題提供2：EJEP（エジプト-日本教育パートナーシップ）教員研修の展開 ● 話題提供3：GPDR（グローバル教員研修改革）の展開 ● グループ対話
1月28日	ラウンドテーブルの企画（６） 教師教育研究を読み合う ＊12月に提出した教職大学院紀要『教師教育研究』の原稿をお互いに持ち寄り、読み合い、今年度考えてきたことを共有。
2月4日	長期実践研究報告会の振り返り ＊長期実践研究報告会で同じグループになった院生の報告を共有すると共に、ファシリテータとしての自分の振る舞いを省察し、今後どのように院生を支援するか議論。 ラウンドテーブルの企画（７）
2月18日	ラウンドテーブルの意味共有，最終打合せ
2月22日 2月23日	実践研究福井ラウンドテーブル 2025 Spring Sessions
3月4日	ラウンドテーブルの振り返り

各学部のFDの取り組み

2024年度医学部FD活動

◆概要

2024(令和6)年度に実施した医学部FD活動は、以下のとおり。

年度	内容	開催日	参加人数
2024	看護学科FD「看護学教育分野別評価 2025年度評価受審校説明会」	R6.4.25	30
2024	医学科FD「国試対策講演会について」	R6.7.1	14
2024	看護学科FD「臨床研究のすすめ」(看護理工学の展開について等)	R6.7.12	24
2024	看護学科FD「看護実践能力評価の在り方についてー看護実践リトリ(テストラン)の実施に向けてー」	R6.7.25	17
2024	令和6年度福井大学FD・SD研修会(第12回学生支援講演会)「人はなぜ依存症になるのか?～予防啓発と回復支援の両立を目指して～」	R6.8.28	22
2024	看護学科FD「令和の時代の学生支援を考える～現代の学生の理解と対応のアップデート～」	R6.12.17	33
2024	医学科FD「令和7年1月開始の診療参加型臨床実習について」	R6.12.25	75
2024	看護学科FD「看護学教育分野別評価受審と受審後の取り組み」	R7.1.27	29
2024	医学部FD「多視点3D解剖教育システム(MeAV Anatomie 3D)について」(オンライン研修)	R7.3.5	29
2024	医学部FD「ナーシングケアイノベーション2025」	R7.3.13	212

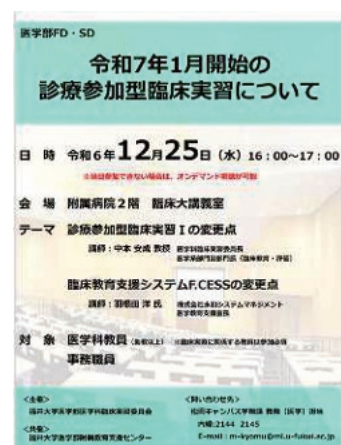
主なFD活動

◆医学部(医学科)FD(テーマ:令和7年1月開始の診療参加型臨床実習について)

医学部附属教育支援センターでは、医学科臨床実習委員会と共催し、令和6年12月25日(水)に「令和7年1月開始の診療参加型臨床実習について」と題したFDを実施した。

医学科では既に診療参加型臨床実習を開始しているが、連続した実習期間の確保、学生の経験する疾患分類の把握等、更なる実質化に向けた課題が多い分野であり、評価基準に適合と認定された「医学教育分野別評価」(認定期間2024年10月1日～2031年9月30日)においても、一部改善の提言を受けたところである。

これを踏まえ、臨床実習委員会では、主要診療科での実習を合同実習の形で長期間行う新ローテーションを検討し、また、実習で利用するF.CESS(臨床教育支援システム)において、必要な疾患のオンラインで問診と診断のトレーニングができる機能「AI模擬患者」(医学教育モデル・コア・カリキュラム上の36症候)の開発と搭載、経験した医行為をスマートフォン経由で入力記録できる機能の追加等の改修を行ったため、令和7年1月医学科4年次生必修科目「診療参加型臨床実習I」での運用開始に向けて説明及び質疑応答を行った。



オンラインでの後日視聴を含め、75名が参加し、実施後のアンケートでは、「AI 模擬患者が面白かった」「学生の医行為経験について先進的な取組をしている他大学の例を知りたい」等、現場で実習教育を担当している臨床系教員からの感想が多く寄せられた。

◆医学部(看護学科)FD (テーマ：看護学教育分野別評価受審と受審後の取り組み)

医学部では次年度(令和7年度)に「看護学教育分野別評価」を受審予定であり、令和6年度は看護学科教員が一丸となって自己点検評価に取り組んだ年であった。そこで、既に同評価を受審した他国立大学での先例・経験等について伺い、本学での受審準備に活かすことを趣旨とし、岐阜大学医学部看護学科長 井關敦子教授を講師に招き、令和7年1月27日(月)に標記テーマによるFDを開催した。なお、同FDは、岐阜大学及び本学の会議室をオンラインで接続し、両大学の教員が自大学の会議室に集まる形で行った。

四谷淳子看護学科長の挨拶の後、井關先生より評価に向けた準備、及び評価受審後の教育改善への効果・取組の実例について講演があり、参加者は真剣に聞き入っていた。その後、両大学の教員を広く交えて質疑応答・意見交換が行われた。

実施後のアンケートでは、「現地調査及び受審後の対応がイメージ出来た。受審後を見据えて準備ができそうだ」「国立大学の強み、福井大学の強みについて考える事が出来た」等、感想が寄せられた。

◆医学部FD (テーマ：ナースングケアイノベーション2025)



挨拶する本学上田学長

令和7年4月の大学院医学系研究科看護学専攻の博士後期課程の開講を踏まえ、令和7年3月13日(木)に「ナースングケアイノベーション2025」と題したFD/特別講演を開催し、本学医学部の学生や大学院生、教職員、県内外の看護師など212名が聴講した。



講演する真田先生

上田孝典学長の挨拶の後、講師の真田弘美氏(石川県立看護大学学長・東京大学名誉教授)が講演を行った。看護学分野において新たな学術、ケアに貢献する新技術の創成を目指した看護理工学を提唱し「ないものはつくる」の考えに基づき、患者の体圧調整や体動モニタリングを自動的に行えるマットレス、AIやMR(Mixed Reality)を利用したAIスマートナースングなどの開発実例を取り上げ、最後に、未来の看護について「2040年の看護は、見るを超える」との熱いメッセージを送った。参加者は熱心に聞き入っていた。

講演後、参加者からは「ないからと言って諦めるのではなく、現場に実装するまでやり遂げることに感銘を受けた」「自身の研究意欲を掻き立てられた」等の感想が寄せられた。

各学部のFDの取り組み

2024年度工学部FD活動

はじめに

工学部FD委員会では、「教員・事務にあまり負担をかけず、できる範囲で効率的に教育研究活動を支援する」、「学生・教員双方にメリットがあるような活動を実施する」ことを意識して活動している。以下に、2024年度に実施した取り組みについて記す。

1. 「FD通信」の配信

カリキュラムに対する学生からの意見などについて、アンケートや意見交換会の報告があった。また教員に加え、技術職員からの投稿もあった。執筆頂いた皆さまに心より感謝申し上げます。

「FD通信」のタイトル

-
- (1) 令和5年度「カリキュラム評価アンケート」報告
 - (2) 今、福井大学の学生に必要な能力はなにか？教員に求められる教育はなにか？
 - (3) スロベニア3ヶ月滞在・留学・雑記
 - (4) 技術職員の実験・実習派遣について
 - (5) 高校生対象イベントの効果はいかほどか
 - (6) 「工学教育をともに考える学生と教員の意見交換会」報告
-

2. 「FD研修会」の開催

例年と同様、第二教授会に先立ち開催した。第二教授会の参加方式に準じ、教授は対面、准教授以下はオンラインでの聴講とした。講師についても、例年通り学生サービス課に検討頂いた。実施内容等は以下の通りである。

「ハラスメントを防ぐためのヒント」

講師：岡崎 玲子 先生（保健管理センター）

日時：2024年12月6日（金）

参加者数：132名

3. 「工学教育をともに考える学生と教員の意見交換会」の開催

工学部・工学研究科の学生に対し、カリキュラムなどについて良かった点・改善点などを聞き、今後のカリキュラムの見直しに役立てる目的として2021年度よりオンラインでの意見交換会を実施している。学生には事前に簡単なアンケートに答えてもらい、意見交換会当日の話題とした。学生からの意見は、FD通信にて工学部全体で情報共有した。

開催日：2024年12月13日（金）

① 13：30～14：27

電気電子情報工学科／物質・生命化学科（＋関連する専攻・コース）

② 15：00～16：05

機械・システム工学科／建築・都市環境工学科／応用物理学科（＋関連する専攻・コース）

開催方式：オンライン（Google Classroom の Meet）

参加者：学生 11 名、教員 11 名

陪席者：教務課

「学部生・院生からの主な意見」

- ・学部3年で就職活動を行った後、研究室に配属され、実際に研究をしてみて研究し足りないという思いがある。既に就職先が決まっていることもあり、進学はしなくて良いかなと考えてしまったが、もし就職活動前である3年後期に配属されれば進学を考える学生も増えるのではと思う。
- ・実験と座学の講義のタイミングについて、座学で学んでから実験を行うまでに期間が空いてしまうと忘れていた点もあり、復習が大変だった。座学とそれにリンクする実験は、あまり間が空かないようにしてもらえると良いと思った。
- ・対面とオンデマンドの両方があると嬉しい。対面授業を受講し、オンデマンドで自由に復習できると有難い。オンデマンドだけでは分かりにくい授業もあった。
- ・学生ポータル WebClass と Google Classroom に分かれているのは分かり辛いと感じた。個人的には Classroom に統一されると嬉しいが、せめて学生ポータルからの導線をしっかり確保して欲しかった。

4. 「GPA データと合格率」の各学科へのフィードバック

全科目の GPA データと合格率を各学科にフィードバックする取り組みを続けている。2023 年度後期分からは授業科目名も公開している。GPA については、以前は秀の割合がかなり高かったが、近年は適切な評価が行われているようである。一方、合格率は以前と比べるとわずかに低下しており、引き続き注視が必要であると考えている。

5. 「研究室への研究留学制度」の開始

入学志願者の減少により受験者の全入も視野に入る昨今であるが、こうした状況は入学してからの合格率の低下、そして我々の研究力の低下にもつながる。成績が芳しくない学生に対するサポートも重要だが、一方で、「研究室配属前にもっと研究室のことを知りたい」というアンケート結果も目にしてきた。そうした中で、元々モチベーションの高い学生の更なる学習・研究意欲の向上も必要ではないかと考え、少しでも実際の研究に触れてもらう機会を提供しようと、2024 年度より研究室への研究留学制度を開始した。

本制度の決まり事は以下の2つである。

①単位化しない。

②単なる研究室見学会ではなく、ある程度の期間（例えば1ヵ月～）、初歩的な研究活動を実施。長

期にわたるため、学生が途中で取りやめるのも可とする。

上記の決まりのみであり、実際の運用については各学科・研究室に委ねている。結果として、3 学科、16 名の先生に実際に担当して頂いた。私が所属する物質・生命化学科では 1～3 年生を対象に募集し、参加した学生は 17 名、学生 1 名当たりの平均在籍期間は 5 ヶ月ほどであった。参加した学生からは、「研究や専門的な知識に深く興味を抱くことができた」といったコメントがあった。

おわりに

2024 年度をもって委員長の任を終えることとなった。2 期 4 年の最終年度では、前述の研究留学制度を開始することができた。「入学直後から実際の研究を体験できる」という他大学にはない独自の教育環境が本学工学部の特色となれば、とひそかに考える次第である。一方で、教員の教育技法の向上のための取り組みなど、いわゆる「FD らしい FD 活動」についてはあまり検討してこなかった。これについては、「FD の意味するところは極めて広範にわたる」（文部科学省 HP より）ものであることから、私自身取り組みたい活動を優先した結果である。何卒、ご容赦願いたい。新委員長の藤田聡先生も色々な構想をお持ちであり、今後も学生・教員双方がメリットを感じられるような取り組みが実施されるものと期待する。

(工学部 FD 委員長 内村智博)

各学部のFDの取り組み

令和6(2024)年度

教育・人文社会系部門 総合グローバル領域
(国際地域学部・国際地域マネジメント研究科)FD活動

1. 総合グローバル領域の教員の参加実績があるFD研修会等

(1)全学FD・SD研修会(第12回学生支援講演会)

日時:令和6年8月28日

テーマ:「人はなぜ依存症になるのか?

～予防啓発と回復支援の両立を目指して～」

講師:国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部長 松本 俊彦氏

(2)総合グローバル領域(国際地域学部)FD研修会

日時:令和6年10月4日

テーマ:「授業のユニバーサルデザイン」

講師:福井大学保健管理センター 林 亜希恵氏

(3)国際地域マネジメント研究科 授業研究会

日時:令和6年12月13日

講師:元福井大学教授 細谷 龍平氏

(4)国際地域マネジメント研究科 香川大学訪問報告

日時:令和7年2月28日

(5)教育・研究に関する教員懇談会

日時:令和7年2月28日

(6)国際地域マネジメント研究科主催講演会

日時:令和7年3月14日

テーマ:「「トランプ 2.0」時代の中国のこれからと北陸企業の新たな課題・事業戦略
～中国ビジネス最前線と成功の秘訣～」

講師:日中投資促進機構 事務局長 岡 豊樹氏

2. 総合グローバル領域におけるFD活動の現状と課題

(1) 総合グローバル領域(国際地域学部)の取り組みについて

総合グローバル領域のFD研修会は、例年、国際地域学部教授会の冒頭の30分がそれに充てられているため、領域に所属する教員の大多数がこれに参加することとなり、活発な質疑応答がなされている。研修会終了後のアンケートにおいても、各回ともに概ね高評価が得られており、取り上げられたテーマの妥当性も含めてFD活動として十分に機能していると見てよいだろう。

ただ、これらの研修会は本学の保健管理センターや学生総合相談室が全学的な課題と各部署の特性に応じた課題を勘案して企画・発案し、それを受けて領域のFD委員会が主催する形で実施されているものであり、領域独自の企画によるFD研修は久しく行われていない。また、上記1で挙げたFD研修会等は大部分が有識者の講演を中心に構成されたものであり、ワークショップ型の研修会がほとんど実施されていない点に課題が残ると言わざるを得ない。

国際地域学部の基幹科目に位置づけられている「課題探求プロジェクト」は、いわゆるPBL科目であり、全教員が協働でその運営を担っている。各プロジェクトが、代表教員を中心に複数の教員が毎週顔を合わせて意見を出し合う形で運営されており、さらに、そうした個別のプロジェクトを束ねる全体会が定期的に行われることで、教員間で互いの授業実践を参照し合いながら、それを自らの授業改善に活かす自発的な取り組みが活発に行われている。このように、PBL型の授業の実践にはFDに資する側面が顕著に認められるため、「課題探求プロジェクト」を国際地域学部の主要なFD活動のひとつとして位置づけることも可能である。

(2) 総合グローバル領域(国際地域マネジメント研究科)の取り組みについて

社会人である大学院生を主な対象とする国際地域マネジメント研究科の授業は土曜日と平日の6限目以降に開講されるため、その授業運営において他の研究科にはない課題が生じることになる。それらに対処するべく、同研究科の独自企画によるFD研修会が毎年実施されている。

加えて、毎年度複数回(令和6年度は4回)実施されている学生と教員の意見交換会は、同研究科の教員と学生・社会人双方の視点を兼ね備えた大学院生から構成されており、社会人を想定した学生定員7名の小所帯の部局である国際地域マネジメント研究科の特性が活かされたFD活動であると言える。

また、年に一回、有識者を講師に招いて開催される講演会は、学外からも参加者があるなど、FD研修会の域にとどまらない同研究科の重要な年中行事のひとつとなっている。今後、他部局への案内を積極的に行うなど、全学のFD研修の一環としてこの講演会を活用することも検討されて然るべきだろう。

教学企画・支援部門 令和6年度活動報告

教学企画・支援部門長 安倍 博

1. 『福井大学高等教育研究』の発行

令和5年度に『福井大学高等教育推進センター年報』からリニューアルした『福井大学高等教育研究』の第2号を刊行した。

原稿募集により学術論文1件と報告1件の応募があり、「福井大学高等教育研究刊行に関する申合せ」に基づき、教学企画・支援部門の委員による編集委員会を設け、編集委員会が選任した査読者による審査結果を踏まえて、編集委員会が内容を吟味し、一部の修正・変更を求めた上で掲載を決定した。

今号の掲載論文・報告は、新たな教育手法の効果検証と大学改革に関わる教員の取り組み報告で、「高等教育研究」に相応しい内容となった。

2. 福井大学の教育におけるFD・SDの基本方針の制定

本学の教育に関するFD・SDに対する基本方針は、第3期中期目標・中期計画期間において「福井大学のファカルティ・デベロップメントの基本方針（第3期）」として制定されて以降、改訂されていない。

第4期の方針として、またグランドデザイン答申および教学マネジメント指針で求められる教職員の能力向上を目的としたものに改訂するため、第3期の方針をもとに「福井大学の教育におけるFD・SDの基本方針」を制定した。

3. 教育研究活動等の状況に係る公表の検討開始

教学マネジメント指針で掲げられている教学マネジメント・教育内部質保証の最終ステップとしての「教育情報の公表」を実現するため、教学IRデータによる教育研究活動状況のホームページでの公開について検討を開始した。

教学マネジメント指針で挙げられている「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例」および「学修成果・教育成果を保証する条件に関する情報の例」のうち「大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの」について、本学で公表できるデータを吟味し、公表の方法等について検討を始めた。

今年度内の公表には至らなかったが、令和7年度に出された文科省「知の総和」答申により新たな認証評価制度において共通の教育情報のプラットフォームの構築が提唱されていることから、次年度以降に改めて検討することとした。

4. 各学部の教育内部質保証ヒアリング

令和5年度までの全学の教育内部質保証体制の構築と実働を踏まえ、次の段階として各学部の教育内部質保証の実働を促進するため、各学部での実施状況について、各学部の教育改革推進機構長補佐を対象にヒアリングを行い、令和7年度以降の教育内部質保証の基盤となる情報を収集した。

ヒアリングにより、各学部で、教育内部質保証体制や内部質保証の基盤となる教学 IR データの収集・管理体制が異なることや、取り組みへの温度差があることがわかり、次の認証評価に向けての課題が明らかになった。

教学 IR 部門 令和 6 年度活動報告

教学 IR 部門長

1. 「在学生調査」の実施

昨年度に引き続き、「教学 IR に係る課題に取り組み、全学的な方策等の企画立案・提言を行う」に応える取り組みとして、本学における教学 IR 活動の基礎データとなる「在学生調査」を、1・3 年生を対象に実施し、結果の分析を行なった。

- ・ 調査名：2024 年度 在学生調査
- ・ 対象者：全学部 1、3 年生 全員
- ・ 方法：質問紙配布・マークシート方式・記名式（図 1）
- ・ 設問数：1 年生向け－計 118 問
3 年生向け－計 124 問
- ・ 全学回収率：1 年生 95.2%（833 人／875 人）
3 年生 88.3%（794 人／899 人）
※ 令和 5 年度実績 91.0%（全学平均）

調査結果の詳細は、添付資料 1 を参照。

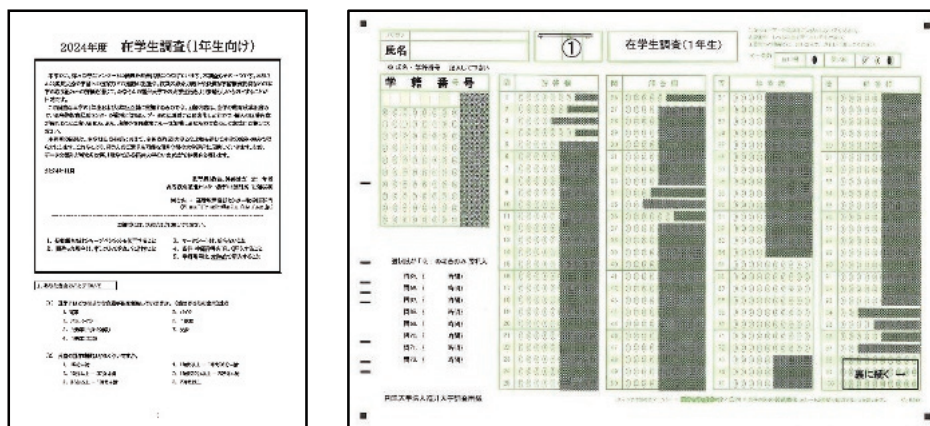


図 1. 調査用紙一式（1 年生用）

（左）設問用紙 8 ページ。（右）マークシート（設問数の多い中で平易な回答を促すため、選択肢以外のマーク欄を塗りつぶした上で配布）

昨年度同様に今年度も、運営管理課、教務課、学務課の協力の下、高い回収率を維持した。

調査結果については、学内の諸会議で情報共有されたほか、学生には学内広報ポスター「数字でみる福井大学のいま」などを通じてフィードバックした。

2. 学内広報媒体「数字でみる福井大学のいま」の発行

昨年度に引き続き、大学の諸活動や教学 IR 活動への認知向上を図る目的で、「在学生調査」の結果をもとに、学生を始めとしたステークホルダーにフィードバックならびに周知する学内広報ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」を発行し、文京、松岡、敦賀の各キャンパス各所に計 35 枚掲出した。Vol.4 (別添資料 2-1) は令和 6 年 7 月に、Vol.5 (別添資料 2-2) は令和 6 年 10 月にそれぞれ発行した。

本ポスターシリーズを年間数号発行し続けることで、各種学生向け調査の回答の質向上を図る。加えて、学生や教職員からの教学 IR 活動や内部質保証活動への関心や信頼性の喚起と回答の質向上を期待している。

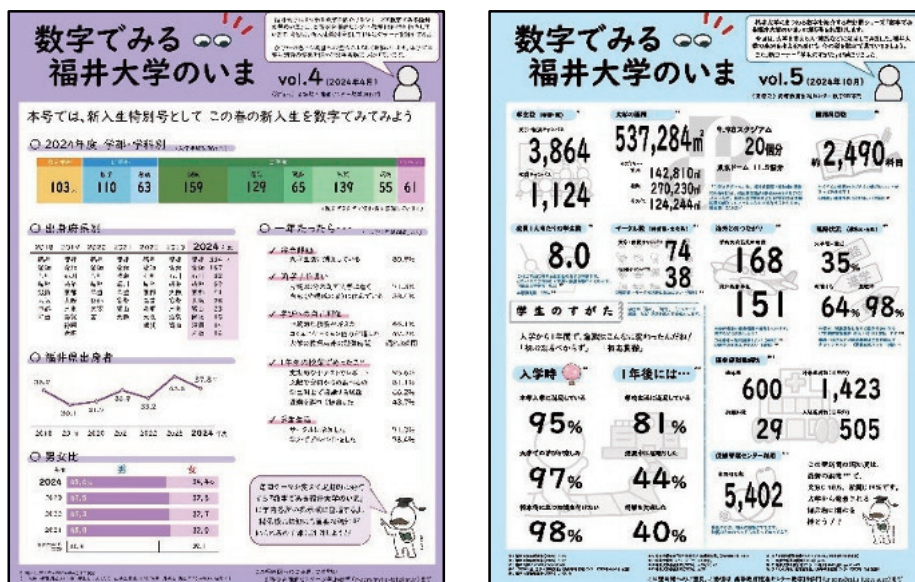


図 2. ポスターシリーズ Vol.4 (左)、Vol.5 (右)

3. 入学時調査の実施

本学での学生生活のスタート時点での新入生の率直な意見を集約するため、昨年度検討した「入学生調査」を今年度から実施した。全学部の新入生を対象に、各学部の新入生オリエンテーションなどの機会に調査した。

- ・ 調査名：2024 年度 入学生調査
- ・ 対象者：全学部 1 年生 全員
- ・ 方法：質問紙配布方式・記名式 (図 3)

- ・ 設問数：計 43 問
- ・ 全学回収率：98.4%（863 人／877 人）

調査結果の詳細は、添付資料 3 を参照。

図 3. 入学時調査

「在学生調査」と同様に、運営管理課、教務課、学務課の協力により、高い回収率を達成することができた。調査結果は、学内の諸会議で情報共有された。

今後は、「在学生調査」とあわせて、入学時と在学時の比較により、学生の学修や生活の動向を分析し、教学 IR データとして教育改善に活用できるようにシステム化することを目指す。

【添付資料】

- 1-1. 2024 年度 在学生調査（1 年生向け） 集計結果
- 1-2. 2024 年度 在学生調査（3 年生向け） 集計結果
- 2-1. 「数字でみる福井大学のいま」 Vol.4（新入生特別号）
- 2-2. 「数字でみる福井大学のいま」 Vol.5（大学を支える人・施設特集号）
3. 2024 年度 入学生調査 集計結果

2024年度 在学生調査（1年生向け）質問項目

実施日 2024年11月

学部	回答数	対象者数	回答率
教育学部	86	103	83.5%
医学部	171	172	99.4%
医学科	108	108	100.0%
看護学科	63	64	98.4%
工学部	518	541	95.7%
機械・システム工学科	144	158	91.1%
電気電子情報工学科	122	126	96.8%
建築・都市環境工学科	65	65	100.0%
物質・生命化学科	135	138	97.8%
応用物理学科	52	54	96.3%
国際地域学部	58	59	98.3%
総計	833	875	95.2%

I. あなた自身のことについて

[1] 通学にはどのような交通手段を利用していますか。（該当するもの全て選択）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1.電車	15.4%	1.5%	2.8%	6.9%	3.6%	7.2%	6.5%	11.4%	3.7%	16.1%	7.7%
2.バス、タクシー	1.5%	3.8%	6.9%	0.5%				1.9%		1.1%	1.4%
3.自動車（自分で運転）	27.9%	17.7%	50.0%	9.5%	8.1%	12.7%	9.7%	8.1%	9.9%	15.1%	15.3%
4.自動車（送迎）	8.1%	2.3%	2.8%	2.8%	2.3%	2.8%	1.1%	4.8%	1.2%	5.4%	3.5%
5.バイク		0.8%		0.4%	1.4%						0.3%
6.自転車	22.1%	10.0%	1.4%	41.0%	41.6%	43.6%	46.2%	35.7%	40.7%	28.0%	32.2%
7.徒歩	25.0%	63.8%	36.1%	38.9%	43.0%	33.7%	36.6%	38.1%	44.4%	34.4%	39.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[2] 片道の通学時間はどれくらいですか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1.15分未満	37.2%	81.5%	47.6%	70.4%	75.2%	65.6%	67.7%	69.6%	73.1%	41.4%	64.7%
2.15分以上-30分未満	20.9%	9.3%	15.9%	12.8%	15.4%	12.3%	12.3%	9.6%	15.4%	17.2%	13.7%
3.30分以上-1時間未満	26.7%	6.5%	27.0%	11.5%	8.7%	16.4%	12.3%	11.9%	5.8%	25.9%	14.6%
4.1時間以上-1時間30分未満	11.6%	1.9%	7.9%	3.6%	0.7%	4.9%	6.2%	4.4%	3.8%	8.6%	4.9%
5.1時間30分以上-2時間未満	2.3%		1.6%	1.5%		0.8%	1.5%	4.4%		6.9%	1.8%
6.2時間以上				0.2%					1.9%		0.1%
99.未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔3〕現在の居住形態は次のうちどれですか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_家族または親戚と暮らしている	68.6%	15.7%	46.0%	23.9%	15.4%	30.3%	24.6%	28.9%	19.2%	53.4%	31.1%
2_アパート・学生マンションでひとり暮らし	29.1%	81.5%	52.4%	72.1%	79.9%	68.9%	69.2%	66.7%	75.0%	41.4%	65.3%
3_大学寮や合宿所		1.9%	1.6%	3.6%	4.0%	0.8%	4.6%	4.4%	5.8%	5.2%	3.0%
4_その他	1.2%			0.4%	0.7%		1.5%				0.4%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔4〕食事を1週間あたりどのくらいの回数をとりますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0~6回				1.3%	1.3%	1.6%	1.5%		3.8%	3.4%	1.1%
2_7~9回				0.8%	0.7%	1.6%	1.5%				0.5%
3_10~12回	7.0%	6.5%	3.2%	7.5%	8.7%	7.4%	4.6%	4.4%	15.4%	5.2%	6.8%
4_13~15回	11.6%	19.4%	23.8%	28.7%	30.9%	31.1%	23.1%	25.2%	32.7%	22.4%	24.9%
5_16~18回	12.8%	22.2%	20.6%	18.5%	22.1%	20.5%	10.8%	20.7%	7.7%	20.7%	18.7%
6_19~21回	62.8%	44.4%	50.8%	38.4%	32.9%	34.4%	47.7%	45.9%	32.7%	44.8%	43.1%
7_22回以上	4.7%	5.6%	1.6%	4.8%	3.4%	3.3%	10.8%	3.7%	7.7%	3.4%	4.5%
99_未回答	1.2%	1.9%									0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅱ. 大学生活に対するあなたの考えや満足度について

●大学の教育内容・環境に満足していますか。



〔5〕総合的に考えて 福井大学での学生生活は 充実している。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	1.9%		1.0%	0.7%		3.1%		3.8%		1.1%
2	1.2%	7.4%		6.3%	6.7%	8.2%	3.1%	5.2%	7.7%	6.9%	5.5%
3	22.1%	16.7%	12.7%	24.3%	24.2%	35.2%	12.3%	19.3%	26.9%	17.2%	21.7%
4	39.5%	37.0%	47.6%	41.7%	47.0%	38.5%	43.1%	45.9%	21.2%	50.0%	41.9%
5	32.6%	35.2%	38.1%	25.8%	21.5%	16.4%	36.9%	28.9%	38.5%	24.1%	28.5%
99_未回答	2.3%	1.9%	1.6%	1.0%		1.6%	1.5%	0.7%	1.9%	1.7%	1.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔6〕 総合的に考えて 福井大学での学生生活に 満足している。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	1.9%		1.9%	2.7%	1.6%	4.6%	1.9%	1.7%	1.8%	
2	3.5%	7.4%	1.6%	7.6%	7.4%	10.7%	1.5%	5.9%	13.5%	3.4%	6.4%
3	23.3%	19.4%	12.7%	25.4%	24.2%	36.9%	10.8%	22.2%	28.8%	19.0%	23.0%
4	37.2%	33.3%	47.6%	41.9%	47.0%	36.1%	49.2%	47.4%	17.3%	50.0%	41.3%
5	32.6%	37.0%	38.1%	23.1%	18.8%	14.8%	33.8%	24.4%	38.5%	25.9%	27.2%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔7〕 共通教育あるいは教養教育の授業

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	3.7%		2.3%	3.4%	2.5%	3.1%	0.7%	1.9%	3.4%	2.3%
2	10.5%	8.3%		10.7%	8.1%	16.4%	10.8%	9.6%	7.7%	5.2%	9.2%
3	38.4%	29.6%	20.6%	40.0%	40.3%	44.3%	30.8%	38.5%	44.2%	27.6%	36.2%
4	30.2%	35.2%	57.1%	33.1%	38.3%	27.0%	30.8%	36.3%	26.9%	50.0%	36.0%
5	18.6%	22.2%	22.2%	14.0%	10.1%	9.8%	24.6%	14.8%	19.2%	13.8%	16.1%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔8〕 初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	0.9%		1.3%	1.3%	0.8%		1.5%	3.8%	3.4%	1.4%
2	7.0%	11.1%	4.8%	9.2%	7.4%	11.5%	7.7%	8.1%	13.5%	3.4%	8.5%
3	44.2%	31.5%	22.2%	48.4%	44.3%	53.3%	50.8%	46.7%	50.0%	37.9%	43.1%
4	30.2%	30.6%	54.0%	27.7%	34.9%	21.3%	24.6%	31.1%	17.3%	43.1%	31.4%
5	15.1%	25.0%	19.0%	13.4%	12.1%	13.1%	16.9%	12.6%	15.4%	12.1%	15.4%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔9〕 授業の全体的な質

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				0.6%	0.7%	0.8%		1.9%	1.7%	0.5%	
2	5.8%	5.6%	1.6%	8.8%	5.4%	12.3%	4.6%	10.4%	11.5%	3.4%	7.2%
3	37.2%	30.6%	17.5%	37.7%	34.9%	43.4%	35.4%	36.3%	38.5%	37.9%	35.2%
4	39.5%	39.8%	54.0%	41.1%	48.3%	35.2%	43.1%	40.0%	34.6%	48.3%	42.2%
5	16.3%	23.1%	27.0%	11.9%	10.7%	8.2%	16.9%	13.3%	13.5%	8.6%	14.7%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔10〕 日常生活と授業内容との関連

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	0.9%		2.1%	2.7%	1.6%	1.5%	2.2%	1.9%	1.7%	1.7%
2	9.3%	4.6%	1.6%	15.1%	7.4%	26.2%	10.8%	14.8%	17.3%	6.9%	11.6%
3	32.6%	38.0%	17.5%	44.2%	46.3%	48.4%	32.3%	43.0%	46.2%	43.1%	40.1%
4	40.7%	29.6%	52.4%	27.7%	32.9%	16.4%	40.0%	28.1%	23.1%	29.3%	31.3%
5	15.1%	25.9%	28.6%	10.9%	10.7%	7.4%	15.4%	11.9%	11.5%	19.0%	15.2%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔11〕 将来の仕事と授業内容の結びつき

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%			1.9%	1.3%	3.3%		1.5%	3.8%	1.7%	1.8%
2	2.3%	2.8%		7.5%	3.4%	10.7%		7.4%	21.2%	10.3%	6.0%
3	11.6%	22.2%	7.9%	30.8%	30.9%	30.3%	18.5%	32.6%	42.3%	27.6%	25.8%
4	41.9%	40.7%	44.4%	39.8%	44.3%	36.9%	47.7%	41.5%	19.2%	44.8%	40.8%
5	38.4%	33.3%	47.6%	20.1%	20.1%	18.9%	33.8%	17.0%	13.5%	15.5%	25.4%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔12〕 教員と話をする機会

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%			4.8%	7.4%	6.6%	3.1%	2.2%	1.9%		3.1%
2	17.4%	13.9%	9.5%	24.3%	16.1%	27.9%	12.3%	33.3%	30.8%	17.2%	20.6%
3	43.0%	35.2%	28.6%	41.1%	43.0%	39.3%	52.3%	36.3%	38.5%	37.9%	39.4%
4	19.8%	26.9%	38.1%	20.7%	28.9%	17.2%	21.5%	17.8%	11.5%	31.0%	23.4%
5	17.4%	23.1%	23.8%	9.2%	4.7%	9.0%	10.8%	10.4%	17.3%	13.8%	13.2%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔13〕 学習支援や個別の学習指導

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	0.9%		4.2%	4.0%	4.9%	4.6%	5.2%		1.7%	3.3%
2	22.1%	10.2%	6.3%	18.4%	14.8%	21.3%	15.4%	21.5%	17.3%	19.0%	16.8%
3	29.1%	39.8%	30.2%	46.5%	41.6%	56.6%	46.2%	40.7%	51.9%	39.7%	42.1%
4	23.3%	29.6%	38.1%	20.7%	30.9%	9.8%	21.5%	21.5%	13.5%	34.5%	24.3%
5	19.8%	18.5%	25.4%	10.3%	8.7%	7.4%	12.3%	11.1%	17.3%	5.2%	13.1%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔14〕 他の学生と話をする機会

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				2.9%	3.4%	4.1%	1.5%	2.2%	1.9%	3.4%	2.0%
2	1.2%	5.6%	6.3%	9.2%	9.4%	12.3%	3.1%	6.7%	15.4%	8.6%	7.6%
3	12.8%	27.8%	11.1%	29.4%	28.2%	32.8%	24.6%	31.1%	26.9%	10.3%	24.8%
4	37.2%	28.7%	36.5%	35.9%	40.9%	32.0%	43.1%	36.3%	21.2%	46.6%	35.9%
5	47.7%	37.0%	46.0%	22.6%	18.1%	18.9%	27.7%	23.7%	34.6%	31.0%	29.4%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔15〕 大学のなかでの学生同士の一体感

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	1.9%	1.6%	4.4%	6.0%	4.9%	1.5%	3.7%	3.8%		3.2%
2	8.1%	7.4%	3.2%	17.2%	12.1%	23.8%	6.2%	20.7%	21.2%	19.0%	14.1%
3	24.4%	31.5%	22.2%	38.0%	38.3%	43.4%	43.1%	33.3%	30.8%	29.3%	34.0%
4	38.4%	32.4%	39.7%	28.5%	32.9%	19.7%	35.4%	31.1%	21.2%	37.9%	31.5%
5	26.7%	25.9%	33.3%	11.9%	10.7%	8.2%	13.8%	11.1%	23.1%	13.8%	16.9%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔16〕 多様な考え方を認め合う雰囲気

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	2.8%	1.6%	2.1%	2.0%	0.8%	1.5%	2.2%	5.8%	1.7%	2.0%
2	5.8%	5.6%		6.9%	6.7%	6.6%	1.5%	9.6%	7.7%		5.6%
3	20.9%	29.6%	15.9%	39.4%	34.2%	45.1%	29.2%	43.0%	44.2%	27.6%	33.7%
4	38.4%	31.5%	47.6%	34.4%	38.3%	32.0%	41.5%	34.8%	19.2%	41.4%	35.9%
5	32.6%	29.6%	34.9%	17.2%	18.8%	15.6%	26.2%	10.4%	23.1%	29.3%	22.6%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔17〕 1つの教室で学ぶ学生数

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.9%		1.7%	2.0%	0.8%		2.2%	3.8%	1.7%	1.4%
2	3.5%	9.3%		9.6%	8.7%	9.0%	6.2%	13.3%	7.7%	1.7%	7.6%
3	25.6%	27.8%	17.5%	37.1%	42.3%	36.9%	21.5%	37.0%	42.3%	24.1%	32.3%
4	36.0%	31.5%	39.7%	34.8%	33.6%	37.7%	49.2%	32.6%	19.2%	43.1%	35.4%
5	33.7%	28.7%	42.9%	16.8%	13.4%	15.6%	23.1%	14.8%	26.9%	29.3%	22.9%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学の設備や学生支援制度に満足していますか。



[18] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		0.9%		0.8%	1.3%	0.8%	1.5%		1.7%	0.7%	
2	3.5%	3.7%		3.8%	1.3%	2.5%	3.1%	5.9%	9.6%	8.6%	3.8%
3	20.9%	9.3%	7.9%	26.4%	24.2%	34.4%	33.8%	18.5%	25.0%	17.2%	21.6%
4	34.9%	29.6%	27.0%	38.2%	38.3%	33.6%	36.9%	42.2%	40.4%	44.8%	36.4%
5	39.5%	55.6%	65.1%	30.8%	34.9%	28.7%	24.6%	33.3%	25.0%	27.6%	37.2%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[19] 実験室の設備や器具

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		0.9%								5.2%	0.5%
2	3.5%	3.7%	1.6%	4.2%	4.7%	4.9%	1.5%	2.2%	9.6%	12.1%	4.4%
3	38.4%	19.4%	17.5%	43.0%	44.3%	73.8%	40.0%	21.5%	26.9%	58.6%	38.7%
4	33.7%	31.5%	36.5%	33.3%	36.2%	10.7%	36.9%	46.7%	38.5%	13.8%	32.0%
5	23.3%	43.5%	44.4%	19.5%	14.8%	10.7%	21.5%	29.6%	25.0%	10.3%	24.2%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[20] コンピュータの施設や設備

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	0.9%		1.0%	0.7%		3.1%	0.7%	1.9%	3.4%	1.1%
2	7.0%	3.7%	1.6%	5.2%	5.4%	5.7%	1.5%	5.2%	7.7%	6.9%	5.0%
3	31.4%	16.7%	9.5%	29.4%	26.8%	29.5%	30.8%	28.9%	36.5%	29.3%	26.5%
4	34.9%	37.0%	33.3%	40.7%	45.0%	37.7%	44.6%	40.0%	32.7%	37.9%	38.9%
5	24.4%	40.7%	55.6%	23.7%	22.1%	27.0%	20.0%	25.2%	21.2%	22.4%	28.3%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔21〕 コンピュータの訓練や援助

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		0.9%		1.9%	2.0%		3.1%	1.5%	5.8%	3.4%	1.6%
2	12.8%	6.5%	4.8%	8.4%	7.4%	4.9%	12.3%	7.4%	17.3%	5.2%	8.1%
3	31.4%	22.2%	20.6%	37.3%	33.6%	30.3%	46.2%	42.2%	40.4%	31.0%	33.1%
4	30.2%	34.3%	31.7%	34.2%	40.3%	39.3%	27.7%	31.1%	21.2%	46.6%	34.5%
5	24.4%	35.2%	42.9%	18.2%	16.8%	25.4%	10.8%	17.8%	15.4%	13.8%	22.6%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔22〕 インターネットの使いやすさ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	14.0%	12.0%	3.2%	15.3%	14.8%	15.6%	16.9%	14.1%	17.3%	5.2%	13.1%
2	27.9%	21.3%	14.3%	22.8%	18.8%	20.5%	16.9%	31.1%	25.0%	25.9%	22.7%
3	17.4%	17.6%	19.0%	28.1%	24.8%	30.3%	33.8%	25.2%	32.7%	22.4%	24.6%
4	23.3%	22.2%	33.3%	22.0%	26.2%	25.4%	21.5%	19.3%	9.6%	39.7%	24.2%
5	16.3%	25.9%	30.2%	11.9%	15.4%	8.2%	10.8%	10.4%	15.4%	6.9%	15.2%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔23〕 奨学金など学費援助の制度

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	3.7%		2.7%	2.0%	2.5%	4.6%	2.2%	3.8%	3.4%	2.5%
2	9.3%	1.9%	6.3%	4.4%	2.7%	2.5%	4.6%	8.1%	3.8%	6.9%	4.9%
3	31.4%	41.7%	28.6%	55.4%	57.0%	63.1%	43.1%	51.1%	59.6%	43.1%	48.3%
4	31.4%	18.5%	27.0%	22.6%	25.5%	18.9%	26.2%	24.4%	13.5%	31.0%	23.9%
5	25.6%	33.3%	38.1%	14.9%	12.8%	13.1%	21.5%	14.1%	19.2%	15.5%	20.2%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔24〕 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		0.9%		1.9%	2.7%	0.8%		2.2%	3.8%	3.4%	1.6%
2	9.3%	7.4%	3.2%	5.7%	6.0%	4.9%		9.6%	3.8%	8.6%	6.3%
3	34.9%	30.6%	25.4%	52.0%	48.3%	65.6%	41.5%	46.7%	57.7%	31.0%	44.0%
4	36.0%	25.9%	33.3%	23.7%	26.2%	13.9%	33.8%	28.1%	15.4%	39.7%	27.1%
5	18.6%	34.3%	38.1%	16.6%	16.8%	14.8%	24.6%	13.3%	19.2%	17.2%	20.8%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[25] レクリエーション施設（ジムの設備など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	3.7%		7.6%	9.4%	4.9%	3.1%	8.1%	13.5%	5.2%	5.8%
2	15.1%	7.4%	9.5%	14.7%	13.4%	13.1%	13.8%	20.7%	7.7%	13.8%	13.4%
3	41.9%	34.3%	33.3%	52.4%	47.7%	62.3%	47.7%	48.1%	59.6%	53.4%	47.6%
4	27.9%	22.2%	30.2%	17.0%	22.1%	12.3%	26.2%	15.6%	5.8%	17.2%	19.8%
5	11.6%	31.5%	27.0%	8.2%	7.4%	7.4%	9.2%	7.4%	13.5%	10.3%	13.1%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[26] キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				1.7%	4.0%	0.8%			3.8%	1.7%	1.2%
2	5.8%	6.5%	3.2%	6.1%	6.7%	4.9%		8.9%	7.7%	6.9%	6.0%
3	32.6%	47.2%	25.4%	59.5%	54.4%	73.8%	61.5%	51.1%	59.6%	51.7%	52.0%
4	38.4%	17.6%	39.7%	20.3%	24.2%	8.2%	29.2%	25.2%	13.5%	27.6%	23.7%
5	22.1%	27.8%	31.7%	12.4%	10.7%	12.3%	9.2%	14.8%	15.4%	12.1%	16.8%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学に入学してから、次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。



[27] 大学の学生向けサービスを上手に利用する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	1.9%		3.6%	4.0%	5.7%	1.5%	1.5%	5.8%	3.4%	2.9%
2	11.6%	22.2%	6.3%	27.2%	23.5%	32.8%	20.0%	28.1%	30.8%	19.0%	22.8%
3	54.7%	44.4%	60.3%	46.3%	46.3%	48.4%	49.2%	46.7%	36.5%	56.9%	48.7%
4	31.4%	30.6%	33.3%	22.9%	26.2%	13.1%	29.2%	23.7%	26.9%	20.7%	25.4%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[28] 大学教員の学問的な期待を理解する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	2.8%		4.4%	4.7%	5.7%	3.1%	3.7%	3.8%	3.4%	3.6%
2	25.6%	18.5%	14.3%	32.7%	26.2%	46.7%	26.2%	33.3%	25.0%	24.1%	28.2%
3	50.0%	55.6%	66.7%	51.8%	57.7%	41.8%	52.3%	53.3%	53.8%	53.6%	53.7%
4	20.9%	22.2%	19.0%	11.1%	11.4%	5.7%	18.5%	9.6%	17.3%	12.1%	14.2%
99_未回答	1.2%	0.9%								1.7%	0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[29] 効果的に学習する技能を修得する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	1.9%	1.6%	4.0%	4.7%	4.1%	4.6%	3.7%	1.9%	1.7%	3.3%
2	18.6%	21.3%	14.3%	29.6%	24.2%	33.6%	23.1%	28.9%	46.2%	29.3%	26.3%
3	54.7%	50.0%	50.8%	52.8%	55.7%	51.6%	53.8%	56.3%	36.5%	56.9%	52.7%
4	22.1%	25.9%	33.3%	13.6%	15.4%	10.7%	18.5%	11.1%	15.4%	12.1%	17.4%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[30] 大学が求める水準に応じて学習する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.8%	2.8%		4.8%	4.7%	4.9%	4.6%	4.4%	5.8%	1.7%	4.1%
2	19.8%	20.4%	14.3%	31.4%	33.6%	36.9%	21.5%	28.1%	32.7%	29.3%	27.3%
3	47.7%	52.8%	55.6%	51.1%	48.3%	47.5%	55.4%	57.0%	46.2%	53.4%	51.4%
4	25.6%	23.1%	30.2%	12.8%	13.4%	10.7%	18.5%	10.4%	15.4%	15.5%	16.9%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[31] 時間を効果的に使う

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	8.1%	9.3%	3.2%	10.7%	10.7%	15.6%	7.7%	8.9%	7.7%	5.2%	9.3%
2	20.9%	25.9%	23.8%	35.0%	30.9%	38.5%	29.2%	36.3%	42.3%	32.8%	31.4%
3	46.5%	40.7%	39.7%	36.7%	38.9%	36.1%	38.5%	39.3%	23.1%	44.8%	39.0%
4	23.3%	23.1%	33.3%	17.6%	19.5%	9.8%	24.6%	15.6%	26.9%	17.2%	20.0%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔32〕 大学教員と顔見知りになる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	10.5%	16.7%	11.1%	29.1%	28.2%	31.1%	13.8%	37.8%	23.1%	3.4%	22.4%
2	36.0%	38.9%	27.0%	42.3%	40.3%	52.5%	32.3%	41.5%	38.5%	27.6%	39.0%
3	26.7%	28.7%	49.2%	21.4%	25.5%	13.9%	33.8%	16.3%	25.0%	46.6%	26.7%
4	25.6%	14.8%	12.7%	7.3%	6.0%	2.5%	20.0%	4.4%	13.5%	22.4%	11.6%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔33〕 他の学生との友情を深める

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	3.7%		3.8%	4.0%	4.9%	1.5%	3.0%	5.8%	3.4%	3.3%
2	4.7%	10.2%	4.8%	16.1%	17.4%	20.5%	7.7%	14.1%	17.3%	10.3%	12.9%
3	24.4%	41.7%	27.0%	39.6%	41.6%	43.4%	41.5%	37.8%	26.9%	37.9%	37.2%
4	67.4%	43.5%	68.3%	40.5%	36.9%	31.1%	49.2%	45.2%	50.0%	48.3%	46.3%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅲ. 大学に入学する前や高校時代のことについて

〔34〕 現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_現役	95.3%	45.4%	98.4%	91.6%	93.3%	92.6%	84.6%	92.6%	90.4%	89.7%	86.4%
2_浪人	2.3%	49.1%	1.6%	6.5%	5.4%	6.6%	9.2%	5.2%	9.6%	5.2%	11.1%
3_その他(留学生、社会人など)		4.6%		1.9%	1.3%	0.8%	6.2%	2.2%		5.2%	2.1%
99_未回答	2.3%	0.9%									0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔35〕 志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_第1志望だった	67.4%	52.8%	74.6%	40.9%	43.6%	43.4%	44.6%	36.3%	34.6%	56.9%	48.8%
2_第1志望ではなかった	30.2%	45.4%	25.4%	59.1%	56.4%	56.6%	55.4%	63.7%	65.4%	43.1%	50.7%
99_未回答	2.3%	1.9%									0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔39〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.2%	0.9%		5.4%	2.0%	10.7%	1.5%	4.4%	9.6%	3.6%
2	18.6%	17.6%	7.9%	26.6%	20.8%	38.5%	18.5%	25.9%	26.9%	15.5%
3	59.3%	50.0%	39.7%	48.2%	57.0%	38.5%	49.2%	45.9%	50.0%	48.3%
4	19.8%	30.6%	52.4%	19.9%	20.1%	12.3%	30.8%	23.7%	13.5%	36.2%
99_未回答	1.2%	0.9%								
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔40〕 授業の一環でボランティア活動をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	24.4%	31.5%	44.4%	54.9%	45.6%	66.4%	40.0%	63.0%	51.9%	44.8%
2	23.3%	29.6%	36.5%	23.7%	28.9%	20.5%	23.1%	22.2%	21.2%	25.9%
3	33.7%	22.2%	9.5%	14.5%	17.4%	10.7%	15.4%	11.1%	23.1%	17.2%
4	17.4%	14.8%	9.5%	6.9%	8.1%	2.5%	21.5%	3.7%	3.8%	12.1%
99_未回答	1.2%	1.9%								
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔41〕 学生自身が文献や資料を調べる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		3.7%		1.1%	3.4%			0.7%		3.4%
2	2.3%	14.8%		17.2%	14.8%	24.6%	24.6%	8.9%	19.2%	19.0%
3	46.5%	43.5%	23.8%	43.0%	42.3%	45.9%	46.2%	34.8%	55.8%	56.9%
4	50.0%	37.0%	76.2%	38.6%	39.6%	29.5%	29.2%	55.6%	25.0%	20.7%
99_未回答	1.2%	0.9%								
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔42〕 定期的に小テストやレポートが課される

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		1.9%		0.6%	0.7%	1.6%				0.6%
2	3.5%	6.5%	1.6%	3.4%	4.0%	4.9%	1.5%	2.2%	3.8%	6.9%
3	30.2%	32.4%	30.2%	29.8%	32.9%	29.5%	26.2%	26.7%	34.6%	31.0%
4	65.1%	58.3%	68.3%	66.2%	62.4%	63.9%	72.3%	71.1%	61.5%	62.1%
99_未回答	1.2%	0.9%								
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[43] 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	12.8%	5.6%		4.2%	2.7%	10.7%		3.7%	3.4%	4.9%	
2	22.1%	16.7%	4.8%	20.7%	13.4%	30.3%	6.2%	27.4%	19.2%	29.3%	19.7%
3	41.9%	36.1%	33.3%	44.9%	49.0%	42.6%	52.3%	44.4%	30.8%	34.5%	41.9%
4	22.1%	40.7%	61.9%	30.2%	34.9%	16.4%	41.5%	24.4%	50.0%	32.8%	33.3%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[44] 学生が自分の考えや研究を発表する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	14.8%		6.9%	5.4%	5.7%	1.5%	11.1%	9.6%		6.6%
2	15.1%	30.6%	4.8%	25.8%	21.5%	27.9%	9.2%	35.6%	28.8%	8.6%	22.6%
3	45.3%	28.7%	36.5%	45.7%	51.7%	41.8%	52.3%	38.5%	48.1%	46.6%	42.8%
4	34.9%	25.0%	58.7%	21.6%	21.5%	24.6%	36.9%	14.8%	13.5%	44.8%	27.8%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[45] 授業中に学生同士が議論をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	11.1%	1.6%	5.2%	3.4%	0.8%	1.5%	12.6%	5.8%		4.9%
2	2.3%	25.0%	3.2%	27.9%	23.5%	23.8%	26.2%	37.0%	28.8%	10.3%	21.8%
3	33.7%	37.0%	30.2%	40.5%	40.3%	43.4%	41.5%	36.3%	44.2%	36.2%	38.3%
4	61.6%	25.9%	65.1%	26.4%	32.9%	32.0%	30.8%	14.1%	21.2%	53.4%	34.7%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[46] 授業で検討するテーマを学生が設定する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	27.8%	6.3%	25.8%	12.8%	28.7%	20.0%	44.4%	15.4%	8.6%	21.0%
2	14.0%	23.1%	23.8%	31.7%	34.9%	33.6%	23.1%	27.4%	40.4%	17.2%	27.2%
3	44.2%	32.4%	23.8%	29.8%	36.9%	25.4%	43.1%	19.3%	30.8%	37.9%	31.7%
4	38.4%	15.7%	46.0%	12.2%	15.4%	11.5%	13.8%	8.1%	13.5%	36.2%	19.6%
99_未回答	1.2%	0.9%		0.4%		0.8%		0.7%			0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔47〕 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	17.6%	15.9%	21.0%	15.4%	27.9%	12.3%	28.1%	13.5%	6.9%	17.4%
2	23.3%	32.4%	34.9%	33.8%	24.8%	36.9%	30.8%	40.7%	38.5%	32.8%	32.6%
3	46.5%	32.4%	25.4%	31.9%	43.0%	23.8%	36.9%	24.4%	32.7%	36.2%	33.3%
4	25.6%	16.7%	23.8%	13.0%	16.8%	10.7%	20.0%	6.7%	15.4%	24.1%	16.3%
99_未回答	1.2%	0.9%		0.2%		0.8%					0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔48〕 取りたい授業を履修登録できなかった

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	22.1%	25.9%	77.8%	14.1%	8.7%	14.8%	18.5%	15.6%	19.2%	10.3%	21.0%
2	11.6%	16.7%	9.5%	15.9%	18.1%	15.6%	7.7%	14.8%	23.1%	17.2%	15.2%
3	32.6%	22.2%	6.3%	32.5%	32.9%	32.0%	35.4%	32.6%	28.8%	36.2%	29.5%
4	32.6%	34.3%	6.3%	37.3%	40.3%	36.9%	38.5%	37.0%	28.8%	36.2%	34.0%
99_未回答	1.2%	0.9%		0.2%		0.8%					0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔49〕 出席することが重視される

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	3.5%	3.7%	3.2%	2.1%	3.4%	0.8%		3.7%		1.7%	2.5%
2	10.5%	9.3%	7.9%	14.1%	12.8%	13.1%	16.9%	17.0%	9.6%	15.5%	12.8%
3	38.4%	34.3%	23.8%	42.4%	45.6%	41.8%	44.6%	41.5%	34.6%	46.6%	39.9%
4	46.5%	51.9%	65.1%	41.1%	37.6%	44.3%	38.5%	37.8%	55.8%	34.5%	44.4%
99_未回答	1.2%	0.9%		0.2%	0.7%					1.7%	0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔50〕 TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	30.2%	28.7%	34.9%	14.0%	14.8%	31.1%	3.1%	7.4%	1.9%	48.3%	21.5%
2	25.6%	30.6%	30.2%	19.9%	19.5%	39.3%	6.2%	8.9%	21.2%	25.9%	23.0%
3	23.3%	18.5%	20.6%	37.3%	42.3%	22.1%	43.1%	40.7%	42.3%	13.8%	30.5%
4	19.8%	21.3%	14.3%	28.9%	23.5%	7.4%	47.7%	43.0%	34.6%	12.1%	24.7%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学の授業や授業以外の学習で、次のようなことをどのくらい経験しましたか。



[51] 授業課題のために図書館の資料を利用した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	23.3%	34.3%	3.2%	13.0%	12.8%	19.7%	26.2%	3.7%	5.8%	22.4%	16.7%
2	15.1%	15.7%	12.7%	20.3%	21.5%	27.9%	16.9%	12.6%	23.1%	20.7%	18.6%
3	19.8%	21.3%	19.0%	25.0%	30.2%	23.0%	29.2%	16.3%	32.7%	17.2%	23.0%
4	40.7%	27.8%	65.1%	41.7%	35.6%	29.5%	27.7%	67.4%	38.5%	39.7%	41.4%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[52] 授業課題のためにWeb上の情報を利用した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.9%		1.5%	0.7%	1.6%	4.6%	0.7%	1.9%		1.2%
2	3.5%	7.4%		4.4%	4.0%	6.6%	4.6%	2.2%	5.8%	3.4%	4.3%
3	19.8%	22.2%	11.1%	27.9%	28.2%	25.4%	32.3%	25.2%	34.6%	24.1%	24.8%
4	75.6%	67.6%	88.9%	66.2%	67.1%	66.4%	58.5%	71.9%	57.7%	72.4%	69.5%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[53] インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1			3.2%	0.4%	0.7%				1.9%		0.5%
2	2.3%	3.7%		3.3%	2.7%	5.7%	3.1%	1.5%	3.8%	5.2%	3.1%
3	8.1%	17.6%	9.5%	19.9%	22.1%	18.9%	23.1%	14.1%	26.9%	15.5%	17.3%
4	88.4%	77.8%	87.3%	76.5%	74.5%	75.4%	73.8%	84.4%	67.3%	79.3%	78.9%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[54] 提出期限までに授業課題を完成できなかった

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	23.3%	22.2%	68.3%	15.9%	8.7%	13.1%	21.5%	20.0%	25.0%	17.2%	21.5%
2	23.3%	24.1%	14.3%	26.6%	25.5%	27.9%	29.2%	29.6%	15.4%	19.0%	24.5%
3	20.9%	22.2%	11.1%	26.8%	28.2%	31.1%	20.0%	26.7%	21.2%	27.6%	24.5%
4	31.4%	30.6%	6.3%	30.8%	37.6%	27.9%	29.2%	23.7%	38.5%	36.2%	29.4%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔55〕 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	2.8%	3.2%	4.8%	4.7%	5.7%		4.4%	9.6%	5.2%	4.1%
2	5.8%	8.3%	3.2%	8.2%	6.7%	13.9%	1.5%	7.4%	9.6%	8.6%	7.6%
3	20.9%	25.0%	11.1%	31.5%	34.2%	35.2%	30.8%	28.9%	23.1%	27.6%	27.8%
4	70.9%	63.0%	82.5%	55.1%	54.4%	45.1%	67.7%	57.8%	57.7%	58.6%	60.0%
99_未回答	1.2%	0.9%		0.4%				1.5%			0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔56〕 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	51.2%	62.0%	76.2%	63.1%	61.1%	67.2%	64.6%	66.7%	48.1%	53.4%	62.1%
2	17.4%	18.5%	17.5%	18.5%	18.8%	20.5%	9.2%	17.8%	26.9%	22.4%	18.6%
3	16.3%	10.2%	3.2%	11.9%	12.8%	9.0%	10.8%	11.1%	19.2%	10.3%	11.3%
4	14.0%	8.3%	3.2%	6.5%	7.4%	3.3%	15.4%	4.4%	5.8%	13.8%	7.8%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔57〕 授業を欠席した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	19.8%	13.0%	30.2%	12.2%	9.4%	13.1%	18.5%	13.3%	7.7%	13.8%	14.6%
2	24.4%	21.3%	20.6%	25.2%	28.2%	22.1%	20.0%	25.9%	28.8%	20.7%	24.0%
3	15.1%	20.4%	19.0%	24.7%	24.8%	29.5%	24.6%	20.7%	23.1%	22.4%	22.6%
4	39.5%	44.4%	30.2%	37.9%	37.6%	35.2%	36.9%	40.0%	40.4%	43.1%	38.7%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔58〕 授業に遅刻した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	31.4%	23.1%	39.7%	25.2%	16.8%	23.8%	24.6%	33.3%	32.7%	27.6%	26.8%
2	22.1%	21.3%	19.0%	22.4%	26.2%	22.1%	20.0%	18.5%	25.0%	13.8%	21.4%
3	12.8%	17.6%	19.0%	19.1%	21.5%	19.7%	16.9%	20.7%	9.6%	20.7%	18.4%
4	32.6%	37.0%	22.2%	33.3%	35.6%	34.4%	38.5%	27.4%	32.7%	37.9%	33.2%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔59〕 授業をつまらなく感じた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	3.7%	11.1%	3.3%	4.0%	2.5%	6.2%	1.5%	3.8%	5.2%	4.2%
2	11.6%	21.3%	23.8%	20.1%	19.5%	17.2%	15.4%	23.0%	26.9%	17.2%	19.5%
3	37.2%	36.1%	36.5%	40.5%	38.9%	45.1%	41.5%	40.7%	32.7%	37.9%	39.1%
4	45.3%	38.0%	28.6%	36.1%	37.6%	35.2%	36.9%	34.8%	36.5%	39.7%	37.0%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔60〕 授業中に居眠りをした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	10.5%	7.4%	9.5%	14.7%	14.8%	16.4%	6.2%	15.6%	19.2%	17.2%	13.1%
2	16.3%	19.4%	22.2%	23.1%	22.8%	28.7%	13.8%	21.5%	26.9%	15.5%	21.4%
3	27.9%	31.5%	30.2%	31.2%	32.9%	29.5%	36.9%	30.4%	25.0%	29.3%	30.7%
4	44.2%	40.7%	38.1%	31.0%	29.5%	25.4%	43.1%	32.6%	28.8%	37.9%	34.6%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔61〕 学内での学習支援を受けた(教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	57.0%	53.7%	63.5%	53.9%	48.3%	62.3%	53.8%	53.3%	51.9%	55.2%	55.0%
2	19.8%	19.4%	12.7%	21.8%	25.5%	19.7%	20.0%	21.5%	19.2%	20.7%	20.5%
3	10.5%	15.7%	11.1%	15.7%	16.1%	12.3%	16.9%	17.0%	17.3%	6.9%	14.2%
4	11.6%	10.2%	12.7%	8.6%	10.1%	5.7%	9.2%	8.1%	11.5%	17.2%	10.0%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔62〕 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	73.3%	49.1%	84.1%	69.0%	59.1%	81.1%	66.2%	72.6%	63.5%	62.1%	67.5%
2	10.5%	16.7%	1.6%	14.0%	22.1%	6.6%	9.2%	12.6%	17.3%	12.1%	12.9%
3	4.7%	12.0%	4.8%	11.5%	13.4%	7.4%	16.9%	10.4%	11.5%	15.5%	10.6%
4	10.5%	21.3%	9.5%	5.5%	5.4%	4.9%	7.7%	4.4%	7.7%	10.3%	8.7%
99_未回答	1.2%	0.9%									0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[63] 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	69.8%	58.3%	55.6%	70.0%	63.8%	77.0%	63.1%	73.3%	71.2%	70.7%	67.4%
2	12.8%	22.2%	27.0%	15.3%	18.8%	13.9%	15.4%	14.1%	11.5%	8.6%	16.3%
3	4.7%	11.1%	11.1%	9.8%	10.7%	7.4%	12.3%	9.6%	9.6%	8.6%	9.4%
4	10.5%	7.4%	6.3%	5.0%	6.7%	1.6%	9.2%	3.0%	7.7%	12.1%	6.4%
99_未回答	2.3%	0.9%									0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[64] 教員に親近感を感じた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	31.4%	26.9%	33.3%	45.9%	43.0%	58.2%	32.3%	50.4%	30.8%	27.6%	39.7%
2	30.2%	30.6%	30.2%	29.4%	28.2%	25.4%	35.4%	32.6%	26.9%	32.8%	30.0%
3	19.8%	22.2%	27.0%	16.3%	19.5%	12.3%	21.5%	10.4%	25.0%	25.9%	18.9%
4	16.3%	19.4%	6.3%	8.0%	8.1%	4.1%	10.8%	6.7%	17.3%	13.8%	10.6%
99_未回答	2.3%	0.9%	3.2%	0.4%	1.3%						0.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 今年度なってから、次の活動に 1週間あたり どのくらいの時間を費やしましたか。

[65] 授業や実験に出席した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0~1時間未満	1.2%	2.8%		1.0%		4.1%			5.2%	1.4%	
2_1~3時間未満		0.9%	3.2%	1.7%	1.3%	2.5%	1.5%	2.2%	3.4%	1.7%	
3_3~5時間未満		3.7%		2.3%	2.7%	1.6%	4.6%	0.7%	3.8%	1.9%	
4_5~7時間未満		2.8%	3.2%	1.5%	1.3%	3.3%	1.5%	0.7%		1.6%	
5_7~10時間未満	1.2%	13.9%	1.6%	1.9%	4.0%		4.6%	0.7%	1.7%	3.3%	
6_10~15時間未満	1.2%	21.3%	6.3%	9.6%	8.7%	9.8%	4.6%	11.9%	11.5%	8.6%	9.9%
7_15~20時間未満	18.6%	30.6%	19.0%	32.1%	22.1%	55.7%	16.9%	34.8%	17.3%	53.4%	31.0%
8_20~25時間未満	53.5%	14.8%	41.3%	36.1%	44.3%	18.9%	52.3%	30.4%	48.1%	20.7%	34.5%
9_25~30時間未満	23.3%	8.3%	20.6%	12.8%	15.4%	2.5%	13.8%	16.3%	19.2%	5.2%	13.4%
0_その他			3.2%	0.8%		1.6%		1.5%		1.7%	0.8%
99_未回答	1.2%	0.9%	1.6%	0.2%				0.7%			0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[66] オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0~1時間未満	83.7%	84.3%	87.3%	90.4%	91.3%	93.4%	81.5%	92.6%	86.5%	77.6%	87.8%
2_1~3時間未満	5.8%	8.3%	9.5%	5.0%	4.7%	5.7%	4.6%	3.7%	7.7%	12.1%	6.3%
3_3~5時間未満	3.5%	1.9%	1.6%	1.1%		0.8%	6.2%		1.9%	3.4%	1.7%
4_5~7時間未満	2.3%	1.9%		0.4%	0.7%			0.7%		1.7%	0.8%
5_7~10時間未満	1.2%	1.9%	1.6%	0.8%	0.7%		3.1%	0.7%		1.7%	1.1%
6_10~15時間未満	1.2%			1.1%	0.7%		1.5%	2.2%	1.9%	1.7%	1.0%
7_15~20時間未満	1.2%			0.4%	1.3%					1.7%	0.5%
9_25~30時間未満				0.2%					1.9%		0.1%
0_その他				0.4%	0.7%		1.5%				0.2%
99_未回答	1.2%	1.9%		0.2%			1.5%				0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[67] 部活動や同好会に参加した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0~1時間未満	57.0%	2.8%	12.7%	35.8%	38.3%	45.9%	13.8%	37.0%	28.8%	22.4%	31.0%
2_1~3時間未満	8.1%	6.5%	9.5%	18.9%	13.4%	24.6%	24.6%	16.3%	21.2%	39.7%	16.9%
3_3~5時間未満	11.6%	12.0%	12.7%	13.0%	13.4%	8.2%	20.0%	11.9%	17.3%	12.1%	12.6%
4_5~7時間未満	9.3%	14.8%	12.7%	9.8%	8.7%	10.7%	12.3%	9.6%	7.7%	12.1%	10.7%
5_7~10時間未満	7.0%	32.4%	39.7%	9.2%	8.7%	3.3%	13.8%	14.8%	3.8%	5.2%	14.0%
6_10~15時間未満	3.5%	19.4%	7.9%	8.0%	10.1%	2.5%	12.3%	7.4%	11.5%	5.2%	8.8%
7_15~20時間未満	2.3%	6.5%	1.6%	1.3%	1.3%	1.6%		0.7%	3.8%	3.4%	2.3%
8_20~25時間未満		2.8%	1.6%	1.9%	2.0%	1.6%	3.1%	1.5%	1.9%		1.7%
9_25~30時間未満		1.9%	1.6%	1.1%	2.0%	0.8%		0.7%	1.9%		1.1%
0_その他				0.8%	2.0%				1.9%		0.5%
99_未回答	1.2%	0.9%		0.2%		0.8%					0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔68〕 学外のアパートや仕事をした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	7.0%	22.2%	3.2%	20.7%	25.5%	21.3%	12.3%	20.7%	15.4%	12.1%	17.5%
2_1～3時間未満	4.7%	9.3%	1.6%	3.3%	4.0%	3.3%	1.5%	2.2%	5.8%	1.7%	3.9%
3_3～5時間未満	7.0%	7.4%	6.3%	5.0%	4.7%	3.3%	10.8%	4.4%	3.8%	1.7%	5.4%
4_5～7時間未満	8.1%	7.4%	3.2%	5.2%	2.7%	7.4%	4.6%	6.7%	3.8%	10.3%	6.0%
5_7～10時間未満	10.5%	16.7%	14.3%	14.7%	12.1%	11.5%	24.6%	17.0%	11.5%	12.1%	14.3%
6_10～15時間未満	23.3%	15.7%	25.4%	23.3%	22.8%	23.0%	24.6%	20.7%	30.8%	24.1%	22.6%
7_15～20時間未満	25.6%	9.3%	27.0%	16.1%	14.1%	18.9%	15.4%	14.8%	19.2%	24.1%	17.5%
8_20～25時間未満	7.0%	7.4%	12.7%	7.5%	7.4%	8.2%	4.6%	10.4%	1.9%	10.3%	8.0%
9_25～30時間未満	4.7%	2.8%	6.3%	3.4%	5.4%	2.5%		3.0%	5.8%	3.4%	3.7%
0_その他	1.2%			0.8%	1.3%	0.8%	1.5%				0.6%
99_未回答	1.2%	1.9%		0.2%					1.9%		0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔69〕 読書をした（マンガ・雑誌を除く）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	55.8%	63.9%	58.7%	62.9%	64.4%	62.3%	72.3%	57.8%	61.5%	67.2%	62.3%
2_1～3時間未満	20.9%	21.3%	28.6%	19.5%	20.1%	20.5%	12.3%	23.7%	13.5%	24.1%	20.9%
3_3～5時間未満	12.8%	4.6%	7.9%	5.7%	4.7%	4.1%	9.2%	5.2%	9.6%	3.4%	6.3%
4_5～7時間未満	3.5%	2.8%	1.6%	4.6%	4.7%	4.1%	1.5%	4.4%	9.6%		3.7%
5_7～10時間未満	2.3%	1.9%	1.6%	3.4%	2.7%	4.1%	3.1%	5.2%			2.7%
6_10～15時間未満	1.2%	1.9%		1.0%	1.3%	0.8%	1.5%		1.9%	1.7%	1.1%
7_15～20時間未満	1.2%	0.9%		0.8%		0.8%		2.2%			0.7%
8_20～25時間未満		0.9%		0.8%	0.7%	0.8%		1.5%		1.7%	0.7%
9_25～30時間未満			1.6%	0.8%		2.5%			1.9%		0.6%
0_その他	1.2%			0.4%	0.7%				1.9%		0.4%
99_未回答	1.2%	1.9%		0.2%	0.7%					1.7%	0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔70〕 個人的な趣味活動をした（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	7.0%	4.6%	3.2%	2.3%	1.3%	3.3%		3.0%	3.8%	5.2%	3.3%
2_1～3時間未満	5.8%	5.6%	11.1%	4.6%	4.0%	5.7%	7.7%	3.0%	3.8%	19.0%	6.3%
3_3～5時間未満	10.5%	13.9%	7.9%	9.0%	8.7%	4.9%	10.8%	11.1%	11.5%	10.3%	9.8%
4_5～7時間未満	17.4%	15.7%	20.6%	8.2%	8.1%	4.9%	4.6%	13.3%	7.7%	15.5%	11.6%
5_7～10時間未満	17.4%	20.4%	15.9%	14.7%	14.8%	10.7%	13.8%	20.0%	11.5%	10.3%	15.5%
6_10～15時間未満	8.1%	13.9%	11.1%	13.0%	12.8%	9.0%	15.4%	14.8%	15.4%	10.3%	12.3%
7_15～20時間未満	8.1%	6.5%	15.9%	11.5%	12.1%	10.7%	9.2%	10.4%	17.3%	12.1%	10.9%
8_20～25時間未満	11.6%	5.6%	4.8%	14.3%	14.1%	18.9%	16.9%	8.9%	15.4%	12.1%	12.1%
9_25～30時間未満	12.8%	12.0%	9.5%	20.1%	21.5%	28.7%	20.0%	14.1%	11.5%	5.2%	16.5%
0_その他				2.3%	2.7%	3.3%	1.5%	1.5%	1.9%		1.4%
99_未回答	1.2%	1.9%									0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔71〕（授業時間外に）授業に関連する次の勉強をした

- ・授業の予習（予習課題に取り組んだり、ノートや教科書の内容を確認する時間など）
- ・授業の復習、宿題
- ・レポート作成
- ・グループワーク
- ・実験・演習のコマ時間以外に取り組んだ時間
- ・正課題の授業関連イベント
- ・科目の学修に密接に関係する資格の勉強

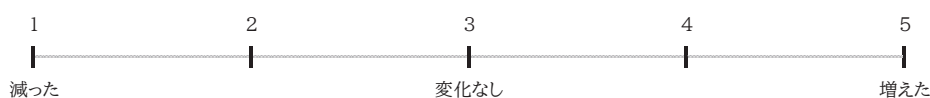
	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	3.5%	5.6%	6.3%	4.2%	6.7%	2.5%	7.7%	2.2%	1.9%	10.3%	4.9%
2_1～3時間未満	5.8%	16.7%	4.8%	5.5%	3.4%	11.5%	7.7%	2.2%	3.8%	8.6%	7.2%
3_3～5時間未満	11.6%	19.4%	17.5%	16.1%	16.8%	21.3%	21.5%	9.6%	11.5%	15.5%	16.1%
4_5～7時間未満	12.8%	11.1%	15.9%	23.3%	24.8%	24.6%	23.1%	22.2%	19.2%	25.9%	20.3%
5_7～10時間未満	22.1%	18.5%	15.9%	19.9%	18.8%	18.9%	10.8%	25.9%	21.2%	17.2%	19.5%
6_10～15時間未満	22.1%	11.1%	20.6%	16.8%	15.4%	16.4%	16.9%	18.5%	17.3%	13.8%	16.7%
7_15～20時間未満	15.1%	13.0%	11.1%	8.0%	5.4%	2.5%	6.2%	13.3%	17.3%	6.9%	9.5%
8_20～25時間未満	1.2%	1.9%	4.8%	4.4%	6.7%	1.6%	3.1%	4.4%	5.8%	1.7%	3.6%
9_25～30時間未満	4.7%	0.9%	3.2%	1.5%	2.0%	0.8%	1.5%	1.5%	1.9%		1.8%
0_その他				0.2%			1.5%				0.1%
99_未回答	1.2%	1.9%									0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔72〕（授業時間外に）授業に関連しない次の勉強をした

- ・オンデマンド授業を含む大学の授業時間（講義、実験、演習）
- ・科目に関係のない資格の勉強

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	38.4%	41.7%	33.3%	36.7%	38.9%	37.7%	49.2%	28.9%	32.7%	46.6%	37.9%
2_1～3時間未満	25.6%	13.0%	25.4%	30.2%	30.9%	33.6%	18.5%	33.3%	26.9%	25.9%	26.8%
3_3～5時間未満	14.0%	15.7%	23.8%	18.2%	18.8%	18.0%	12.3%	19.3%	21.2%	17.2%	17.8%
4_5～7時間未満	8.1%	11.1%	9.5%	6.1%	6.7%	4.1%	6.2%	6.7%	7.7%	6.9%	7.3%
5_7～10時間未満	4.7%	8.3%	6.3%	5.0%	2.7%	1.6%	7.7%	8.1%	7.7%	1.7%	5.3%
6_10～15時間未満	3.5%	2.8%	1.6%	2.1%	0.7%	4.1%	4.6%	1.5%			2.1%
7_15～20時間未満	2.3%	2.8%		0.6%	0.7%	0.8%		0.7%		1.7%	1.1%
8_20～25時間未満	1.2%	2.8%		0.6%	0.7%			0.7%	1.9%		0.8%
9_25～30時間未満	1.2%			0.4%				0.7%	1.9%		0.4%
0_その他				0.2%			1.5%				0.1%
99_未回答	1.2%	1.9%									0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化しましたか。



[73] 一般的な教養

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	3.7%		0.6%	1.6%	1.5%			1.1%		
2	3.5%	4.6%	4.8%	2.9%	2.7%	4.1%	3.1%	1.5%	3.8%	1.7%	3.2%
3	22.1%	20.4%	23.8%	25.4%	24.2%	27.0%	27.7%	25.2%	23.1%	17.2%	23.7%
4	52.3%	38.9%	33.3%	52.8%	54.4%	47.5%	46.2%	57.0%	57.7%	51.7%	49.4%
5	17.4%	28.7%	38.1%	17.2%	18.1%	17.2%	18.5%	16.3%	15.4%	27.6%	21.0%
99_未回答	2.3%	3.7%		1.1%	0.7%	2.5%	3.1%			1.7%	1.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[74] 分析力や問題解決能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	2.8%		0.2%	0.7%					0.7%	
2	3.5%	4.6%		3.6%	4.0%	0.8%	6.2%	3.0%	7.7%	1.7%	3.3%
3	32.6%	37.0%	25.4%	28.1%	26.2%	31.1%	29.2%	27.4%	26.9%	20.7%	29.0%
4	41.9%	31.5%	42.9%	54.9%	54.4%	55.7%	47.7%	58.5%	53.8%	53.4%	49.5%
5	17.4%	20.4%	31.7%	12.0%	14.1%	9.8%	13.8%	11.1%	11.5%	22.4%	15.9%
99_未回答	2.3%	3.7%		1.1%	0.7%	2.5%	3.1%			1.7%	1.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[75] 専門分野や学科の知識

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		0.9%		0.2%	0.7%					0.2%	
2	3.5%	2.8%		1.9%	2.7%	1.6%	1.5%	1.5%	1.9%	1.9%	
3	16.3%	12.0%	4.8%	12.8%	10.7%	12.3%	12.3%	11.9%	23.1%	22.4%	13.1%
4	44.2%	31.5%	27.0%	52.2%	58.4%	44.3%	41.5%	60.0%	46.2%	53.4%	46.9%
5	33.7%	49.1%	68.3%	31.4%	26.2%	38.5%	41.5%	26.7%	28.8%	22.4%	36.0%
99_未回答	2.3%	3.7%		1.5%	1.3%	3.3%	3.1%			1.7%	1.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔76〕 批判的に考える能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		2.8%		0.4%	0.7%			1.9%	1.7%	0.7%	
2	3.5%	1.9%	3.2%	5.4%	6.7%	4.1%	1.5%	6.7%	5.8%	1.7%	4.3%
3	25.6%	37.0%	33.3%	43.0%	38.9%	47.5%	49.2%	40.7%	42.3%	39.7%	39.5%
4	45.3%	36.1%	41.3%	40.9%	43.6%	40.2%	40.0%	42.2%	32.7%	43.1%	40.9%
5	24.4%	19.4%	22.2%	10.1%	9.4%	8.2%	9.2%	10.4%	17.3%	13.8%	14.0%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔77〕 異文化の人々に関する知識

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	3.7%	1.6%	1.7%	2.0%			3.0%	3.8%		1.9%
2	3.5%	2.8%	4.8%	3.4%	2.7%	4.1%	1.5%	3.7%	5.8%		3.2%
3	34.9%	38.9%	34.9%	48.8%	52.3%	58.2%	36.9%	40.7%	51.9%	13.8%	42.6%
4	30.2%	30.6%	39.7%	34.8%	32.2%	28.7%	43.1%	40.7%	30.8%	50.0%	35.2%
5	27.9%	21.3%	19.0%	11.1%	10.1%	9.0%	18.5%	11.9%	7.7%	36.2%	16.5%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔78〕 リーダーシップの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.7%	5.6%		2.7%	2.0%	2.5%	1.5%	3.0%	5.8%		2.9%
2	8.1%	5.6%	11.1%	7.3%	7.4%	4.9%	6.2%	10.4%	5.8%	5.2%	7.3%
3	44.2%	48.1%	47.6%	59.5%	58.4%	61.5%	58.5%	59.3%	59.6%	37.9%	54.1%
4	27.9%	22.2%	25.4%	24.1%	24.8%	25.4%	26.2%	23.0%	19.2%	43.1%	25.7%
5	14.0%	15.7%	15.9%	6.3%	6.7%	5.7%	7.7%	4.4%	9.6%	13.8%	9.5%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔79〕 人間関係を構築する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	1.9%		1.3%	2.7%	0.8%		1.5%		1.7%	1.3%
2	2.3%	5.6%		7.3%	7.4%	6.6%	3.1%	8.1%	11.5%	1.7%	5.6%
3	22.1%	26.9%	20.6%	33.3%	32.9%	36.9%	36.9%	25.9%	40.4%	27.6%	30.0%
4	44.2%	27.8%	46.0%	39.2%	40.9%	34.4%	44.6%	40.7%	34.6%	39.7%	38.8%
5	29.1%	35.2%	33.3%	18.7%	15.4%	21.3%	15.4%	23.7%	13.5%	29.3%	23.7%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔80〕 他の人と協力して物事を遂行する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	1.9%		1.0%	1.3%	1.6%		1.9%	1.0%		
2	2.3%	2.8%		4.0%	4.7%	4.9%	4.6%	2.2%	3.8%	1.7%	3.2%
3	26.7%	30.6%	12.7%	34.2%	34.9%	36.9%	32.3%	30.4%	38.5%	17.2%	30.2%
4	38.4%	34.3%	42.9%	43.6%	43.6%	39.3%	46.2%	49.6%	34.6%	51.7%	42.4%
5	30.2%	27.8%	44.4%	17.0%	14.8%	17.2%	16.9%	17.8%	21.2%	29.3%	22.7%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔81〕 異文化の人々と協力する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	6.5%	3.2%	2.9%	4.7%	1.6%		2.2%	5.8%	1.7%	3.2%
2	4.7%	5.6%	6.3%	5.0%	4.7%	3.3%	3.1%	6.7%	7.7%		4.8%
3	34.9%	51.9%	61.9%	60.8%	56.4%	74.6%	55.4%	55.6%	61.5%	32.8%	55.1%
4	31.4%	18.5%	19.0%	24.9%	26.2%	15.6%	33.8%	29.6%	19.2%	37.9%	25.2%
5	25.6%	14.8%	9.5%	6.3%	7.4%	4.9%	7.7%	5.9%	5.8%	27.6%	11.1%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔82〕 地域社会が直面する問題を理解する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	2.8%	1.6%	0.8%	1.3%			0.7%	1.9%		1.2%
2	5.8%	4.6%	4.8%	4.6%	5.4%	4.1%	1.5%	5.2%	5.8%	1.7%	4.5%
3	37.2%	38.9%	27.0%	56.2%	56.4%	56.6%	50.8%	56.3%	61.5%	19.0%	47.3%
4	37.2%	32.4%	52.4%	31.2%	29.5%	32.8%	36.9%	31.9%	23.1%	50.0%	34.8%
5	16.3%	18.5%	14.3%	6.9%	6.7%	5.7%	10.8%	5.9%	7.7%	29.3%	11.5%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.4%	0.7%	0.8%					0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔83〕 国民が直面する問題を理解する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	4.6%	1.6%	0.4%	0.7%			0.7%	1.7%	1.2%	
2	3.5%	4.6%	6.3%	4.8%	6.0%	3.3%	1.5%	5.2%	7.7%		4.4%
3	39.5%	45.4%	39.7%	54.9%	45.6%	57.4%	61.5%	56.3%	63.5%	34.5%	49.5%
4	39.5%	25.0%	38.1%	31.9%	38.3%	28.7%	30.8%	32.6%	21.2%	43.1%	33.1%
5	15.1%	17.6%	14.3%	7.8%	8.7%	10.7%	6.2%	5.2%	7.7%	20.7%	11.2%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔84〕文章表現の能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	2.8%		1.1%	2.0%	0.8%		0.7%	1.9%	1.7%	1.4%
2	7.0%	7.4%	7.9%	4.4%	5.4%	4.9%	3.1%	2.2%	7.7%	3.4%	5.3%
3	25.6%	35.2%	34.9%	39.6%	40.9%	36.1%	47.7%	32.6%	51.9%	31.0%	36.6%
4	32.6%	34.3%	28.6%	43.6%	37.6%	46.7%	36.9%	54.8%	32.7%	46.6%	40.3%
5	31.4%	17.6%	28.6%	11.1%	13.4%	11.5%	12.3%	9.6%	5.8%	17.2%	15.8%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔85〕外国語の運用能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.8%	9.3%	7.9%	3.3%	3.4%	4.1%	1.5%	2.2%	5.8%	1.7%	4.5%
2	12.8%	17.6%	11.1%	15.9%	16.8%	14.8%	16.9%	13.3%	21.2%	5.2%	14.7%
3	37.2%	31.5%	47.6%	43.4%	45.6%	45.9%	40.0%	41.5%	40.4%	15.5%	39.6%
4	26.7%	23.1%	23.8%	30.8%	26.2%	27.9%	33.8%	37.8%	28.8%	46.6%	30.0%
5	16.3%	15.7%	9.5%	6.5%	7.4%	7.4%	7.7%	5.2%	3.8%	31.0%	10.6%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔86〕コミュニケーションの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.9%		1.9%	4.7%	1.6%			1.9%	1.7%	1.6%
2	5.8%	0.9%	1.6%	4.6%	5.4%	4.9%	1.5%	3.7%	7.7%	3.4%	3.9%
3	27.9%	36.1%	23.8%	35.2%	36.2%	33.6%	38.5%	28.1%	50.0%	22.4%	32.8%
4	29.1%	34.3%	47.6%	43.4%	38.9%	44.3%	46.2%	52.6%	26.9%	48.3%	41.4%
5	36.0%	24.1%	27.0%	14.7%	14.1%	15.6%	13.8%	15.6%	13.5%	24.1%	19.7%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔87〕プレゼンテーションの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	1.9%	1.6%	0.6%	0.7%			0.7%	1.9%		1.0%
2	3.5%	3.7%		3.3%	4.0%	1.6%	4.6%	3.7%	1.9%	1.7%	3.0%
3	27.9%	45.4%	28.6%	42.1%	38.3%	38.5%	29.2%	48.1%	61.5%	24.1%	38.8%
4	33.7%	31.5%	41.3%	42.1%	46.3%	43.4%	47.7%	38.5%	28.8%	55.2%	40.7%
5	31.4%	14.8%	28.6%	11.9%	10.1%	16.4%	18.5%	8.9%	5.8%	19.0%	16.0%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.2%	0.7%						0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔88〕 数理的な能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.8%	7.4%	15.9%	1.9%	1.3%	3.3%	3.1%	0.7%	1.9%	5.2%	4.3%
2	10.5%	21.3%	15.9%	5.5%	6.0%	4.9%	7.7%	5.2%	3.8%	24.1%	10.1%
3	39.5%	37.0%	47.6%	30.2%	30.2%	25.4%	33.8%	33.3%	28.8%	37.9%	33.9%
4	25.6%	16.7%	11.1%	46.5%	45.6%	47.5%	40.0%	49.6%	46.2%	24.1%	36.3%
5	16.3%	14.8%	9.5%	15.7%	16.1%	18.9%	15.4%	11.1%	19.2%	8.6%	14.7%
99_未回答	2.3%	2.8%		0.2%	0.7%						0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔89〕 コンピュータの操作能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	0.9%	1.6%	0.6%		0.8%			3.8%		0.7%
2	1.2%		3.2%	1.7%	2.0%	1.6%	3.1%	0.7%	1.9%	3.4%	1.7%
3	25.6%	27.8%	20.6%	19.9%	16.1%	13.1%	26.2%	20.0%	38.5%	15.5%	21.2%
4	34.9%	42.6%	55.6%	46.7%	50.3%	39.3%	53.8%	47.4%	42.3%	53.4%	46.1%
5	34.9%	25.9%	19.0%	31.0%	30.9%	45.1%	16.9%	31.9%	13.5%	27.6%	29.6%
99_未回答	2.3%	2.8%		0.2%	0.7%						0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔90〕 時間を効果的に利用する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.3%	3.7%		3.1%	1.3%	6.6%	3.1%	2.2%	1.9%		2.6%
2	5.8%	11.1%	4.8%	7.5%	7.4%	10.7%	4.6%	6.7%	5.8%	1.7%	7.2%
3	27.9%	31.5%	19.0%	37.5%	40.3%	37.7%	40.0%	30.4%	44.2%	37.9%	34.4%
4	38.4%	26.9%	49.2%	40.9%	40.9%	36.1%	41.5%	45.2%	40.4%	46.6%	39.9%
5	23.3%	23.1%	27.0%	10.9%	9.4%	9.0%	10.8%	15.6%	7.7%	13.8%	15.2%
99_未回答	2.3%	3.7%		0.2%	0.7%						0.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔91〕 グローバルな問題の理解

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.2%	3.7%	4.8%	1.7%	2.7%			0.7%	7.7%		2.0%
2	4.7%	2.8%	1.6%	2.9%	0.7%	4.9%	1.5%	3.0%	5.8%	1.7%	2.9%
3	39.5%	50.9%	47.6%	56.2%	51.7%	61.5%	52.3%	57.8%	57.7%	24.1%	51.0%
4	36.0%	23.1%	33.3%	32.5%	38.3%	27.0%	36.9%	33.3%	21.2%	51.7%	33.1%
5	16.3%	16.7%	12.7%	6.5%	6.0%	6.6%	9.2%	5.2%	7.7%	22.4%	10.4%
99_未回答	2.3%	2.8%		0.2%	0.7%						0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔92〕 就職するための準備の度合い

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.8%	6.5%	4.8%	2.1%	2.7%	0.8%		1.5%	7.7%	1.7%	3.2%
2	9.3%	4.6%	1.6%	3.4%	2.0%	3.3%	1.5%	5.2%	5.8%	1.7%	3.9%
3	41.9%	56.5%	52.4%	62.5%	55.0%	68.9%	58.5%	69.6%	55.8%	62.1%	58.8%
4	31.4%	17.6%	28.6%	25.2%	32.9%	23.0%	29.2%	18.5%	21.2%	24.1%	25.1%
5	10.5%	12.0%	12.7%	6.3%	6.7%	4.1%	9.2%	5.2%	9.6%	10.3%	8.2%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.4%	0.7%		1.5%				0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

V. 将来のことについて

〔93〕 大学(学部)卒業後、どのような進路を考えていますか。(1つ)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_就職する	74.4%	81.5%	74.6%	18.0%	12.1%	22.1%	26.2%	15.6%	21.2%	91.4%	41.3%
2_大学院に進学する	8.1%	0.9%	1.6%	51.8%	62.4%	46.7%	36.9%	52.6%	50.0%	1.7%	33.5%
3_他大学に(編)入学する		1.9%	1.6%	3.8%	3.4%	1.6%	7.7%	2.2%	9.6%		2.7%
4_専門学校に入学する		0.9%	1.6%	1.1%	0.7%	0.8%	1.5%	2.2%			1.0%
5_まだわからない	16.3%	12.0%	20.6%	24.9%	20.8%	28.7%	26.2%	27.4%	19.2%	6.9%	20.8%
99_未回答	1.2%	2.8%		0.4%	0.7%		1.5%				0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 本学の教育改善活動について教えてください。

〔94〕 ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」を掲示板、図書館、食堂や事務室などで見たことがありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_見たことがある	77.9%	53.7%	44.4%	64.6%	59.1%	60.7%	61.5%	75.6%	65.4%	70.7%	63.5%
2_見たことがない	20.9%	41.7%	54.0%	34.4%	40.3%	39.3%	33.8%	23.7%	34.6%	29.3%	35.1%
99_未回答	1.2%	4.6%	1.6%	1.0%	0.7%		4.6%	0.7%			1.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔95〕 様々な学生アンケートの回答を通じて大学がよくなってきていると感じていますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_思う	14.0%	18.5%	4.8%	7.6%	8.7%	2.5%	9.2%	8.9%	11.5%	15.5%	10.0%
2_やや思う	30.2%	38.9%	38.1%	45.7%	49.0%	46.7%	43.1%	43.7%	42.3%	34.5%	41.9%
3_やや思わない	40.7%	21.3%	36.5%	27.5%	24.2%	26.2%	30.8%	28.1%	34.6%	34.5%	29.2%
4_思わない	14.0%	18.5%	19.0%	18.5%	17.4%	24.6%	13.8%	19.3%	11.5%	15.5%	17.9%
99_未回答	1.2%	2.8%	1.6%	0.6%	0.7%		3.1%				1.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

VI. 英語の学習・検定試験について

[96] 英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数ある場合は最長のもの)について1つ選んでください。

(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、インド、シンガポール等 英語圏)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1. 渡航したことはない	91.9%	80.6%	95.2%	93.9%	93.3%	96.7%	87.7%	92.6%	100.0%	84.5%	91.4%
2. 10日未満	1.2%	8.3%	1.6%	1.9%	2.0%	1.6%	3.1%	2.2%		3.4%	2.7%
3. 10日以上-1ヶ月未満	2.3%	4.6%	1.6%	2.7%	3.4%	1.6%	4.6%	3.0%		10.3%	3.3%
4. 1ヶ月以上-6ヶ月未満	2.3%	2.8%		0.2%			1.5%			1.7%	0.8%
5. 6ヶ月以上				0.8%	0.7%			2.2%			0.5%
99. 未回答	2.3%	3.7%	1.6%	0.6%	0.7%		3.1%				1.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[97] 大学入試で高まった英語力を維持向上させるために何かしら取り組んでいますか？

(ラジオ講座で学ぶ、英語の小説を読む、留学生ボランティアになる、TVニュースを英語音声にする等)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1. 取り組んでいる	22.1%	17.6%	14.3%	16.8%	16.1%	17.2%	16.9%	19.3%	11.5%	55.2%	19.9%
2. 取り組んでいない	76.7%	78.7%	84.1%	82.6%	83.2%	82.8%	80.0%	80.7%	88.5%	44.8%	79.0%
99. 未回答	1.2%	3.7%	1.6%	0.6%	0.7%		3.1%				1.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

- 今までに受験したことのある英語の検定試験について、それぞれの試験で取得した級またはスコアの中で最も高いものを教えてください。

[102] 英語の検定試験を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1. 受けたことは ある	70.9%	73.1%	81.0%	59.7%	53.7%	65.6%	58.5%	65.9%	48.1%	96.6%	66.7%
2. 受けたことは ない	27.9%	23.1%	17.5%	39.6%	45.0%	34.4%	40.0%	33.3%	51.9%	1.7%	32.0%
99. 未回答	1.2%	3.7%	1.6%	0.8%	1.3%		1.5%	0.7%		1.7%	1.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[104] 英検(実用英語技能検定)を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1. 受験経験 あり	77.9%	79.6%	84.1%	58.1%	49.0%	64.8%	61.5%	63.7%	50.0%	93.1%	67.3%
2. 受験経験 なし	19.8%	17.6%	12.7%	40.9%	49.7%	35.2%	36.9%	34.8%	50.0%	5.2%	31.1%
99. 未回答	2.3%	2.8%	3.2%	1.0%	1.3%		1.5%	1.5%		1.7%	1.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[107] TOEICテスト(公開テストまたはIPテスト)を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_受験経験 あり	3.5%	3.7%	9.5%	6.5%	12.8%	4.9%	1.5%	3.7%	5.8%	5.2%	6.0%
2_受験経験 なし	93.0%	88.9%	87.3%	91.2%	82.6%	95.1%	96.9%	94.1%	92.3%	91.4%	90.8%
99_未回答	3.5%	7.4%	3.2%	2.3%	4.7%		1.5%	2.2%	1.9%	3.4%	3.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[112] TOEFL ITPテスト(団体受験)を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_受験経験 あり	1.2%	0.9%	1.6%	0.6%	0.7%			1.5%		86.2%	6.7%
2_受験経験 なし	90.7%	88.9%	95.2%	95.8%	95.3%	98.4%	96.9%	94.8%	92.3%	12.1%	88.5%
99_未回答	8.1%	10.2%	3.2%	3.6%	4.0%	1.6%	3.1%	3.7%	7.7%	1.7%	4.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[117] インターネット版 TOEFLテスト(TOEFL iBT)を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_受験経験 あり	2.3%			1.0%	1.3%		1.5%	1.5%		3.4%	1.1%
2_受験経験 なし	87.2%	90.7%	96.8%	94.5%	93.3%	96.7%	95.4%	93.3%	94.2%	87.9%	93.0%
99_未回答	10.5%	9.3%	3.2%	4.6%	5.4%	3.3%	3.1%	5.2%	5.8%	8.6%	6.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2024年度 在学生調査（3年生向け）質問項目

実施日 2024年11月

学部	回答数	対象者数	回答率
教育学部	72	107	67.3%
医学部	175	179	97.8%
医学科	113	116	97.4%
看護学科	62	63	98.4%
工学部	505	559	90.3%
機械・システム工学科	156	170	91.8%
電気電子情報工学科	128	142	90.1%
建築・都市環境工学科	65	68	95.6%
物質・生命化学科	116	135	85.9%
応用物理学科	40	44	90.9%
国際地域学部	42	54	77.8%
総計	794	899	88.3%

I. あなた自身のことについて

[1] 通学にはどのような交通手段を利用していますか。（該当するもの全て選択）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1.電車	4.9%			4.0%	7.5%	4.2%		1.8%	1.7%	11.5%	3.8%
2.バス、タクシー	1.0%	2.4%		0.5%	0.8%	0.5%		0.6%		1.6%	0.8%
3.自動車(自分で運転)	41.7%	27.6%	37.0%	13.4%	8.7%	11.0%	15.7%	18.7%	22.0%	26.2%	19.7%
4.自動車(送迎)	4.9%	1.6%		2.1%	0.8%	2.1%	3.7%	1.8%	5.1%	1.6%	2.1%
5.バイク	1.0%	0.8%	1.4%	1.3%	1.6%	0.5%	1.9%	1.2%	1.7%	1.6%	1.2%
6.自転車	19.4%	6.3%	8.2%	33.7%	33.1%	38.2%	32.4%	29.5%	35.6%	29.5%	27.5%
7.徒歩	27.2%	61.4%	53.4%	45.1%	47.6%	43.5%	46.3%	46.4%	33.9%	27.9%	44.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[2] 片道の通学時間はどれくらいですか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1.15分未満	41.7%	73.5%	67.7%	68.9%	65.8%	70.3%	74.6%	69.8%	64.4%	45.2%	65.8%
2.15分以上-30分未満	31.9%	18.6%	11.3%	17.3%	16.8%	16.4%	14.1%	19.8%	20.0%	26.2%	18.8%
3.30分以上-1時間未満	19.4%	4.4%	16.1%	8.3%	6.8%	9.4%	9.9%	6.9%	11.1%	21.4%	10.0%
4.1時間以上-1時間30分未満	5.6%	2.7%	4.8%	3.6%	5.6%	3.9%	1.4%	2.6%	2.2%	4.8%	3.8%
5.1時間30分以上-2時間未満	1.4%	0.9%		1.9%	5.0%			0.9%	2.2%	2.4%	1.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔3〕現在の居住形態は次のうちどれですか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_家族または親戚と暮らしている	58.3%	18.6%	32.3%	20.0%	10.6%	19.5%	21.1%	25.0%	40.0%	45.2%	25.4%
2_アパート・学生マンションでひとり暮らし	41.7%	78.8%	67.7%	75.8%	85.1%	77.3%	74.6%	71.6%	51.1%	50.0%	71.2%
3_大学寮や宿所		2.7%		4.0%	4.3%	3.1%	4.2%	3.4%	6.7%	4.8%	3.2%
4_その他				0.2%					2.2%		0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔4〕食事を 1週間あたり どのくらいの回数をとりますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0~6回			3.2%	1.0%	0.6%	0.8%		1.7%	2.2%		0.9%
2_7~9回				2.5%	3.7%	1.6%		3.4%	2.2%	2.4%	1.7%
3_10~12回	5.6%	7.1%	4.8%	10.6%	9.9%	14.1%	5.6%	10.3%	11.1%	2.4%	8.8%
4_13~15回	44.4%	19.5%	27.4%	33.4%	34.8%	29.7%	38.0%	36.2%	24.4%	35.7%	32.1%
5_16~18回	16.7%	23.0%	8.1%	24.2%	25.5%	26.6%	19.7%	20.7%	28.9%	19.0%	21.9%
6_19~21回	33.3%	43.4%	56.5%	25.3%	24.2%	25.8%	28.2%	25.0%	24.4%	40.5%	31.7%
7_22回以上		7.1%		2.9%	1.2%	1.6%	7.0%	2.6%	6.7%		2.8%
99_未回答				0.2%			1.4%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅱ. 大学生活に対するあなたの考えや満足度について

● 大学の教育内容・環境に満足していますか。



〔5〕総合的に考えて 福井大学での学生生活は 充実している。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				1.7%	3.7%			1.7%	2.2%		1.1%
2	5.6%	3.5%	1.6%	7.3%	8.7%	7.0%	5.6%	5.2%	11.1%	9.5%	6.3%
3	22.2%	33.6%	12.9%	30.3%	34.8%	32.0%	28.2%	23.3%	31.1%	11.9%	27.8%
4	45.8%	38.9%	58.1%	42.4%	37.9%	45.3%	38.0%	45.7%	48.9%	40.5%	43.3%
5	26.4%	22.1%	27.4%	17.3%	13.7%	15.6%	28.2%	23.3%	2.2%	38.1%	20.6%
99_未回答		1.8%		1.0%	1.2%			0.9%	4.4%		0.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔6〕 総合的に考えて 福井大学での学生生活に 満足している。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				1.3%	2.5%	0.8%		0.9%	2.2%		0.9%
2	5.6%	0.9%		7.5%	8.7%	5.5%	4.2%	8.6%	11.1%	7.1%	5.8%
3	27.8%	38.9%	16.1%	28.4%	33.5%	27.3%	26.8%	22.4%	31.1%	14.3%	28.1%
4	40.3%	38.1%	54.8%	45.5%	41.0%	50.8%	39.4%	47.4%	51.1%	47.6%	44.8%
5	26.4%	22.1%	29.0%	17.3%	14.3%	15.6%	29.6%	20.7%	4.4%	31.0%	20.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔7〕 専門教育あるいは所属学科の授業

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				1.9%	2.5%	0.8%	2.8%	1.7%	2.2%		1.2%
2	8.3%	3.5%	1.6%	6.1%	9.3%	3.9%	7.0%	1.7%	11.1%	2.4%	5.4%
3	25.0%	32.7%	25.8%	35.9%	37.3%	49.2%	18.3%	29.3%	37.8%	35.7%	33.7%
4	36.1%	43.4%	48.4%	44.5%	41.6%	35.2%	54.9%	51.7%	46.7%	47.6%	44.1%
5	30.6%	20.4%	24.2%	11.5%	9.3%	10.9%	16.9%	15.5%	2.2%	14.3%	15.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔8〕 2年次生または3年次生を対象としたゼミ（演習）などの教育内容

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	0.9%	1.6%	1.3%	2.5%		1.4%		4.4%	2.4%	1.4%
2	1.4%	8.0%	3.2%	6.9%	6.8%	7.8%	8.5%	5.2%	6.7%	9.5%	6.4%
3	25.0%	48.7%	33.9%	48.6%	47.2%	58.6%	35.2%	42.2%	62.2%	38.1%	44.8%
4	27.8%	29.2%	40.3%	33.6%	36.0%	26.6%	40.8%	37.1%	24.4%	33.3%	33.0%
5	44.4%	13.3%	21.0%	9.6%	7.5%	7.0%	14.1%	15.5%	2.2%	16.7%	14.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔9〕 授業の全体的な質

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.8%		1.2%	2.5%	0.8%			2.2%		1.0%
2	5.6%	3.5%	4.8%	8.4%	6.8%	11.7%	7.0%	6.9%	11.1%	4.8%	7.0%
3	37.5%	44.2%	32.3%	42.8%	47.2%	44.5%	25.4%	40.5%	55.6%	50.0%	42.1%
4	40.3%	35.4%	45.2%	38.8%	37.9%	36.7%	53.5%	37.1%	28.9%	33.3%	38.6%
5	16.7%	15.0%	17.7%	8.8%	5.6%	6.3%	14.1%	15.5%	2.2%	11.9%	11.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔10〕日常生活と授業内容との関連

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	3.5%		2.3%	3.1%	3.1%		0.9%	4.4%		2.1%
2	9.7%	7.1%	4.8%	15.5%	16.1%	13.3%	12.7%	17.2%	20.0%	9.5%	12.7%
3	54.2%	43.4%	33.9%	44.9%	46.0%	46.1%	35.2%	44.8%	53.3%	45.2%	44.7%
4	19.4%	32.7%	43.5%	28.6%	30.4%	29.7%	31.0%	25.9%	22.2%	26.2%	29.4%
5	15.3%	13.3%	17.7%	8.6%	4.3%	7.8%	21.1%	11.2%		19.0%	11.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔11〕将来の仕事と授業内容の結びつき

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	1.8%		1.9%	1.9%	0.8%	1.4%	0.9%	8.9%	2.4%	1.7%
2	2.8%			10.2%	8.7%	8.6%	4.2%	13.8%	20.0%	14.3%	7.5%
3	18.1%	27.4%	16.1%	35.1%	38.5%	40.6%	14.1%	31.0%	51.1%	38.1%	31.2%
4	40.3%	31.0%	43.5%	37.2%	37.3%	39.8%	45.1%	36.2%	20.0%	26.2%	36.5%
5	37.5%	39.8%	40.3%	15.5%	13.7%	10.2%	35.2%	18.1%		19.0%	23.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔12〕教員と話をする機会

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	4.4%	1.6%	3.8%	3.7%	3.9%	2.8%	2.6%	8.9%		3.3%
2	9.7%	8.8%	6.5%	22.3%	26.1%	21.1%	8.5%	24.1%	28.9%	14.3%	17.7%
3	20.8%	41.6%	35.5%	45.7%	42.2%	55.5%	43.7%	41.4%	44.4%	28.6%	41.2%
4	43.1%	31.0%	30.6%	19.2%	21.7%	12.5%	29.6%	17.2%	17.8%	28.6%	24.3%
5	25.0%	14.2%	25.8%	9.0%	6.2%	7.0%	15.5%	14.7%		28.6%	13.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔13〕学習支援や個別の学習指導

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	3.5%	4.8%	4.8%	6.8%	4.7%	1.4%	3.4%	6.7%	2.4%	4.2%
2	15.3%	13.3%	6.5%	22.3%	28.6%	13.3%	25.4%	21.6%	22.2%	19.0%	19.0%
3	34.7%	46.0%	40.3%	47.8%	44.1%	57.0%	38.0%	50.9%	42.2%	38.1%	45.3%
4	23.6%	25.7%	32.3%	19.2%	18.0%	19.5%	26.8%	12.1%	28.9%	26.2%	21.9%
5	25.0%	11.5%	16.1%	6.0%	2.5%	5.5%	8.5%	12.1%		14.3%	9.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[14] 他の学生と話をする機会

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.4%	0.9%	3.2%	3.1%	3.7%	2.3%	4.2%	2.6%	2.2%	2.5%
2	5.6%	2.7%		14.6%	15.5%	16.4%	15.5%	11.2%	13.3%	7.1%
3	15.3%	34.5%	19.4%	34.0%	36.6%	36.7%	21.1%	26.7%	55.6%	31.0%
4	34.7%	34.5%	45.2%	33.0%	33.5%	31.3%	31.0%	37.9%	26.7%	31.0%
5	43.1%	27.4%	32.3%	15.4%	10.6%	13.3%	28.2%	21.6%	2.2%	31.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[15] 大学のなかでの学生同士の一体感

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		0.9%	1.6%	6.0%	7.5%	3.9%	2.8%	7.8%	6.7%	4.8%
2	11.1%	7.1%	4.8%	20.7%	21.1%	23.4%	15.5%	19.8%	22.2%	14.3%
3	30.6%	36.3%	24.2%	44.1%	43.5%	48.4%	36.6%	42.2%	51.1%	52.4%
4	31.9%	34.5%	41.9%	22.3%	23.6%	18.8%	28.2%	21.6%	20.0%	19.0%
5	26.4%	21.2%	27.4%	6.9%	4.3%	5.5%	16.9%	8.6%		9.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

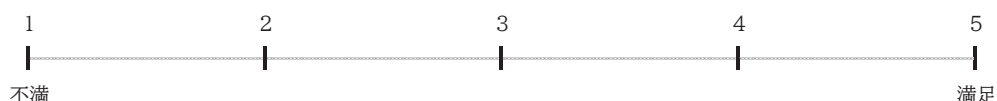
[16] 多様な考え方を認め合う雰囲気

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.4%	0.9%		2.3%	2.5%	1.6%	2.8%	1.7%	4.4%	1.7%
2	2.8%	8.8%	1.6%	10.6%	12.4%	7.0%	4.2%	13.8%	15.6%	7.1%
3	29.2%	38.9%	29.0%	44.1%	48.4%	48.4%	33.8%	39.7%	44.4%	33.3%
4	40.3%	29.2%	38.7%	32.4%	31.1%	33.6%	35.2%	30.2%	35.6%	26.2%
5	26.4%	22.1%	30.6%	10.6%	5.6%	9.4%	23.9%	14.7%		33.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[17] 1つの教室で学ぶ学生数

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		1.8%		3.6%	5.0%	0.8%		7.8%	2.2%	2.6%
2	2.8%	9.7%	1.6%	9.8%	9.3%	11.7%	4.2%	13.8%	4.4%	7.1%
3	26.4%	43.4%	17.7%	41.7%	47.2%	40.6%	28.2%	43.1%	42.2%	33.3%
4	44.4%	28.3%	41.9%	30.5%	27.3%	35.2%	36.6%	22.4%	40.0%	31.0%
5	26.4%	16.8%	38.7%	14.4%	11.2%	11.7%	31.0%	12.9%	11.1%	28.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学の設備や学生支援制度に満足していますか。



[18] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				1.5%	3.1%		1.4%	1.7%		4.8%	1.2%
2	4.2%	7.1%	1.6%	5.2%	5.6%	2.3%	2.8%	6.9%	11.1%	9.5%	5.3%
3	26.4%	18.6%	9.7%	28.0%	37.3%	28.9%	23.9%	17.2%	26.7%	31.0%	25.3%
4	31.9%	25.7%	32.3%	40.5%	35.4%	39.8%	33.8%	47.4%	53.3%	40.5%	37.0%
5	37.5%	48.7%	56.5%	24.4%	18.6%	28.1%	38.0%	25.9%	8.9%	14.3%	30.9%
99_未回答				0.4%		0.8%		0.9%			0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[19] 実験室の設備や器具

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%			1.7%	1.9%	1.6%	2.8%	1.7%		7.1%	1.6%
2	5.6%	0.9%	1.6%	6.0%	6.8%	6.3%	7.0%	5.2%	2.2%	7.1%	4.9%
3	33.3%	29.2%	29.0%	34.9%	35.4%	39.1%	40.8%	19.8%	51.1%	61.9%	34.9%
4	33.3%	37.2%	37.1%	37.6%	40.4%	36.7%	21.1%	49.1%	26.7%	16.7%	36.0%
5	26.4%	32.7%	32.3%	19.6%	14.9%	16.4%	28.2%	24.1%	20.0%	7.1%	22.3%
99_未回答				0.2%	0.6%						0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[20] コンピュータの施設や設備

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	0.9%		2.7%	4.3%	2.3%	1.4%	2.6%		2.4%	2.1%
2	11.1%	4.4%		7.5%	8.1%	10.2%	8.5%	4.3%	4.4%	4.8%	6.7%
3	18.1%	31.9%	21.0%	34.9%	42.2%	28.9%	36.6%	32.8%	28.9%	38.1%	32.1%
4	41.7%	28.3%	41.9%	36.9%	32.3%	37.5%	31.0%	40.5%	51.1%	40.5%	36.7%
5	27.8%	34.5%	37.1%	18.0%	13.0%	21.1%	22.5%	19.8%	15.6%	14.3%	22.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔21〕 コンピュータの訓練や援助

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	0.9%		2.9%	3.7%	1.6%	1.4%	4.3%	2.2%	4.8%	2.6%
2	11.1%	7.1%		11.7%	15.5%	5.5%	16.9%	10.3%	11.1%	7.1%	9.9%
3	29.2%	42.5%	27.4%	43.6%	46.6%	38.3%	39.4%	50.0%	37.8%	45.2%	41.0%
4	33.3%	24.8%	41.9%	27.1%	23.6%	37.5%	21.1%	22.4%	31.1%	28.6%	28.5%
5	22.2%	24.8%	30.6%	14.6%	9.9%	17.2%	21.1%	12.9%	17.8%	14.3%	17.9%
99_未回答				0.2%	0.6%						0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔22〕 インターネットの使いやすさ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	16.7%	14.2%	3.2%	15.4%	20.5%	14.8%	12.7%	14.7%	4.4%	16.7%	14.4%
2	25.0%	23.0%	16.1%	26.9%	29.2%	21.9%	21.1%	31.9%	28.9%	28.6%	25.4%
3	27.8%	36.3%	27.4%	26.9%	29.8%	25.8%	29.6%	19.8%	33.3%	26.2%	28.3%
4	19.4%	11.5%	29.0%	20.9%	13.7%	22.7%	19.7%	27.6%	26.7%	11.9%	19.6%
5	11.1%	15.0%	24.2%	10.0%	6.8%	14.8%	16.9%	6.0%	6.7%	16.7%	12.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔23〕 奨学金など学費援助の制度

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	1.8%		4.0%	5.6%	3.1%	4.2%	3.4%	2.2%		3.2%
2	4.2%	6.2%	1.6%	6.9%	8.1%	3.1%	5.6%	9.5%	8.9%	14.3%	6.5%
3	44.4%	51.3%	41.9%	56.4%	60.2%	60.9%	42.3%	48.3%	73.3%	47.6%	53.1%
4	30.6%	18.6%	38.7%	16.7%	16.1%	17.2%	18.3%	20.7%	4.4%	23.8%	20.2%
5	16.7%	22.1%	17.7%	15.7%	9.9%	14.8%	29.6%	18.1%	11.1%	14.3%	16.8%
99_未回答				0.2%		0.8%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔24〕 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.8%	1.8%		3.1%	5.0%	1.6%	2.8%	2.6%	2.2%	2.4%	2.6%
2	6.9%	5.3%	1.6%	7.7%	9.3%	2.3%	5.6%	10.3%	13.3%	9.5%	6.9%
3	43.1%	39.8%	32.3%	55.1%	57.8%	60.2%	49.3%	49.1%	55.6%	50.0%	49.9%
4	31.9%	26.5%	43.5%	22.5%	19.9%	23.4%	29.6%	20.7%	22.2%	26.2%	25.7%
5	15.3%	26.5%	22.6%	11.5%	8.1%	11.7%	12.7%	17.2%	6.7%	11.9%	14.8%
99_未回答				0.2%		0.8%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔25〕レクリエーション施設（ジムの設備など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	12.5%	4.4%	1.6%	12.9%	19.3%	7.0%	9.9%	14.7%	6.7%	14.3%	10.9%
2	12.5%	13.3%	6.5%	21.7%	20.5%	17.2%	28.2%	21.6%	28.9%	23.8%	18.6%
3	56.9%	40.7%	48.4%	48.2%	45.3%	60.2%	39.4%	43.1%	51.1%	50.0%	48.0%
4	9.7%	19.5%	25.8%	11.9%	11.2%	9.4%	12.7%	15.5%	11.1%	9.5%	13.7%
5	8.3%	22.1%	17.7%	5.2%	3.7%	5.5%	9.9%	5.2%	2.2%	2.4%	8.6%
99_未回答				0.2%		0.8%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔26〕キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	2.7%	3.2%	1.9%	2.5%	2.3%		1.7%	2.2%		2.0%
2	6.9%	10.6%	3.2%	9.4%	9.9%	6.3%	7.0%	12.1%	13.3%	4.8%	8.6%
3	40.3%	49.6%	41.9%	43.4%	50.3%	46.9%	26.8%	39.7%	44.4%	45.2%	44.0%
4	33.3%	22.1%	29.0%	29.4%	26.7%	29.7%	38.0%	25.9%	33.3%	42.9%	29.4%
5	18.1%	15.0%	22.6%	15.9%	10.6%	14.8%	28.2%	20.7%	6.7%	7.1%	16.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学に入学してから、次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。



〔27〕大学の学生向けサービスを上手に利用する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.6%	2.7%	1.6%	6.3%	6.2%	5.5%	5.6%	8.6%	4.4%		5.1%
2	30.6%	23.9%	16.1%	27.8%	32.9%	25.0%	22.5%	26.7%	28.9%	23.8%	26.4%
3	41.7%	43.4%	50.0%	48.2%	46.0%	53.9%	52.1%	42.2%	48.9%	52.4%	47.3%
4	22.2%	29.2%	32.3%	17.1%	13.7%	15.6%	19.7%	21.6%	17.8%	21.4%	20.6%
99_未回答		0.9%		0.6%	1.2%			0.9%		2.4%	0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[28] 大学教員の学問的な期待を理解する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	2.7%		6.1%	8.1%	3.1%	2.8%	7.8%	8.9%	2.4%	4.6%
2	25.0%	20.4%	16.1%	33.8%	36.0%	35.9%	25.4%	30.2%	42.2%	33.3%	29.8%
3	56.9%	50.4%	61.3%	48.9%	46.6%	48.4%	56.3%	50.0%	44.4%	47.6%	50.7%
4	16.7%	26.5%	22.6%	11.1%	9.3%	12.5%	15.5%	12.1%	4.4%	16.7%	14.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[29] 効果的に学習する技能を修得する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.8%	3.5%	1.6%	5.0%	5.0%	3.1%	1.4%	9.5%	4.4%	2.4%	4.2%
2	18.1%	15.0%	6.5%	28.0%	33.5%	25.0%	22.5%	23.3%	37.8%	28.6%	23.7%
3	59.7%	46.0%	67.7%	51.4%	49.1%	56.3%	56.3%	47.4%	48.9%	54.8%	52.8%
4	19.4%	35.4%	24.2%	15.5%	12.4%	15.6%	19.7%	19.8%	8.9%	14.3%	19.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[30] 大学が求める水準に応じて学習する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	4.4%		7.1%	6.8%	8.6%	1.4%	10.3%	4.4%	4.8%	5.8%
2	27.8%	19.5%	9.7%	32.6%	36.0%	29.7%	26.8%	31.0%	42.2%	31.0%	28.5%
3	48.6%	46.9%	74.2%	47.8%	47.8%	47.7%	53.5%	43.1%	51.1%	47.6%	49.8%
4	19.4%	29.2%	16.1%	12.5%	9.3%	14.1%	18.3%	15.5%	2.2%	16.7%	15.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[31] 時間を効果的に使う

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	11.1%	4.4%	1.6%	10.9%	9.9%	9.4%	12.7%	12.9%	11.1%	4.8%	9.0%
2	19.4%	29.2%	21.0%	34.2%	37.9%	35.9%	25.4%	31.0%	37.8%	33.3%	31.1%
3	41.7%	38.9%	51.6%	42.2%	43.5%	39.8%	43.7%	42.2%	42.2%	35.7%	42.1%
4	27.8%	27.4%	25.8%	12.7%	8.7%	14.8%	18.3%	13.8%	8.9%	26.2%	17.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔36〕 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	3.5%	1.6%	4.6%	7.5%	1.6%	2.8%	4.3%	6.7%	4.0%	
2	22.2%	18.6%	8.1%	26.9%	29.2%	32.0%	9.9%	28.4%	26.7%	19.0%	23.5%
3	41.7%	50.4%	46.8%	47.2%	44.7%	47.7%	50.7%	45.7%	53.3%	57.1%	47.7%
4	31.9%	27.4%	43.5%	21.1%	18.6%	18.8%	35.2%	21.6%	13.3%	23.8%	24.8%
99_未回答				0.2%			1.4%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔37〕 授業の一環でボランティア活動をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	22.2%	26.5%	27.4%	55.3%	57.8%	59.4%	38.0%	62.9%	42.2%	35.7%	45.2%
2	13.9%	31.9%	33.9%	27.4%	23.6%	26.6%	32.4%	25.0%	42.2%	31.0%	27.5%
3	36.1%	28.3%	27.4%	12.5%	13.7%	9.4%	22.5%	6.9%	15.6%	16.7%	18.1%
4	27.8%	13.3%	11.3%	4.8%	5.0%	4.7%	7.0%	5.2%		16.7%	9.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔38〕 学生自身が文献や資料を調べる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		6.2%		3.8%	5.0%	5.5%	1.4%	2.6%	2.2%		3.3%
2	8.3%	25.7%	11.3%	20.0%	23.6%	29.7%	18.3%	7.8%	13.3%	23.8%	19.3%
3	31.9%	41.6%	33.9%	43.8%	44.7%	46.9%	43.7%	32.8%	60.0%	54.8%	42.2%
4	59.7%	26.5%	54.8%	32.4%	26.7%	18.0%	36.6%	56.9%	24.4%	21.4%	35.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔39〕 定期的に小テストやレポートが課される

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.8%	1.6%	0.8%	1.2%			0.9%	2.2%		0.9%
2	2.8%	15.0%	8.1%	5.6%	5.6%	8.6%		4.3%	8.9%	7.1%	6.9%
3	22.2%	46.9%	25.8%	36.9%	39.1%	43.0%	22.5%	31.9%	46.7%	26.2%	35.6%
4	75.0%	36.3%	64.5%	56.8%	54.0%	48.4%	77.5%	62.9%	42.2%	66.7%	56.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[40] 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	8.3%	22.1%	3.2%	5.0%	2.5%	10.9%	2.8%	3.4%	4.4%	9.5%	7.8%
2	31.9%	29.2%	19.4%	27.3%	31.1%	31.3%	18.3%	29.3%	11.1%	38.1%	27.9%
3	29.2%	34.5%	38.7%	42.2%	40.4%	38.3%	46.5%	41.4%	55.6%	33.3%	39.3%
4	30.6%	14.2%	38.7%	25.3%	26.1%	18.8%	32.4%	25.9%	28.9%	19.0%	24.9%
99_未回答				0.2%		0.8%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[41] 学生が自分の考えや研究を発表する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		13.3%	3.2%	6.1%	6.2%	7.8%	1.4%	5.2%	11.1%		6.0%
2	1.4%	33.6%	14.5%	32.2%	32.9%	29.7%	9.9%	45.7%	37.8%	9.5%	27.2%
3	36.1%	41.6%	38.7%	37.4%	41.6%	43.8%	19.7%	34.5%	40.0%	42.9%	38.3%
4	62.5%	11.5%	43.5%	24.0%	19.3%	18.0%	69.0%	14.7%	11.1%	47.6%	28.4%
99_未回答				0.2%		0.8%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[42] 授業中に学生同士が議論をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		15.0%		10.2%	13.0%	14.8%		7.8%	8.9%		8.6%
2	6.9%	38.9%	4.8%	33.4%	31.7%	37.5%	12.7%	44.0%	33.3%	4.8%	28.1%
3	30.6%	34.5%	33.9%	37.6%	38.5%	32.8%	43.7%	33.6%	48.9%	45.2%	36.7%
4	62.5%	11.5%	61.3%	18.8%	16.8%	14.8%	43.7%	14.7%	8.9%	50.0%	26.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[43] 授業で検討するテーマを学生が設定する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	24.8%	8.1%	22.1%	27.3%	17.2%	8.5%	26.7%	26.7%	7.1%	19.0%
2	15.3%	37.2%	27.4%	38.2%	32.3%	40.6%	33.8%	45.7%	40.0%	35.7%	35.1%
3	36.1%	27.4%	35.5%	28.6%	30.4%	31.3%	35.2%	18.1%	31.1%	35.7%	30.0%
4	44.4%	10.6%	29.0%	11.1%	9.9%	10.9%	22.5%	9.5%	2.2%	21.4%	15.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔44〕 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	8.3%	12.4%	11.3%	16.3%	21.7%	17.2%	7.0%	16.4%	8.9%	7.1%	14.2%
2	25.0%	36.3%	25.8%	38.6%	39.1%	36.7%	42.3%	40.5%	31.1%	38.1%	36.0%
3	41.7%	36.3%	33.9%	34.5%	29.2%	39.1%	29.6%	32.8%	53.3%	31.0%	35.2%
4	25.0%	15.0%	29.0%	10.6%	9.9%	7.0%	21.1%	10.3%	6.7%	23.8%	14.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔45〕 取りたい授業を履修登録できなかった

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	18.1%	45.1%	67.7%	33.6%	25.5%	35.2%	45.1%	41.4%	20.0%	33.3%	36.4%
2	27.8%	23.0%	12.9%	26.1%	27.3%	28.9%	18.3%	23.3%	33.3%	26.2%	24.8%
3	31.9%	19.5%	11.3%	26.7%	33.5%	23.4%	21.1%	19.8%	37.8%	14.3%	24.3%
4	22.2%	12.4%	8.1%	13.4%	13.0%	12.5%	15.5%	15.5%	8.9%	26.2%	14.3%
99_未回答				0.2%	0.6%						0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔46〕 出席することが重視される

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		4.4%	1.6%	3.5%	1.2%	2.3%	7.0%	3.4%	8.9%	4.8%	3.2%
2	16.7%	23.0%	8.1%	13.8%	12.4%	12.5%	9.9%	19.8%	13.3%	19.0%	15.2%
3	45.8%	43.4%	37.1%	46.4%	49.1%	44.5%	46.5%	44.8%	46.7%	28.6%	44.3%
4	37.5%	29.2%	53.2%	36.3%	37.3%	40.6%	36.6%	31.9%	31.1%	47.6%	37.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔47〕 TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	6.9%	33.6%	41.9%	6.1%	7.5%	3.9%	2.8%	9.5%	4.4%	61.9%	15.7%
2	26.4%	32.7%	30.6%	19.4%	24.8%	15.6%	16.9%	17.2%	20.0%	19.0%	22.7%
3	30.6%	23.9%	17.7%	41.8%	42.9%	47.7%	33.8%	32.8%	57.8%	11.9%	34.9%
4	36.1%	9.7%	9.7%	32.6%	24.8%	32.8%	46.5%	40.5%	17.8%	7.1%	26.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学の授業や授業以外の学習で、次のようなことをどのくらい経験しましたか。



〔48〕 授業課題のために図書館の資料を利用した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	13.9%	8.8%	1.6%	8.8%	5.6%	17.2%	14.1%	4.3%	26.2%	9.6%
2	15.3%	23.0%	1.6%	24.2%	24.8%	31.3%	31.0%	16.4%	31.0%	21.9%
3	26.4%	31.0%	24.2%	32.8%	37.3%	33.6%	33.8%	21.6%	42.2%	19.0%
4	43.1%	36.3%	72.6%	34.2%	32.3%	18.0%	21.1%	57.8%	46.7%	23.8%
99_未回答	1.4%	0.9%								
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔49〕 授業課題のためにWeb上の情報を利用した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.4%	0.9%		0.4%	0.6%		1.4%			0.5%
2	2.8%	12.4%		3.6%	6.2%	2.3%	4.2%	1.7%	2.2%	7.1%
3	19.4%	39.8%	21.0%	27.8%	30.4%	34.4%	19.7%	18.1%	37.8%	19.0%
4	75.0%	46.0%	79.0%	68.1%	62.7%	63.3%	74.6%	80.2%	60.0%	73.8%
99_未回答	1.4%	0.9%								
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔50〕 インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	1.4%	1.8%	1.6%	0.4%	0.6%			0.9%		0.7%
2	1.4%	8.8%		2.9%	4.3%	1.6%	4.2%	0.9%	4.4%	2.4%
3	8.3%	33.6%	16.1%	20.5%	18.0%	25.0%	14.1%	19.0%	31.1%	14.3%
4	87.5%	54.9%	82.3%	76.2%	77.0%	73.4%	81.7%	79.3%	64.4%	83.3%
99_未回答	1.4%	0.9%								
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔51〕 提出期限までに授業課題を完成できなかった

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	19.4%	48.7%	80.6%	22.1%	15.5%	18.8%	22.5%	38.8%	11.1%	21.4%
2	13.9%	18.6%	11.3%	29.0%	23.6%	32.0%	33.8%	25.9%	40.0%	28.6%
3	33.3%	22.1%	3.2%	26.7%	33.5%	28.1%	21.1%	15.5%	35.6%	21.4%
4	33.3%	10.6%	4.8%	22.3%	27.3%	21.1%	22.5%	19.8%	13.3%	28.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔52〕 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.6%	4.4%		5.4%	6.8%	6.3%		5.2%	6.7%	4.8%	4.8%
2	2.8%	14.2%	8.1%	16.5%	23.0%	18.8%	12.7%	8.6%	13.3%	21.4%	14.6%
3	25.0%	34.5%	19.4%	35.1%	37.9%	37.5%	19.7%	30.2%	55.6%	33.3%	32.8%
4	66.7%	46.9%	72.6%	43.0%	32.3%	37.5%	67.6%	56.0%	24.4%	40.5%	47.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔53〕 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	44.4%	61.9%	69.4%	58.0%	60.2%	60.9%	53.5%	57.8%	48.9%	42.9%	57.4%
2	25.0%	18.6%	21.0%	25.7%	20.5%	26.6%	28.2%	25.9%	37.8%	26.2%	24.3%
3	15.3%	14.2%	1.6%	11.5%	14.9%	7.8%	9.9%	12.1%	11.1%	19.0%	11.9%
4	15.3%	5.3%	8.1%	4.8%	4.3%	4.7%	8.5%	4.3%	2.2%	11.9%	6.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔54〕 授業を欠席した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	9.7%	15.9%	30.6%	9.6%	6.8%	5.5%	9.9%	18.1%	8.9%	11.9%	12.2%
2	27.8%	31.0%	27.4%	27.6%	24.2%	30.5%	38.0%	24.1%	24.4%	28.6%	28.1%
3	18.1%	23.9%	16.1%	29.0%	31.7%	29.7%	18.3%	27.6%	37.8%	16.7%	25.7%
4	44.4%	28.3%	25.8%	33.8%	37.3%	34.4%	33.8%	30.2%	28.9%	42.9%	33.8%
99_未回答		0.9%									0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔55〕 授業に遅刻した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	19.4%	13.3%	45.2%	20.0%	16.8%	18.0%	22.5%	28.4%	11.1%	19.0%	20.9%
2	15.3%	26.5%	25.8%	24.4%	17.4%	28.9%	26.8%	24.1%	33.3%	21.4%	23.8%
3	27.8%	29.2%	9.7%	24.4%	29.8%	24.2%	18.3%	17.2%	33.3%	16.7%	23.8%
4	37.5%	31.0%	19.4%	31.1%	36.0%	28.9%	31.0%	30.2%	22.2%	42.9%	31.4%
99_未回答				0.2%			1.4%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔56〕 授業をつまらなく感じた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	9.7%	4.8%	3.6%	1.9%	1.6%	11.3%	3.4%	4.4%	4.4%	
2	20.8%	26.5%	24.2%	22.6%	21.7%	23.4%	29.6%	21.6%	15.6%	16.7%	22.8%
3	36.1%	37.2%	45.2%	45.9%	43.5%	45.3%	40.8%	46.6%	62.2%	61.9%	44.6%
4	38.9%	26.5%	25.8%	27.8%	32.9%	29.7%	18.3%	28.4%	17.8%	21.4%	28.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔57〕 授業中に居眠りをした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	9.7%	14.2%	3.2%	17.5%	19.9%	18.0%	15.5%	18.1%	8.9%	31.0%	15.9%
2	26.4%	23.0%	24.2%	27.1%	27.3%	23.4%	29.6%	25.0%	37.8%	21.4%	25.9%
3	33.3%	34.5%	41.9%	31.5%	29.2%	35.9%	33.8%	27.6%	33.3%	26.2%	32.6%
4	30.6%	28.3%	30.6%	24.0%	23.6%	22.7%	21.1%	29.3%	20.0%	21.4%	25.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔58〕 学内での学習支援を受けた(教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	31.9%	46.9%	45.2%	42.4%	38.5%	44.5%	40.8%	46.6%	42.2%	47.6%	42.6%
2	20.8%	25.7%	17.7%	30.9%	32.9%	31.3%	28.2%	27.6%	35.6%	19.0%	27.7%
3	27.8%	15.0%	21.0%	17.7%	19.3%	15.6%	22.5%	15.5%	15.6%	11.9%	18.1%
4	18.1%	12.4%	14.5%	9.0%	9.3%	8.6%	8.5%	10.3%	6.7%	21.4%	11.4%
99_未回答	1.4%		1.6%								0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔59〕 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	45.8%	46.9%	59.7%	65.1%	65.2%	68.0%	64.8%	64.7%	57.8%	71.4%	60.7%
2	16.7%	21.2%	22.6%	18.8%	18.0%	17.2%	15.5%	19.0%	31.1%	9.5%	18.8%
3	19.4%	17.7%	8.1%	10.0%	12.4%	10.9%	8.5%	7.8%	6.7%	11.9%	11.9%
4	16.7%	14.2%	9.7%	6.1%	4.3%	3.9%	11.3%	8.6%	4.4%	7.1%	8.5%
99_未回答	1.4%										0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[60] 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	33.3%	55.8%	6.5%	49.3%	53.4%	52.3%	35.2%	50.0%	46.7%	19.0%	44.0%
2	26.4%	18.6%	14.5%	27.3%	24.2%	30.5%	31.0%	24.1%	31.1%	35.7%	25.4%
3	22.2%	16.8%	29.0%	13.6%	15.5%	9.4%	16.9%	13.8%	13.3%	21.4%	16.4%
4	18.1%	8.8%	50.0%	9.6%	6.8%	7.8%	16.9%	12.1%	6.7%	23.8%	14.1%
99_未回答				0.2%					2.2%		0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[61] 教員に親近感を感じた

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	11.1%	19.5%	8.1%	33.4%	32.9%	46.9%	15.5%	30.2%	33.3%	16.7%	26.7%
2	30.6%	38.9%	27.4%	38.0%	37.9%	36.7%	40.8%	36.2%	42.2%	19.0%	35.7%
3	34.7%	27.4%	29.0%	19.6%	21.1%	11.7%	26.8%	22.4%	17.8%	42.9%	24.0%
4	23.6%	12.4%	35.5%	8.3%	6.8%	3.9%	16.9%	11.2%	4.4%	21.4%	13.0%
99_未回答		1.8%		0.8%	1.2%	0.8%			2.2%		0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 本学に入学してから、次の活動に 1週間あたり どのくらいの時間を費やしましたか。

[62] 授業や実験に出席した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	1.4%		1.6%	1.2%	2.5%	0.8%		0.9%		1.0%	
2_1～3時間未満	4.2%	3.5%	3.2%	2.7%	2.5%	1.6%	1.4%	5.2%	2.2%	2.8%	
3_3～5時間未満	9.7%	8.0%	3.2%	5.8%	5.6%	3.9%	2.8%	7.8%	11.1%	5.9%	
4_5～7時間未満	9.7%	2.7%	4.8%	7.3%	9.9%	1.6%	7.0%	10.3%	6.7%	4.8%	6.5%
5_7～10時間未満	29.2%	3.5%	16.1%	11.7%	13.0%	0.8%	23.9%	13.8%	13.3%	14.3%	12.6%
6_10～15時間未満	29.2%	12.4%	16.1%	26.3%	28.0%	18.0%	38.0%	28.4%	20.0%	42.9%	24.7%
7_15～20時間未満	9.7%	20.4%	16.1%	27.6%	23.0%	48.4%	15.5%	17.2%	31.1%	21.4%	23.8%
8_20～25時間未満	5.6%	24.8%	16.1%	12.1%	11.2%	18.0%	9.9%	8.6%	11.1%	11.9%	13.6%
9_25～30時間未満		23.9%	22.6%	5.2%	4.3%	7.0%	1.4%	6.9%	4.4%	4.8%	8.6%
0_その他	1.4%	0.9%		0.2%				0.9%			0.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔63〕 オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	68.1%	83.2%	83.9%	87.3%	85.1%	89.8%	84.5%	89.7%	86.7%	64.3%	83.6%
2_1～3時間未満	18.1%	5.3%	12.9%	8.4%	8.7%	9.4%	9.9%	6.0%	8.9%	31.0%	10.4%
3_3～5時間未満	6.9%	5.3%	1.6%	1.7%	2.5%	0.8%	1.4%	1.7%	2.2%	2.4%	2.7%
4_5～7時間未満	2.8%	1.8%		0.6%	1.9%					2.4%	1.0%
5_7～10時間未満	1.4%			0.6%	0.6%		1.4%		2.2%		0.5%
6_10～15時間未満		0.9%		0.6%	1.2%			0.9%			0.5%
7_15～20時間未満		2.7%		0.4%			1.4%	0.9%			0.6%
8_20～25時間未満	1.4%										0.1%
9_25～30時間未満	1.4%	0.9%	1.6%								0.4%
0_その他				0.4%			1.4%	0.9%			0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔64〕 部活動や同好会に参加した

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	66.7%	14.2%	51.6%	56.4%	51.6%	55.5%	69.0%	56.0%	57.8%	61.9%	51.4%
2_1～3時間未満	6.9%	8.0%	8.1%	14.2%	16.1%	14.1%	12.7%	12.9%	13.3%	9.5%	12.0%
3_3～5時間未満	8.3%	13.3%	6.5%	9.0%	10.6%	11.7%	5.6%	7.8%	4.4%	4.8%	9.1%
4_5～7時間未満	1.4%	8.0%	9.7%	3.8%	5.0%	3.9%		5.2%	2.2%	4.8%	4.7%
5_7～10時間未満	9.7%	24.8%	16.1%	5.6%	5.6%	4.7%	2.8%	8.6%	4.4%	4.8%	9.4%
6_10～15時間未満	5.6%	15.0%	3.2%	5.6%	6.2%	4.7%	4.2%	4.3%	11.1%	7.1%	6.8%
7_15～20時間未満		6.2%	1.6%	2.9%	1.2%	3.1%	2.8%	3.4%	6.7%		2.8%
8_20～25時間未満		1.8%		1.0%	1.9%		1.4%	0.9%		2.4%	1.0%
9_25～30時間未満	1.4%	8.8%	3.2%	1.3%	1.9%	2.3%		0.9%		4.8%	2.7%
0_その他				0.2%			1.4%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔65〕 学外のアパートや仕事をした

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	4.2%	17.7%	6.5%	10.6%	8.7%	19.5%	4.2%	6.0%	13.3%	19.0%	11.1%
2_1～3時間未満	2.8%	2.7%		4.0%	5.0%	0.8%	4.2%	5.2%	6.7%	2.4%	3.3%
3_3～5時間未満	4.2%	8.8%	1.6%	4.6%	5.0%	4.7%	5.6%	4.3%	2.2%	7.1%	5.1%
4_5～7時間未満	2.8%	6.2%	4.8%	5.8%	5.6%	4.7%	4.2%	8.6%	4.4%	2.4%	5.3%
5_7～10時間未満	13.9%	14.2%	19.4%	11.9%	5.6%	14.1%	15.5%	12.9%	20.0%	7.1%	12.7%
6_10～15時間未満	19.4%	21.2%	17.7%	22.6%	22.4%	25.0%	16.9%	22.4%	26.7%	21.4%	21.7%
7_15～20時間未満	23.6%	12.4%	19.4%	23.4%	28.6%	17.2%	26.8%	24.1%	15.6%	26.2%	21.7%
8_20～25時間未満	18.1%	6.2%	19.4%	9.2%	10.6%	8.6%	9.9%	8.6%	6.7%	4.8%	10.1%
9_25～30時間未満	11.1%	10.6%	9.7%	7.1%	8.1%	5.5%	9.9%	6.9%	4.4%	9.5%	8.3%
0_その他			1.6%	0.8%	0.6%		2.8%	0.9%			0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔66〕 読書をした（マンガ・雑誌を除く）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満	55.6%	53.1%	71.0%	58.7%	59.6%	57.8%	53.5%	62.9%	55.6%	57.1%	58.5%
2_1～3時間未満	29.2%	21.2%	21.0%	21.5%	21.7%	21.1%	22.5%	23.3%	15.6%	14.3%	21.7%
3_3～5時間未満	11.1%	10.6%	4.8%	6.7%	7.5%	7.0%	9.9%	3.4%	6.7%	14.3%	7.9%
4_5～7時間未満		3.5%		4.8%	4.3%	7.0%	4.2%	3.4%	4.4%	4.8%	3.8%
5_7～10時間未満	1.4%	3.5%		3.3%	1.9%	2.3%	5.6%	3.4%	6.7%	7.1%	3.1%
6_10～15時間未満	1.4%	2.7%		1.5%	1.9%	2.3%	1.4%		2.2%		1.5%
7_15～20時間未満	1.4%	1.8%		0.8%	0.6%	0.8%		0.9%	2.2%		0.9%
8_20～25時間未満		0.9%		1.0%	0.6%		1.4%	1.7%	2.2%		0.7%
9_25～30時間未満		2.7%	1.6%	1.2%	1.2%	0.8%		0.9%	4.4%	2.4%	1.4%
0_その他				0.6%	0.6%	0.8%	1.4%				0.4%
99_未回答			1.6%								0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔67〕 個人的な趣味活動をした（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0～1時間未満		3.5%	3.2%	2.7%	3.7%	1.6%	1.4%	3.4%	2.2%	4.8%	2.7%
2_1～3時間未満	11.1%	6.2%	11.3%	2.9%	3.1%	1.6%	4.2%	4.3%			4.6%
3_3～5時間未満	16.7%	12.4%	14.5%	9.6%	10.6%	7.0%	12.7%	9.5%	8.9%	14.3%	11.2%
4_5～7時間未満	4.2%	12.4%	4.8%	10.4%	8.1%	7.8%	12.7%	15.5%	8.9%	11.9%	9.8%
5_7～10時間未満	8.3%	10.6%	17.7%	12.3%	11.8%	13.3%	15.5%	10.3%	11.1%	14.3%	12.2%
6_10～15時間未満	15.3%	15.9%	17.7%	14.4%	9.3%	21.1%	18.3%	10.3%	17.8%	7.1%	14.6%
7_15～20時間未満	11.1%	11.5%	4.8%	10.6%	8.7%	12.5%	9.9%	12.1%	8.9%	19.0%	10.7%
8_20～25時間未満	11.1%	8.8%	11.3%	14.0%	14.3%	17.2%	12.7%	9.5%	17.8%	16.7%	13.0%
9_25～30時間未満	19.4%	18.6%	14.5%	21.7%	29.8%	16.4%	12.7%	24.1%	15.6%	11.9%	20.0%
0_その他	2.8%			1.5%	0.6%	1.6%		0.9%	8.9%		1.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[68] (授業時間外に) 授業に関連する次の勉強をした

- ・授業の予習(予習課題に取り組んだり、ノートや教科書の内容を確認する時間など)
- ・授業の復習、宿題
- ・レポート作成
- ・グループワーク
- ・実験・演習のコマ時間以外に取り組んだ時間
- ・正課題の授業関連イベント
- ・科目の学修に密接に関係する資格の勉強

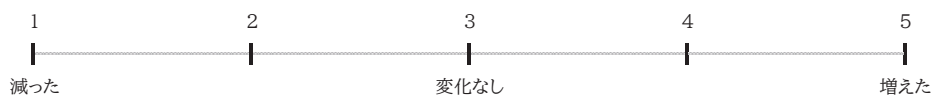
	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0~1時間未満	1.4%	10.6%	6.5%	5.0%	9.9%	1.6%		6.0%	2.2%		5.3%
2_1~3時間未満	18.1%	19.5%	19.4%	12.7%	19.3%	6.3%	7.0%	12.9%	15.6%	11.9%	14.6%
3_3~5時間未満	16.7%	20.4%	17.7%	17.3%	21.1%	10.9%	19.7%	19.0%	13.3%	11.9%	17.4%
4_5~7時間未満	19.4%	8.0%	8.1%	18.6%	17.4%	19.5%	23.9%	17.2%	15.6%	19.0%	16.4%
5_7~10時間未満	19.4%	16.8%	16.1%	17.1%	11.2%	23.4%	9.9%	20.7%	22.2%	26.2%	17.7%
6_10~15時間未満	13.9%	8.0%	12.9%	16.7%	12.4%	22.7%	19.7%	12.1%	22.2%	14.3%	14.8%
7_15~20時間未満	6.9%	7.1%	9.7%	5.6%	4.3%	7.0%	8.5%	4.3%	4.4%	14.3%	6.7%
8_20~25時間未満	2.8%	2.7%	3.2%	4.2%	4.3%	4.7%	7.0%	2.6%	2.2%	2.4%	3.7%
9_25~30時間未満	1.4%	7.1%	6.5%	2.5%		3.9%	2.8%	4.3%	2.2%		3.2%
0_その他				0.4%			1.4%	0.9%			0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[69] (授業時間外に) 授業に関連しない次の勉強をした

- ・オンデマンド授業を含む大学の授業時間(講義、実験、演習)
- ・科目に関係のない資格の勉強

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_0~1時間未満	29.2%	34.5%	56.5%	32.8%	36.6%	29.7%	32.4%	32.8%	28.9%	19.0%	33.8%
2_1~3時間未満	36.1%	24.8%	14.5%	29.4%	31.7%	28.1%	25.4%	31.9%	24.4%	23.8%	27.9%
3_3~5時間未満	22.2%	17.7%	16.1%	16.7%	16.8%	17.2%	15.5%	19.0%	11.1%	21.4%	17.5%
4_5~7時間未満	6.9%	4.4%	8.1%	7.5%	4.3%	9.4%	5.6%	7.8%	15.6%	14.3%	7.4%
5_7~10時間未満	1.4%	8.0%	3.2%	7.1%	6.2%	6.3%	8.5%	5.2%	15.6%	14.3%	6.8%
6_10~15時間未満	2.8%	5.3%		2.3%	1.2%	3.9%	4.2%	0.9%	2.2%	4.8%	2.7%
7_15~20時間未満		2.7%		1.7%	2.5%	1.6%	2.8%		2.2%	2.4%	1.6%
8_20~25時間未満	1.4%	0.9%		1.3%	0.6%	1.6%	2.8%	1.7%			1.1%
9_25~30時間未満		1.8%	1.6%	1.2%		2.3%	2.8%	0.9%			1.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化しましたか。



[70] 一般的な教養

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		4.4%	3.2%	1.9%	2.5%		2.8%	3.4%		2.1%	
2	8.3%	2.7%	1.6%	1.7%	1.2%	1.6%	1.4%	1.7%	4.4%	2.3%	
3	9.7%	29.2%	12.9%	18.4%	20.5%	18.0%	14.1%	13.8%	31.1%	14.3%	18.5%
4	48.6%	39.8%	40.3%	47.4%	51.6%	43.8%	47.9%	50.0%	35.6%	52.4%	46.2%
5	31.9%	21.2%	41.9%	28.6%	21.7%	35.2%	32.4%	29.3%	26.7%	26.2%	28.8%
99_未回答	1.4%	2.7%		1.9%	2.5%	1.6%	1.4%	1.7%	2.2%	7.1%	2.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[71] 分析力や問題解決能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.8%	1.6%	1.0%	1.2%	0.8%	1.4%	0.9%		1.0%	
2	1.4%	4.4%		1.3%	3.1%		1.4%	0.9%		1.6%	
3	8.3%	32.7%	12.9%	19.4%	24.2%	20.3%	11.3%	15.5%	22.2%	11.9%	19.4%
4	52.8%	38.1%	48.4%	52.4%	54.0%	48.4%	57.7%	49.1%	57.8%	59.5%	50.5%
5	37.5%	23.0%	37.1%	25.9%	17.4%	30.5%	28.2%	33.6%	20.0%	28.6%	27.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[72] 専門分野や学科の知識

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		0.9%		0.6%	0.6%		1.4%	2.2%		0.5%	
2	2.8%	3.5%		1.0%	1.2%	1.6%		0.9%		1.4%	
3	6.9%	11.5%	3.2%	9.8%	14.9%	8.6%	1.4%	6.9%	15.6%	7.1%	9.1%
4	33.3%	38.9%	29.0%	47.2%	51.6%	42.2%	42.3%	45.7%	57.8%	52.4%	43.7%
5	56.9%	45.1%	67.7%	41.5%	31.7%	47.7%	54.9%	46.6%	24.4%	40.5%	45.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[73] 批判的に考える能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.8%	1.6%	0.8%	1.2%	0.8%	1.4%			0.9%	
2	1.4%	4.4%	1.6%	1.0%		0.8%	4.2%	0.9%		1.5%	
3	19.4%	36.3%	17.7%	35.1%	42.9%	34.4%	26.8%	27.6%	42.2%	31.0%	32.3%
4	43.1%	35.4%	53.2%	45.5%	46.0%	44.5%	43.7%	46.6%	46.7%	40.5%	44.2%
5	36.1%	22.1%	25.8%	17.5%	9.9%	19.5%	23.9%	24.1%	11.1%	28.6%	21.0%
99_未回答				0.2%				0.9%			0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔74〕 異文化の人々に関する知識

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.8%	3.5%	1.6%	1.9%	2.5%	1.6%	1.4%	2.6%		2.1%	
2	11.1%	8.0%	6.5%	4.0%	3.7%	3.1%	4.2%	2.6%	11.1%	5.2%	
3	22.2%	38.1%	25.8%	49.1%	52.8%	50.8%	36.6%	48.3%	53.3%	7.1%	41.2%
4	41.7%	33.6%	40.3%	30.9%	31.7%	28.9%	33.8%	32.8%	24.4%	40.5%	33.5%
5	22.2%	16.8%	25.8%	14.0%	9.3%	15.6%	23.9%	13.8%	11.1%	52.4%	18.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔75〕 リーダーシップの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	2.7%		1.9%	1.9%	1.6%	1.4%	2.6%	2.2%		1.7%
2	9.7%	8.8%	1.6%	4.4%	4.3%	5.5%	2.8%	3.4%	6.7%	7.1%	5.4%
3	23.6%	38.1%	30.6%	52.2%	57.8%	50.0%	40.8%	49.1%	64.4%	28.6%	44.8%
4	43.1%	32.7%	37.1%	29.8%	27.3%	30.5%	38.0%	31.9%	17.8%	47.6%	32.8%
5	22.2%	17.7%	30.6%	11.7%	8.7%	12.5%	16.9%	12.9%	8.9%	16.7%	15.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔76〕 人間関係を構築する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.8%		1.5%	1.9%		1.4%	2.6%	2.2%		1.2%
2	5.6%	5.3%	1.6%	6.0%	6.8%	11.7%	2.8%	2.6%		2.4%	5.3%
3	12.5%	33.6%	11.3%	31.1%	37.3%	29.7%	19.7%	26.7%	42.2%	16.7%	27.5%
4	40.3%	36.3%	38.7%	41.5%	39.8%	39.1%	42.3%	46.6%	40.0%	57.1%	41.2%
5	41.7%	23.0%	48.4%	20.0%	14.3%	19.5%	33.8%	21.6%	15.6%	23.8%	24.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔77〕 他の人と協力して物事を遂行する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	1.8%		0.4%	0.6%			0.9%			0.6%
2	2.8%	3.5%		3.1%	1.2%	6.3%	2.8%	0.9%	6.7%		2.7%
3	8.3%	35.4%	6.5%	24.2%	31.1%	23.4%	12.7%	19.8%	31.1%	16.7%	22.6%
4	45.8%	38.1%	40.3%	47.8%	50.3%	47.7%	50.7%	44.8%	42.2%	52.4%	45.9%
5	41.7%	21.2%	53.2%	24.6%	16.8%	22.7%	33.8%	33.6%	20.0%	31.0%	28.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔78〕異文化の人々と協力する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	2.7%		3.1%	1.2%	3.1%	1.4%	6.9%	2.2%	2.7%	
2	9.7%	5.3%	1.6%	4.0%	3.1%	4.7%	2.8%	2.6%	11.1%	4.3%	
3	55.6%	54.0%	48.4%	61.2%	70.2%	64.1%	43.7%	57.8%	57.8%	9.5%	56.0%
4	12.5%	27.4%	27.4%	21.7%	19.3%	19.5%	32.4%	19.8%	24.4%	59.5%	24.1%
5	18.1%	10.6%	21.0%	10.0%	6.2%	8.6%	19.7%	12.9%	4.4%	31.0%	12.7%
99_未回答			1.6%								0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔79〕地域社会が直面する問題を理解する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	3.5%		1.2%	0.6%		1.4%	1.7%	4.4%	1.4%	
2	5.6%	7.1%	3.2%	5.4%	4.3%	7.0%	1.4%	7.8%	4.4%	5.2%	
3	33.3%	37.2%	17.7%	51.6%	59.0%	60.2%	15.5%	50.9%	60.0%	9.5%	43.2%
4	37.5%	38.1%	38.7%	31.7%	27.3%	27.3%	53.5%	30.2%	28.9%	38.1%	34.0%
5	22.2%	14.2%	40.3%	10.0%	8.7%	4.7%	28.2%	9.5%	2.2%	52.4%	16.2%
99_未回答				0.2%		0.8%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔80〕国民が直面する問題を理解する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	3.5%		1.5%	1.9%		1.4%	2.6%	2.2%	1.6%	
2	5.6%	2.7%	4.8%	4.2%	3.1%	5.5%	2.8%	6.9%	2.4%	4.1%	
3	31.9%	40.7%	24.2%	47.6%	49.1%	53.9%	26.8%	47.4%	57.8%	16.7%	41.9%
4	40.3%	41.6%	46.8%	37.0%	36.6%	32.0%	53.5%	32.8%	37.8%	54.8%	39.6%
5	20.8%	11.5%	24.2%	9.4%	9.3%	7.8%	15.5%	10.3%	2.2%	26.2%	12.7%
99_未回答				0.2%		0.8%					0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔81〕文章表現の能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	5.3%		1.9%	3.7%	0.8%	1.4%	0.9%	2.2%	2.4%	2.2%
2	5.6%	15.9%	3.2%	6.3%	6.8%	7.0%	4.2%	5.2%	8.9%	4.8%	7.3%
3	13.9%	33.6%	19.4%	35.3%	41.0%	29.7%	29.6%	36.2%	37.8%	16.7%	31.0%
4	41.7%	29.2%	45.2%	42.2%	39.1%	45.3%	45.1%	42.2%	40.0%	64.3%	41.7%
5	37.5%	15.9%	32.3%	14.2%	9.3%	17.2%	19.7%	15.5%	11.1%	11.9%	17.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔82〕外国語の運用能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.8%	7.1%	8.1%	4.8%	5.0%	3.1%	8.5%	4.3%	4.4%	11.9%	5.6%
2	27.8%	22.1%	27.4%	19.0%	13.7%	18.8%	23.9%	26.7%	11.1%	2.4%	20.0%
3	31.9%	26.5%	32.3%	42.4%	49.1%	42.2%	38.0%	31.9%	53.3%	28.6%	37.8%
4	29.2%	32.7%	22.6%	26.1%	26.1%	26.6%	19.7%	29.3%	26.7%	26.2%	27.0%
5	8.3%	11.5%	9.7%	7.7%	6.2%	9.4%	9.9%	7.8%	4.4%	31.0%	9.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔83〕コミュニケーションの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.8%		1.3%	1.2%	1.6%		1.7%	2.2%		1.1%
2		7.1%	3.2%	5.2%	5.0%	7.8%	4.2%	3.4%	4.4%	2.4%	4.7%
3	13.9%	36.3%	9.7%	29.8%	38.5%	26.6%	14.1%	29.3%	33.3%	23.8%	27.4%
4	44.4%	38.1%	53.2%	45.7%	42.9%	43.8%	52.1%	46.6%	48.9%	45.2%	45.1%
5	41.7%	16.8%	32.3%	18.0%	12.4%	20.3%	29.6%	19.0%	11.1%	28.6%	21.6%
99_未回答			1.6%								0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔84〕プレゼンテーションの能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		3.5%		1.2%	1.2%		2.8%	0.9%	2.2%		1.2%
2	4.2%	8.0%	3.2%	2.3%	2.5%	1.6%	2.8%	2.6%	2.2%		3.2%
3	15.3%	45.1%	30.6%	33.8%	36.6%	36.7%	9.9%	37.1%	44.4%	19.0%	32.7%
4	48.6%	34.5%	43.5%	46.4%	48.4%	43.8%	52.1%	46.6%	37.8%	57.1%	45.3%
5	31.9%	8.8%	21.0%	16.3%	11.2%	18.0%	32.4%	12.9%	13.3%	23.8%	17.4%
99_未回答			1.6%								0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔85〕数理的な能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	10.6%	6.5%	1.2%	1.2%	2.3%		0.9%		11.9%	3.7%
2	16.7%	18.6%	16.1%	4.4%	4.3%	3.1%	5.6%	6.0%	2.2%	14.3%	8.9%
3	30.6%	37.2%	40.3%	25.1%	31.7%	17.2%	25.4%	25.9%	22.2%	33.3%	28.9%
4	25.0%	24.8%	19.4%	48.6%	47.2%	50.8%	45.1%	48.3%	53.3%	33.3%	40.1%
5	23.6%	8.8%	17.7%	20.7%	15.5%	26.6%	23.9%	19.0%	22.2%	7.1%	18.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[86] コンピュータの操作能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		0.9%		0.4%	0.6%			0.9%		0.4%
2	1.4%	12.4%	1.6%	2.1%	2.5%	1.6%	1.4%	2.6%	2.2%	3.3%
3	4.2%	36.3%	22.6%	15.2%	18.0%	8.6%	12.7%	19.8%	15.6%	28.6%
4	50.0%	32.7%	50.0%	46.4%	49.7%	32.8%	54.9%	50.0%	51.1%	50.0%
5	44.4%	17.7%	25.8%	35.9%	29.2%	57.0%	31.0%	26.7%	31.1%	21.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[87] 時間を効果的に利用する能力

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		1.8%	1.6%	2.5%	4.3%	3.1%	1.4%	0.9%		2.4%
2	6.9%	9.7%		9.4%	8.7%	7.8%	14.1%	10.3%	6.7%	2.4%
3	25.0%	33.6%	16.1%	30.3%	42.9%	28.9%	15.5%	23.3%	31.1%	19.0%
4	44.4%	34.5%	51.6%	41.5%	33.5%	42.2%	42.3%	49.1%	46.7%	54.8%
5	23.6%	20.4%	30.6%	16.3%	10.6%	18.0%	26.8%	16.4%	15.6%	21.4%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[88] グローバルな問題の理解

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1	2.8%	1.8%	3.2%	0.8%	1.2%		1.4%	0.9%		1.2%
2	6.9%	10.6%	9.7%	3.6%	4.3%	2.3%	1.4%	6.0%	2.2%	2.4%
3	41.7%	45.1%	32.3%	51.6%	52.2%	53.1%	46.5%	48.3%	62.2%	11.9%
4	31.9%	31.0%	37.1%	33.6%	36.0%	32.0%	35.2%	32.8%	28.9%	42.9%
5	16.7%	11.5%	17.7%	10.4%	6.2%	12.5%	15.5%	12.1%	6.7%	42.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[89] 就職するための準備の度合い

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計
				機械	電気	建築	物質	応用		
1		4.4%		2.3%	3.7%	0.8%		4.3%		2.4%
2	15.3%	6.2%		4.4%	5.0%	3.1%		6.9%	6.7%	2.4%
3	15.3%	46.0%	12.9%	36.7%	43.5%	39.1%	21.1%	27.6%	53.3%	14.3%
4	45.8%	29.2%	45.2%	38.2%	34.2%	41.4%	46.5%	39.7%	26.7%	52.4%
5	23.6%	14.2%	41.9%	18.4%	13.7%	15.6%	32.4%	21.6%	13.3%	28.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

IV. 将来のことについて

[90] 大学(学部)卒業後、どのような進路を考えていますか。(1つ)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1.就職する	80.6%	76.1%	88.7%	33.8%	28.6%	32.0%	56.3%	25.9%	42.2%	90.5%	51.0%
2.大学院に進学する	11.1%	4.4%		48.2%	52.8%	43.0%	32.4%	62.1%	35.6%		32.6%
3.他大学に(編)入学する		3.5%	3.2%	2.1%	3.1%	1.6%	1.4%	0.9%	4.4%		2.1%
4.専門学校に入学する	1.4%	2.7%	3.2%	1.0%	1.2%	0.8%		1.7%		4.8%	1.6%
5.まだわからない	6.9%	13.3%	4.8%	14.6%	13.7%	21.9%	9.9%	9.5%	17.8%	4.8%	12.5%
99.未回答				0.4%	0.6%	0.8%					0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 大学(学部)卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを在学中に経験したいと思いませんか。



[91] 専門分野をしっかり身につける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	5.3%	3.2%	2.1%	4.3%			1.7%	4.4%	4.8%	2.7%
2	5.6%	7.1%		5.2%	3.1%	9.4%		2.6%	15.6%	7.1%	5.2%
3	13.9%	21.2%	11.3%	31.1%	37.9%	28.1%	23.9%	27.6%	35.6%	21.4%	26.2%
4	79.2%	63.7%	85.5%	61.4%	54.7%	61.7%	76.1%	68.1%	44.4%	66.7%	65.4%
99.未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[92] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1				1.0%	1.2%			0.9%	4.4%		0.6%
2	1.4%	7.1%		3.3%	3.1%	2.3%	1.4%	2.6%	11.1%	2.4%	3.3%
3	22.2%	29.2%	17.7%	34.5%	41.0%	40.6%	32.4%	20.7%	33.3%	19.0%	30.6%
4	76.4%	61.1%	82.3%	61.0%	54.7%	56.3%	66.2%	75.9%	51.1%	78.6%	64.9%
99.未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔93〕 職業意識の形成につながる教育を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1		1.8%		1.5%	2.5%		2.8%		4.4%	2.4%	1.4%
2	8.3%	7.1%	4.8%	7.1%	5.6%	7.8%	2.8%	10.3%	8.9%	4.8%	6.9%
3	33.3%	41.6%	22.6%	48.4%	54.7%	46.9%	36.6%	45.7%	55.6%	45.2%	44.0%
4	58.3%	46.9%	72.6%	42.8%	37.3%	44.5%	57.7%	44.0%	31.1%	47.6%	47.3%
99_未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔94〕 企業での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.8%	1.8%		1.7%	1.9%	0.8%	1.4%	0.9%	6.7%	2.4%	1.7%
2	12.5%	12.4%	9.7%	6.9%	7.5%	8.6%	4.2%	4.3%	11.1%	14.3%	8.8%
3	36.1%	43.4%	30.6%	47.8%	52.2%	50.0%	29.6%	48.3%	53.3%	40.5%	44.4%
4	48.6%	39.8%	59.7%	43.4%	38.5%	39.8%	64.8%	46.6%	28.9%	42.9%	44.6%
99_未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔95〕 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	8.3%	4.4%	1.6%	3.3%	4.3%	1.6%	2.8%	1.7%	8.9%	2.4%	3.7%
2	22.2%	23.0%	11.3%	15.2%	16.8%	14.8%	4.2%	19.8%	15.6%	9.5%	16.3%
3	33.3%	38.1%	37.1%	46.3%	47.8%	46.9%	38.0%	47.4%	48.9%	42.9%	43.1%
4	36.1%	31.9%	50.0%	35.1%	31.1%	35.9%	54.9%	31.0%	26.7%	45.2%	36.4%
99_未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔96〕 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.8%	3.5%	1.6%	1.5%	3.1%	0.8%		0.9%	2.2%		1.9%
2	12.5%	14.2%	6.5%	10.7%	9.9%	10.9%	7.0%	10.3%	20.0%	2.4%	10.6%
3	38.9%	39.8%	37.1%	47.2%	56.5%	49.2%	36.6%	39.7%	44.4%	47.6%	44.7%
4	45.8%	39.8%	54.8%	40.3%	30.4%	38.3%	56.3%	49.1%	33.3%	50.0%	42.3%
99_未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔97〕 ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	2.8%	5.3%	1.6%	1.5%	3.1%		1.4%	0.9%	2.2%		2.1%
2	18.1%	14.2%	9.7%	9.6%	7.5%	11.7%	8.5%	7.8%	17.8%	4.8%	10.7%
3	40.3%	35.4%	40.3%	42.8%	48.4%	43.8%	31.0%	41.4%	42.2%	47.6%	41.6%
4	38.9%	42.5%	48.4%	45.9%	41.0%	43.8%	59.2%	50.0%	37.8%	47.6%	45.1%
99_未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔98〕 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	1.4%	4.4%		2.3%	2.5%	3.1%	1.4%	0.9%	4.4%	4.8%	2.5%
2	15.3%	10.6%	11.3%	10.6%	9.9%	10.2%	2.8%	10.3%	26.7%	19.0%	11.5%
3	41.7%	40.7%	29.0%	46.6%	55.9%	48.4%	29.6%	43.1%	44.4%	40.5%	43.7%
4	41.7%	41.6%	59.7%	40.3%	31.7%	37.5%	66.2%	45.7%	24.4%	35.7%	41.9%
99_未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔99〕 レポートや論文指導により、文書作成能力を高める

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	4.2%	6.2%	1.6%	2.9%	2.5%	3.1%	2.8%	2.6%	4.4%	2.4%	3.3%
2	8.3%	14.2%	1.6%	8.6%	8.7%	9.4%	9.9%	6.0%	11.1%	11.9%	9.0%
3	41.7%	39.8%	38.7%	45.3%	48.4%	50.8%	33.8%	38.8%	53.3%	31.0%	43.0%
4	45.8%	37.2%	58.1%	43.0%	40.4%	35.9%	53.5%	52.6%	31.1%	54.8%	44.2%
99_未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔100〕 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.6%	6.2%	1.6%	5.4%	5.6%	3.1%	7.0%	6.0%	6.7%	2.4%	5.1%
2	11.1%	17.7%	6.5%	17.7%	17.4%	18.8%	9.9%	14.7%	35.6%	16.7%	16.2%
3	44.4%	45.1%	24.2%	43.0%	44.7%	50.8%	28.2%	45.7%	31.1%	45.2%	42.1%
4	38.9%	28.3%	67.7%	33.8%	32.3%	26.6%	54.9%	33.6%	26.7%	35.7%	36.2%
99_未回答		2.7%		0.2%		0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔101〕卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	5.6%	1.8%	4.8%	5.4%	5.0%	3.9%	5.6%	6.9%	6.7%	4.8%	4.8%
2	8.3%	15.9%	8.1%	14.2%	13.0%	14.8%	15.5%	13.8%	15.6%	21.4%	13.8%
3	37.5%	38.9%	30.6%	43.2%	47.8%	49.2%	31.0%	35.3%	48.9%	35.7%	40.7%
4	48.6%	40.7%	56.5%	36.9%	34.2%	30.5%	47.9%	44.0%	28.9%	38.1%	40.0%
99_未回答		2.7%		0.4%		1.6%					0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔102〕本学の教職員以外の大人と話をする

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1	9.7%	4.4%	4.8%	6.5%	6.2%	7.8%	5.6%	4.3%	11.1%	4.8%	6.3%
2	19.4%	13.3%	21.0%	17.1%	16.1%	22.7%	11.3%	12.9%	24.4%	11.9%	16.8%
3	29.2%	38.9%	33.9%	42.6%	44.7%	42.2%	33.8%	44.8%	44.4%	38.1%	40.0%
4	41.7%	40.7%	40.3%	33.4%	32.9%	25.8%	49.3%	37.9%	20.0%	45.2%	36.3%
99_未回答		2.7%		0.4%		1.6%					0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 本学の教育改善活動について教えてください。

〔103〕ポスターシリーズ「数字でみる福井大学のいま」を掲示板、図書館、食堂や事務室などで見たことがありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_見たことがある	65.3%	23.0%	22.6%	51.4%	45.3%	60.2%	52.1%	48.3%	55.6%	54.8%	46.7%
2_見たことがない	34.7%	74.3%	77.4%	48.2%	54.7%	38.3%	47.9%	51.7%	44.4%	42.9%	52.6%
99_未回答		2.7%		0.4%		1.6%				2.4%	0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔104〕様々な学生アンケートの回答を通じて大学がよくなってきていると感じていますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_思う	6.9%	7.1%	8.1%	5.8%	3.1%	7.0%	9.9%	7.8%			5.9%
2_やや思う	37.5%	37.2%	45.2%	42.2%	36.6%	44.5%	45.1%	46.6%	40.0%	57.1%	42.1%
3_やや思わない	27.8%	35.4%	35.5%	29.9%	34.8%	30.5%	29.6%	20.7%	35.6%	38.1%	31.4%
4_思わない	27.8%	17.7%	11.3%	21.7%	25.5%	16.4%	15.5%	25.0%	24.4%	4.8%	20.0%
99_未回答		2.7%		0.4%		1.6%					0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

V. 英語の学習・検定試験について

[105] 英語でコミュニケーションをすることを旨とした渡航経験があれば、その期間(複数ある場合は最長のもの)について1つ選んでください。

(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、インド、シンガポール等 英語圏)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_渡航したことはない	86.1%	61.9%	93.5%	86.2%	83.2%	93.8%	84.5%	84.5%	82.2%	66.7%	82.3%
2_10日未満	2.8%	10.6%	1.6%	5.8%	7.5%	1.6%	5.6%	8.6%	4.4%	9.5%	6.0%
3_10日以上ー1ヶ月未満	8.3%	18.6%	4.8%	5.8%	6.8%	1.6%	8.5%	6.0%	8.9%	11.9%	8.0%
4_1ヶ月以上ー6ヶ月未満	2.8%	5.3%		1.9%	2.5%	1.6%	1.4%	0.9%	4.4%	9.5%	2.7%
5_6ヶ月以上		0.9%								2.4%	0.2%
99_未回答		2.7%		0.4%		1.6%					0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[106] 大学入試で高まった英語力を維持向上させるために何かしら取り組んでいますか？

(ラジオ講座で学ぶ、英語の小説を読む、留学生ボランティアになる、TVニュースを英語音声にする等)

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_取り組んでいる	19.4%	35.4%	8.1%	16.7%	21.1%	15.6%	11.3%	16.4%	13.3%	47.6%	20.5%
2_取り組んでいない	80.6%	61.1%	91.9%	82.5%	77.6%	82.8%	88.7%	83.6%	86.7%	52.4%	78.5%
99_未回答		3.5%		0.8%	1.2%	1.6%					1.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

● 今までに受験したことがある英語の検定試験について。

それぞれの試験で取得した級またはスコアの中で最も高いものを教えてください。

[108] 英語の検定試験を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_受けたことはある	88.9%	70.8%	69.4%	62.4%	55.3%	60.9%	63.4%	72.4%	64.4%	97.6%	68.3%
2_受けたことはない	11.1%	26.5%	30.6%	37.0%	44.7%	36.7%	36.6%	27.6%	35.6%	2.4%	31.0%
99_未回答		2.7%		0.6%		2.3%					0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[110] 英検(実用英語技能検定)を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_受験経験あり	91.7%	77.0%	80.6%	56.8%	48.4%	57.0%	60.6%	64.7%	60.0%	66.7%	65.1%
2_受験経験なし	8.3%	20.4%	19.4%	42.6%	51.6%	40.6%	39.4%	35.3%	40.0%	33.3%	34.2%
99_未回答		2.7%		0.6%		2.3%					0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[113] TOEICテスト(公開テストまたはIPテスト)を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_受験経験 あり	5.6%	15.0%	6.5%	25.5%	21.7%	21.1%	26.8%	33.6%	28.9%	26.2%	20.9%
2_受験経験 なし	94.4%	82.3%	93.5%	73.9%	78.3%	76.6%	73.2%	66.4%	71.1%	73.8%	78.4%
99_未回答		2.7%		0.6%		2.3%					0.7%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[118] TOEFL ITPテスト(団体受験)を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_受験経験 あり		5.3%	1.6%	1.2%	1.2%	1.6%	1.4%	0.9%		83.3%	5.9%
2_受験経験 なし	100.0%	92.0%	95.2%	98.3%	98.8%	96.1%	98.6%	99.1%	100.0%	16.7%	93.1%
99_未回答		2.7%	3.2%	0.6%		2.3%					1.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[123] インターネット版 TOEFLテスト(TOEFL iBT)を受けたことはありますか。

	教育学部	医学部 医学科	医学部 看護学科	工学部					国際地域 学部	合計	
				機械	電気	建築	物質	応用			
1_受験経験 あり	1.4%	1.8%	4.8%	0.6%		0.8%	1.4%	0.9%		4.8%	1.4%
2_受験経験 なし	98.6%	96.5%	90.3%	98.8%	100.0%	96.9%	98.6%	99.1%	100.0%	92.9%	97.5%
99_未回答		1.8%	4.8%	0.6%		2.3%				2.4%	1.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

数字でみる 福井大学のいま

福井大学にまつわる数字を紹介するシリーズ『数字でみる福井大学のいま』は、高等教育推進センター 教学IR部門が担当しています。今回は、新生特別号として1年生のデータを紹介するよ。

在学中の色々な調査への協力をよろしくお願いします。本学では学生調査の結果を様々な改善活動につなげています。

vol.4 (2024年4月)

(発行元) 高等教育推進センター-教学IR部門



本号では、新生特別号として この春の新生を数字でみてみよう

○ 2024年度 学部・学科別 (入学者総数884人)

教育学部	医学部		工学部					国際地域学部
103人	医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用	61
	110	63	159	129	65	139	55	

(頭文字2文字で学科名を表現しています)

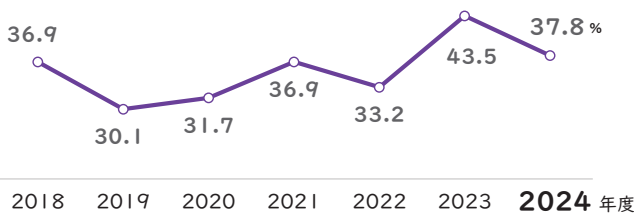
○ 出身府県別

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 年度	人数
福井	福井	福井	福井	福井	福井	福井	334人
愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	愛知	167
石川	石川	石川	岐阜	石川	石川	石川	82
岐阜	岐阜	岐阜	石川	岐阜	岐阜	岐阜	69
滋賀	京都	三重	三重	京都	大阪	京都	41
大阪	大阪	京都	京都	三重	京都	大阪	28
京都	三重	大阪	富山	兵庫	三重	富山	23
三重	滋賀	富山	大阪	大阪	滋賀	静岡	15
	静岡			滋賀	富山	滋賀	14
	兵庫			滋賀	富山	三重	14

○ 一年たったら・・・ (「入学1年後調査」より)

- ✓ **総合評価**
 - 大学生生活に満足している 80.9%
- ✓ **通学 / 住まい**
 - 片道30分未満で大学に着く 71.3%
 - 自宅(や親戚の家)に住んでいる 38.4%
- ✓ **学びへの自己評価**
 - 一般的な教養が増えた 65.1%
 - コミュニケーション能力が増した 49.9%
 - 大学の授業以外の勉強時間 週8.3時間
- ✓ **1年生の授業であったこと**
 - 定期的な小テストやレポート 96.6%
 - 文献や資料からの調べもの 81.1%
 - 学生同士で議論する場面 66.2%
 - 課題を遅れて提出した 43.7%
- ✓ **学生生活**
 - サークルに参加した 71.0%
 - 学外でアルバイトをした 78.4%

○ 福井県出身者



○ 男女比

年度	男 (%)	女 (%)
2024	65.6	34.4
2023	67.5	32.5
2022	67.3	32.7
2021	68.0	32.0
国立大学平均 2023	60.9	39.1

毎回テーマを変えて定期的に発行する『数字でみる福井大学のいま』は学内各所の掲示板上に登場するよ。掲示板には他にも重要な通知が貼られるので常に注目しよう!!



※ 新生データは2024年4月1日現在
 ※ 「入学1年後調査」は本学1年生を対象とした「在学生調査」(2024年1月実施 提出率93.4%)の結果です

この壁新聞へのご意見、ご感想は
 高等教育推進センター-教学IR部門 (ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp) まで

数字でみる 福井大学のいま

福井大学にまつわる数字を紹介する壁新聞シリーズ『数字でみる福井大学のいま』の第5号をお届けします。

今回は、大学を支える人・施設などに注目してみました。福井大学の未来を考えるためにも 今の姿を数字で見てください。また、新コーナー「学生のすがた」が始まりました。

vol.5 (2024年10月)

(発行元) 高等教育推進センター教学IR部門



学生数 (学部・院) ^{※1}

文京・敦賀キャンパス

3,864

松岡キャンパス

1,124

大学の面積 ^{※2}

537,284m²

そのうち...

文京

142,810m²

松岡

270,230m²

その他

124,244m²

9.98スタジアム

20個分

東京ドーム 11.5個分

「9.98スタジアム」は、福井県菅原陸上競技場の愛称。2017年9月9日、桐生祥秀選手(東洋大4年)が男子100メートルで、日本人初の9秒台となる9秒98の日本新記録を樹立したことにちなんで名付けられたもの。総面積 27,102㎡

開講科目数 ^{※3}

約 2,490 科目

たくさんの科目の中でキミの学びたいことがきっとあるはず！

○幅広い教養を身に付けたい (98%) ^{※4}

教員1人当たりの学生数 ^{※5}

8.0

これは学生に対する面倒見の良さの指標です。小さいほどきめ細かくて手厚い教育体制だとされます。(国立大学平均 9.5) ^{※6}

本学職員数 625人 ^{※5}

サークル数 (体育系・文化系) ^{※7}

文京・敦賀キャンパス

74

松岡キャンパス

38

○部活動・サークル活動に参加したい (95%) ^{※4}

海外とのつながり ^{※8}

学術交流協定締結数

168

海外派遣学生

151

本学は世界の教育機関と連携しています。留学などに活用しよう！

○在学中に海外留学したい (46%) ^{※4}

○語学力を向上させたい (93%) ^{※4}

進路状況 (学部4・6年) ^{※9}

大学院に進む

35%

就職する

64%

就職率

98%

本学は、複数学部を有する国立大学のうち17年連続実就職率 全国1位 (98.3%) です ^{※10}

就職・進路などの進路相談は学年を問わず

キャリアセンター (学生交流センター2階) へ

学生のすがた ^{※11}

学生の「思い」「考え」「アンケート結果」など 見方を変えてお伝えします。

入学から1年間で、意識はこんなに変わったんだね！
「初心忘るべからず」 「初志貫徹」

入学時 ^{※4}

本学入学に満足している

95%

大学での学びが楽しみ

97%

将来役に立つ知識を付けたい

98%

1年後には... ^{※13}

学校生活に満足している

81%

授業中に居眠りした

44%

授業を欠席した

40%

医学部附属病院 ^{※11}

病床数

600

外来患者数(日平均)

1,423

診療科数

29

入院患者数(日平均)

505

保健管理センター利用 ^{※12}

年間利用数

5,402

病気やケガ、悩みの相談ができます。休養のためのベッドもあって知ってる？

この壁新聞の認知度は、最新の調査 ^{※13} で、文京C 46%、松岡C 19%です。大学から発表される掲示物に関心を持とう！！



※1 福井大学基礎資料(2024) p.16
 ※2 福井大学基礎資料(2024) p.37
 ※3 福井大学シラバス(2022-2024)
 ※4 「2024年度 全学入学時調査」(高等教育推進センター 2024年4月4日実施)
 ※5 福井大学基礎資料(2024) p.13,16

※6 国立大学協会「国立大学法人 基礎資料集」(2024年3月31日)
 ※7 福井大学ホームページ「サークル紹介」
 ※8 福井大学基礎資料(2024) p.24,25,28
 ※9 福井大学基礎資料(2024) p.20

※10 「全国大学就職率ランキング2024」(株式会社大学通信)
 ※11 福井大学基礎資料(2024) p.36
 ※12 福井大学保健管理センター年報(令和4年度) pp.45-47
 ※13 「2023年度 在学生調査」(高等教育推進センター 2023年12月実施)

この壁新聞へのご意見、ご感想は 高等教育推進センター教学IR部門 (ir-adm@ml.u-fukui.ac.jp) まで

2024年度 全学入学時調査 質問項目

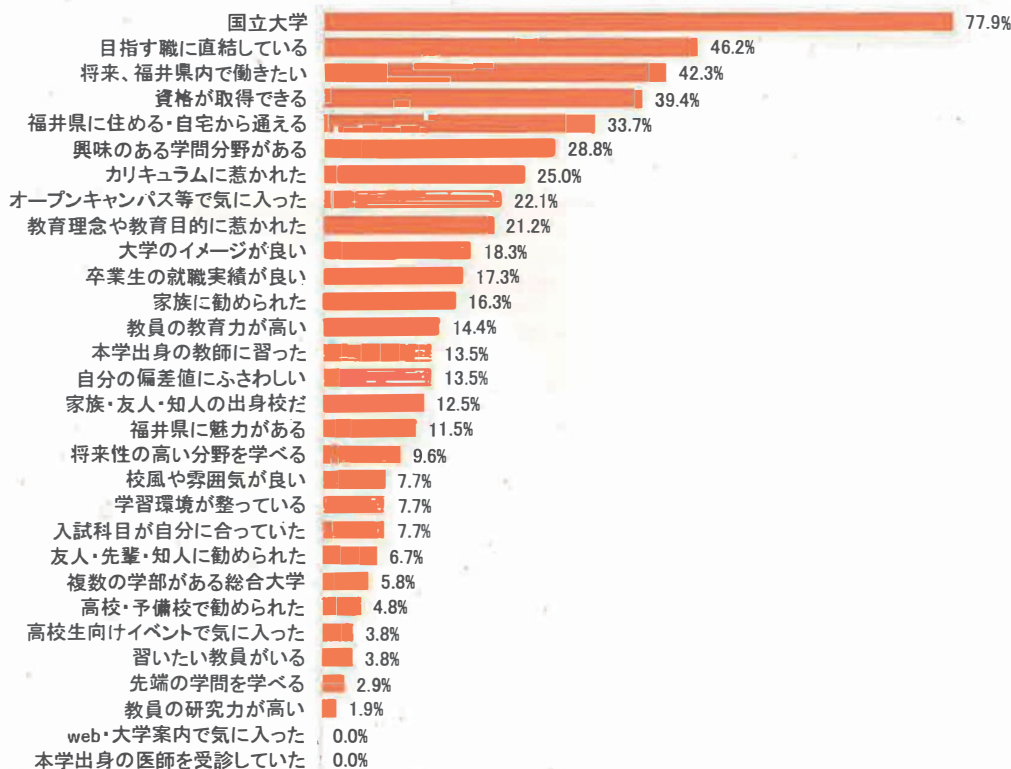
実施日 2024年 4月

学 部	回答数	対象者数	回答率
教育学部	104	104	100.0%
医学部	172	173	99.4%
医学科	109	110	99.1%
看護学科	63	63	100.0%
工学部	535	547	97.8%
機械・システム工学科	156	159	98.1%
電気電子情報工学科	123	129	95.3%
建築・都市環境工学科	64	65	98.5%
物質・生命化学科	137	139	98.6%
応用物理学科	55	55	100.0%
国際地域学部	61	61	100.0%
医学科_編入	5	5	100.0%
工学部_編入	47	48	97.9%
総計	924	938	98.5%

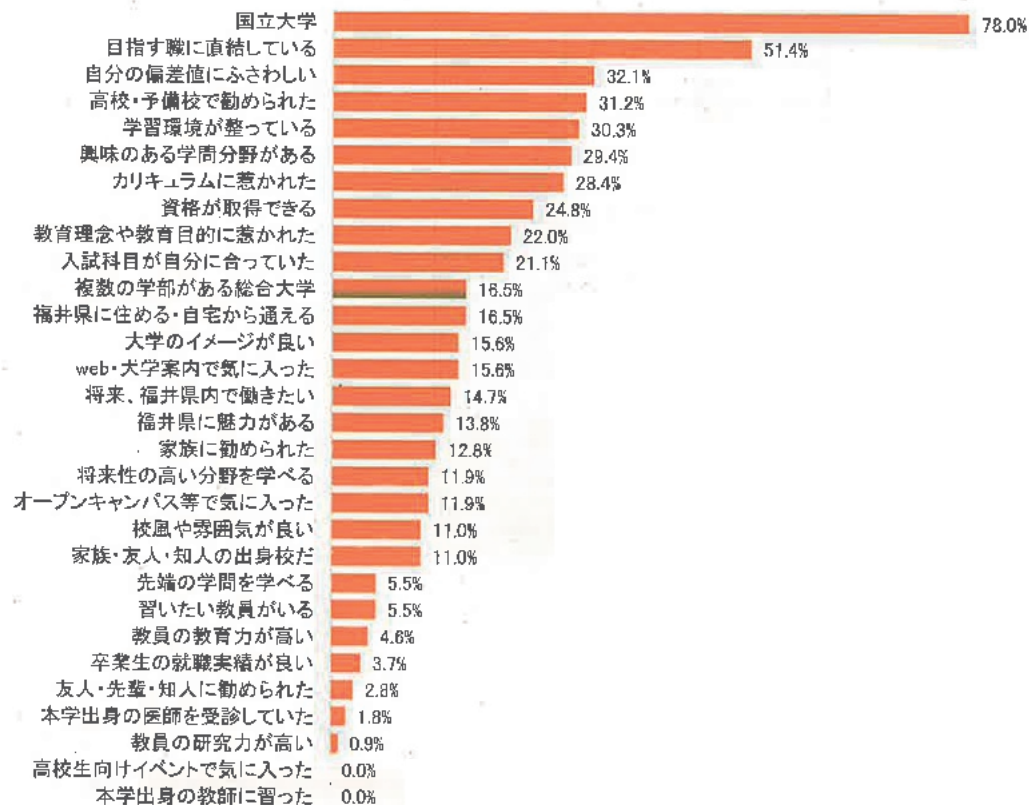
※ 編入生含む

1 本学への入学について教えてください。

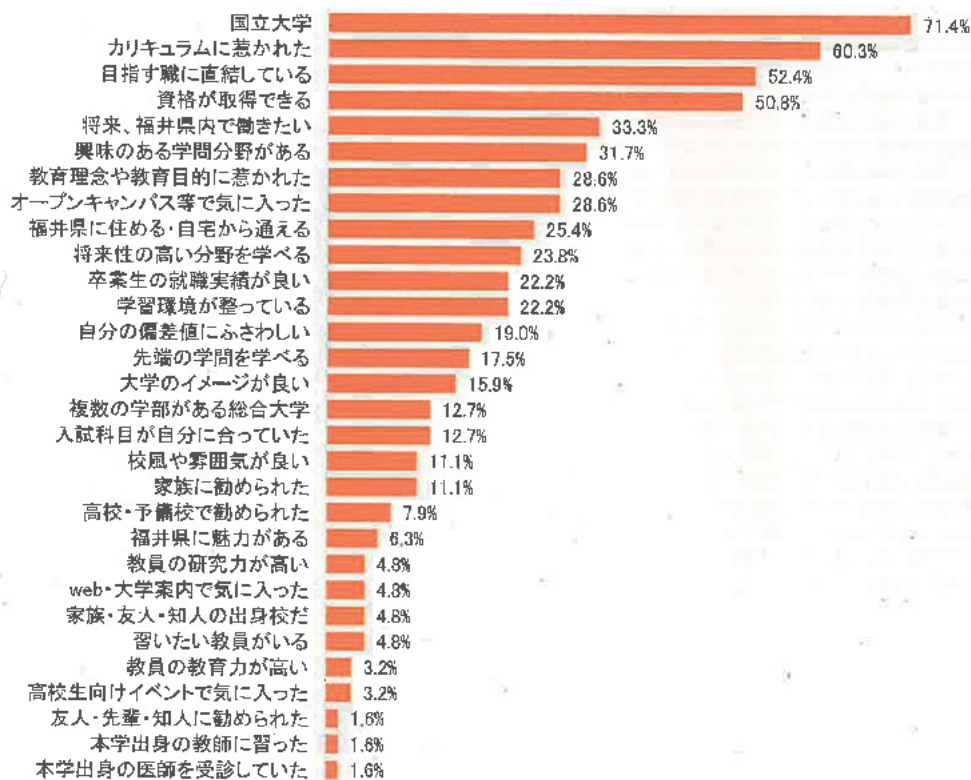
◀ 教育学部 ▶



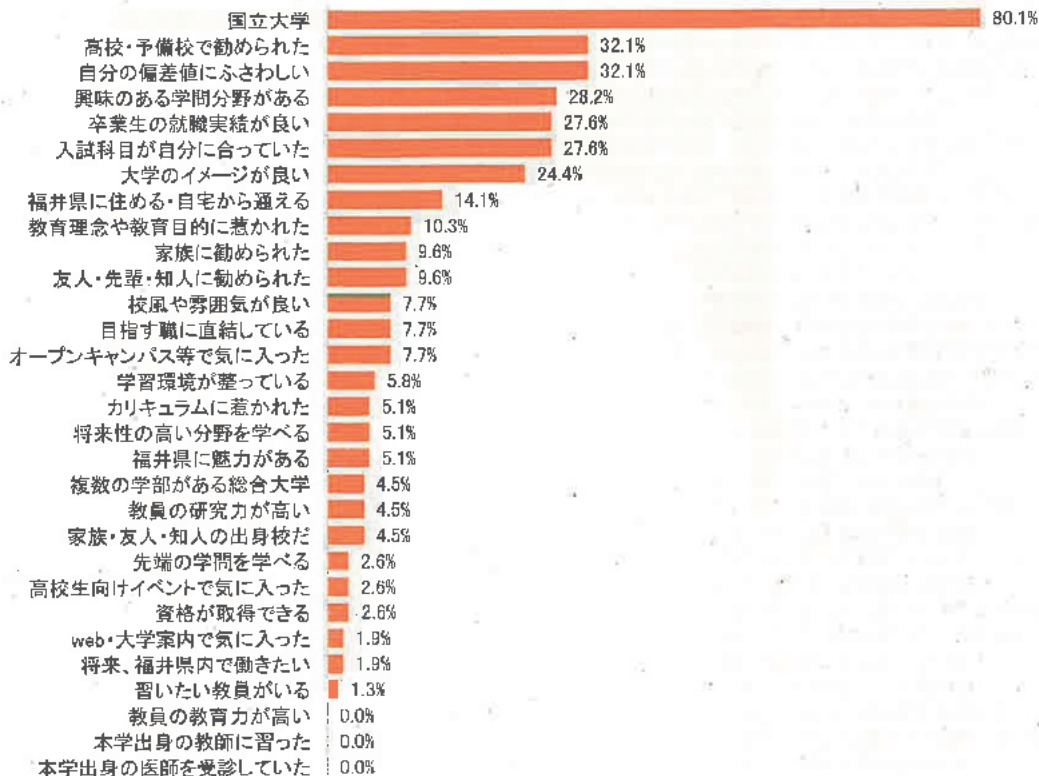
《 医学科 》



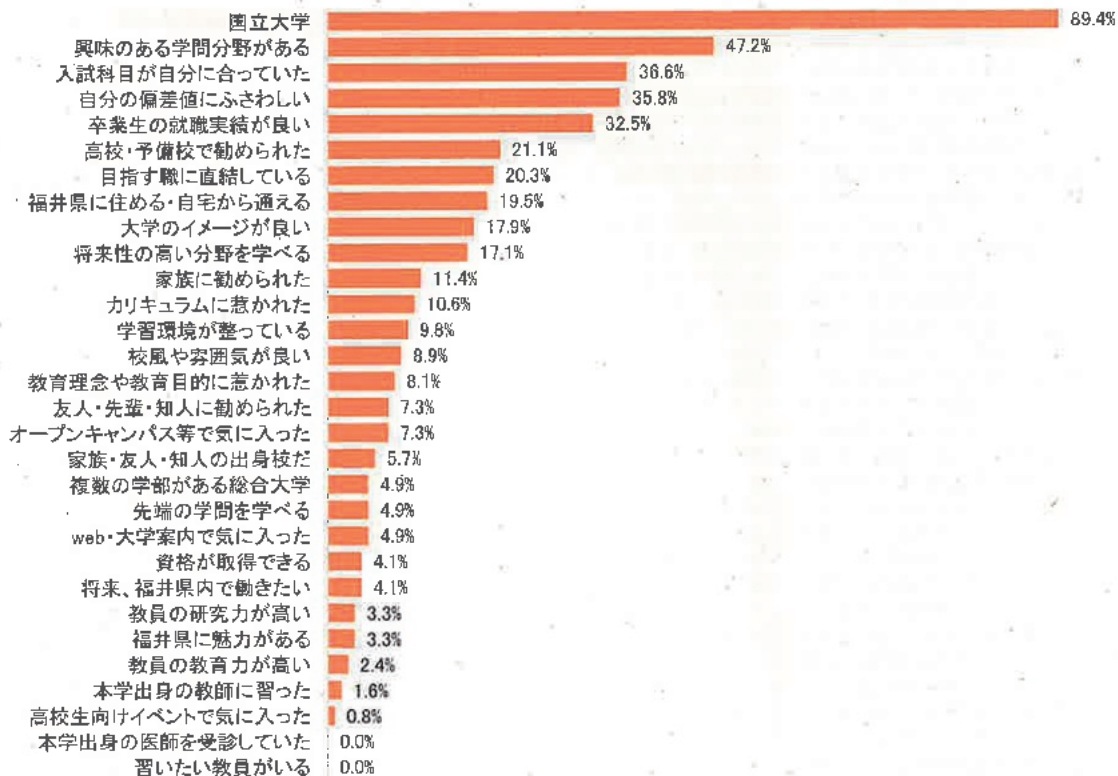
《 看護学科 》



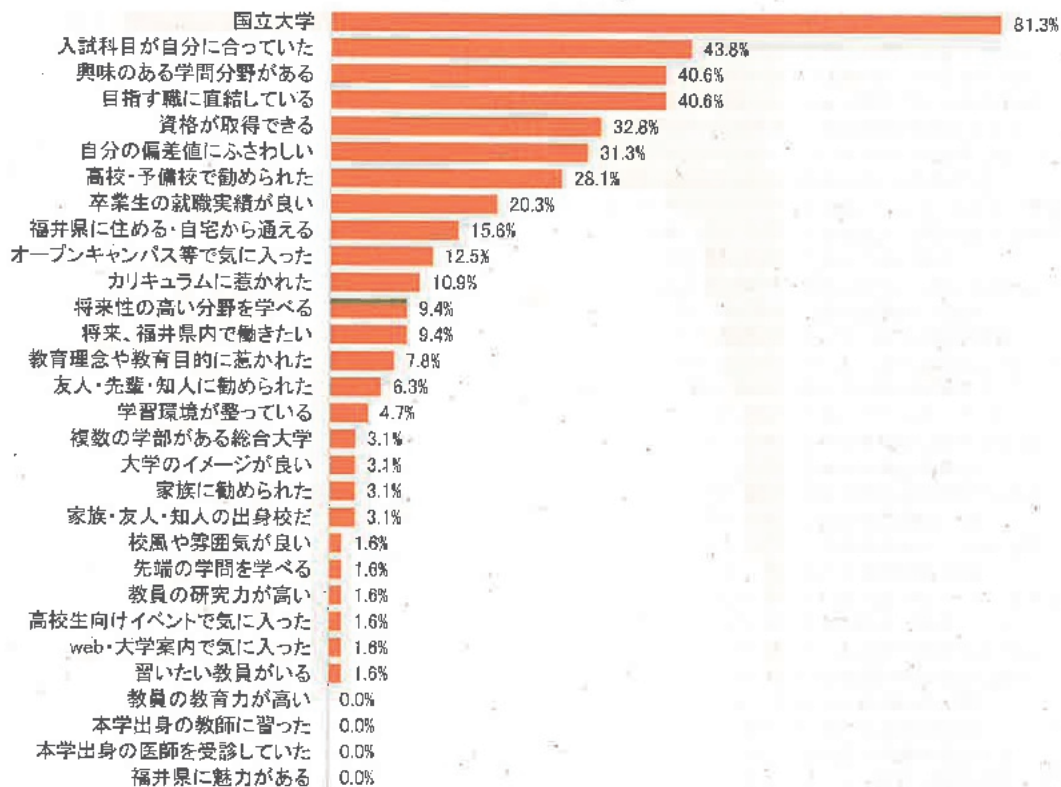
《 機械・システム工学科 》



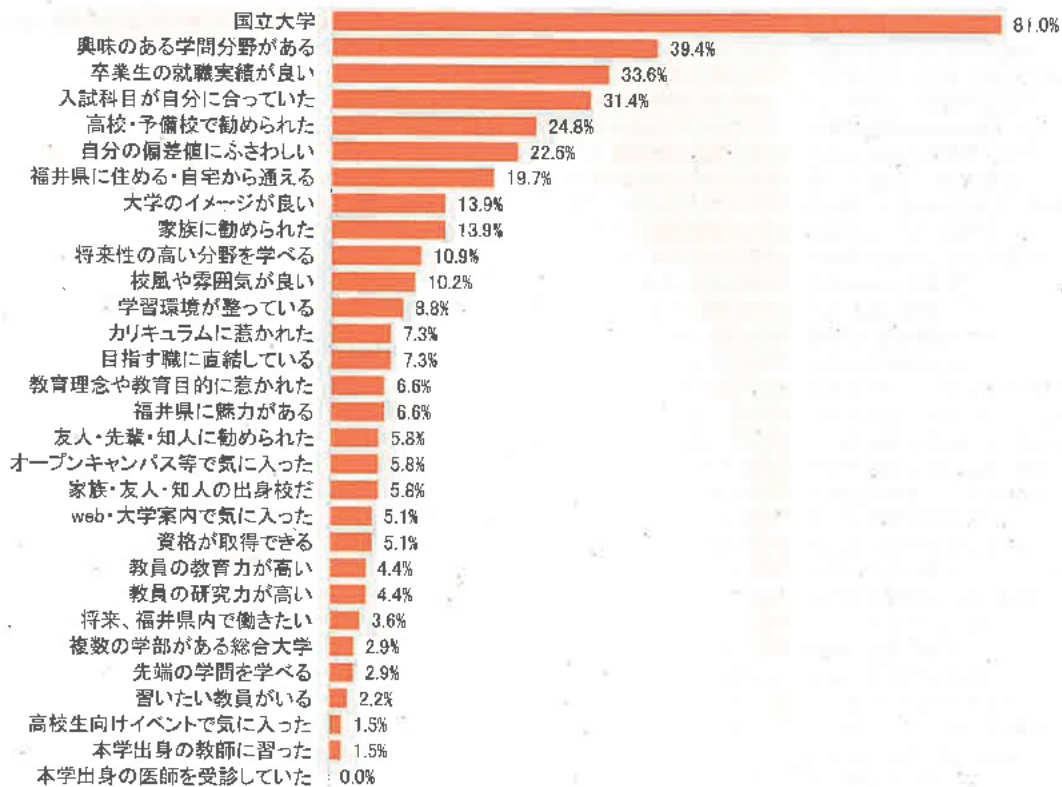
《 電気電子情報工学科 》



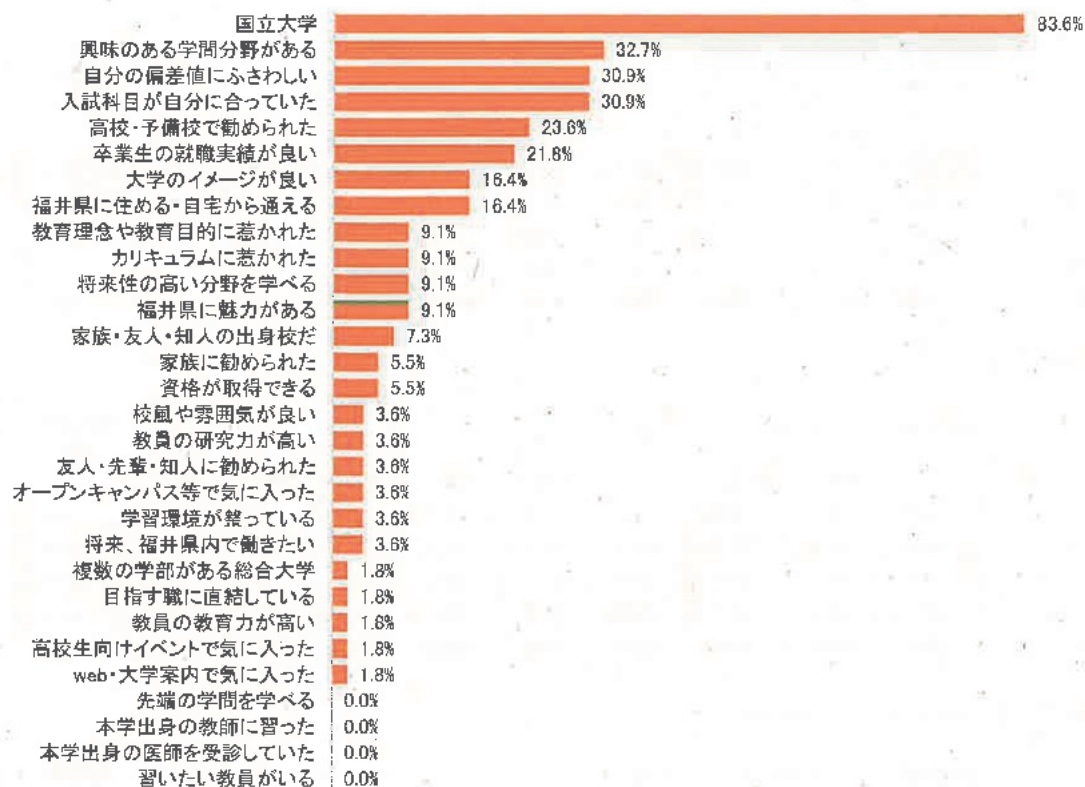
《 建築・都市環境工学科 》



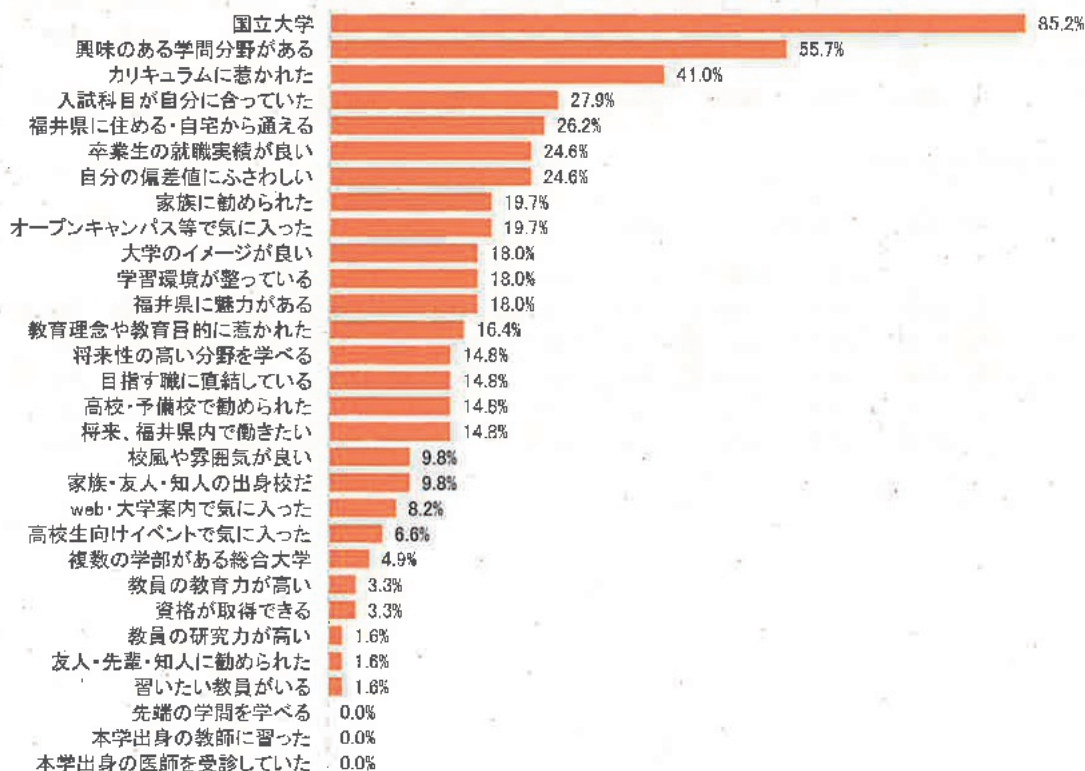
《 物質・生命化学科 》



《 応用物理学科 》



《 国際地域学部 》



2 あなた自身について教えてください。

[1] 本学への入学に満足だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	76.0%	77.1%	81.0%	58.7%	62.2%	57.7%	57.8%	55.5%	60.0%	70.5%	65.5%
やや思う	19.2%	19.3%	19.0%	35.5%	32.7%	35.0%	40.6%	37.2%	34.5%	29.5%	29.9%
やや思わない	3.8%	3.7%		4.7%	4.5%	4.1%	1.6%	6.6%	5.5%		3.8%
思わない	1.0%			1.1%	0.6%	3.3%		0.7%			0.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[2] 英語の能力がある

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	6.7%	13.8%	9.5%	4.7%	3.2%	5.7%	4.7%	6.6%	1.8%	3.3%	6.3%
やや思う	26.9%	41.3%	33.3%	24.3%	26.9%	25.2%	28.1%	21.9%	16.4%	41.0%	28.6%
やや思わない	44.2%	34.9%	44.4%	45.2%	41.7%	46.3%	39.1%	48.9%	50.9%	39.3%	43.3%
思わない	22.1%	10.1%	12.7%	25.8%	28.2%	22.8%	28.1%	22.6%	30.9%	16.4%	21.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[3] 授業の重要なポイントをノートにまとめるのが得意だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	15.4%	19.3%	23.8%	8.2%	5.8%	6.5%	14.1%	9.5%	9.1%	23.0%	12.6%
やや思う	54.8%	40.4%	57.1%	43.0%	41.7%	42.3%	39.1%	48.2%	40.0%	36.1%	44.6%
やや思わない	23.1%	34.9%	15.9%	42.2%	47.4%	40.7%	43.8%	35.8%	45.5%	36.1%	36.7%
思わない	5.8%	5.5%	3.2%	6.4%	5.1%	10.6%	3.1%	6.6%	3.6%	4.9%	5.8%
未回答	1.0%			0.2%					1.8%		0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[4] 重要な事柄を暗記するのが得意だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	18.3%	27.5%	19.0%	9.7%	5.1%	11.4%	9.4%	13.1%	10.9%	16.4%	14.1%
やや思う	45.2%	44.0%	54.0%	44.9%	44.2%	42.3%	48.4%	48.9%	38.2%	54.1%	46.1%
やや思わない	30.8%	22.0%	25.4%	40.0%	41.7%	40.7%	37.5%	35.0%	49.1%	26.2%	34.6%
思わない	5.8%	6.4%	1.6%	5.4%	9.0%	5.7%	4.7%	2.9%	1.8%	3.3%	5.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[5] 自分の意見を筋道を立てて主張できる

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	24.0%	23.9%	20.6%	12.1%	12.8%	14.6%	10.9%	10.2%	10.9%	14.8%	15.8%
やや思う	53.8%	50.5%	61.9%	47.1%	49.4%	44.7%	46.9%	43.1%	56.4%	49.2%	49.5%
やや思わない	18.3%	24.8%	17.5%	35.9%	32.1%	36.6%	39.1%	40.1%	30.9%	32.8%	30.8%
思わない	3.8%	0.9%		4.9%	5.8%	4.1%	3.1%	6.6%	1.8%	3.3%	3.8%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[6] ものごとの問題点を発見するのが得意だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	27.9%	20.2%	25.4%	14.6%	15.4%	8.1%	25.0%	15.3%	12.7%	18.0%	17.9%
やや思う	52.9%	64.2%	58.7%	55.5%	54.5%	56.9%	59.4%	51.1%	61.8%	55.7%	56.5%
やや思わない	17.3%	15.6%	14.3%	27.3%	28.8%	30.9%	14.1%	29.9%	23.6%	21.3%	23.3%
思わない	1.9%			2.4%	1.3%	4.1%		3.6%	1.8%	4.9%	2.1%
未回答			1.6%	0.2%			1.6%				0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[7] 課題・問題点を解決するのが得意だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	18.3%	12.8%	17.5%	10.5%	10.3%	8.1%	12.5%	10.9%	12.7%	11.5%	12.3%
やや思う	58.7%	67.0%	57.1%	52.9%	51.9%	55.3%	65.6%	48.2%	47.3%	49.2%	55.4%
やや思わない	21.2%	20.2%	25.4%	33.1%	34.0%	32.5%	18.8%	36.5%	40.0%	34.4%	29.6%
思わない	1.9%			3.4%	3.8%	4.1%	1.6%	4.4%		3.3%	2.5%
未回答				0.2%			1.6%			1.6%	0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[8] パソコンを使って文書や資料を作成することができる

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	10.6%	13.8%	12.7%	9.9%	7.1%	11.4%	7.8%	10.2%	16.4%	8.2%	10.6%
やや思う	43.3%	33.9%	34.9%	29.3%	23.7%	39.0%	29.7%	27.7%	27.3%	41.0%	32.8%
やや思わない	36.5%	36.7%	39.7%	39.6%	43.8%	35.8%	42.2%	38.0%	38.2%	34.4%	38.5%
思わない	9.6%	15.6%	12.7%	20.9%	25.6%	13.8%	18.8%	24.1%	18.2%	16.4%	18.0%
未回答				0.2%			1.6%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔9〕 自分の意見と客観事実を分けて考えることができる

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護		機械	電気	建築	物質			応用
思う	27.9%	33.0%	17.5%	20.9%	17.9%	18.7%	20.3%	24.1%	27.3%	23.0%	23.2%
やや思う	58.7%	54.1%	68.3%	54.0%	48.7%	56.1%	57.8%	56.9%	52.7%	54.1%	55.6%
やや思わない	12.5%	11.9%	14.3%	23.0%	30.1%	24.4%	20.3%	16.1%	20.0%	21.3%	19.6%
思わない	1.0%			1.9%	3.2%	0.8%		2.9%		1.6%	1.4%
未回答		0.9%		0.2%			1.6%				0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔10〕 ものごとに対して粘り強く取り組める

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護		機械	電気	建築	物質			応用
思う	48.1%	57.8%	36.5%	27.3%	24.4%	25.2%	28.1%	32.1%	27.3%	47.5%	35.7%
やや思う	39.4%	34.9%	60.3%	50.5%	49.4%	52.0%	64.1%	46.7%	43.6%	37.7%	47.0%
やや思わない	10.6%	7.3%	3.2%	18.5%	22.4%	18.7%	6.3%	17.5%	23.6%	13.1%	14.7%
思わない	1.9%			3.6%	3.8%	4.1%		3.6%	5.5%	1.6%	2.5%
未回答				0.2%			1.6%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔11〕 定められた形式に従ってレポートを作成できる

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護		機械	電気	建築	物質			応用
思う	27.9%	24.8%	25.4%	18.1%	13.5%	18.7%	20.3%	21.2%	20.0%	31.1%	21.6%
やや思う	54.8%	52.3%	54.0%	54.6%	54.5%	52.0%	53.1%	59.9%	49.1%	45.9%	53.7%
やや思わない	15.4%	16.5%	19.0%	23.7%	26.3%	25.2%	23.4%	16.8%	30.9%	19.7%	21.2%
思わない	1.0%	6.4%	1.6%	3.0%	5.1%	3.3%	1.6%	2.2%		3.3%	3.1%
未回答	1.0%			0.6%	0.6%	0.8%	1.6%				0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔12〕 リーダーシップが取れる

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護		機械	電気	建築	物質			応用
思う	23.1%	20.2%	22.2%	8.4%	9.0%	4.1%	9.4%	9.5%	12.7%	14.8%	13.1%
やや思う	48.1%	45.0%	41.3%	32.1%	32.7%	31.7%	40.6%	29.2%	29.1%	32.8%	36.4%
やや思わない	26.0%	31.2%	31.7%	40.7%	41.7%	42.3%	37.5%	40.9%	38.2%	39.3%	37.0%
思わない	2.9%	3.7%	4.8%	18.3%	16.7%	21.1%	10.9%	20.4%	20.0%	13.1%	13.3%
未回答				0.4%		0.8%	1.6%				0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔13〕 グループで何かを成し遂げるのが得意だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	41.3%	39.4%	42.9%	18.9%	22.4%	14.6%	17.2%	19.0%	20.0%	31.1%	26.7%
やや思う	50.0%	50.5%	44.4%	52.7%	49.4%	59.3%	62.5%	47.4%	49.1%	50.8%	51.4%
やや思わない	7.7%	9.2%	12.7%	24.9%	25.0%	24.4%	18.8%	29.2%	21.8%	13.1%	19.2%
思わない	1.0%	0.9%		3.4%	3.2%	1.6%		4.4%	9.1%	4.9%	2.6%
未回答				0.2%			1.6%				0.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔14〕 異なる文化を柔軟に受け入れることができる

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	64.4%	67.9%	84.1%	49.2%	50.6%	42.3%	59.4%	51.1%	43.6%	77.0%	57.8%
やや思う	29.8%	28.4%	14.3%	43.6%	41.0%	50.4%	39.1%	42.3%	43.6%	21.3%	36.4%
やや思わない	5.8%	3.7%		6.4%	5.8%	6.5%	1.6%	6.6%	12.7%		5.0%
思わない				0.6%	1.3%	0.8%				1.6%	0.5%
未回答			1.6%	0.4%	1.3%						0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔15〕 他者へのプレゼンテーションが得意だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	19.2%	15.6%	19.0%	6.2%	8.3%	4.9%	6.3%	4.4%	7.3%	18.0%	10.7%
やや思う	47.1%	36.7%	41.3%	28.4%	28.2%	23.6%	39.1%	27.7%	29.1%	36.1%	33.1%
やや思わない	29.8%	37.6%	36.5%	51.0%	50.0%	56.1%	34.4%	51.8%	60.0%	39.3%	45.0%
思わない	3.8%	10.1%	1.6%	14.0%	12.2%	15.4%	20.3%	16.1%	3.6%	6.6%	10.9%
未回答			1.6%	0.4%	1.3%						0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔16〕 出願までに本学キャンパスに来たことがある

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
はい	83.7%	36.7%	77.8%	31.4%	22.4%	37.4%	39.1%	33.6%	29.1%	62.3%	43.8%
いいえ	16.3%	63.3%	22.2%	68.2%	76.3%	62.6%	60.9%	66.4%	70.9%	37.7%	56.0%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔17〕 本学の高校生向けイベント(公開講座、福井プレカレッジ、出前授業など)に参加した

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
はい	55.8%	19.3%	46.0%	13.6%	10.9%	17.1%	17.2%	11.7%	14.5%	32.8%	23.1%
いいえ	44.2%	80.7%	54.0%	86.0%	87.8%	82.9%	82.8%	88.3%	85.5%	67.2%	76.7%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔18〕 これまでに留学を経験した

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
はい	3.8%	5.5%		1.7%	0.6%	0.8%	1.6%	2.9%	3.6%	13.1%	3.1%
いいえ	96.2%	94.5%	98.4%	97.9%	98.1%	99.2%	98.4%	97.1%	96.4%	86.9%	96.6%
未回答			1.6%	0.4%	1.3%						0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔19〕 高校時代、良い仲間に出会えた

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	93.3%	90.8%	93.7%	87.1%	86.5%	87.0%	93.8%	87.6%	80.0%	83.6%	88.5%
やや思う	4.8%	9.2%	6.3%	11.0%	10.9%	10.6%	6.3%	11.7%	16.4%	13.1%	9.9%
やや思わない	1.0%			0.9%		2.4%		0.7%	1.8%	3.3%	0.9%
思わない				0.4%	0.6%				1.8%		0.2%
未回答	1.0%			0.6%	1.9%						0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔20〕 高校時代、いわゆる帰宅部だった

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	11.5%	10.1%	6.3%	17.6%	15.4%	22.8%	9.4%	18.2%	20.0%	9.8%	14.6%
やや思う	3.8%	7.3%	4.8%	7.5%	7.7%	8.1%	6.3%	6.6%	9.1%	3.3%	6.5%
やや思わない	1.9%	4.6%	4.8%	5.0%	5.1%	7.3%	3.1%	3.6%	5.5%	6.6%	4.7%
思わない	82.7%	78.0%	84.1%	69.5%	70.5%	61.8%	81.3%	71.5%	65.5%	80.3%	74.0%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[21] 高校時代、尊敬できる先生に出会えた

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	76.0%	62.4%	58.7%	51.0%	44.9%	44.7%	70.3%	51.1%	60.0%	4.1%	56.2%
やや思う	15.4%	28.4%	27.0%	32.0%	37.2%	35.0%	18.8%	33.6%	21.8%	31.1%	29.1%
やや思わない	5.8%	6.4%	11.1%	11.0%	12.2%	13.0%	7.8%	9.5%	10.9%	11.5%	9.9%
思わない	2.9%	2.8%	3.2%	5.4%	4.5%	6.5%	3.1%	5.8%	7.3%	3.3%	4.5%
未回答				0.6%	1.3%	0.8%					0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[22] 高校時代、定期試験は一夜漬けで乗り切った

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	4.8%	9.2%	4.8%	10.3%	10.3%	17.1%	4.7%	5.8%	12.7%	13.1%	9.3%
やや思う	16.3%	12.8%	12.7%	27.7%	35.9%	26.0%	32.8%	19.0%	23.6%	31.1%	23.6%
やや思わない	26.9%	30.3%	36.5%	29.5%	25.6%	28.5%	21.9%	35.0%	38.2%	18.0%	29.0%
思わない	51.0%	47.7%	46.0%	32.1%	26.9%	28.5%	40.6%	40.1%	25.5%	37.7%	37.7%
未回答	1.0%			0.4%	1.3%						0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[23] 高校時代、本をよく読んだ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	7.7%	17.4%	12.7%	10.5%	10.3%	14.6%	6.3%	9.5%	9.1%	8.2%	11.0%
やや思う	17.3%	17.4%	33.3%	17.9%	16.0%	16.3%	15.6%	22.6%	18.2%	32.8%	20.0%
やや思わない	41.3%	33.9%	33.3%	30.3%	32.1%	27.6%	26.6%	32.8%	29.1%	29.5%	32.2%
思わない	33.7%	31.2%	20.6%	40.9%	40.4%	41.5%	51.6%	35.0%	43.6%	29.5%	36.6%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[24] 高校生活は充実していた

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	78.8%	73.4%	71.4%	63.4%	60.3%	62.6%	78.1%	65.0%	52.7%	67.2%	67.3%
やや思う	20.2%	23.9%	27.0%	30.3%	28.8%	30.9%	17.2%	30.7%	47.3%	24.6%	27.6%
やや思わない	1.0%	2.8%	1.6%	4.1%	6.4%	4.1%	4.7%	2.9%		4.9%	3.4%
思わない				1.9%	3.2%	2.4%		1.5%		3.3%	1.4%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3 これから始まる大学生活について教えてください。

[1] 大学での学びが楽しみ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	76.9%	82.6%	79.4%	59.4%	51.3%	57.7%	81.3%	62.8%	52.7%	75.4%	67.0%
やや思う	21.2%	16.5%	19.0%	36.6%	44.2%	39.0%	17.2%	31.4%	45.5%	24.6%	30.2%
やや思わない	1.9%	0.9%	1.6%	3.6%	3.2%	3.3%	1.6%	5.8%	1.8%		2.6%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[2] 大学で良い成績を取る事は重要だ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	69.2%	67.9%	81.0%	73.3%	67.3%	79.7%	75.0%	74.5%	70.9%	73.8%	72.7%
やや思う	27.9%	30.3%	17.5%	25.0%	31.4%	20.3%	23.4%	23.4%	23.6%	23.0%	25.3%
やや思わない	2.9%	1.8%	1.6%	1.1%			1.6%	1.5%	5.5%	3.3%	1.6%
思わない				0.2%				0.7%			0.1%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[3] 幅広い教養を身に付けたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	86.5%	84.4%	87.3%	68.2%	62.2%	68.3%	73.4%	75.2%	61.8%	78.7%	74.5%
やや思う	12.5%	13.8%	12.7%	29.0%	34.0%	27.6%	25.0%	22.6%	38.2%	21.3%	23.4%
やや思わない	1.0%	1.8%		2.2%	1.9%	4.1%	1.6%	2.2%			1.7%
思わない				0.2%	0.6%						0.1%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[4] 大学で身に付けた知識やスキルが将来の職に役立つ

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	85.6%	90.8%	95.2%	70.1%	67.9%	71.5%	89.1%	68.6%	54.5%	78.7%	76.9%
やや思う	14.4%	9.2%	4.8%	27.3%	28.2%	26.8%	10.9%	29.9%	38.2%	19.7%	21.3%
やや思わない				1.9%	1.9%	1.6%		1.5%	5.5%	1.6%	1.3%
思わない				0.4%	0.6%				1.8%		0.2%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[5] 早く専門の知識を身に付けたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	58.7%	67.9%	76.2%	47.5%	37.2%	51.2%	67.2%	49.6%	40.0%	42.6%	53.1%
やや思う	34.6%	28.4%	23.8%	43.7%	50.6%	42.3%	31.3%	41.6%	47.3%	42.6%	39.2%
やや思わない	5.8%	2.8%		8.0%	10.9%	6.5%		8.0%	12.7%	14.8%	7.0%
思わない	1.0%	0.9%									0.2%
未回答				0.7%	1.3%		1.6%	0.7%			0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[6] 将来、どうしても教師・医師・看護師・エンジニアになりたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	43.3%	86.2%	65.1%	15.7%	19.2%	21.1%	14.1%	8.8%	12.7%	3.3%	30.5%
やや思う	32.7%	9.2%	33.3%	25.0%	28.8%	37.4%	10.9%	13.9%	30.9%		22.8%
やや思わない	14.4%	3.7%	1.6%	33.3%	34.6%	26.0%	35.9%	39.4%	27.3%	19.7%	24.1%
思わない	9.6%	0.9%		25.6%	16.0%	15.4%	39.1%	38.0%	29.1%	75.4%	22.2%
未回答				0.4%	1.3%					1.6%	0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[7] 在学中に資格を取りたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	84.6%	45.0%	74.6%	47.1%	34.0%	48.8%	56.3%	59.1%	40.0%	47.5%	53.3%
やや思う	14.4%	33.9%	20.6%	42.1%	50.0%	38.2%	35.9%	35.8%	50.9%	32.8%	35.6%
やや思わない	1.0%	19.3%	1.6%	9.0%	12.8%	12.2%	6.3%	3.6%	7.3%	14.8%	9.2%
思わない		1.8%	1.6%	1.3%	1.3%	0.8%	1.6%	1.5%	1.8%	4.9%	1.5%
未回答			1.6%	0.6%	1.9%						0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

[8] 語学力を向上させたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	67.3%	76.1%	68.3%	54.2%	50.0%	52.8%	60.9%	61.3%	43.6%	86.9%	61.8%
やや思う	25.0%	22.9%	25.4%	36.8%	38.5%	38.2%	29.7%	33.6%	45.5%	13.1%	31.2%
やや思わない	7.7%	0.9%	4.8%	7.3%	9.0%	6.5%	9.4%	4.4%	9.1%		5.8%
思わない			1.6%	1.3%	1.3%	2.4%		0.7%	1.8%		0.9%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔9〕 将来、研究者になりたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う		7.3%	4.8%	13.1%	10.9%	5.7%	3.1%	28.5%	9.1%	1.6%	9.4%
やや思う	10.6%	25.7%	4.8%	28.0%	26.9%	23.6%	10.9%	39.4%	32.7%	9.8%	22.7%
やや思わない	26.9%	37.6%	47.6%	36.6%	41.0%	47.2%	40.6%	17.5%	43.6%	16.4%	35.0%
思わない	62.5%	29.4%	42.9%	21.9%	19.9%	23.6%	45.3%	14.6%	14.5%	72.1%	32.7%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔10〕 本学の歴史や伝統について知りたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	7.7%	8.3%	9.5%	5.2%	4.5%	4.9%	7.8%	3.6%	9.1%	23.0%	7.5%
やや思う	29.8%	42.2%	27.0%	30.8%	28.2%	28.5%	29.7%	34.3%	36.4%	36.1%	32.2%
やや思わない	42.3%	29.4%	47.6%	42.6%	45.5%	42.3%	42.2%	43.1%	34.5%	26.2%	40.1%
思わない	19.2%	20.2%	15.9%	20.9%	20.5%	24.4%	20.3%	19.0%	20.0%	14.8%	19.8%
未回答	1.0%			0.4%	1.3%						0.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔11〕 福井県の歴史や伝統・文化について知りたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	24.0%	15.6%	11.1%	9.7%	10.3%	8.9%	12.5%	8.8%	9.1%	41.0%	14.4%
やや思う	39.4%	53.2%	39.7%	31.0%	36.5%	23.6%	32.8%	30.7%	30.9%	34.4%	35.7%
やや思わない	24.0%	17.4%	39.7%	40.4%	36.5%	44.7%	35.9%	43.8%	38.2%	16.4%	33.8%
思わない	12.5%	13.8%	9.5%	18.1%	14.1%	22.8%	18.8%	16.8%	21.8%	8.2%	15.6%
未回答				0.7%	2.6%						0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔12〕 部活動・サークル活動に参加したい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	58.7%	94.5%	71.4%	65.6%	67.3%	63.4%	85.9%	60.6%	54.5%	72.1%	69.3%
やや思う	29.8%	5.5%	22.2%	29.3%	25.6%	32.5%	12.5%	34.3%	40.0%	26.2%	25.7%
やや思わない	8.7%		6.3%	3.7%	4.5%	3.3%	1.6%	3.6%	5.5%	1.6%	3.9%
思わない	2.9%			0.9%	1.3%	0.8%		1.5%			0.9%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔13〕 ボランティア活動がしたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	39.4%	33.9%	39.7%	12.7%	9.0%	12.2%	15.6%	15.3%	14.5%	45.9%	22.8%
やや思う	44.2%	47.7%	42.9%	43.9%	43.6%	39.8%	48.4%	50.4%	32.7%	42.6%	44.3%
やや思わない	13.5%	16.5%	15.9%	35.7%	40.4%	38.2%	29.7%	27.0%	45.5%	9.8%	27.4%
思わない	2.9%	1.8%	1.6%	6.7%	5.8%	9.8%	4.7%	6.6%	5.5%	1.6%	4.9%
未回答				0.9%	1.3%		1.6%	0.7%	1.8%		0.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔14〕 大学の様々な行事(大学祭など)の運営に関わりたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	21.2%	20.2%	22.2%	11.2%	12.8%	8.1%	10.9%	12.4%	10.9%	26.2%	15.4%
やや思う	42.3%	48.6%	44.4%	37.4%	36.5%	33.3%	37.5%	41.6%	38.2%	36.1%	39.8%
やや思わない	28.8%	24.8%	30.2%	40.0%	37.2%	43.1%	40.6%	39.4%	41.8%	32.8%	35.6%
思わない	7.7%	6.4%	3.2%	10.8%	11.5%	15.4%	10.9%	6.6%	9.1%	3.3%	8.8%
未回答				0.6%	1.9%					1.6%	0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔15〕 海外留学がしたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	23.1%	38.5%	30.2%	11.4%	10.3%	7.3%	15.6%	13.1%	14.5%	70.5%	21.7%
やや思う	22.1%	31.2%	34.9%	23.2%	23.7%	22.0%	20.3%	25.5%	21.8%	18.0%	24.5%
やや思わない	28.8%	22.9%	27.0%	32.7%	32.1%	26.0%	34.4%	40.1%	29.1%	9.8%	29.0%
思わない	26.0%	7.3%	6.3%	32.1%	32.7%	43.9%	29.7%	21.2%	34.5%	1.6%	24.3%
未回答			1.6%	0.6%	1.3%	0.8%					0.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

〔16〕 アルバイトがしたい

	教育学部	医学部		工学部					国際地域学部	合計	
		医学	看護	機械	電気	建築	物質	応用			
思う	81.7%	77.1%	81.0%	76.6%	69.2%	78.9%	87.5%	78.1%	76.4%	85.2%	78.2%
やや思う	13.5%	15.6%	17.5%	20.7%	25.6%	20.3%	12.5%	19.7%	20.0%	13.1%	18.5%
やや思わない	3.8%	6.4%	1.6%	1.9%	3.2%	0.8%		1.5%	3.6%	1.6%	2.6%
思わない	1.0%	0.9%		0.4%	0.6%			0.7%			0.5%
未回答				0.4%	1.3%						0.2%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

令和6年度 高等教育推進センター委員会等名簿

委員会等	氏名	所属等
運営委員会	安田 年博	高等教育推進センター長理事(教育, 評価担当) / 副学長
	安倍 博	高等教育推進センター 副センター長
	江端 弘樹	高等教育推進センター 特命講師
	北島 弘一	学務部長
	浅原 雅浩	教育・人文社会系部門教員養成領域 教授
	磯見 智恵	医学系部門看護学領域 教授
	石川 浩一郎	工学系部門工学領域 教授
	松田 和之	教育・人文社会系部門総合グローバル領域 教授
教学企画・支援部門	安倍 博	高等教育推進センター 特命教授
	江端 弘樹	高等教育推進センター 特命講師
	大和 真希子	教育・人文社会系部門教員養成領域 教授
	磯見 智恵	医学系部門看護学領域 教授
	内村 智博	工学系部門工学領域 教授
	磯崎 康太郎	教育・人文社会系部門総合グローバル領域 教授
	北島 弘一	教務課長
	山本 恭弘	学生サービス課長
	亀江 洋子	松岡キャンパス学務課長
教学IR部門	江端 弘樹	高等教育推進センター 特命講師
	安倍 博	高等教育推進センター 特命教授
	西沢 徹	教育・人文社会系部門教員養成領域 教授
	飯野 哲	医学系部門医学領域 教授
	石川 浩一郎	工学系部門工学領域 教授
	磯崎 康太郎	教育・人文社会系部門総合グローバル領域 教授
	北島 弘一	教務課長
	亀江 洋子	松岡キャンパス学務課長
	林 大剛	経営戦略課課長補佐
	山田 徳史	工学系部門工学領域 教授
	矢野 真弓	教務課学務総務・共通教育担当

福井大学高等教育研究 編集委員会

編集委員長 安倍 博 (高等教育推進センター副センター長)

編集委員 遠藤 貴広 (教育・人文社会系部門教員養成領域)

磯見 智恵 (医学系部門看護学領域)

藤田 聡 (工学系部門工学領域)

田中 志敬 (教育・人文社会系部門総合グローバル領域)

青園 宗之 (教務課)

山本 恭弘 (学生サービス課)

亀江 洋子 (松岡キャンパス学務課)

福井大学高等教育研究 vol.3

Higher Education Studies, University of Fukui vol.3

2026年3月31日 発行

編集 福井大学高等教育研究編集委員会

発行 福井大学高等教育推進センター

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1

印刷 能登印刷株式会社

